

教養課程教育の改善に関する
実 情 調 査 報 告
——資料集——

平成3年4月

教養課程に関する特別委員会
国 立 大 学 協 会

は じ め に

本特別委員会は、平成元年秋の国立大学協会総会の了承のもとに、各大学における教養課程教育に関する諸状況を調査することを計画し、各大学宛に平成2年1月17日付けをもって依頼の文書（別紙1参照）を発送した。その結果、最終的には全ての国立大学からご回答並びに関係資料を得ることができた。委員会においては直ちにこれらの取りまとめ作業に着手し、今回『教養課程教育の改善に関する実情調査報告——資料集——』として刊行する運びとなった。各大学からは、ご多用中にも拘らずご回答その他について、一方ならぬご高配をいただけたことに対し、衷心より感謝の意を表するものである。

なお、資料の取りまとめに当たって、それぞれの大学における一般教育実施体制等に関する「基礎データ」を、報告書に含めることが必要であると判断したので、8月1日、重ねて各大学宛に依頼の文書（別紙2参照）を発送したことも付け加える。

本報告書は資料集の性格から、当然のことながらアンケートに対する回答が、本体であり、第2章をこの部分に当てた。まず質問事項Ⅱ、Ⅲに関連しては、各大学において既に発表された教養課程教育全般の改善についての調査報告書など、38大学より合計100点に及ぶ資料の提供があった。これらはいずれも貴重な資料であり、今回は単にその標題を示すに止めているが、今後各大学において、これらの資料を相互に自由に閲覧しうる機会があることを願っている。

次に、それぞれの大学において行われつつある教養課程教育について、いかなる点に特色ありやとの質問事項Ⅳ—1、さらにそれらについての今後の改善方向を伺うⅣ—2は、共に今回の調査の核心であり、この度の機会が、あるいは各大学に一般教育に対して一種の「点検」を促すことになったのではないか、という感想が多少ある。

本資料集を今後ご利用いただく際の利便を考え、第2章にまとめた各大学からの回答について若干の整理を行い、第1章で調査結果の概要として取りまとめた。第1章は、便宜的にいくつかの項目を設定し、それらに基づいて各大学を類別したの

であって、一種の索引としてご利用いただけることを期待している。なお、記述された事項について我々が仕分けをする段階で、あるいは理解不足から真意を的確に理解できず、大学のお考えに反した結果になった場合がないとはいえない、この点についてはまげてご寛容をお願いする。

最後に、少しく例外的ではあるが、「単科大学に見られる共通性」という項目を設けた。回答を拝見し、いわゆる単科大学で行われている一般教育の特色、さらに今後の改善の方向について、複合学部からなる大学の場合に比して、かなりの特色があることに気づき、これは相互に参考になる部分が多いと考えたからである。

今回の結果を公表するに際して、各大学からいただいた回答を、固有名詞を付したまま生の形で取りまとめることには委員会内部に多少の議論があった。しかしながら、今後この資料集が一つの手掛かりとなって、各大学間に教養課程についての積極的な情報の交換が生まれることを願うかぎり、固有名詞を省略しては、「資料」としての価値を損なうことにはならないか、これが私達の最終的な見解であり、ご了解をいただきたい。

振り返って見て、かかる資料は全国国立大学教養(学)部長会議、又は国立大学一般教育担当部局協議会など既存の会議体での「照合事項」として、あるいは大学間で個々に入手し得たものでもあろう。しかしながら今回は、それを越えた全国的なものであることに一つの意義があると考えている。ご回答をいただいてからほぼ1年、多少拙速の印象もあるが、この時期こういった作業をなし得たことについて、各大学のご厚意に対して改めて感謝の意を表する次第である。

(久佐 守)

はじめに

第1章 調査結果の概要…………… 1

1. 教養課程教育の特色…………… 3
 - イ. 一般教育科目について 3
 - ロ. 外国語科目について 8
 - ハ. 保健体育科目について 11
 - ニ. 総合コースについて 13
 - ホ. セミナーについて 16
 - ヘ. 基礎専門，基礎教育科目について 18
 - ト. その他（論述作文など）について 20
2. 教養課程教育の今後の主要な改善の方向と特色……………22
3. 自由意見……………28
4. 単科大学に見られる共通性（特色）……………29

第2章 資料編——アンケート回答——……………31

1. 北海道大学 33
2. 北海道教育大学 42
3. 室蘭工業大学 45
4. 小樽商科大学 47
5. 帯広畜産大学 48
6. 旭川医科大学 49
7. 北見工業大学 54
8. 弘前大学 55
9. 岩手大学 57
10. 東北大学 58
11. 宮城教育大学 60
12. 秋田大学 61
13. 山形大学 62
14. 福島大学 65
15. 茨城大学 68

16. 図書館情報大学	73
17. 筑波大学	75
18. 宇都宮大学	84
19. 群馬大学	86
20. 埼玉大学	90
21. 千葉大学	92
22. 東京大学	94
23. 東京医科歯科大学	102
24. 東京外国語大学	104
25. 東京学芸大学	106
26. 東京農工大学	108
27. 東京芸術大学	111
28. 東京工業大学	114
29. 東京商船大学	118
30. 東京水産大学	120
31. お茶の水女子大学	123
32. 電気通信大学	125
33. 一橋大学	127
34. 横浜国立大学	129
35. 新潟大学	134
36. 長岡技術科学大学	137
37. 上越教育大学	139
38. 山梨大学	140
39. 山梨医科大学	143
40. 信州大学	147
41. 富山大学	153
42. 富山医科薬科大学	156
43. 金沢大学	158
44. 福井大学	160
45. 福井医科大学	161

46. 岐阜大学	162
47. 静岡大学	164
48. 浜松医科大学	168
49. 名古屋大学	170
50. 愛知教育大学	172
51. 名古屋工業大学	173
52. 豊橋技術科学大学	176
53. 三重大学	180
54. 滋賀大学	182
55. 滋賀医科大学	185
56. 京都大学	188
57. 京都教育大学	192
58. 京都工芸繊維大学	193
59. 大阪大学	196
60. 大阪外国語大学	201
61. 大阪教育大学	203
62. 神戸大学	205
63. 神戸商船大学	208
64. 兵庫教育大学	209
65. 奈良教育大学	211
66. 奈良女子大学	213
67. 和歌山大学	216
68. 鳥取大学	218
69. 島根大学	220
70. 島根医科大学	221
71. 岡山大学	222
72. 広島大学	224
73. 山口大学	228
74. 徳島大学	230
75. 鳴門教育大学	233

76. 香川大学	235
77. 香川医科大学	239
78. 愛媛大学	241
79. 高知大学	243
80. 高知医科大学	245
81. 福岡教育大学	246
82. 九州大学	248
83. 九州芸術工科大学	254
84. 九州工業大学	256
85. 佐賀大学	259
86. 佐賀医科大学	264
87. 長崎大学	265
88. 熊本大学	269
89. 大分大学	271
90. 大分医科大学	276
91. 宮崎大学	277
92. 宮崎医科大学	279
93. 鹿児島大学	281
94. 鹿屋体育大学	284
95. 琉球大学	285

あとがき

〔別紙〕 教養課程教育の改善に関する実情調査（アンケート様式）

第 1 章 調査結果の概要

調査結果の概要は、以下のアンケート設問Ⅳおよび設問Ⅴの各項目に従って整理し、それに単科大学に見られる共通性を加えた。すなわち、

1. 教養課程教育の特色（設問Ⅳの1）
2. 教養課程教育の今後の主要な改善の方向と特色（設問Ⅳの2）
3. 自由意見（設問Ⅴ）
4. 単科大学に見られる共通性（特色）

である。

（アンケート設問）

Ⅳ. 上のⅡ及びⅢにかかわらず、次の項目についてお聞かせ下さい。

1. 貴学における教養課程教育は、どのような点に特色があるとお考えでしょうか。イ～トについて具体的にお書き下さい。

イ. 一般教育科目について。

ロ. 外国語科目について。

ハ. 保健体育科目について。

ニ. 総合コースについて。

ホ. セミナーについて。

ヘ. 基礎専門、基礎教育科目について。

ト. その他（論述作文など）について。

2. 今後、教養課程教育をどのような方向で改善しようと、お考えですか。差し支えのない範囲で、以下の項目を参考にお書き下さい。

イ. 一般教育科目について、従来の人文、社会、自然の3分野にわたる履修方法を一層充実発展させる。

ロ. 総合科目を中心にした、一般教育の充実を図る。

ハ. セミナーを中心にした、一般教育の充実を図る。

ニ. 外国語科目を中心にした、教養課程教育の改善を試みる。

ホ. 保健体育科目について新しい方向を試みる。

ヘ. 例えばコア科目など、従来の実施方法に囚われない方法の開発を考える。

ト. 教養課程教育と専門教育とを融合させる方向で改善を試みる。

Ⅴ. その他、ご自由にご意見をお寄せ下さい。

1. 教養課程教育の特色

イ. 一般教育科目について

大学設置基準制定当時の教養課程教育の基本的形態は、一般教育科目（人文・社会・自然の3系列について各3科目12単位以上、計36単位）、外国語科目8単位、保健体育4単位、合計48単位であった。その後、昭和46年以降、大学設置基準の弾力化の処置が講じられ、現在では一般教育科目について、「人文、社会及び自然の3分野にわたり36単位」となった（第32条の1）。学生の立場から言うと、各分野1科目以上履修して計36単位修得すればよいのである。

また、同年の改訂で、一般教育科目36単位のうち12単位までを「外国語科目、基礎教育科目又は専門教育科目についての単位で代えることができる」とされた（第32条の2）。さらに、第24条は、教養課程の授業科目あるいは専門教育科目として開設されている授業科目を、「当該授業科目の区分以外の区分に係る授業科目として履修させることができる」、と定めている。いわゆる一般教育科目および専門教育科目間の単位の振替である。

(1) 均等分散型の堅持

上述のような、大学設置基準の弾力化が進められるなかで、「人文、社会及び自然の3分野にわたって各3科目12単位、計36単位」という伝統的形態を特色として挙げている大学は、

香川、宮崎

の2大学である。

(2) 授業科目区分（配当単位数）の弾力化

他方、32条の2に従って一般教育科目36単位のうち12単位以内を外国語科目、基礎教育科目、専門科目に振り替えていると回答した大学は、次の10大学である。

「8単位を基礎教育科目または専門科目に振り替え」（山形一工）

「12単位を一般教育演習、基礎教育科目、外国語科目へ振り替え」（福島）

「12単位までを外国語科目、基礎教育科目へ振り替え」（茨城一教育、理、工、農）

「8単位以内を外国語科目、専門教育科目で振替可能」（お茶の水）

「12単位を専門教育科目へ振り替え」（上越教育）

「8単位を基礎教育科目へ振り替え」（静岡一理、工、農）

「12単位を基礎教育科目（8単位）及び外国語科目（4単位）に振り替え」（滋賀一教育）

「12単位を専門教育科目に振り替え」（京都教育）

「12単位以内を外国語科目を含めて自由選択」（京都工繊一工芸）

「8単位を専門教育科目に振り替え」(奈良教育)

(3) 新しい授業科目区分の設定及びカリキュラム開発

さらに、新しい授業科目区分を設置して、従来の均等分散型とは異なったカリキュラムを実施あるいは実施を前提に検討している大学は、以下の通りである。

「共通科目、総合科目、一般教育演習という枠を設定」(北海道)

「人文・社会分野を統合」(旭川医科、豊橋技科)

「全学選択制。専門教育科目内に自由選択科目を設定」(東京学芸)

「一般教育科目内に、自由選択(人文・社会・自然・総合から選択)という枠を設定」(金沢)

「一般教育科目内に、教養セミナー(1単位必修)開設」(岐阜)

「人文・社会・自然という枠のほかに、人文科学・社会科学共通、総合科目、ゼミナールという枠を設定」(九州)

「共通区分としてゼミナール、総合講義、特殊講義」(鹿児島)

「特定の総合科目を核として、各分野の授業科目を組み合わせた履修コース。現在、物質と情報(物資の科学+情報数学概論+一般図学+その他)を実施」(横浜国立)

「主題別授業(主題とそれを具体化したいくつかの副主題のもとに、個別科学の授業を相互に関連させた履修コース)」(名古屋)

「コア・カリキュラム(教養原論・人文、同・社会、同・自然の3分野に各3主題を立て、各々3~7の授業科目を包摂させる)を試行」(神戸)

「コース制(人文・社会・自然の3分野にわたって授業科目をグループ化し、目的指向性のある学習と学問の総合性・学際性の認識を目指す)を試行」(長崎)

「専攻科目(40単位以上)。基礎科目(12単位以上)。関連科目A(28単位以上)。同B(12単位以上)。共通科目(総合科目A, 同B, 同C。計13単位)。体育(4単位)。外国語(12単位)。国語(2単位)。情報処理(2単位)。註——関連科目B, 総合科目ABC, 国語, 情報処理の計29単位が、一般教育科目に対応」(筑波一医学専門学群を除く各学群)

「専門教育科目(4,200時間以上)。基礎教育科目(19単位以上)。関連科目B(11単位以上)。共通科目——総合科目A, 同C(計10単位)。体育(4単位)。外国語(16単位)。国語(2単位)。情報処理(2単位)。註——関連科目B, 総合科目A, 同C, 国語, 情報処理の計25単位が一般教育科目に対応」(筑波一医学専門学群)

「基礎学芸科目A(24単位。人文・社会・自然の3分野にわたり履修させるもの)。基礎学芸科目B(専門科目Bと併せて58単位。専門科目の履修の基礎となり、人文・社会・自然のいずれかの分野について、総合的多面的に履修させるもの)。専門科目A(37単位。図書館情報学の教育研究の基礎となる専門科目で、すべての学生に履修させるも

の。専門科目 B（基礎学芸科目 B と併せて 57 単位。専門科目 A に関連して、重点的に履修を深める分野の専門科目で、選択により履修させるもの。）（図書館情報）

「教養基礎科目（一般教育科目 24 単位、外国語科目 8 単位、保健体育科目 4 単位、教科に関する専門教育科目 16～24 単位）、専修専門科目 16～24 単位、教職共通科目 54 単位、卒業研究 4 単位」（上越教育）

「教養基礎科目（一般教育科目 30 単位、外国語科目 8 単位、保健体育科目 4 単位、教科専門科目 16～18 単位、計 58～60 単位）、教職共通科目 52～56 単位、専修専門科目 20～22 単位」（兵庫教育）

(4) 1 授業科目当りの単位数の変更及び時間割編成の改善

各授業科目の単位数に関する規定も、「大学において定めるものとする」（第 25 条）と改められ、1 授業科目の単位数と、これに関連して時間割の面での改善を進めてきた大学は、以下の通りである。

「一般教育科目を原則 2 単位」（北海道、旭川医科）

「自然分野を主として前期・後期に分けて単位認定」（宇都宮）

「4 単位の授業科目のほか 2 単位の科目も開設」（山口）

「前期 2 単位。後期 2 単位制」（福岡教育）

「選択科目を並列開講」（旭川医科）

「3 分野並列開講」（宇都宮）

「帯時間割化」（東京農工）

(5) 楔 型

教養課程を大学前期 2 年、専門課程を後期 2 年に割り当てる「横割り型」に対して、いわゆる「楔型」あるいは「縦割り型」をとる大学は、当然ではあるが、理工系及び教育系の大学（学部）に多い。

「1・2 年次からの基礎教育・専門教育」（宮城教育、山形一医進課程、図書館情報、筑波、一橋、横浜国立一経済、新潟一教育・法・工、京都、大阪外国語、神戸、神戸商船、奈良女子、香川医科、九州芸工、熊本、宮崎医科、長岡技科、豊橋技科）

「教養課程の単位認定を行わない。4 年間の縦割り制」（宇都宮、茨城、埼玉、東京工業、お茶の水、一橋、滋賀一経済、京都、京都工繊一繊維、奈良女子、福岡教育、九州芸工、山形一工 B コース、長岡技科、豊橋技科）

(6) 高年次一般教育及び専門教育科目の一般教育科目への単位振替など 4 年一貫教育の試み
従来の「縦割り型」や「楔型」を一步進めた形で、高年次一般教育を実施している大学は、以下の通りである。

「自由聴講科目。幅広い知識と視野を養うことを目的とするが、教養課程修了のための単位としない」（東北）

「自由選択科目（教育系6～8単位。教養系10～20単位）。専門教育科目の中から自由選択。人間形成過程における一般的専門的教養の深化・拡充あるいは各種免許・資格の取得を目的とする。」（東京学芸）

「人文・社会分野の特別講義（1年次に指導教育を決め、3年次までに小論文提出）及び3年次対象の総合科目B」（東京工業）

「総合科目を3年次に開講」（長岡技科）

「医学関連科目（総合科目）内に高年次一般教育」（浜松医科，大分医科）

「一般教育科目と専門教育科目の相互振替」（茨城，東京，広島—総合科学，香川—教育学部総合科学課程）

「第2種一般教育」（九州）

「3年次の一般教育（総合科目）」（熊本）

「大学院一般教育」（豊橋技科）

(7) 教育内容の改善

他方，一般教育の教育内容そのものの改善に関しては，以下がある。

「講義内容を旧来の概論・概説から主題中心へ改善」（北海道，群馬，東京—教養学部人文学科，信州）

「自然分野では最先端の研究成果を一般教育に盛り込む」（東京）

「非専門の人文・社会分野を重視し，各6科目開設，各12単位必修」（東京水産）

「教育・経済・経営学部学生を対象として，物質の科学，情報数学概論，一般図学（図形処理を含めた図形科学的内容）を工学部が担当」（横浜国立）

(8) 授業科目の増設，多様化，統合，ユニークな授業科目の開設

また，時代の変化に対応した授業科目の統合と多様化，及びユニークな授業科目の開設を特色として挙げている大学には以下がある。

「数学Ⅰ・Ⅱを数学に統合。基礎教育科目に応用数学を開設。社会分野の統計学と基礎教育科目の情報処理を統合し，基礎教育科目に統計情報処理を置く」（旭川医科）

「数学と統計学を廃止し，数理科学（人文学部対象）及び数学（工学部対象）に統合」（山形）

「自然環境論（工学部対象）」（山形）

「国際事情，日本語，日本事情」（福島）

「専門教育を考慮して，技術史，統計学，国際関係論を開設」（東京農工）

「社会分野に婦人問題及び生活文化論」（お茶の水）

「物質の科学，一般図学，情報数学概論，相模湾の自然」（横浜国立）

「科学技術史，朝鮮文化」（金沢）

「外部から講師を招き，総合的視野に立つ特別講義を実施」（浜松医科）

「授業科目の増設（政治学，人類学，日本語・日本事情）と専任教員の配置（法学，統計学，倫理学，地理学）」（岐阜）

「授業科目の種類が豊富。数学9種類，物理学7種類など」（京都）

「各授業科目についてセミナーを開設」（京都）

「地球環境論」（大阪外国語）

「文化人類学，情報科学」（神戸）

「生活科学概説，色彩学」（奈良女子一家政）

「洞窟学（地学）」（愛媛）

「国際関係論，文化人類学，科学史，科学技術論」（九州）

「美術史，言語学，考古学，文化人類学，アジア社会論，国際関係論，女性学，情報科学，環境科学，地球科学，科学史」（佐賀）

「大分県の歴史」（大分）

「オープン化（学部別縦割り制のもとの3学部共通講義）の推進」（大分）

「科学技術論」（宮崎）

「地域密着型の授業科目として，琉球文学，沖縄語概説，沖縄戦後史，沖縄研究序説，沖縄の珊瑚礁。ユニークな授業科目として，人文特別講義，地域科学概論，地域の科学，社会科学概論，自然科学概論」（琉球）

(9) その他の特色

「一般教育演習」あるいは「全学ゼミナール」などの名称で，少人数教育を実施しているのは多数に上るが，こうした少人数教育あるいは視聴覚教育などを自己の特色とするのは，

「クラス分けによる少人数教育（数学，電算機）。人文・社会分野の特別講義を少人数（10～25名）のセミナー形式で実施」（宇都宮）

「ビデオなど視聴覚教材の活用及び施設見学の定期化」（宇都宮）

「社会分野でOHP・スライド使用の推進」（東京）

「1～4年次にわたって基礎教育科目内に人文・社会・自然分野の教員が担当するセミナーを開設。教員1名当り学生10名程度の小クラス制」（山梨医科）

「信州大学画像情報ネットワーク（SUNS）を利用した楔型教育」（信州）

「基礎教育科目を文化系，数物系，生化系に分け，少人数講義として実施」（浜松医科）

「視聴覚機器を利用した教育」（岡山）

「総合科目として名著講読（2～4単位。教養課程修了の要件に含めない）」（徳島）

「LL，パソコン，AV，実験装置の活用」（鳴門教育）

「少人数教育（人文・社会分野でセミナー形式）」（愛媛）

「教養課程特講（文系1年次全員対象のプレ・ゼミ），自然科学特講（理系2年次対象のプレ・ゼミ）」（九州）

「教養基礎科目（プレ・ゼミ）の設置」（佐賀）

「基礎演習（1年次，必修）及び社会科学セミナー（2年次，平成3年度から）」（大分—経済）

「数学演習，化学セミナー」（大分—工）

で，他に，

「教養部学生教養講座」（東北）

「学外講師による特別講義（夏期集中）」（山口）

「公開講座（教養部で開設の総合科目及び生涯教育との関連で）」（佐賀）

というのもあった。

最後に，教養課程修了要件（修得単位数）に関して，次の2つの大学がまったく異なった立場をとっているのが注目される。

「教養課程2年間で80単位必修」（一橋）

「修得単位の形骸化を防止するため，教養課程修了の単位数の85単位から68単位へ削減」（東京医歯）

ロ．外国語科目について

（1）必修・選択の制度に関するもの

現状では，「一の外国語の科目8単位」というのが大学設置基準に定められている卒業の要件なので，特徴を出すとするれば，第二外国語の履修をどういう条件で課すかということが中心になる。また外国語科目は，1・2年次で課すのが一般的であるが，3・4年次での開設（選択外国語を含む）や第一外国語の英語以外からの選択の余地などの観点からまとめてみた。

（1）二ヶ国語を選択必修（8＋8単位以上）

富山，金沢，名古屋一文・教育・法・経済，大阪外国語（専攻外国語以外に1つ）

（2）一ヶ国語必修

埼玉，豊橋技科

（3）一外国語＋ α 制（ α は学部により異なる）

茨城—人文・教育・理・工，奈良教育（ $\alpha = 2$ ）

（4）第一外国語の選択制（英語以外でも可）

東京学芸，筑波—人文・比較

（5）未習外国語のみ必修（一ヶ国語8単位）

信州—経済

（6）3・4年次まで開設（全学向け中・上級クラスなどを含む）

旭川医科，東京工業（大学院まで），東京商船（英語のみ），長岡技科，浜松医科，名古屋

屋，名古屋工業，豊橋技科，広島，九州（大学院まで），熊本

- (7) 第三外国語の単位を第二外国語の単位として認定

東京

- (8) 外国語科目を専門教育の一部として開設

東京芸術

（２） 教育内容・方法に関するもの

外国語クラスの編成方法，クラス・サイズへの配慮，メニューの多様化などの観点からその特徴をまとめてみた。なお，クラス・サイズについては，大学設置基準では，教員数は，学生50～70人に1人となっているので，どうしても大クラスになりがちであるが，これを40人以下にしようとする努力もなされている。

- (1) 英語について入学時にプレースメント・テストによるクラス分け

筑波，東京水産

- (2) 小人数クラス編成

茨城，筑波，東京，東京医歯，東京農工，長岡技科，名古屋，香川医科，九州芸工，鹿児島

- (3) 多人数クラス（統一カリキュラムによる放送授業）と小人数クラス（クラス選択制）の併用

東京

- (4) 英語に多様なメニュー（講読・文法・会話・LL・演習など）を提供

北海道，室蘭工業，旭川医科，筑波，東京，東京工業，名古屋，滋賀，京都，徳島，鳴門教育，大分，琉球

- (5) 外書講読（規定の単位外または振替える）

筑波—比較文化，広島（第一外国語の2単位）

- (6) 中級科目の開設

宇都宮，東京水産

- (7) その言語を母語とする国の文化一般についての授業実施

山形（ロシア・ソ連の事情），東京，山梨（ドイツ文化・ドイツ事情），群馬（総合科目として「中国の言葉と文化」「ロシアの言葉と文化」）

- (8) 集中授業の実施

東北（ドイツ語），京都（フランス語），神戸（外国人教師とのペア授業で）

（３） 担当者の制度などに関するもの

メニューの多様化に伴い，従来の担当方法だけでは負担しきれないために，いくつかの工夫が

なされてきている。また、大クラスでの効果をあげるために院生などのアシスタントとしての利用、外国人教師・講師の採用の強化などが目立つ傾向である。

- (1) 他教科教官の外国語授業担当
東京、筑波（第一外国語の専門語学として）
- (2) 外国人教師の任用、活用に特に力を入れる
宇都宮、東京芸術、東京工業、静岡、名古屋、岡山
- (3) 授業補助員（TA）の導入（試行中を含む）
筑波、神戸

外国語教育における外国語の種類

- (1) 英語・独語
北海道教育一旭川・岩見沢、室蘭工業、帯広畜産、旭川医科、北見工業、上越教育、山梨、山梨医科（＋中国語・露語）、福井医科（＋仏語・羅語）、浜松医科、島根医科、高知医科、九州工業、大分医科、宮崎医科
- (2) 英語・仏語
長岡技科
- (3) 英語・独語・仏語
北海道教育一函館・釧路、宮城教育（＋露語・中国語）、秋田（＋露語）、図書館情報（＋露語・中国語）、宇都宮、群馬、東京医歯、東京外国語（＋露語・中国語・西語）、東京学芸（＋露語・中国語・朝鮮語）、東京農工、東京商船、東京水産（＋露語）、電気通信（＋露語）、豊橋技科、滋賀、京都工繊、神戸商船、兵庫教育、奈良教育、鳴門教育、香川医科、鹿屋体育
- (4) 英語・独語・羅語
富山医薬（＋仏語）、佐賀医科
- (5) 英語・独語・仏語・露語
山形、千葉、東京工業、信州、名古屋工業
- (6) 英語・独語・仏語・中国語
弘前（＋露語・羅語・ギリシャ語）、茨城（＋露語）、お茶の水、富山、愛知教育、奈良女子、和歌山、島根、岡山、山口、高知、佐賀、長崎（＋西語）、大分、琉球（＋西語・羅語・ギリシャ語）
- (7) 英語・独語・露語・中国語
北海道教育一札幌
- (8) 英語・独語・仏語・伊語
東京芸術

(9) 英語・独語・仏語・露語・中国語

北海道（＋西語・朝鮮語・羅語・ギリシャ語）、岩手、東北、埼玉、横浜国立、新潟、福井、静岡、岐阜、鳥取、香川、福岡教育、九州、九州芸工、熊本（＋羅語・西語・ペルシャ語）

(10) 英語・独語・仏語・露語・中国語・西語

小樽商科、福島

(11) 英語・独語・仏語・露語・中国語・羅語・ギリシャ語

一橋（＋西語・朝鮮語）、金沢、三重、広島（＋西語）

(12) 英語・独語・仏語・露語・中国語・西語・羅語・ギリシャ語

東京（＋伊語・朝鮮語・アラビア語・インドネシア語・ヒンディー語・トルコ語）、名古屋（＋朝鮮語、オランダ語、エスペラント語〔全学向け〕）

〔注〕 外国語としての日本語は省略した。

ハ. 保健体育科目について

保健体育科目については、多くの大学において健康科学教育を重視する傾向にあり、健康の自己管理能力の育成、健康・運動処方教育、健康生活と生涯教育等に特色をもたせている。さらに、医学部教官あるいは医師による授業の開設、心身障害者への対応等、今日の社会の要請に対応する特別コースを設けている大学、生涯体育への対応として実技種目、開講数の充実、あるいは野外スポーツの導入等を実施している大学等がある。

実技の習得、体力の増強については1～4年間の一貫教育に特色があり、1～2年次に重点的な種目の配分履修を課している大学、また生涯体育への配慮をする大学等、それぞれの大学により特色を打ちだしている。

(1) 健康科学教育の重視

「『健康』に関する科学的認識の形成」（北海道）

「健康に対する理解の深化」（東京商船、奈良女子）

「衛生・疾病の予防対策、健康の自己管理能力の追求」（お茶の水）

「健康教育への足がかり」（長岡技科）

「身体活動の価値認識、健康の増進、社会的性格の育成、学生生活の豊かさ追求」（愛知教育）

「健康科学教育の重視」（岡山、九州工業）

「健康の保持増進と将来の健康生活実践の素地育成」（広島）

「健康科学として健康処方教育の重視」（九州）

「健康教育、生涯教育等の配慮」（佐賀）

(2) 医学部教官、医師及び保健管理センター関係者担当による授業開設

- (室蘭工業，東京，信州，滋賀医科，大阪，奈良女子，広島，九州)
- (3) 心身障害者対象特別コースの設置
(東京，広島，徳島，愛媛，九州)
- (4) 理論，実技及び健康診断結果の有機的相关性の重視
(東京商船，広島)
- (5) 体力別グループ分けによる授業開設
(東京工業，大阪)
- (6) 運動処方コースの設置
(山口，宮崎医科)
- (7) 実技集中履修方式
「種目のシーズン制，学内外施設の利用等による実技集中授業の開設」(東京学芸，香川，高知)
- (8) 生涯教育，生涯スポーツの導入
(福島，宇都宮，東京商船，長岡技科，京都工繊，奈良女子，佐賀)
- (9) 野外スポーツの導入
「冬季ノルディックトレーニング」(北海道)
「野外活動の積極的導入」(茨城)
「集団合宿授業」(東京商船)
「臨海水泳実習」(東京水産)
「水泳実習」(山梨，大阪)
「スキー集中実習」(新潟，信州，富山医薬，鳥取，大分)
「ゴルフ」(鳥取)
「キャンプ実習」(大分)
- (10) 開講種目の充実による選択制及び選択幅の拡大
(茨城，東京農工，静岡，京都，広島，鳴門教育，高知，鹿児島，琉球)
- (11) 1・2年次での実技種目の重点配分履修方式
「1年次，レギュラーコース。2年次，多様なシーズンコース」(信州)
「1年次，基礎体力トレーニング。水泳必修及び剣・柔道を各時間配置」(大阪)
「1年次前期，トレーニングコース」(神戸)
「1年次で多項目。2年次で1項目選択履修」(岡山)
- (12) 1～4年次，大学院生等の4年一貫教育
「1～4年次まで必修，体力強化をはかる」(筑波)
「1～4年次を対象とし，3・4年次は選択科目として履修」(東京，大分)
「3・4年次対象の実技開設及び大学院生対象の体育科学開講」(豊橋技科)

「6期実技，1期理論の7期にわたる実施」（福岡教育）

- (13) スポーツの面白さと芸術的身体表現の基礎教育
(東京芸術)

二. 総合コースについて

昭和45年8月の大学設置基準の改正によって一般教育科目は人文・社会・自然科学の三系列より人文・社会・自然の3分野に改められると共に「授業科目は，一の学問分野に関するもの又は特定の主題を教授するため二以上の学問分野の内容を総合したもの」（第20条の2）とされた。単一科目と並んで，総合科目が一般教育科目として正式に位置づけられたのである。

こうした総合科目の実施状況は，総合科目を一般教育の中心とする大学（筑波）の60講より，33講（千葉），32講（茨城），24講（熊本），23講（北海道），20講（埼玉），17講（神戸），11講（琉球），10講（福島，三重）等10コマ以上開講が10大学に及んでいる。その他，アンケート回答に明記されたものについて9講（豊橋技科，大阪，香川，長崎），8講（富山），7講（静岡，高知，大分），6講（横浜国立，名古屋），5講（北海道教育，東北，秋田，新潟，九州，佐賀），4講（室蘭工業，群馬，東京学芸，信州），3講（山形，京都，奈良女子），2講（お茶の水，金沢，奈良教育，大分医科），1講（大阪外国語，宮崎医科）である。

なお，回答大学中，総合科目を「開設せず」と明記している大学は6大学（図書館情報，東京医歯，東京外国語，東京水産，和歌山，九州芸工）。特色は「特になし」とする大学は9大学（愛知教育，滋賀，大阪外国語，鳥取，広島，鳴門教育，香川医科，宮崎，鹿児島）にすぎない。

そうした総合科目について，現在，実施されているものについての特色をあげれば次のようになる。

（1）授業科目としての特色

(1) 授業科目の名称

(i) 学問分野によるもの

①分野内あるいは系列別

「人文・社会・自然総合」（名古屋，岡山）

「人文科学・社会科学・自然科学総合」（神戸，東北は社会・自然のみ，徳島，滋賀医科は社会のみ2年前期）

「総合科目第1～第9」（横浜国立）

「総合講義Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ」（期間別・北海道—「総合科目」と別）

「総合科学Ⅰ．Ⅱ」（大分）

「総合科目」（香川），「総合科目Ⅰ～Ⅳ」（新潟）

「教養総合講義」（山梨医科・講話形式）

その他（山形，筑波，埼玉）

②分野間あるいは系列間

「総合科目第一（人文・社会），第二（人文・自然），第三（社会・自然），第四・第五（全）」（神戸）

「広領域科学」（筑波）

「総合講義」（東京芸術，佐賀医科）

「人文・社会総合講義」（東京工業）

その他（静岡）

(ii) 主題によるもの

「主題別・テーマ別授業」（東京学芸，東京農工，お茶の水，名古屋，山口，九州）

「総合科目A」（千葉）

(iii) 単独常設科目

後記(3)の(1)の専任教官のおかれた「学科目」

「総合科目B」（千葉）

(iv) その他

「学生教養講座」（東北）

(2) 受講学生の高年次化

(i) 編入学生に対する一般教育（長岡技科，豊橋技科）

(ii) 総合科目の乗り上げ（特に医科大，浜松医科，佐賀医科・4年後期・総合講義，大分医科）

(3) 単位の扱い

(i) 一般教育科目内の振り替え（高知）

(ii) 人文・社会に対して読み替え（豊橋技科）

(iii) 必修化……4単位（茨城，奈良女子一家政）

4～8単位（総合またはセミナー，千葉，奈良教育）

(4) 授業内容の多様化

特定の主題に共通な内容の代表的なものをあげれば，次の通りである。

(i) 「情報」——北海道教育，北見工業，東北，秋田，茨城，千葉，横浜国立，新潟，静岡，名古屋，大阪，神戸，奈良女子，広島，九州，長崎，琉球

「環境・資源・自然」——北海道，山形，群馬，千葉，東京学芸，横浜国立，新潟，富山，名古屋，大阪外国語，奈良教育，九州，長崎，大分，琉球

「地域・都市」——北海道，東北，山形，福島，茨城，筑波，千葉，東京学芸，鹿屋体育

「生命」——北海道，旭川医科，秋田，東京，東京学芸，名古屋，神戸，奈良女子，佐賀，長崎，大分

「人間・生活」——北海道，山形，筑波，静岡，奈良女子，九州

「人権」——北海道，北海道教育，千葉，横浜国立，大阪，神戸，奈良教育，奈良女子，
九州，佐賀，琉球

「数理・物質」——北海道，福島，千葉，新潟，大阪，神戸，奈良女子，九州

「技術・科学」——北海道，筑波，千葉，静岡，大阪，神戸，奈良女子，九州，長崎，大分

「言語」——筑波，東京，静岡，神戸，奈良女子，九州

「文化」——東北，筑波，群馬，東京農工，金沢，名古屋，大阪，神戸，九州

「国際」——北海道，福島，新潟，豊橋技科，滋賀医科，神戸，佐賀，琉球

「日本」——東京，新潟，名古屋，奈良女子，佐賀

「平和」——福島，名古屋

(ii) 特に部落（同和）問題を取り上げたもの

（大阪，大阪教育，神戸，奈良女子，佐賀）

(iii) 地域社会に密着したもの

「アイヌ民族」（北海道教育），「猪苗代湖の自然」（福島），「原発」（福島），「房総の自然」（千葉），「相模湾の自然」（横浜国立），「東海地方の人間・社会・自然」（名古屋），
「奈良の文化と社会」（奈良女子），「沖縄のサンゴ」（琉球），「大分県の歴史」（大分）等

(iv) その他

「手話入門」（豊橋技科），「名著講読」（徳島），「交通安全教育」（筑波），「九州地区合宿共同授業」

（２）総合科目とコース制

(i) 新学部構想との関連

新学部５コース制に対応した「問題提起型」科目の試行（九州）

総合科目と別にコース制試行（長崎）

(ii) 総合科目のコース化……３コース開設（山口）

(iii) 共通科目と各学群・学類別科目（筑波）

（３）担当教員と運営方法

(1) 総合科目専任教員の増加

例えば，11名（茨城），6名（信州），5名（北海道），1名（群馬），4名（千葉）等である。所属「学科目」名には情報科学（北海道，東北，茨城，千葉，熊本），文化人類学（信州，金沢），比較文化論（茨城，千葉），地域科学（茨城，千葉，福島），自然史（千葉），環境科学（弘前，熊本，琉球，茨城，群馬，富山，信州），科学方法論（北海道），科学論（岩手，信州，茨城），生命科学，言語科学（茨城），身体活動科学（茨城），人間科学（茨城），

自然科学概論（北海道）、自然保護（信州）等があり、その「共通科目」化の動き（北海道）がみられる。講座制のもとの共通講座と対比される。定員要求も含めれば増加の傾向。

(2) 運営委員会方式

各教官の自由企画の単なる事後的取りまとめでなく、「総合科目委員会」（北海道、群馬、静岡）、「総合科目運営委員会」（東北、千葉、香川）、「総合科目検討委員会」（筑波）、「総合科目運営協議会」（信州）によって企画、立案、調整、実施（講師、世話人、organizer）を行う（北海道、東北、筑波、群馬、千葉、信州、鳥取、香川）。

ホ. セミナーについて

「授業は、講義、実験・実習、演習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うもの」（設置基準第30条）とされているが、一般教育科目の講義は大人数学生を対象とし、しかも教師の側から学生に、一方通行的な授業となりがちである。

「セミナー」はこうした講義を少人数化するか、あるいは双方通行的なものとする試みとしてなされている。

開設数をみれば各授業科目毎にセミナーのつく大学（京都）から約150コマ（東京）、52（北海道）、35（東北）、96（千葉）、30（群馬）、63（岐阜）、26（名古屋）、27（滋賀）、20（神戸）、16（熊本、佐賀）、多数（一橋）等である。

なお、アンケート回答をした大学のうち、セミナーを「開設しない」と明記した大学は16大学（室蘭工業、旭川医科、東京外国語、東京水産、新潟、長岡技科、山梨、豊橋技科、滋賀医科、奈良教育、広島、徳島、鳴門教育、香川医科、九州芸工、琉球）。「特になし」とした大学は7大学（愛知教育、大阪外国語、奈良女子、島根、宮崎、宮崎医科、鹿児島）である。

セミナーとしては、学生の側に学習態度・伝達能力を養う形のもものが主に「演習」という方法でなされ、これに対して少人数による一般教育科目の講義の形をとるものが区別される。こうした特色を列記すれば、次の通りである。

(1) 能力・技術習得型セミナー（調査・報告・表現・討論）

(i) 「一般教育演習」（北海道、福島、東京）

「教養演習」（滋賀）

「基礎演習」（横浜国立・プロゼミ、神戸商船・プロゼミ、大分・講義）

「演習科目」（香川・講義もある）

「教養基礎科目」（東北、佐賀・プレゼミ）

「人文・社会・自然科学演習」（北海道・講義形式もとる）

(ii) 「教養基礎セミナー」（名古屋・人文・社会・自然、チューター制）

「教養課程特講Ⅰ・Ⅱ（各2単位）」（九州）

「五系列セミナー（人文・社会・自然・外国語・保体）」（千葉）

「人文・社会・自然科学特講（各第1，第2）」（神戸）

「教養セミナー」（岐阜）

(2) 知識修得型セミナー（少人数一般教育科目講義）

(i) 「教養セミナー」（一橋）

「教養部セミナー」（静岡，九州）

「一般教育ゼミナール」（東京・全学）

「授業科目ごとセミナー」（京都・全，富山・一部，愛媛・人文社会）

「人文・社会・自然科学セミナー」（名古屋）

「人文・社会総合講義」（東京工業・2年対象）

(ii) 「主題別プレ・ゼミ」（東北）

(iii) その他

茨城（ゼミ形式授業），筑波（フレッシュマン・セミナー），宇都宮（特別講義）

埼玉（少人数講義），東京医歯（セミナー），信州・金沢（ゼミナール），和歌山（経済，
コンサルテーション）

滋賀医科（単一，総合科目）

鳥取（教養ゼミナール），熊本（少人数クラス），山梨医科（基礎教育科目セミナー）

富山（コロキアム，単位なし）

(3) 単位の扱い

(i) 単位設定——福島，東京農工（生物学6～8単位），信州（教官の判断による），富山，
名古屋（文系1年に人文・社会の単位に充当）

(ii) 必修化——茨城（4単位），筑波（13単位，医10単位），千葉（セミナーあるいは総合
4～8単位），岐阜（1単位全員必修），佐賀，大分医科（1年前期 2単
位）

(4) 対象学生

(i) Freshman Seminar——北海道，福島，筑波，大分

(ii) 高年次——山梨医科（1～4年），信州（自由参加）

(iii) 全学——東京

(iv) 規模——宇都宮（10～25人），北海道（15人），九州（20～25人，必修），滋賀（16
～17人），大分（1年経済10～15人），香川（20～25人），鳥取（20人）

(5) チューター制の導入

大学院生によるチューター制——名古屋，神戸

Teaching Assistant——東北（保体，自然），筑波（外国語，総合科目，国語，情報），佐賀
医科（教官によるチューター制）

へ. 基礎専門、基礎教育科目について

大学設置基準によって、基礎教育科目の開設を義務づけられているのは、医学・歯学進学課程のみであって、8単位必修となっている。こうした大学設置基準に従った基礎教育科目のほかに、医学・歯学進学課程（または医学部及び歯学部）における基礎教育科目の改善とその特色は、以下の通りである。

(1) 医学進学課程及び歯学進学課程（医学部及び歯学部）の基礎教育科目

「応用数学、及び統計学と情報処理を統合した統計情報処理を新設」（旭川医科）

「医学概論、歯学概論、薬学概論など」（東京医歯、富山医薬、浜松医科、香川医科）

「基礎教育科目を再検討し、必修・選択の区分を設定。放送教材を利用した地球環境問題を特別講義として実施」（山梨医科）

「医学概論などのほか、文化系、数物系、生化系に分け、少人数教育」（浜松医科）

「総合講義（問題解決型の学習）及び情報科学（情報処理と医学情報について1～4年次にわたって系統的教育）」（高知医科）

「早期医学教育(Early Clinical Exposure)」(高知医科、九州一医・歯)

「専門教育科目内に、医学教養科目として医学英語、医用工学、分子医学、総合人間学を開設」（大分医科）

(2) 理工系学部の基礎教育科目

医学部を除く理工系学部で基礎教育科目を設置していると答えた大学は、室蘭工業（すべて一般教育担当教員が担当）、群馬、長岡技科、山梨、静岡、九州、大分一工などであるが、その特色としては、

「広く自然科学一般の基礎となるような内容」（群馬）

「数学（微積分学と線形代数）は全員担当」（東京工業）

「基礎教育科目を理学コース、工学コース、農学コースに分けて実施」（静岡）

「専門教育科目として共通基礎科目15科目を開設」（名古屋工業）

「基礎造形教育」（九州芸工）

「自然分野を基礎専門として位置づけるとともに、専門教育科目内に共通科目を開設」（九州工業一工）

「基礎教育科目内に学科基礎科目として14科目開設」（九州工業一工）

「専門教育科目内に共通基礎科目として、従来の工学系実験を総合した情報工学基礎実験・演習を開設」（九州工業一情報工学）

などがあり、茨城大学、信州大学及び佐賀大学では、平成3年度からの実施の予定で基礎教育科目の開設を検討している。これとは対照的に、福井大学では基礎教育科目を廃止し、自

然分野の授業科目に変更した。

ほかに、上記の医・歯学部及び理工系学部以外の学部でも、基礎教育科目を設置あるいは一般教育科目内の授業科目を基礎専門として位置づけている大学がある。

(3) 教育学部及び人文社会科学系学部の基礎専門及び基礎教育科目

「人文科学特別講義，社会科学特別講義，自然科学特論」（北海道）

「基礎教育科目として教育基礎論及び経済学概論」（福島一教育，経済）

「基礎教育科目15科目各2～8単位開設，12～18単位必修」（東京芸術一芸術）

「基礎教育科目59科目各2～4単位開設，12単位必修」（東京芸術一音楽）

「一般教育科目内に基礎演習」（滋賀一経済）

「基礎教育科目として，基礎教育Ⅰ，同Ⅱ各4単位開設」（滋賀一教育）

「専門教育科目内に基礎専門としての共通科目を開設」（京都工繊一工芸）

「基礎専門科目として理科（原著論文講読）」（鳴門教育）

基礎教育科目という特別の枠を設定してはいないが，学部（学科）による授業科目の指定によって，実質的に一般教育科目を基礎専門と見なしている大学は多数に上り，その形態も多様であって，必ずしも理工系学部に限定されない。

(4) 科目指定制

「理系Ⅰ，同Ⅱ，水産系，医学・歯学進学課程対象」（北海道）

「専門教育との有機的連関を図るため数学，物理学，化学を指定」（宇都宮一工）

「自然分野について，設置基準を大幅に上回る必修科目を課す」（東京）

「一般教育科目の数学と基礎専門の数学との一貫性を重視」（東京農工）

「基礎専門として一般教育科目に社会学2単位，統計学4単位，数学72単位分，物理学8単位分，化学16単位分，生物学2単位分開設」（東京農工）

「自然分野に専門の基礎となる授業科目（色彩学，美術解剖学，音響学，音声学など）を配置」（東京芸術一美術，音楽）

「数学（微積分学及び線形代数学）は全学生を対象として開設し，全教員が担当。物理学を基礎専門として位置づけ，講義のほかに一般物理演習と同実験を履修させる」（東京工業）

「一般教育科目と自然系基礎講座の連携」（東京商船）

「自然分野の数学，化学，生物学を基礎専門として位置づけ（必修）」（東京水産）

「緩やかな指定制」（新潟，琉球）

「学部指定科目（必修）」（信州一医，工，繊維）

「学部別科目指定制」（名古屋）

「自然分野は専門教員の担当」（豊橋技科）

「各学部学科毎に科目指定」（大阪）

「自然分野の必修指定」(広島一総合科学, 理, 医学部医進課程, 医学部薬学, 工, 生物生産)

「数学, 物理学, 化学, 生物学, 心理学必修指定」(香川医科)

「自然分野の数学, 物理, 化学を基礎専門として位置づけ(必修)」(九州工業一工)

「指定科目制(理工のみ。農は廃止)」(佐賀)

これに対して, 授業科目の指定をまったく行っていないのは,

「完全自由選択制」(徳島)

である。

ト. その他(論述作文など)について

設問Ⅳート「その他(論述作文など)について」は, 通常の専門的学問分野に属さない授業科目の開設状況に関する質問であったが, これに対応する授業科目を開設しているのは,

(1) その他の授業科目(論述作文など)

「国語及び情報処理」(筑波)

のみであった。他方, 何らかの形で情報処理教育を実施していると答えた大学は, 旭川医科, 東北, 名古屋, 神戸, 福井医科, 鳥取, 奈良女子などであるが, その特色としては,

(2) 情報処理教育

「図学教育のほか, 情報処理の基礎教育を文科・理科学生に実施」(東京)

「情報数学概論(教育, 経済, 経営学部対象)」(横浜国立一工)

「情報処理センターの協力による情報処理教育」(大阪)

「情報科学の系統的教育」(広島一総合科学)

などがある。また, 最近とくに急増している外国人留学生に対する対応として, 日本語・日本事情を開設した大学も多い。

(3) 留学生教育

「日本語及び日本事情の開設」(宇都宮, 鳥取, 大分)

「日本語プレイスメント・テスト」(豊橋技科)

「特例科目(日本の文化と自然, 日本の社会と日本語)を開設」(大阪)

自然分野の実験あるいは体育実技などの授業にティーチング・アシスタントを採用を試みている大学は,

(4) TA制の採用

東北, 筑波, 東京工業, 名古屋, 神戸

である。

他方, 教員組織の面から見た教養課程教育の実施形態は多様であるが, 国立大学の約3割強を

占める教養部（横割り）型のほか、以下のような特色のある形態もある。

(5) 教育課程と教員組織

「全学出動方式」（北海道）

「教員組織として教養・専門の区別をしない」（図書館情報）

「教育学部及び健康管理センター教官の兼担による授業科目の多様化」（宇都宮）

「全教員が一般教育を担当」（東京学芸）

「全教員が教養課程教育へ参加」（一橋）

「部分縦割り全学出動方式（学生は各学部所属。一般教育関係学科目は4学部に分属。一般教育運営委員会を設置）」（横浜国立）

「教員の相互乗入れ（教養課程教員の医学研究科担当，専門課程教員の新入生オリエンテーション参加）」（浜松医科）

「一般教育担当教員が大学院教育に参加」（京都工繊一工芸）

「6年次の選択コースに一般教育担当教員が参加」（佐賀医科）

ほかに，大学教育改革の方法に関しては，次のような方策が注目される。

(6) 教育改革の方法の改善

「全教員参加の将来構想委員会」（群馬）

2. 教養課程教育の今後の主要な改善の方向と特色

アンケートに回答があった大学、91校のうち、「現状を変えない」という回答は1校（岩手）である。現時点では改善を検討する状況にないという回答は4校である。すなわち、旭川医科大学と東京学芸大学は本年度から、香川医科大学は昭和63年から改正カリキュラムが実施されたばかりであること、さらに、広島大学は総合科学部設立時に一般教育の改善がなされていることから、数項目を除いて、各大学では大きな変更がないということである。未検討あるいは検討中を含めて改善の方向の各項目に具体的な回答がなかった大学は、23校（小樽商科、帯広畜産、北見工業、宮城教育、秋田、山形、宇都宮、東京医歯、東京芸術、東京工業、長岡技科、福井、滋賀、京都教育、大阪外国語、神戸商船、兵庫教育、和歌山、鳥取、徳島、九州芸工、佐賀医科、鹿屋体育）あり、このうち、徳島大学は保健体育科目の改善以外は全面的な改善を検討中であること、鹿屋体育大学は昭和59年に学生の受入れを開始し、この間の教育研究体制を踏まえて検討に着手したとの回答である。このほか、奈良女子大学は項目イ～ホが検討課題、島根大学は全面的見直しにより一層の充実・発展による改善、岡山大学は現在の特色及び改善をさらに充実という回答である。

上記以外の各大学の改善の方向は、一つの大学をとってみても、多岐にわたり、アンケート項目イ～トに限定して整理するのに難しい場合が多いが、一応項目毎にまとめてみた。特に、総合科目、セミナー及びコア科目は、複数の組み合わせによる改善が多いので、整理項目を限定するのが困難であった。さらに、すでに一部試行されているものは、将来さらに充実、改善されるという意味から、該当する改善の項目に入れておいた。また、組織の改組を前提にして改善の方向を考えている大学については、アンケート項目毎に整理すると、その大学が意図する改善の方向の全体像が薄れてしまうことにもなるので、当該大学の報告書等を見て検討していただくために、「チ、その他」に現在組織の改組を構想中の大学としてまとめた。

イ。「一般教育科目について、従来の人文、社会、自然の3分野にわたる履修方法を一層充実発展させる。」

(1) 均等分散型の充実・発展

「現状維持と充実」（北海道教育一札幌分校）

「3分野履修方法の発展、充実」（北海道、三重、京都工繊一工芸）

「カリキュラムの全面的な改訂」（東京一自然系）

「3分野履修を基本とした改善」（静岡）

「均等分散型の積み上げ方式——1～3年次における導入—展開—統合」(熊本)

(2) 授業科目区分の弾力化

「3分野系列各12単位必修の再検討」(東京水産)

「一般教育科目の単位削減, 過密カリキュラム緩和(設置基準の大綱化)」(信州)

「人文, 社会3科目10単位以上を3科目12単位以上に(定員増要求)」(浜松医科)

「人文, 社会, 自然系列各3科目の規程改正」(京都)

(3) 授業科目の見直し, 授業内容の改善

「開設科目の充実, 新設科目」(室蘭工業)

「体験学習の導入・充実」(群馬, 山梨)

「教科内容の多様化と選択制の拡大」(東京農工)

「一般教育, 自然について選択制の導入」(東京水産)

「科目の増設と多人数教育の解消」(一橋)

「分野毎の授業科目の見直し, 授業内容の改善」(愛知教育)

「個別科目, 個別的授業の精選と多様化」(名古屋, 神戸)

「一般教育の多様化」(山口)

「授業科目の量的, 質的向上を目指す」(佐賀)

「学部独自の一般教育科目を全学共通にした選択幅の拡大」(大分)

(4) 実験, 実習等教育の重視

「実験教育整備拡充」(北海道)

「実験・実技・演習によるトレーニング」(東北)

「演習・実習・セミナーの充実」(名古屋)

「実験を主体とした実践教育」(名古屋工業)

ロ. 「総合科目を中心にした, 一般教育の充実を図る。」

(1) 総合科目を中心とした改善

(i) 学部化との関連

「転換教育指定科目(含プレゼミ), 共通科目」(東北)

「必修化の推進と総合科目を核とする学部化構想」(茨城)

「専門総合科目」(東京農工)

「4領域の開設——領域内, 領域間総合科目」(信州)

「高年次向け総合科目」(名古屋, 鹿児島)

(ii) その他

「総合科目を軸としたカリキュラムの改革」(埼玉)

「特定の総合科目を核として, いくつかの履修コース」(横浜国立)

「総合科目を中心に、学際性の内容をもった一般教育の充実」(高知)

「4年次学生にも配置、専門教育科目との関連性」(佐賀)

(2) 総合科目の充実・拡大

室蘭工業、筑波(総合科目編成室)、群馬、千葉、東京(総合コース)、東京外国語、東京農工、山梨医科、岐阜、静岡、名古屋、三重、滋賀医科(3分野)、大阪、奈良教育、鳴門教育、山口、愛媛、高知医科、九州、熊本、大分、宮崎医科、琉球

(3) 総合科目の開設

「分野、科目の区分を超える総合科目、新規科目の設置、充実」(福島)

「学際性・地域性に富む総合科目の新設」(金沢)

「総合科目、セミナーの開設」(東京水産)

ハ. 「セミナーを中心にした、一般教育の充実を図る。」

(1) セミナーの充実・拡充

「一般教育演習に学部独自性、専門性を考慮」(福島)

「自由講義の充実」(群馬)

「セミナーを正規の時間帯で開講」(茨城)

「2年次対象の社会科学セミナー」(大分)

「セミナーを中心にした改善、拡充」(一橋、岐阜、名古屋、山口、高知医科、琉球)

(2) セミナーの開設、導入

埼玉(フレッシュマン)、東京水産、東京商船(プレゼミ)、お茶の水、山梨(課題別)、山梨医科(教養セミナー)、名古屋工業、宮崎医科(トピック関連セミナー方式)、鹿児島(基礎セミナー)、琉球(小人数セミナー)

(3) プレゼミの必修化

千葉、佐賀(教養基礎科目の必修化)

(4) 小人数教育の導入、重視、多様性

北海道(演習モデル大学)、北海道教育、筑波、東京(人文、社会)、静岡、神戸、九州

ニ. 「外国語を中心にした、教養課程教育の改善を試みる。」

(1) 外国語の充実(筑波)

(2) 外国語の必修、選択の制度

「既修外国語(英語)を必修と選択にわけ」(北海道)

「第二外国語の新設」(室蘭工業)

「外国語教官の人文、社会科目担当」(東京)

「外国語科目の多様化」(東京、山梨、佐賀、宮崎医科)

「外国語科目の開設数の拡大」(東京外国語)

「外国語単位の増加と一般、専門教育科目との互換」(東京水産)

「運用能力養成部分(共通基礎科目)と異文化理解部分(一般教育科目)への分離」(信州)

「選択方法の改善」(愛知教育)

「外国語の一部を専門科目として履修」(香川)

「3, 4年次, 大学院生への外国語コース」(佐賀)

「履修コースの導入, 多様化」(鹿児島)

(3) 外国語教育方法, 内容の改善

「クラス当たりの受講学生数の適正化」(茨城, 愛知教育)

「実用英語教育」(山梨医科, 富山医薬)

「授業方法の改善」(愛知教育)

「読み, 書き, 話し, 聞くの4技能の習得」(佐賀)

「一般教育的内容をもつ外国語の導入」(鹿児島)

(4) 教育・研究機関の設置

「言語文化センターの改組」(東京)

「語学実習センターの設置」(横浜国立)

「言語センターの設置(共同利用施設)」(広島)

ホ. 「保健体育科目について新しい方向を試みる。」

(1) 生涯健康教育・生涯スポーツ

東北, 名古屋工業, 京都, 大阪, 広島, 佐賀(コース制), 宮崎

(2) 健康科学一貫教育

東京(3, 4年次選択実技), 名古屋(高年次セミナー), 九州(4年一貫), 佐賀(3, 4年履修), 宮崎(4年間), 鹿児島(3年一貫, コース制)

(3) 教育内容の改善

「グループ別指導の緻密化, 運動部所属者グループへの理論・実技」(東京)

「シーズン種目の導入」(東京水産)

「実験の導入及び障害者体育のトレーニングコース」(山梨)

「主題別授業科目への組み込み」(名古屋)

「特別体育コース(実技による障害防止のため)」(大阪)

「目的別, 種目別を併用した授業」(大阪)

「小人数教育, 男女混合教育, 低位体力者への対応及び医学との接点重視」(広島)

「運動処方コースの設置」(徳島)

「多種目開講とカリキュラム編成上の工夫」（高知）

「全学スポーツデー（週1回——3、4年次4単位実技実施への移行措置）」（宮崎）

へ。「例えばコア科目など、従来の方法に囚われない方法の開発を考える。」

(1) コア科目による改善

「総合主題科目群——総合科目を核として」（千葉）

「総合科目とセミナーの組み合わせ」（静岡，熊本）

「教養科学原論，教養原論，演習」（神戸）

「一般教育集中コース，均等分散型精神を生かすため複数の科目を核として」（香川）

「教養原論，5コース制の学部化と関連」（九州）

「コア科目を検討課題とする」（富山，岐阜）

「コース制，コア科目制を目指して」（長崎）

「コアカリキュラムの導入」（鹿児島）

(2) 従来の方法に囚われない方法による開発

「タテ割り」型授業科目の総合化・融合化——共通科目（7カテゴリーに分類）」（東北）

「境界領域を扱う科目，新しい視点に立った科目の導入」（東京）

「新しい一般教育の総合化」（新潟）

「主題別授業科目」（名古屋）

「主題別科目，個別科目，総合科目，セミナーの均等履修」（鹿児島）

「アセンブリーアワー（学問の意味，話題の提供）による一般と総合科目の活性化」（奈良女子）

「情報科学，情報処理教育」（北海道（全面導入），東北，福島，筑波，東京（統計学），京都工繊（総合科目），高知（総合科目），大分医科，鹿児島）

「信州大学画像情報ネットワークによる遠隔キャンパスの教養課程教育の改善，多様化」（信州）

「放送大学の利活用」（室蘭工業，山梨医科，琉球）

「ティーチング・アシスタント制」（室蘭工業，東北，筑波，名古屋，九州，鹿児島）

「日本語・日本事情，国際事情の充実——留学生」（福島）

ト。「教養課程教育と専門教育とを融合させる方向で改善を試みる。」

(1) 教養課程教育と専門教育の融合の方向

北海道（全学支援方式），北海道教育一釧路，図書館情報（含む外国語，保健体育），千葉，筑波，東京外国語，東京学芸，電気通信，山梨医科，富山，浜松医科，三重，京都工繊—工芸，大阪，鳴門教育，広島，福岡教育，長崎

- (2) 基礎教育科目、専門教育科目等の導入、区分の弾力化
- 「教養基礎科目」(上越教育)
 - 「専門基礎科目の充実」(筑波)
 - 「基礎教育科目を専門教育科目の一部と位置づけ」(京都)
 - 「共通教養と専門教養」(神戸)
 - 「基礎教育科目、専門基礎教育科目の設定」(名古屋)
 - 「一般教育と専門教育の区分を明確化(全教官担当体制の改善)」(福島)
 - 「一般教育と専門教育の授業区分の弾力化」(香川)
 - 「専門教育科目と一般教育科目相互の振替」(群馬、信州)
 - 「基礎教育、外国語、専門教育科目から12単位迄を一般教育科目へ読み替え」(鹿児島)
- (3) 4年一貫教育による改善
- 「4年一貫教育体制」(弘前(全学担当制、教養部廃止)、東北(一般教育と専門教育の区分廃止)、一橋(一般と専門の並行型)、京都(専門課程、教養課程の廃止))
 - 「くさび型の推進、充実」(大阪教育、奈良女子、佐賀、宮崎医科)
 - 「低年次専門教育——高年次一般教育」(茨城一学部教官の兼担、山口)
 - 「開放科目(新学部専門科目の全学への開放)」(東北、信州、名古屋、京都、鹿児島)
 - 「自然系一般教育科目と専門科目の一貫性(一般教育教官の専門科目担当)」(九州工業)
 - 「一般教育、専門教育担当教官の相互兼担」(室蘭工業)
 - 「一般教育担当、専門教育担当の区分の廃止」(横浜国立)
- (4) その他
- 「新しい一般教育の総合化——高校教育と専門教育との整合する一貫教育体制」(新潟)
 - 「たて割りの実質化によるカリキュラムの改革」(埼玉)
 - 「一般教育から専門教育への繋がりを考えた科目の新設」(お茶の水)
 - 「総合科目あるいはコア科目を中心とした一般教育と専門教育との融合」(名古屋工業)
 - 「新学部専門科目群を用いた副専攻制の導入」(京都)
 - 「学部共通科目(専門科目)を一般教育課程学生にも履修」(奈良女子)

チ. 「その他」

(1) 組織の改革構想

東北(広域科学部)、茨城(検討中)、千葉(教養学部)、群馬(社会科学部)、東京農工(人間自然科学部)、信州(教養学部)、静岡(検討中)、名古屋(科学文化学部)、京都(総合人間学部)、神戸(教養科学部)、九州(教養学部)、佐賀(検討中)、長崎(検討中)、鹿児島(総合文化学部)、琉球(検討中)

3. 自由意見

北海道（一般教育の現状と改善の方向）、北海道教育（大学審議会答申をまつ）、宮城教育（一般教育科目について）、福島（「大綱化」に対して）、筑波（大学教育の在り方、学生の負担減と外国語教育の充実、総合科目、共通科目について）、東京（一般教育の重視、小人数教育体制、予算・人員、体育施設の改善について）、東京医歯（改善の検討について）、東京商船（一般教育について）、横浜国立（教養課程の問題について）、新潟（改善の検討について）、上越教育（改善の検討について）、山梨（国大協への要望）、山梨医科（教養課程教育の問題点について）、信州（教養部の将来構想について）、富山医薬（国大協への要望）、京都工繊（工芸学部の一般教育について）、奈良女子（国大協への要望）、徳島（今後の検討について）、愛媛（週5日制について）、九州工業（専門教育の一般教育の融合について）、長崎（国大協への要望）、宮崎医科（教養課程と専門教育を融合させた型の改善について）。

4. 単科大学に見られる共通性(特色)

単科大学のカリキュラムは、いわゆる総合大学のそれとはかなり異なった、むしろ、単科大学であることから容易に実行できる特色とも言える幾つかの点が見られたので、共通性(特色)として別枠を設けてまとめた。ここで、単科大学として取り上げた大学は、必ずしも単一学部で構成されている大学だけでなく、類似の分野、系列の複数学部から構成されている大学も含めている。なお、教育系大学は、構成学部は単一学部であるが、学科構成が人文、社会、自然の各分野にわたっているので、この項では除外した。

(1) 一般教育の現状

技術系や芸術系の単科大学では、専門あるいは専門基礎科目を1年次から始めるところが多く、逆に、一般教育が1年次から3、4年次あるいは6年次(医学系)にわたって行われている、いわゆる「2系列型」(東京工業、豊橋技科、香川医科)か「くさび型」(図書館情報、東京水産、長岡技科、山梨医科、富山医薬、浜松医科、大阪外国語、京都工繊、神戸商船、九州工業、九州芸工、佐賀医科、宮崎医科)カリキュラムが多い。豊橋技科では大学院生にも一般教育が行われ、課程修了単位数の三分之一は一般教育科目(総合科目を含む)、外国語、体育科学の単位で取得すると定めている。佐賀医科では6年一貫教育に基づく総合カリキュラム制を採用している。

外国語教育については、専門教育までの一貫教育の実施(旭川医科—自由科目、東京商船、東京水産、長岡技科、浜松医科、名古屋工業、豊橋技科)、専門教育・大学院教育までの一貫教育の実施(東京工業)、及び25~30名クラスの小人数教育の実施(旭川医科、東京医歯、東京農工、長岡技科、浜松医科—英・独セミナー、京都工繊—繊維、九州芸工)など、外国語教育を重視する方法が取り入れられている。

総合科目、セミナー形式の講義についても工夫されている。すなわち、1年次全員、3年次ゼミの特別講義やマン・ツー・マン方式の特別講義(東京工業)、高年次の高専からの編入生のための総合科目(長岡技科)、セミナー〔生物特別講義〕の単位化(東京農工)、基礎教育セミナーや小クラス(学生10人に教官1人)(山梨医科)、全分野教官、学外講師あるいは各界一流の専門家による総合講義(旭川医科、山梨医科、豊橋技科、大阪外国語、宮崎医科)、社会学習を取り入れた医薬学概論(富山医薬)、高年次の医学教養科目(浜松医科、大分医科)、芸術関係科目(東京芸術—基礎科目、東京農工—総合科目、九州芸工—基礎科目)などである。また、数学の4年間一貫教育(東京工業、東京農工—工、東京水産)も行われている。

(2) 一般教育の改善の方向

一般教育の改善は大幅な改革より、既設授業科目の内容、形態、方法の改善による方向が多い。また、項目「ト．教養課程教育と専門教育とを融合させる方向で改善を試みる」への回答には、専門教育担当教官と教養課程担当教官との対話による（山梨医科、富山医薬）、教養課程自然系科目と基礎専門科目との共通科目の協力関係（京都工繊）や自然系科目と専門科目との一貫性による（九州工業一工）、及び教養課程担当教官が専門科目を担当し専門教育担当教官が教養課程教育科目を担当する相互兼担による（室蘭工業、浜松医科、九州工業一情報工）など、一般教育担当教官と専門教育担当教官との協力関係の確立による実質的な一貫教育の実施を目指す方向がある。この方向は、組織上、比較的容易に実施できる方向の一つであり、いくつかの単科大学では既に着手されている。ほかに、一般教育と専門教育の内容を包括的に取り込んだ講義による考えもある（豊橋技科）。

第2章 資 料 編

——アンケート回答——

大学毎に、以下の項目に沿って、記載（大学からアンケート回答のあった項目のみを収録）。

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

（表中の教官定員教欄の括弧内の数字は一般教育等相当の専任教官数である）

(2) 教養課程教育の開設授業科目

II. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

II-1. 調査報告書

II-2. 案作成までの経緯と学内手続き等

イ. 案作成までの経緯と学内手続き

ロ. 案作成に当たって、特に注意を要した事柄

II-3. 既に実施している改善の試み

III. 教養課程教育の個々の改善についての試み

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特色

イ. 一般教育科目について

ロ. 外国語科目について

ハ. 保健体育科目について

ニ. 総合コースについて

ホ. セミナーについて

ヘ. 基礎専門、基礎教育科目について

ト. その他（論述作文など）について

IV-2. 改善の方向

イ. 一般教育科目について、従来の人文、社会、自然の3分野にわたる履修方法を一層充実発展させる。

ロ. 総合科目を中心にした、一般教育の充実を図る。

ハ. セミナーを中心にした、一般教育の充実を図る。

ニ. 外国語科目を中心にした、教養課程教育の改善を試みる。

ホ. 保健体育科目について新しい方向を試みる。

ヘ. 例えばコア科目など、従来の実施方法に囚われない方法の開発を試みる。

ト. 教養課程教育と専門教育とを融合させる方向で改善を試みる。

V. 自由意見

1. 北海道大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
文 学 部	118 (21)	190		
教 育 学 部	40 (11)	50		
法 学 部	80 (4)	231		
経 済 学 部	54 (6)	185	2	
理 学 部	261 (68)	290		
医 学 部	158	120		附属病院教官定員 109名 (外数)
歯 学 部	99	80		附属病院教官定員 51名 (外数)
薬 学 部	51	80		
工 学 部	463 (6)	691(10)*	2	* () 書は高専卒業生受け入れの3 年次学生定員で外数
農 学 部	190	238		
獣 医 学 部	49	40		
水 産 学 部	117	227		
言 語 文 化 部	57 (57)		12	
計	1,737 (173)	2,422(10)	16	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 論理学, 心理学, 心理学実験, 日本史, 東洋史, 西洋史, 日本文学, 中国文学, 西洋文学, 日本文学講読, 西洋文学講読, 漢文講読, 国語, 西洋古典語, 人文科学演習, 人文科学特別講義Ⅰ, 人文科学特別講義Ⅱ
	社会分野	法学, 政治学, 日本国憲法, 経済学, 社会思想史, 社会学, 地理学, 人類学, 統計学Ⅰ, 社会科学演習, 社会科学特別講義Ⅰ, 社会科学特別講義Ⅱ, 社会科学特別講義Ⅲ
	自然分野	一般物理学, 物理学Ⅰ a, 物理学Ⅱ b, 物理学Ⅰ b, 物理学Ⅱ b, 物理学Ⅲ(実験を含む), 一般化学, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 化学Ⅱ a, 化学Ⅲ(実験を含む), 化学演習, 一般生物学, 生物学Ⅰ, 生物学Ⅱ, 生物学Ⅲ(実験を含む), 一般地学, 地学Ⅰ, 地学Ⅱ, 地学Ⅲ(実験を含む), 一般数学, 数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学Ⅲ, 統計学Ⅱ, 図学Ⅰ, 図学Ⅱ, 図学演習, 自然科学演習, 自然科学特別講義Ⅰ, 自然科学特別講義Ⅱ, 自然科学特別講義Ⅲ

	共通科目	自然科学概論，科学方法論，情報科学，情報処理
	総合科目	総合講義Ⅰ，総合講義Ⅱ，総合講義Ⅲ，総合講義Ⅳ
	一般教育演習	儒教文化圏の企業者精神，ほか51科目
外国語科目		英語(R)，英語(E1)，英語(E2)，英語演習Ⅰ，英語演習Ⅱ，独語，独語演習Ⅰ，独語演習Ⅱ，仏語，仏語演習Ⅰ，仏語演習Ⅱ，露語，露語演習Ⅰ，露語演習Ⅱ，中国語，中国語演習Ⅰ，中国語演習Ⅱ，外国語特別講義
保健体育科目		保健体育理論，体育実技
基礎 教育 科目	医学部	物理学特論，化学特論，生物学特論，自然科学特論Ⅰa，自然科学特論Ⅱa
	歯学部	物理学特論，化学特論，生物学特論，自然科学特論Ⅰb，自然科学特論Ⅱb
日本語・日本事情		日本語Ⅰ，日本語Ⅱ，日本事情

Ⅱ．教養課程教育の改善に関する調査報告書

Ⅱ－１．調査報告書

- ① 「北海道大学教養課程の改革について」（昭和51年6月16日）〔『協議会資料集』第4号，昭和56年12月〕
- ② 「本学教養課程教育の問題点——検討の事実経過と中間総括（第1次中間総括）」〔『協議会資料集』第15号，昭和58年3月〕
- ③ 「本学教養課程教育の問題点——処理事項と今後の問題点（第2次中間総括）」〔『協議会資料集』第23号，昭和59年5月〕
- ④ 「教養部教育課程の改正について」前教務委員長 近藤潤一〔『協議会資料集』第23号，昭和59年5月〕
- ⑤ 「教養部教育課程の改訂を終えて」教養部長 藪 重雄〔『協議会資料集』第26号，昭和59年7月〕
- ⑥ 「本学教養課程教育の問題点——昭和60年以降における検討問題（第3次中間総括）」〔『協議会資料集』第30号，昭和60年5月〕
- ⑦ 「教養課程36年の成果と課題」法学部 藪 重雄（昭和60年8月，臨時教育審議会北海道地区公聴会での意見発表）〔『協議会資料集』第33号，昭和61年3月〕
- ⑧ 「本学教養課程教育の問題点——新教育課程実施以後の処理事項と今後の検討課題（第4次中間総括）」〔『協議会資料集』第46号，平成元年7月〕
- ⑨ 「教養部の将来計画に関する検討報告——基本構想について」〔『協議会資料集』第47号，平成元年12月〕

〔上記資料についてのコメント〕

もっとも新しい資料は，⑨の「教養部の将来計画に関する検討報告——基本構想について」で

ある。しかし、この資料は教養課程教育の現状を概観するには便利であるが、この報告を作成したのは、「教養部の施設設備等の改善を実現するために設置された」教養部将来計画委員会である。この委員会の検討作業は教養部の教育課程の改革と連動する性格のものであるけれども、教養課程教育の検討自体にその主な作業があるわけではない。したがって、①から⑧の報告を中心に理解されるように希望する。

Ⅱ-2. 調査報告書作成までの経緯と学内手続き等

多年にわたって北海道大学は、「全学支援方式」によって、教養課程教育の改善については単に教養部のみならず全学的に「教養改革」の努力を積み重ねてきた。この方式は、大学教育の中心は、専門教育と一般教育等との有機的な結合にあるとして、一般教育等を担当する教養部を各学部・研究所に従属する副次的な役割に限定しようとする全国的な傾向とは別に、一般教育の重視という大学全体の合意による、北海道大学の独自の姿勢を実質化する努力の上に積み重ねられてきたものである。

昭和40年に「北海道大学教養部審議会」という機関が設置され、教養部について「全学的な協議を必要とする重要事項を審議するため」、学長を議長とし、各学部長・教養部長・附置研究所長の中から1名、学生部長のほか一般教育等担当教官3名で構成された（現在では言語文化部長も含む）。この審議会の下に、昭和49年には「北海道大学一般教育特別委員会」が、昭和52年には「教養課程カリキュラム検討委員会」が設置されて、教養部教育の全面的な検討が行われた。その成果は、昭和56年から学科目の大講座化、言語文化部の設置とともに、教養部教育のカリキュラムについても「暫定カリキュラム」を施行して、総合科目、人文科学、社会科学演習の設置をはじめとする改善に着手した。この時期までの教養課程の改革の理念と基本構想については、資料①の昭和51年6月の北海道大学一般教育特別委員会の評議会における報告、「北海道大学教養課程の改革について～一般教育の検討と新機軸の設置～」(『協議会資料』第4号、昭和56年12月に抄録)に詳しい。

さらに昭和55年には、教養部教官による教育課程の改善とともに、とりわけ全学部の代表教官を含めた「教養課程教育協議会」が設置され、全学的に問題を審議し、改善策を実行に移してきた。その審議・検討の内容については、昭和56年6月以来『協議会資料集』として現在まで47号が発行されている。上記の資料の①から⑧は、その中から特に重要な報告をピックアップしたものである。

Ⅱ-3. 既に実施している改善の試み

〔カリキュラムの上での重点項目〕

- ① 総合科目の実施（複数の、異なった専門領域の教官による、特定のテーマをめぐっての多角的な検討と総合）
- ② 「人文科学演習」、「社会科学演習」の開講に続いて、「一般教育演習」の実施。少人数教育の利点ときめの細かい学問的な指導を生かす演習を、全学的な支援の下で実施して、かなり

の効果を挙げている。

③ 基礎教育科目の拡充

学部および研究所所属教官の積極的参加による「人文科学特別講義」、「社会科学特別講義」、「自然科学特論」その他が開講されている。

④ 科目指定制の効果

一般教育と専門教育の有機的なつながりを保ち、専門教育の水準を高めるために、理系のⅠ、Ⅱ系、水産系、医学・歯学進学課程に一般教育の中に「要履修科目」制を適用している。

⑤ 一般教育演習の開設

昭和60年度の新教養課程の実施とともに開始された、新入生対象の「フレッシュマン・セミナー」で当初17の開講コマ数は、その後、各学部、一般教育等担当教官の理解・協力の下に、昭和61年度は27コマ、昭和62年度、昭和63年度は42コマ、そして平成元年度は48コマと増加しているが、今後一層の充実が期待されている。演習室として使用できる教室は10教室以下であるにもかかわらず、全学的な支援の下でこの一般教育演習は、開設以来5年で予想を上回る成果を挙げている。

⑥ 外国語教育の充実

イ. 既習外国語（英語）を必修科目（R）と選択科目（E）に分けて、英語の力のブラッシュ・アップを図るとともに、英語演習を多数開講して、密度の濃い学習機会を用意することにした。

ロ. 選択必修である初習外国語（独、仏、露、中国語）と演習形式の外国語演習クラスを設けている。さらに、複数の外国語を履修したい学生のために古典語（ギリシア、ラテン）および外国語特別講義として、独語、仏語、露語、中国語、朝鮮語、スペイン語の6カ国語が開設されて、学生の多様なニーズに対応している。

ハ. 昭和56年度に言語文化部が発足したのにもとない、LL教室の増設と外国人教師の増員が実現して、実効的な外国語の能力や会話力の向上への努力が進められている。

〔改善の試みを実施する上での問題点〕

① 担当教官の不足

少人数教育を実施する場合に、履修学生に対する担当教官の数が絶対的に不足している。人文・社会科学の講義は200人を上回り開講されているケースが多いし、演習（15名が適当）は履修希望者を制限するか、講義形式に変更して実施している場合があり、約半数の学生は参加を希望しつつも、演習を履修できない状況におかれている。外国語教育は、30名程度のクラス編成でなければ、実効をあげることができないことを痛感しているにもかかわらず、60名に近い学生を対象に授業が行われている状態である。

② 学生の履修科目選択動機の問題

北海道大学の専門課程への移行は、医学・歯学進学課程を除き、教養部の成績が志望学科

への移行の優先順位を決定する。そのため、教養部での学習意欲は、入学時にすでに志望学科が決定されている大学に比べると、はるかに熱心で勤勉であろうが、もっとも有効に「良い成績」を確実に取るために、かならずしも学問的な関心によらない、したがって安易とも思われる科目選択になりやすい。厳しい訓練を課す学科目や外国語の演習を敬遠する傾向を改善することができないでいる。学部・学科からの「指定科目」、「要望科目」によって、一定度の歯止めをかけてはいるが、「労少なくして功多い」科目と見做される科目に殺到する傾向は依然として後を絶たない。

③ 医学・歯学進学課程学生の一般教育等の軽視

医学・歯学進学課程の学生は、すでに志望学科が決定しているので、全国的に共通な、一般教育等の講義を軽視して、ただ単に所定の単位数を充たせば足りるとする傾向が著しい。このような状態の改善のための努力は続けられているが、その効果は薄いといわざるをえない。平成元年度からは、歯学部が要望により歯学進学課程1年目の学生に対して特別講義を開設して、歯学部における研究・教育の実態を学部教官が講義して、学生に目的意識を持たせるとともに、基礎教育と一般教育等の重要性について指導をはじめているが、その効果はまだ把握しきれていない。

④ 教育施設・設備の貧困

演習を有効に行うためには、参加者がテーブルを囲んで討議できる小教室が多数必要であるが、そのような演習室が著しく不足しているため、大半の演習は通常の広い教室を使用せざるをえない。

また、視聴覚機器・設備も不十分であって、効果的な授業を進める上で支障を来している。(資料⑨参照)

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特色

イ. 一般教育科目について

人文・社会科学系の一般教育科目は、ほとんど2単位科目にして、できるだけかたよらないで広い領域の知識を学ぶことができるように配慮するとともに、いわゆる概論的な講義でなく、テーマをしぼって掘り下げながら、その学問の展望が開けるように工夫している。

ロ. 外国語科目について

初習外国語は、文系ではドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、理系ではドイツ語、フランス語、ロシア語であるが、その他に古典語(ギリシア語、ラテン語)、スペイン語、朝鮮語が履修できるように配慮しているが、まだ不十分である。

ハ. 保健体育科目について

保健体育理論については、「健康」に関する科学的な認識の形成を目指して、基礎的・体系的な内容の展開に加えてアップ・ツー・デイトな問題を取り上げ、できるだけ新鮮な資料に

よって視聴覚教材（ビデオ，16ミリフィルム，スライド）を利用している。学生生活をチェックして健康問題の認識を高めるために調査（健康度，食生活，体温等）を実施している。

体育実技については，北大の学生の体力が同年齢の全国平均値に比べて著しく劣っている実情の改善を目指し，さらに北海道の風土・気候を積極的に生かし，冬季にノルディック・トレーニングを開講するとともに，「北大，ジョギング・歩くスキーガイド」のパンフレットを作成，配付して，体力の向上につとめて，一定の効果があつた。ただし，雨天時の施設や温水プール，シャワー室等の設備が不足しているので，これらの教育条件の改善が緊急の課題である。

ニ．総合コースについて

各学部・研究所所属の教官の協力をえて，例えば，「癌についての総合講義」のように，医学部，同学部付属癌研究施設，理学部，文学部等の各教官が多角的な講義を実施している。学際的な領域についての総合講義が多数開設されている。

ホ．セミナーについて

人文科学・社会科学演習，外国語演習のほかに，各学部・研究所教官の参加による一般教育演習（フレッシュマン・セミナー）を重要視しているがまだ開講数が不足して，学生の希望に応えきれていない。

ヘ．基礎専門，基礎教育科目について

医学部・歯学部の要望によって，医学・歯学進学課程には「基礎教育科目」を置いているほか，各学部・学科の「指定科目」を設けて，基礎教育の充実を図っている。

ト．その他について

各学部との連絡や協議を密にして，基礎教育と一般教育等とのつながりを深めるとともに，専門教育と結合する接点を求める努力を続けたい。とくに医歯進学課程学生の一般教育等の問題については，医学部と歯学部の教官と協力して，充実を図ることを目指している。

IV－2．改善の方向

すでにⅡの2，と3，で示した改善目標の充実であるが，少人数教育を重視して，セミナーと外国語科目を充実させ，人文，社会，自然の3分野にわたる履修方法を一層発展させながら，教養課程教育と専門教育とを融合させる方向を探っていきたい。既に述べた「全学支援方式」をより実質化することによって，困難ではあるが一般教育の改善の努力を継続することを目指している。

V．自由意見

平成元年に大学審議会は「大学教育部会における審議の概要について」の報告を発表し，そのなかで一般教育等についても触れている。この報告には，傾聴すべき現状の把握と問題点の指摘があるが，かならずしも正確な現状の認識と解決の方向を提示しているとは思われない点も散見されるので，上述の回答と重複するところもあるが，以下，一般教育等についての北大の現状と

改善の方向について触れておきたい。

1. 現 状

北大における一般教育の実情は、次の二点において、他の大学と異なった状況にある。

① 全学支援方式

一般教育等担当教官の多くは、学部にも所属して、教養部の教育の責任を担うとともに、(言語文化部所属の教官を除いて)各学部および大学院の議義その他を分担している。他方、各学部の講座所属の教官のなかにも、教養部の講義を担当している者がかなりいる。このことは、専門教育との関連で一般教育を把握し、一般教育の意義を検討することを絶えず自分に課すことになり、専門教育から分離して一般教育の「形骸化」に陥る危険をかなりの程度に防止している。

② 移行学科決定における教養部成績の重視

医学部と歯学部に進学する学生を除き、文系と理系の学生は、志望する学科へ移行するに当たって、教養部の成績が重視されている。そのために、一般教育の学科や語学等に真剣に取り組まざるをえない。

しかし、「大学教育部会における審議の概要について」(以下「概要」と略記)が指摘しているように、「大学の教育が専門的な知識の修得だけにとどまることのないように、学生に学問を通じて広い知識を身に付けさせるとともに、ものを見る目や、自主的、総合的に考える力を養うことにある」とする「理念・目標」(1～2頁)と授業の実際との間の乖離という、全国の大学の共通の問題があることも否定できない。「概要」は、「一般教育等が十分なカリキュラム上の位置付け」がないまま、「多人数による講義」が多く行われ、その授業内容が「高等学校教育の繰り返しにすぎないものもある」ことを指摘している(2頁)。後者の味気ない高校教育の繰り返しのままに墮しているという指摘には納得しがたいし、高校教育において、例えば、物理学を選択しないまま、理系あるいは水産系に進学した学生や、生物を高校で選択しなかった医進課程の学生に対し、部分的には高校教育と重なる面はあっても、基本的な知識と方法の徹底は有意義である。また、前者の大教室でのマイクを使つての、いわゆるマスプロ教育が現実に行われていることは事実であるにしても、教官数の増加についての配慮なしに、多人数教育を批判することは実際的ではないと言わざるを得ない。

さらに、北大の学部移行に際しての教養部の成績の重視は、他面において、学生をして少ない労力で良い成績を取りうる学科目を選んで履修するという弊害を生んでいる。すなわち、「実験」のような、かなりの時間的努力と習練を要する学科を敬遠し、厳格な指導の下で予習と復習を義務づける科目を避けて、必ずしも学問的な関心を寄せていないが、容易に単位を取ることができそうな科目に集中するケースも見られる。(いわゆる「鬼仏表」によって履修科目を選択するという、誤った「自主性」)また、医歯進学生のなかには、最低必要単位を教養部で充足すれば足りるという安易な態度も目立ち、全国的に共通な「一般教育等の形骸化」に近い現象が生まれて

いることも事実である。

一方、入学以前の問題として、高等学校その他で大学受験のために履修する科目の偏りのために、教養部の一般教育等の教育に支障が起きていることも指摘せざるをえない。履修学生の既修学習範囲について一定度の水準が前提できないという困難である。文系では歴史に関する必要学習前提の欠如、理系においては数学、物理、化学、生物の基礎的な理解に関してかなりの偏差があり、教育水準の維持に多くの教官は苦慮している。（高校教育の一定の水準を前提できない場合には、既に修得している学生にとっては、基礎的な知識の確認は退屈であろうし、修得していない学生にとっては、その確認を怠っては授業についていけないことになる。）

2. 改善の努力

多年にわたって、北大では全学的に「教養改革」の努力を積み重ねてきた。教養部教官による教育課程の改善とともに、とりわけ全学部代表教官を含めた「教養課程教育協議会」は昭和55年以来、継続して問題を審議し、改善策を実行に移してきた。「概要」が指摘する「柔軟かつ多様な教育課程、教育組織の設計」（1頁）については、

- ① 総合科目の実施（複数の、異なった専門領域の教官による、特定のテーマをめぐっての多角的な検討と総合）
- ② 「人文科学演習」、「社会科学演習」の開講に続いて、「一般教育演習」の実施。少人数教育の利点ときめの細かい学問的な指導を生かす演習を、全学的な支援の下で実施して、かなりの効果を挙げている。
- ③ 基礎教育科目の拡充

学部所属教官の積極的参加による「人文科学特別講義」、「社会科学特別講義」及び「自然科学特論」その他が開講されている。

④ 科目指定制の効果

一般教育と専門教育の有機的なつながりを保ち、専門教育の水準を上げるために、理系のⅠ、Ⅱ系、水産系、医学・歯学進学課程に一般教育のなかに「要履修科目」制を適用している。

3. 教養改革の具体案と問題点

以下の三点を挙げる。

① 「大学設置基準」の「大綱化」について

「概要」は、「大学設置基準」の「見直し」とその「大綱化」を提案している。たしかに、現行の「大学設置基準」の規定の中には、再検討すべき点が多々ある。例えば、単位とその時間数に関して、「実験」の授業時間に対して与える単位数は少ないし（第26条の3）、外国語科目については、「一の外国語の科目8単位」（第32条の2）という規定や、医学・歯学の場合に英語の外にはドイツ語とフランス語にのみ限定しているのは検討の余地がある。しかし、一般教育科目について「人文、社会及び自然の三分野にわたり36単位」の規定は、現代

の複雑な国際社会のなかでしっかりとした識見をもって生きるためには不可欠な教養であり、これを廃止または緩めることは一般教育の理念と目標の根本をゆるがすことになる。「大綱化」によって、それぞれの大学の自主性にゆだねられるにしても、この枠が外された場合には、憂慮すべき事態がますます広がることが懸念される。この点について「概要」は、「基準の大綱化は、一般教育や外国語教育、保健体育教育の軽視につながるものではなく、むしろ、従来から種々批判があるこれらの教育内容、実施方法の改善への努力の契機になる」と述べているが（４頁）、説得的ではない。

② 教育施設と教員組織の改善

一般教育等の教養課程教育を充実するためには、教育施設と教員組織の大幅な改善が必要である。現在の劣悪な設備と人員、例えば「演習」を実施する教室の著しい不足や60名近い多数の学生を対象にせざるをえない語学、数学等の授業形態、二、三百人の学生にマイクによるマス・プロ講義等の実情は、依然として解消していない。

③ 北大教養部における当面の課題

すでに述べたように、学部移行の際に教養課程の成績が重視されるために、効率よく良い成績を充足しようとする学生が多く、一般教育の理念に則っているとはいいがたい履修状況をどのように改善するかという課題がある。例えば、確実に好成績を予想できるとして、「演習」に多くの学生が殺到し、そのため抽選や選考によって履修学生を制限しているケースが多い。他方、ハードな学習を課すために、忌避される講義科目もいくつか存在する。「実験」を選択したがる傾向についてはすでに触れた。他方、履修する学科目についての深い理解を求めず、単に「低空飛行」でともかく必要最低単位を充たせばよいという、少なからぬ医・歯進学生の問題もある。このような事態を改めることを「活性化」と名付けているが、この一般教育等の活性化のための方途を現在模索中である。特定学科目の成績の傾斜配点や「一般教育演習」の開講数の増加等の案が検討されているが、未だに成案を見ていない。他方、きめの細かい教育の実施には、教官の負担の増加という問題も付きまとう。専門教育の責任の一端をになう多くの数官にとって、この問題はかなり深刻である。「概要」は、大学評価システムの確立を提案している（７頁）。たしかにその必要を痛感するが、「教育活動についての定期的な自己評価に関する努力規定を定める」ことが、具体的にどのような「有効、適切な評価システムを形成すること」（同頁の②）かは明らかではない。また、「自己評価の項目及び実施方法」について、「基準によって画一的に定めるのではなく、大学団体等が何らかのスタンダードを提供し、これを参考として、大学自身が自主的に設定し、実施することが望ましい」（同頁の③）という表現や、「評価結果の公開も課題となる」（同頁の④）という提案についても様々な懸念があることも付言したい。大学の自主的な努力に対する外からの早急な規制にならないかどうか危惧されるからである。

2. 北海道教育大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
教 育 学 部				教養課程担当教官と専門課程担当教官を区別していない。
札 幌 分 校	94	300	0	
函 館 分 校	96	305	0	
旭 川 分 校	96	315	0	
釧 路 分 校	74	225	0	
岩 見 沢 分 校	62	185	0	
計	422	1,330	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

(札幌分校)

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 倫理学, 心理学, 文学, 音楽, 美術, 現代新聞論, (総)外国文学
	社会分野	法学, 日本国憲法, 経済学, 政治学, 社会学, 地理学, 史学, 家政学概論(3), 家政学概論(4)
	自然分野	数学, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ, 化学, 生物学, 地学, 統計学, 情報科学入門(総)生活と技術
	総合科目	人間の科学, 婦人論, 子供の発達と病理
外 国 語 科 目	英語, 独語初級, 独語中級, 仏語初級, 仏語中級, 露語初級, 露語中級, 中国語初級, 中国語中級	
保 健 体 育 科 目	体育実技, 体育理論	

(函館分校)

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 倫理学, 文学, 言語学, 美術, 心理学
	社会分野	法学, 日本国憲法, 歴史学, 地理学, 社会学Ⅰ, 情報科学Ⅰ, 情報科学Ⅱ, 経済学, 家政学, 教育学
	自然分野	数学, 統計学, 物理学, 化学, 生物学, 地学
外 国 語 科 目	英文学講読, 独語初級, 独語中級, 仏語初級, 仏語中級	
保 健 体 育 科 目	体育理論, 体育実技	

(旭川分校)

一般教育科目	人文分野	哲学, 文学, 史学, 心理学, 美術, 英米文学, 哲学・倫理, 国語学, 文化心理学
	社会分野	日本国憲法, 政治学, 地理学, 社会学Ⅰ, 社会学Ⅱ, 経済学Ⅰ, 経済学Ⅱ 法律学, 人文地理学, 社会学・経済学
	自然分野	数学, 物理学, 化学, 基礎化学, 生物学, 地学, (総)自然AⅠ, (総)自然AⅡ, (総)自然BⅠ, (総)自然BⅡ
外国語科目		英語, 独語
保健体育科目		保健体育Ⅰ(実技・講義), 保健体育Ⅱ(実技・講義)

(釧路分校)

一般教育科目	人文分野	哲学, 倫理学, 文学(日), 文学(外), 言語学, 心理学, 音楽
	社会分野	日本国憲法, 法学, 経済学, 史学(日), 史学(外), 地理学, 政治学Ⅰ, 政治学Ⅱ, 社会学Ⅰ, 社会学Ⅱ, 少数民族と教育Ⅰ, 少数民族と教育Ⅱ
	自然分野	数学, 物理学, 化学, 生物学, 地学, 産業(農学), 産業(工学)
外国語科目		英語Ⅰ, 英語Ⅱ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ
保健体育科目		体育実技Ⅰ, 同Ⅱ, 体育理論

(岩見沢分校)

一般教育科目	人文分野	哲学Ⅰ, 哲学Ⅱ, 倫理学, 文学, 文学言語論, 音楽, 美術, 心理学, (総)北海道論Ⅰ, (総)ことばと記号
	社会分野	社会科学概論, 史学, 法学, 経済学, 地理学, 日本国憲法, 社会学, 政治学Ⅰ, 政治学Ⅱ, 教育学Ⅰ, 教育学Ⅱ, (総)北海道論Ⅱ, (総)思想と風土
	自然分野	自然科学総論, 科学技術総論, 情報科学Ⅰ, 数学, 物理学, 化学, 生物学, 地学, (総)北海道論Ⅲ, (総)環境論
外国語科目		英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ
保健体育科目		体育理論, 体育実技

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特色

イ. 一般教育科目について

(札幌分校)

複数の専門分野にわたることがらを総合的に理解させるため, また, 学生の多様な関心に応えるため総合科目を開設している。

これにより、単一科目の開設を減じていないため、学生にとってよりメニューが増え、さらに多面的な教養が得られる結果となっている。また、1講義当たりの受講生の分散により、いわゆるマスプロ化を防いでいる等の利点が現れている。

なお、現在、社会的に関心が高まっている次のような科目を開設している。

現代新聞論、婦人論「総合」、アイヌ民族「総合」、子供の心の発達と病理「総合」

情報科学入門

(釧路分校)

総合科目を開設している。

ロ. 外国語科目について

(札幌分校)

平成元年度から、第2外国語に露語、中国語を従来の独語、仏語とともに開設している。今後ますます国際交流が盛んになる状況から、本分校のおかれている地域性を考慮し開設したものである。

IV-2. 改善の方向

(札幌分校)

今後は、現在の状況すなわち小人数教育と多様性を維持していくとともに、更に充実を図りたい。

なお、本分校に教養部等の教養課程に係る組織がないため、目標となるプランを設定しづらい面があること。また、個々の具体的な改善方策は担当学科又は担当教官に委ねられている。

(釧路分校)

教養課程教育と専門教育とを融合させる方向で改善を試みることを中心に検討する予定。

V. 自由意見

(釧路分校)

近いうちに大学審議会の答申が出されるものと予想され、注目している。

大学における検討の進め方についても、答申待ちの雰囲気がある。

3. 室蘭工業大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
工 学 部	204(38)	650	4	
計	204(38)	650	4	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学Ⅰ, 哲学Ⅱ, 倫理学A, 倫理学B, 文学A, 文学B, 心理学Ⅰ, 心理学Ⅱ
	社会分野	社会学Ⅰ, 社会学Ⅱ, 法学A, 法学B, 政治学Ⅰ, 政治学Ⅱ, 経済学Ⅰ, 経済学Ⅱ
	自然分野	地学A, 地学B, 生物学A, 生物学B, 化学A, 化学B, 化学C, 化学D
	総 合	総合講義A, 総合講義B, 総合講義C, 総合講義D
外 国 語 科 目		英語A, 英語B, 英語講読, 英文作法, 英会話, 英語特別演習, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語Ⅲ
保 健 体 育 科 目		体育理論及び保健理論, 体育実技
専 門 教 育 科 目 (共通科目)		線形代数Ⅰ, 線形代数Ⅱ, 解析, 工業数学, 工業数学Ⅰ, 工業数学Ⅱ, 確率・統計, 物理学A, 物理学B, 物理学C, 物理学D, 物理学実験, 化学実験, 図学Ⅰ, 図学Ⅱ

II. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

II-1. 調査報告書

- ① 『一般教育課程専門委員会答申書』(昭和63年2月22日)
- ② 『室蘭工業大学工学部改組再編及び大学院工学研究科博士課程設置計画・第2次答申(抄)』(昭和63年5月19日)

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

本学が単科大学であるということから, 担当教員陣容に限りがあり, 少ない教科科目の開設(11教科24科目各2単位)となっている。

ロ. 外国語科目について

第2外国語としては, ドイツ語3科目のみの開設であるが, 英語では, 講読, 文法, 会

話、演習等実用的な「使える英語」も教育する多様なメニューにしている。

ハ．保健体育科目について

- ① 「体育及び保健理論」（２単位）について、専任の教員に加えて、「健康教育」という視点から保健管理センター所属教員も携わっている。
- ② 「体育実技」（２単位）では、積雪の多い北国の地域特性を生かしたスキー実技を取り入れている。

ニ．総合コースについて

４科目各２単位を開設しているが、その殆どを専門教育担当教員が担当している。

ホ．セミナーについて

担当教員陣容の関係で未開設

ヘ．基礎専門、基礎教育科目について

１５科目２８単位全てについて、一般教育担当教員が担当している。

Ⅳ－２．改善の方向

１．開設科目の充実及び新科目の開設

- ① 人文、社会、自然各分野
- ② 総合科目
- ③ 第２外国語

２．教育方法の改善等

- ① 放送大学の利活用
 - ② チューター制度の導入
 - ③ 一般教育・専門教育の相互兼担
 - ④ 一般教育担当教員の研究環境の改善
- 等、前記答申の趣旨に沿って改善策を検討していくこととしている。

4. 小樽商科大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
商 学 部	104(32)	425	0	定員数欄には、学長及び保健管理センター 1 名は含めていない。
計	104(32)	425	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学，倫理学，心理学，歴史学，日本文学，外国文学（英文学），外国文学（ロシア文学）
	社会分野	社会科学特別講義Ⅰ，社会科学特別講義Ⅱ，社会学，社会思想史，教育学，政治学
	自然分野	物理学，自然科学概論，化学，生物学
外国語科目	英語Ⅰ，英語Ⅱ（講読），英語Ⅱ（会話・作文），英語Ⅲ（講読），ドイツ語Ⅰ，ドイツ語Ⅱ，フランス語Ⅰ，フランス語Ⅱ，中国語Ⅰ，中国語Ⅱ，スペイン語Ⅰ，スペイン語Ⅱ，ロシア語Ⅰ，ロシア語Ⅱ	
保健体育科目	体育講義，体育実技	
基礎教育科目	経済学概論，商学概論，法学概論，管理科学概論，数学	

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

検討中。

5. 帯広畜産大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
畜 産 学 部	145(23)	266	0	教官定員は学長を含む。 ()内数 教職学科目は含まない。
計	145(23)	266	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	文学, 哲学, 倫理学, 心理学
	社会分野	法学, 経済学, 社会学, 政治学
	総合科目	総合科目
	自然分野	数学, 統計学, 物理学・同実験, 化学・同実験, 生物学・同実験
外 国 語 科 目		英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英会話, 独語初級文法, 独語初級講読, 独語中級, 独語上級
保 健 体 育 科 目		講義, 実技
専門課程 学 科 共 通 科 目		線形代数, 微分方程式, 実験計画法, 基礎物理学, 応用物理学, 物理学実験, 有機化学, 物理化学, 化学実験, 生態学, 細胞遺伝学, 生物学実験, 地学, 地学実験, 私法

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

特にどの科目についてもありません。

IV-2. 改善の方向

改善の試みは、現在のところありません。大学審議会大学教育部会の審議の結果を参考にして改善に取り組みたい。

6. 旭川医科大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
医 学 部	156(12)	100	0	教官定員数には、学長1名、副学長2名を除く。 附属病院教官定員93名（外数）
計	156(12)	100	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文社会 分野	哲学Ⅰ，哲学Ⅱ，歴史Ⅰ，歴史Ⅱ，文学，心理学，論理学，言語，外国文学講読，古典講読，法学，政治学，経済学，社会学Ⅰ，社会学Ⅱ，比較文明論，総合講義
	自然分野	数学，物理学Ⅰ，物理学Ⅱ，化学Ⅰ，化学Ⅱ，生物学Ⅰ，生物学Ⅱ
外国語科目	英語Ⅰ，英語Ⅱ，ドイツ語Ⅰ，ドイツ語Ⅱ	
保健体育科目	講義，実技	
基礎教育科目	統計情報処理，実験心理学，医療社会学，生態学，医学概論Ⅰ，応用数学	

Ⅲ. 一般教育の個々の改善について

平成元年度において、平成2年度第1学年から学年進行により適用するカリキュラム全般の見直しを行い、一般教育にかかる項目について次のとおり改正した。

1. カリキュラム見直しの基本方針（一般教育関係事項について）

イ. 土曜日休講を可能にする総授業時間数の削減

一般教育の修得単位数を“計84単位以上の修得”から“計76単位以上の修得”に削減した。

ロ. 現行科目展開と試験期等の全般的見直し

一般教育及び専門教育の科目展開並びに定期試験及び追・再試験時期を改正した。

2. カリキュラム改正の概要

イ. 全般にわたる改正点

- (1) 土曜日を自習時間の日とし、さらに1週間の授業時間を18～19コマとする。（ただし、第5学年後期後半～第6学年では20コマとする）
- (2) 一般教育、基礎医学教育にあつては、水曜日、第3講目（ただし、第2学年前期を除く）及び第4講目は補講及び語学演習の時間とした。この時間は、前期、後期それぞれ

の授業時間割作成時に語学演習のほか、各学科目、講座から特別講義、特別演習、特別実習等の計画の提出を求めて組み込むなど、flexibleな時間とし、ゆとりと質を満すものとする。

(3) 学年の途中で終了する科目の定期試験及び追・再試験は、原則としてその終了学期の試験週、又は第3学年、第4学年にあっては別に設定された試験週で完了し、学年末に持ち越さないようにする。

(4) 旧カリキュラムの自由選択科目語学演習（第3学年から第5学年前期にわたって、水曜日午後に開講）を、改正カリキュラムでは第1学年から第5学年前期の開講とする。

ロ. 一般教育関係の改正点

(1) 人文系、社会系の区分を廃して人文・社会系に統合し、第1学年で14単位以上、第2学年で4単位以上、計18単位以上（現行では24単位以上）を選択、修得する。なお、一般的に区分されている人文系に属する科目、及び社会系に属する科目から、それぞれ最低4単位以上を履修、修得することの枠を設けている。

(2) これに伴い、科目の開講単位を原則として4単位から2単位とし、一部科目名の変更及び新規科目を開講する。

(3) 旧カリキュラムでの社会系「統計学」を基礎教育科目の情報処理と統合して、基礎教育科目「統計情報処理」（実習を含む、4単位、必修）とする。

(4) 履修者の少ない数科目の選択科目を並列開講（同一時間帯に数科目を開講）とし、学生の履修機会の幅を広げた。

(5) 自然系の必修単位を32単位から28単位とし、数学Ⅰ、数学Ⅱを「数学」に統合して4単位とする。これに伴い、「応用数学」（2単位、選択）を新設し、基礎教育科目として開設する。

(6) 基礎教育科目の最低修得単位数を8単位から10単位とする。

3. 一般教育関係の今後の検討課題

人文・社会系総合講義を、将来（平成6年度から）第5学年で開講する臨床実習序論の「医学概論Ⅱ」と一部同時開講し、第1学年学生（選択）及び第5学年学生（必修）に同時受講させることについて検討を行う。

4. カリキュラム改正の経緯

イ. 改正作業の委員会構成

(1) 学習者のカリキュラム評価聴取

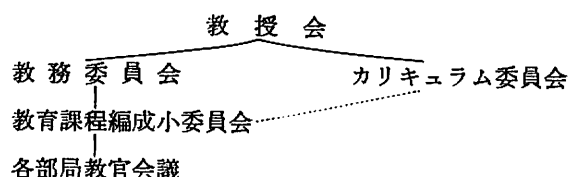
本学卒業の教官を作業部会に加えた。

(2) 作業部会

教務委員会規程第2条に定められている所掌事項により、作業部会として教育課程編成小委員会を教務委員会のもとに置いた。

委員は教務委員会構成員に限らず一般教育，基礎医学及び専門教育の3部局からそれぞれ2～3名選任した。

(3) 各委員会の関係



カリキュラム委員会は，改正の基本方針を審議立案して教授会に建議し，教授会の審議を経た基本方針に沿って教務委員会（教育課程編成小委員会）が改正作業に当たった。作業経過中必要に応じて教育課程編成小委員会は，カリキュラム委員会の助言を求める事が出来ることとした。

(4) 各委員会の構成

1) カリキュラム委員会（13名）

学長，副学長2名，副学長経験者3名，医学教育者のためのワークショップ参加者5名及び一般教育から教務委員会委員経験者2名

2) 教務委員会（常置委員会，11名）

委員長（教育等担当副学長），図書館長，一般教育担当教官3名，基礎医学担当教官3名，臨床医学担当教官3名

3) 教育課程編成小委員会（8名）

教務委員会において選出した一般教育担当教官2名，基礎医学担当教官2名，臨床医学担当教官2名及び本学卒業の教官2名

ロ．改正にあたっての審議経過

(1) カリキュラム委員会から教授会にカリキュラム見直しの基本方針について建議

(2) 教授会において，建議のあったカリキュラム見直しの基本方針について審議，了承され，教務委員会に審議付託

(3) 教務委員会において，教授会からの付託に基づき具体的作業部会として教育課程編成小委員会を設置

(4) 教育課程編成小委員会において，9回にわたりカリキュラム見直し，改正カリキュラム案について審議，その間本学卒業生との懇談会，3部局の教官会議及び教務委員会・厚生補導委員会への中間報告を経て，改正案が教務委員会に最終報告された

(5) 教務委員会において，最終報告に基づき審議，了承の後，教授会へ教務委員会改正案を提案

(6) 教授会において，教務委員会から提案のあった改正案について審議，了承

(7) 教務委員会において、学則等の規程整備

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

単科医科大学の特質を生かし、従来の医学進学課程と専門教育の区分にとらわれず、一般教育と専門教育を有機的に結ぶ教育システムをとっている。第1学年から第2学年にわたる一般教育科目の内容も、現代社会人として広い基本的教養のみならず、医人としての自覚を高める動機づけが盛り込まれ、併せて高度な自然科学的基礎学力の涵養を要求している。

本学は、平成元年度にカリキュラム改正を行った。

イ. 一般教育科目について

- (1) 人文系、社会系の区分を廃して人文・社会系に統合し、第1学年で14単位以上、第2学年で4単位以上、計18単位以上を選択、修得することとしている。なお、一般的に区分されている人文系に属する科目及び社会系に属する科目から、それぞれ最低4単位以上を履修、修得することの枠を設けている。
- (2) これに伴い、科目の開講単位を原則として4単位から2単位とする。
- (3) 数科目の選択科目を並列開講（同一時間帯に数科目を開講）とする。
- (4) 自然系の必修単位を32単位から28単位とし、数学Ⅰ、数学Ⅱを「数学」に統合して4単位とする。これに伴い、「応用数学」（2単位、選択）を新設し、基礎教育科目として開講する。

ロ. 外国語科目について

- (1) 自由科目（単位としない、選択科目）として、ヒヤリングに重点を置いた「英語演習」及び講読に重点を置いた「ドイツ語演習」を、第1学年から第5学年前期にわたり開講する。
- (2) 「英語」においては、LL又はビデオを利用した25名程度の小人数教育で行っている。

ハ. 保健体育科目について

実技で第1学年後期土曜日（冬季休業明け、1・2講目）の4回にわたり、地域の特性を生かした種目として「スキー授業」を実施している。

ニ. 総合コースについて

従来の学問分野の区分にとらわれず、広く全体的・総合的視野から問題を理解することを目的とした「総合講義」を開設している。

この講義は「人間における生と死の問題」を取りあげ、担当者は本学の人文、社会、自然の一般教育教官及び臨床医学の専門教育教官並びに非常勤講師で他大学の文学関係教官及び宗教関係者で構成されている。

ホ. セミナーについて

開設していない。

へ. 基礎専門，基礎教育科目について

- (1) 基礎教育科目として14単位開講し，うち「統計情報処理」を含め10単位以上の履修，修得を義務付けている。
- (2) 旧カリキュラムでの社会系「統計学」（選択，4単位）と基礎教育科目の「情報処理」（必修，2単位）を統合して，コンピュータ実習を含む基礎教育科目「統計情報処理」（必修，4単位）を開講する。

IV－2. 改善の方向

（イ～トについて）

本年度第1学年学生から学年進行により改正カリキュラムを適用するため，実施による効果及び評価は，今後毎年度の改正カリキュラムの実施状況の点検，問題点の検討の中で行い，3～4年を経過した学年から年次的に改善することとしている。

7. 北見工業大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備考
工 学 部	128(25)	400	4	
計	128(25)	400	4	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 心理学, 文学, 歴史学, 科学概論, 人文科学特講
	社会分野	社会学, 経済学, 法学, 政治学, 産業社会学, 社会政策概論, 社会科学特講
	自然分野	微積分, 線形代数, 物理学, 物理学実験, 化学, 化学実験, 地学, 図学
外国語科目		英語, 英語演習, 英会話, 英語講読, ドイツ語
保健体育科目		保健体育特論, 体育実技

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

特記すべき特色はありません。

IV-2. 改善の方向

まだ検討していません。

8. 弘前大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学 部 留 学 生 数	備 考
人 文 学 部	70	328		
教 育 学 部	94	370		
理 学 部	68	216		
医 学 部	150	100		附属病院教官定員 100 名 (外数)
農 学 部	51	145		附属農場教官定員 3 名 (外数)
教 養 部	56			
計	489	1,159	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 哲学史, 論理学, 心理学, 倫理学, 言語学, 国文学, 漢文学, 西洋文学, 音楽, 美術
	社会分野	法学, 日本国憲法, 政治学, 経済学, 経済学特別講義, 社会学, 日本史, 日本史特別講義, 東洋史, 西洋史, 地理学, 文化人類学
	自然分野	数学, 物理学, 化学, 生物学, 地学, 情報科学, 自然言語処理
	総合科目	アメリカ研究, アメリカ研究特別講義, イギリス研究, 情報科学, 環境科学, 地球・生命進化論
外 国 語 科 目		英語, 英会話及び作文, 独語, 独会話及び作文, 仏語, 仏会話及び作文, 中国語, 中国語及び作文, ロシア語, グリシャ語, ラテン語
保 健 体 育 科 目		保健体育講義, 保健体育実技
基 礎 教 育 科 目 (医 学 部)		統計学, 基礎物理学, 物理学実験, 基礎化学, 化学実験, 基礎生物学, 生物学実験, 医学概論
特 設 科 目		日本史特別講義, 経済学特別講義, アメリカ研究特別講義, 自然言語処理特別講義

II. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

II-1. 調査報告書

- ① 『一般教育改革案 (第 4 次)』を審議中。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

教養課程教育については、特筆すべき事項は見当たらない。

IV-2. 改善の方向

4年一貫教育で一般教育と専門教育を実施し、特に前者については、全学担当制を確立し、それに伴い教養部という制度、組織を廃止する案を検討中である。

しかし、この案が全学の合意を得るか否かの見通しはない。

9. 岩手大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学 部 留 学 生 数	備 考
人文社会科学部	100	220	1	教養課程担当教官と専門課程担当教官を区別していない。
教 育 学 部	102	350	0	
工 学 部	139	410	8	
農 学 部	119	220	2	
計	460	1,250	11	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 倫理学, 日本思想史, アジア思想史, 欧米思想史, 心理学, 国文学, 中国文学, 欧米文学, 音楽, 美術, 日本史, アジア史, 欧米史
	社会分野	法学, 経済学, 経営学, 社会統計学, 社会心理学, 社会学, 政治学, 地理学
	自然分野	数学A, 数学B, 統計学, 物理学, 物理学実験, 化学, 化学実験, 生物学
	総合科目	東西文化の諸相A, 東西文化の諸相B, 現代社会を見る視角, 情報, 岩手の研究, 自然科学の歴史, 基礎科学と現代の自然像
外国語科目		英語, 独語, フランス語, ロシア語, 中国語, (日本語)
保健体育科目		体育理論, 体育実技

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

昭和52年に人文社会科学部が創設され、一般教育科目の選択科目を増やし、総合科目を設けるなどの改善を行って今日に至っているが、特に現状を変えようという考えはない。

10. 東北大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
文 学 部	96	210	3	附属病院教官定員 253 名（外数） 附属病院教官定員50名（外数）
教 育 学 部	36	80		
法 学 部	69	250	1	
経 済 学 部	56	250	1	
理 学 部	268	314	1	
医 学 部	164	100	3	
歯 学 部	101	60		
薬 学 部	51	80	1	
工 学 部	514	945	12	
農 学 部	118	180	2	
教 養 部	155		21	
計	1,628	2,469	45	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	国語，漢文，哲学A，哲学BⅠ，哲学BⅡ，倫理学A，倫理学BⅠ，倫理学BⅡ，宗教学，論理学，美学，日本史，東洋史，西洋史，歴史，文化人類学
	社会分野	社会学，法学，日本国憲法，政治学，経済学，統計学，地理学Ⅰ，地理学Ⅱ，心理学Ⅰ，心理学Ⅱ
	自然分野	数学A，数学B，微積分学A，微積分学B，物理学A，物理学B，化学A，化学B，生物科学AⅠ，生物科学AⅡ，生物科学BⅠ，生物科学BⅡ，地学A，地学BⅠ，地学BⅡ，地学BⅢ，自然人類学，情報処理概論AⅠ，情報処理概論AⅡ，情報処理概論B
	総合科目	比較文化論，地域文化総合Ⅰ，地域文化総合Ⅱ，アメリカ研究総合，社会科学総合，自然科学総合，情報科学
	日 本 語	日本語Ⅰ，日本語Ⅱ，日本事情Ⅰ，日本事情Ⅱ
外 国 語 科 目		英語Ⅰa，英語Ⅰb，英語Ⅱa，英語Ⅱb，ドイツ語Ⅰ，ドイツ語Ⅱa，ドイツ語Ⅱb，フランス語Ⅰ，フランス語Ⅱa，フランス語Ⅱb，中国語A

		I, 中国語AⅡ, 中国語BⅠ, 中国語BⅡ, ロシア語Ⅰ, ロシア語Ⅱa, ロシア語Ⅱb
保健体育科目		健康科学, 体育実技Ⅰ, 体育実技Ⅱ
基 専 礎 門 教 育 育 科 科 目 目	文 学 部	文学概論, 言語学概論, 哲学概論, 社会学概論, 史学概論, 国語講読A, 国語講読B, 漢文講読A, 漢文講読B, 英語講読A, 英語講読B, ドイツ語講読A, ドイツ語講読B, フランス語講読A, フランス語講読B, 中国語講読A, 中国語講読B, 倫理学講読A, 倫理学講読B, 心理学講読A, 心理学講読B, 心理学実験, 社会学講読A, 社会学講読B, 宗教学講読A, 美学講読A, 日本史講読A, 日本史講読B, 東洋史講読A, 西洋史講読A, 西洋史講読B, 文化人類学講読
	教育学部	教育原理Ⅰ, 教育原理Ⅱ, 教育心理学Ⅰ, 教育心理学Ⅱ, 哲学概論, 社会学概論, 教育学講読A, 教育学講読B, 哲学講読A, 哲学講読B, 倫理学講読A, 倫理学講読B, 社会学講読A, 社会学講読B, 心理学講読A, 心理学講読B
	法 学 部	法学A, 法学B, 法学C, 法学D, 法学講読
	経済学部	経済学AⅠ, 経済学AⅡ, 経済学AⅢ, 経済学BⅠ, 経済学BⅡ, 経済学BⅢ
	理 学 部 工 学 部	代数学, 幾何学, 解析概論, 確率論・統計学, 応用数学Ⅰ, 応用数学Ⅱ, 応用数学Ⅲ, 応用数学Ⅳ, 数学演習, 物理学, 物理学実験, 物理化学, 有機化学, 化学実験, 生物科学C, 生物科学DⅠ, 生物科学DⅡ, 生物科学実験Ⅰ, 生物科学実験Ⅱ, 地学Ⅰ, 地学Ⅱ, 天文・地球物理学Ⅰ, 天文・地球物理学Ⅱ, 地学実験, 地理学A, 地理学B
	医 学 部 歯 学 部 薬 学 部 農 学 部	代数学, 幾何学, 確率論・統計学, 物理学, 物理学実験, 物理化学, 有機化学, 化学実験, 生物科学DⅠ, 生物科学DⅡ, 生物科学実験Ⅰ, 生物科学実験Ⅱ, 地学Ⅰ, 地学Ⅱ, 天文・地球物理学Ⅰ, 天文・地球物理学Ⅱ, 地学実験, 地理学A, 地理学B
自由聴講科目		国語表現論, 物理学講読, 生物科学特論Ⅰ, 生物科学特論Ⅱ, 英語演習, 英会話・英作文, ドイツ語, フランス語, 中国語, イタリア語, グリシャ語, ラテン語, サンスクリット語

Ⅱ. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

Ⅱ-1. 調査報告書

- ① 『東北大学における一般教育の改革』（平成元年度版）
- ② 『東北大学における一般教育の改革』（平成2年度版）

11. 宮城教育大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
教 育 学 部	143(16)	425	1	授業科目の担当については、一般教育科目担当と専門教育科目担当を明確に区別していない。
計	143(16)	425	1	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学、倫理学、宗教学、論理学、国語、漢文、児童文学A、児童文学B、日本史、西洋史、東洋史、文化人類学、芸術
	社会分野	日本国憲法、法学、政治学、経済学、地理学、心理学、人類学
	自然分野	自然科学概論、数学概論、物理学A、物理学B、化学A、化学B、生物学A、生物学B、地学、情報科学概論、物質科学概論、生命科学概論
	総合科目	日本の芸能、健康A、健康B、情報A
	ゼミナール	現象とその理解、ほか4科目
外 国 語 科 目		英語A、英語B、ドイツ語Ⅰ、ドイツ語Ⅱ、フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、ロシア語Ⅰ、ロシア語Ⅱ、中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、英語講読、ドイツ語講読、ドイツ語会話、フランス語講読、フランス語会話、中国語講読、中国語会話
保 健 体 育 科 目		保健体育理論、体育実技Ⅰ、体育実技Ⅱ
日 本 語 科 目		日本語Ⅰ、日本語Ⅱ

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

いわゆるくさび型履修（学年による修得要件を設けず、卒業までの間に充足する。）を行っている。

また、人文分野において芸術関係の授業を開設している。

12. 秋田大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
教 育 学 部	139(43)	320	2	附属病院教官定員 100 名(外数)
医 学 部	136	100	6	
鉱 山 学 部	144	481	15	
計	419(43)	901	23	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	文学, 哲学, 科学史・科学哲学, 論理学, 倫理学, 史学, 音楽, 芸術学, 心理学
	社会分野	法学, 政治学, 社会学, 経済学, 地理学
	自然分野	数学, 物理学, 物理学実験, 化学, 化学実験, 生物学, 地学
	総合科目	科学論, 諸民族の社会と文化, 美と人間, 情報科学入門, 情報社会に生きる, 医学概論, 人類遺伝学, 基礎免疫学
外国語科目		英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語Ⅲ, ドイツ語Ⅳ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, ロシア語Ⅰ, ロシア語Ⅱ
保健体育科目		体育講義, 体育実技
日本語関係		日本語Ⅰ, 日本語Ⅱ, 日本事情Ⅰ, 日本事情Ⅱ, 基礎日本語
基 礎 教 育 科 目	医学部	基礎数学Ⅰ, 基礎数学Ⅱ, 基礎物理学実験, 基礎化学Ⅰ, 基礎化学Ⅱ, 基礎化学実験, 基礎生物学Ⅰ, 基礎生物学Ⅱ, 基礎生物学実験, 情報処理
	鉱山学部	基礎数学, 基礎物理学, 基礎化学

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

ニ. 総合コースについて

情報化社会に対応させるべく情報関係科目を2科目及び主に医学部学生を対象とした医学一般に関する3科目(医学概論, 基礎免疫学, 人類遺伝学)を平成2年度から開講し, 総合科目の一層の充実を図った。

IV-2. 改善の方向

現在, 全学的に検討している。

13. 山形大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
人 文 学 部	55	285	2	附属病院教官定員95名（外数）
教 育 学 部	94	320		
理 学 部	61	181		
医 学 部	144	100		
工 学 部	183	720	8	
農 学 部	71	170		
教 養 部	78			
計	686	1,776	10	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学，心理学，歴史，文学，芸術，言語文化，（総）人間と文化
	社会分野	法学，経済学，社会学，政治学，地理学，教育学，地域科学，日本国憲法，（総）地域社会と人間
	自然分野	数学，数理科学，物理学，物理学実験，化学，化学実験，生物学，生物学実験，地学，地学実験，統計学，自然環境論，（総）自然界の総観
外国語科目		英語，ドイツ語A，ドイツ語B，ドイツ語C，ドイツ語D，ドイツ語E，フランス語A，フランス語B，フランス語C，フランス語D，フランス語E，露語A，露語B，露語C，露語D，露語E
保健体育科目		保健体育理論，体育実技
基礎教育科目		基礎数学，基礎統計学，基礎物理学，基礎化学，基礎生物学，人間科学Ⅰ 人間科学Ⅱ，人間科学Ⅲ，情報処理

III. 教養課程教育の個々の改善についての試み

〔教養課程カリキュラムの改正・教育方法の改善等について〕

1. 「日本国憲法」の開講について

(イ) 小白川キャンパスについて

教養課程・医進課程の社会分野に2単位として開講する。

(ロ) 工学部Bコースについて

1 年次・長期休暇中に集中講義の形で開講する。

2. 医進課程カリキュラムの改編について

平成2年度入学生から、医進課程2年後期に専門科目の一部を開講する。

3. 「数学」「統計学」の教育改善について

人文、教育学部に開講している「数学」「統計学」を廃止して、「数理科学」を開講する。

工学部に開講している「数学」に「統計学」を統合して、「数学」として開講する。

4. 工学部に「自然環境論」を開講する。これは平成2年度から3年間実施する。

5. 露語教育方法改善の試みについて

平成2年度から、授業時間の一部で新たにロシア・ソ連の事情についての授業（1年次）を実施、ロシア人講師による夏季集中授業（2年次）を行う。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目は、人文、社会及び自然の3分野に分け、各科目通年4単位とし、単位の分割をしていない。修得すべき単位数は人文、社会及び自然の3分野にわたり、それぞれ2科目8単位以上を含めて合計36単位以上である。工学部においては、基礎教育科目及び専門教育科目のうちから8単位を一般教育科目の単位に振り替えている。

ロ. 外国語科目は、英語、独語、仏語及び露語のうちから2か国語を選び次のとおり所定の単位を修得しなければならない。

所属学部	一つの外国語	他の外国語
人文・理学部	8単位	8単位
教育・農学部	8単位	4単位以上
工 学 部	8単位	5単位以上

ただし医学進学課程修了に必要な外国語科目の単位数は、英語及び独語又は仏語それぞれ8単位、合計16単位とする。

「英語」は半期ずつ開講（各1単位）で、一人の学生は最大で8単位を8人の異なる教官から履修できるので、多様な教官に接することが可能である。

「露語」では平成2年度から、授業時間の一部で新たにロシア・ソ連の事情に関する授業（1年次）、ロシア人講師による夏季集中授業（2年次）を行う。

ハ. 保健体育理論・2単位は、体育理論1単位、保健理論1単位をそれぞれ必修として、1年後期と2年前期に開講している。体育実技・2単位は、半期2／3単位をそれぞれ必修として、1年前・後期・2年前期に開講している。学部単位（180～240名）でスポーツ種目選択制の授業が主体である。

ニ. 総合科目について、現在、一般教育科目の中で、人文分野「人間と文化」、社会分野「地域社会と人間」、自然分野「自然界の総観」の3系列の総合科目を特定の学部を対象として

開講し、全員が一つの総合科目の受講が可能となっている。各系列の総合科目は世話役となる1名の教官を中心に、サブテーマを設定し、複数の教官が担当している。

ホ. 厚生補導特別企画の一環として、野外教室を春から秋にかけて2～3件を実施している。

また、冬は教養部独自のスキー教室を1年次学生を対象に行っている。

ヘ. 教養課程では、基礎専門教育は行っていない。医学進学課程で、基礎教育科目を開講している。その特徴は、自然科学分野の基礎教育に重点をおいているが、人文・社会分野を含めた幅広い基礎教育を行うことにより、専門課程へ進学後、医学教育に必要な基礎学力を養成することにある。

ト. 工学部Bコースでは、教養課程制は採っておらず、一般教育等の授業科目が3年次まで伸びる楔型カリキュラムを採っており、一般教育等と専門教育との並行履修が可能となっている。

14. 福島大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備考
教育学部	125(9)	350	4	
行政社会学部	53(2)	260	0	
経済学部	75(16)	340	22	
計	253(27)	950	26	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 論理学, 心理学, 文学, 美術, 精神衛生学, 民俗学, 宗教学, (総) 現代社会間と人間, (総) 英米文学における人間像
	社会分野	法学, 政治学, 社会学, 歴史学, 経済学, 地理学, (総) 地域論, (総) 国際事情, (総) 戦後改革と法, 福島県の歴史
	自然分野	数学, 物理学, 化学, 生物学, 地学, (総) 地域科学, (総) 情報科学, (総) エネルギー科学, 病体生理学概論, 現代数学への道
外国語科目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, ドイツ語初級, ドイツ語中級, フランス語初級, フラン ス語中級, ロシア語初級, ロシア語中級, スペイン語初級, スペイン語中 級	
保健体育科目	体育理論, 体育実技	
日本語・日本事情	日本語Ⅰ, 日本語Ⅲ, 日本事情Ⅰ	

II. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

II-1. 調査報告書

- ① 『一般教育科目履修状況調査報告書』(昭和61～平成元年度)
- ② 『一般教育問題研究集会報告集』(昭和63～平成元年度)

II-2. 調査報告書作成までの経緯と学内手続き等

- ① 『一般教育科目履修状況調査報告書』について

昭和49年, 一般教育に関するアンケート調査委員会が発足, 教育方法等改善経費により, 本学教官, 卒業生及び在校生を対象に調査を実施し, 昭和52年, 『一般教育アンケート調査報告書』として調査結果をまとめた。昭和60年, 一般教育基本問題検討特別委員会が, 本学教官を対象に, 主として一般教育(三系列)について調査を実施し, 『一般教育の改革に向けて——一般教育(三系列)のあり方をめぐるアンケート調査結果の分析報告』として調査結果をまとめた。

これらの経緯をふまえて、昭和61年度以降、一般教育運営委員会は、一般教育問題研究委員会を中心にして、2年生を対象にした調査を継続実施し、掲記『報告書』として調査結果をまとめている。

各調査の目的、留意事項等については、各々の『報告書』を参照されたい。

② 『一般教育問題研究集会報告集』について

上記『一般教育科目履修状況調査報告書』は学生を対象としているが、この『報告集』は、全学の教官が、各々の教育実践報告等を通して、一般教育の改善、充実について、問題提起、意見交換等を行う集会のまとめである。

Ⅱ－3. 既に実施している改善の試み

① 『一般教育科目履修状況調査報告書』について

年度毎の開設科目、新設科目等の決定に一定程度反映されているが、現在のところ改善に資するためのデータを蓄積している段階である。

② 『一般教育問題研究集会報告集』について

提起された問題、意見を総体的に整理し、実施する段階には至っていないが、例えば「総合科目」の実践報告等は次年度担当者に資するところ大であると考えられる。

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

教養課程教育について個別的に改善を試み、かつ実施しているものも少なからずあるが、その多くは本学に特有の問題あるいは若干細部にわたる嫌いがあると思われるので、今回は回答を保留する。

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ－1. 特 色

イ. 一般教育科目については、単位履修基準を24単位に統一し、残る12単位を下記一般教育演習、基礎教育科目及び外国語科目等の履修に充てている。また、三分野において計10科目前後の「総合科目」を開設し、既存の科目区分にとらわれない柔軟なカリキュラムを編成している。

ロ. 外国語科目については、外国語の種類を豊富にするとともに、外国人教師、講師による授業の充実を図っている。

ハ. 保健体育科目については、社会スポーツ、生涯スポーツの観点を取り入れている。

ホ. セミナーについては、三学部がともに、新入生を対象として大学教育へのイニシエーション的役割を果たす「一般教育演習」を開設している。

ヘ. 基礎教育科目としては、「教育基礎論」及び「経済学概論」を開設している。

Ⅳ－2. 改善の方向

一般教育科目については、三分野にわたる履修を基本に据えつつも、既存の分野、科目の区分をこえる「総合科目」あるいは新規科目の設置、充実を図りたい。

「一般教育演習」及び「基礎教育科目」については、学部の独自性、専門性等を考慮に入れつつも、教養課程教育としての共通認識を構築する必要があると考えられる。

専門教育との融合という点では、一般教育と専門教育の区分を明確にし、大学教育という車の両輪として位置付けた上で、一般教育が大学教育全体に果たす役割を認識して、改革、改善を継続してゆきたい。また、一般教育の実施責任を、一般、専門の別を問わず、全学の教官で担う体制をさらに改善し、今後とも維持してゆきたい。

高度情報化社会に対応するため、現在開設している一般教育科目「情報科学」のより一層の充実を図るとともに、一般教育としての情報科学教育の理念を確立し、運営体制の強化を図りたい。

国際化の進展、留学生数の増加に対応するため、一般教育科目としての「国際事情」、「日本語」及び「日本事情」のより一層の充実を図りたい。

V. 自由意見

大学の自主的なカリキュラムの編成を助成するとした大学設置基準の大綱化が、結果として、戦後の教育改革によって設置された一般教育の理念を根底から覆し、一般教育のなしくずしの解体に帰結することのないよう、これまで以上に大学自らが一般教育の改革、改善に鋭意取り組まなければならない時と考える。

15. 茨城大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 数	備 考
人 文 学 部	82	375	42	附属施設教官定員（外数）
教 育 学 部	109	415	8	教育学センター（1）
理 学 部	62	185	2	臨湖実験所（2）
工 学 部	118	405	45	
農 学 部	62	125	2	農場（4）
教 養 部	65			共同研究開発センター（1）
計	498	1,505	99	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学，宗教学，論理学，心理学，文化人類学，歴史学，国文学，外国文学，言語学，芸術，教育学，*文化史，*人文科学方法論
	社会分野	法学，*憲法，政治学，経済学，社会学，社会科学概論，社会思想史，人文地理学，家政学
	自然分野	数学概論，数学通論，微積分学，線形代数，基礎数学，計算機数学入門，*微積分学Ⅰ，*線形代数学，*数学解析第2，物理学通論，物理学概論，物理学基礎，*電磁気学Ⅰ，*物理学第1，*物理学第2，*物理学第3，*力学，現代の一般化学，一般化学，基礎有機化学，材料物性の基礎，化学，一般化学Ⅰ，一般化学Ⅱ，*化学概論，*分析化学Ⅰ，化学実験，現代の一般生物学，一般生物学，生物学Ⅰ，生物学Ⅱ，情報生物学，免疫とアレルギー，現代の生物学，生物学概論Ⅰ，生化学・栄養学，分子生物学・生物工学，遺伝学Ⅰ，遺伝学Ⅱ，*生物学概論Ⅱ，*植物生理学，生物学実験，地学，地球科学通論，グローバルテクトニクス，地球の化学環境地質学，水文学，確率と応用統計，確率と統計，統計学，*数理統計学，*統計学Ⅰ，*統計学Ⅱ，生理学，自然科学概論
	総合科目	人間と情報の交流，情報処理入門，プログラミング入門，*農業情報システム学，*プログラミング概論Ⅰ，*電算機プログラミングⅡ，科学論，工芸技術論，生命科学，身体活動科学Ⅰ，身体活動科学Ⅱ，家族論Ⅰ，家族論Ⅱ，社会行動論，記憶の科学，養護教諭論，地球環境論，地域概念と理論，北関東の自然と社会，平和の問題の総合的理解をめざして，言語と情報，芸術の言語と日常の言語，18世紀のヨーロッパ，コーランを読む，日中近代化の比較研究，環太平洋時代と日中の対応，スラブ東欧の歴史と

	文化、西ヨーロッパの大学、文化としての昔、女性と文化、外国語からみた日本語Ⅰ、外国語からみた日本語Ⅱ、イスラムの財産法、フランスとポーランドの文化交流、日本映画史研究、中国現代事情、中国の言語と文化Ⅰ、中国の歴史と文化、身体活動科学Ⅲ
外国語科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ、*英会話、*英作文Ⅰ、*英作文Ⅱ、*外書講読、英語Ⅴ、独語Ⅰ、独語Ⅱ、独語Ⅲ、独語Ⅳ、仏語Ⅰ、仏語Ⅱ、仏語Ⅲ、仏語Ⅳ、露語Ⅰ、露語Ⅱ、露語Ⅲ、露語Ⅳ、中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語Ⅳ
保健体育科目	体育理論、保健理論、保健体育理論、体育実技
ゼミ形式授業科目	情報科学(総)、比較文化論(総)、比較研究Ⅰ(総)、英語(外)、独語Ⅳ(外)
日本語・日本事情	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本事情Ⅰ、日本事情Ⅱ
一般教育科目の単位に代えることのできる基礎教育科目及び専門教育科目	(工学部) 社会工学概論、数理統計学、物理学第1、物理学第2、物理学第3、力学、図学、機械工学序説、工業科学基礎、システム制御基礎、応用力学Ⅰ、応用力学Ⅱ、応用力学演習、工業数学演習、材料力学演習、電気理論演習、数学概論、量子力学、電気計測学第1、電気計測学第2、電気物性論第1、プログラミング、機械製図第2、情報工学序論、建設工学序論 (農学部) 作物形態学、作物生産学概論、家畜行動学、土壌物理学、実用数学Ⅰ、農村社会学、農業経済学説史、国際農業論、統計学Ⅱ、分析科学、労働科学、農作業技術論

*は専門教育科目を一般教育科目に充当

Ⅱ. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

Ⅱ-1. 調査報告書

① 『一般教育課程におけるカリキュラムの改善』(平成元年4月)

Ⅱ-2. 調査報告書作成までの経緯と学内手続き等

イ. 案作成までの経緯と学内の手続き

昭和62年に教養部教務委員会の下部組織という位置づけでカリキュラム検討小委員会を設け、約1年間検討を重ねた。この間、系列の会議や教授会を通じて意見の聴取が行われた。

昭和63年、小委員会案が教務委員会に答申され、教養部教授会で審議・了承された後、教務委員会は部長・評議員と打ち合わせを繰り返しながら実施案を作成した。

平成元年4月に、この実施案を教養部運営委員会(学長を委員長とし、各学部長等学部・教養部の代表で構成)に提出し、本案の検討をすすめることの承認を得た。なお、詳細な検討は、運営委員会の諮問機関である一般教育課程カリキュラム専門委員会(学部・教養部の教務委員会代表者で構成)に委ねられた。5月初旬に、全学に「改善(案)」の文書が配付され、各学部では教授会や教務委員会などで検討が開始された。また、一般教育課程カリキュラム専門委員会も検討を開始した。平成元年10月までに、直ちに実施できる部分についての一応の結論(平成2年度か

ら実施するかどうか)を出すことになったので、この間、教養部教務委員会は、各学部教務委員会との協議を繰り返し行った。

結局、平成2年度時間割編成作業の開始は若干遅れたが、一般教育課程カリキュラム専門委員会の審議を経て、2月に教養部運営委員会で正式に承認を受けた。

ロ. 案作成に当たって、特に注意を要した事柄

- ① 教養部案をそのまま学部にも認めてもらうのが望ましいが、改善を円滑にすすめるため、教養部の提案する改善策を学部の状況に応じて採用してもらう方向でまとめた。
- ② 教養部のかかえている諸問題は、制度そのものに由来するものと、茨城大学に固有のものがあるので、両者をどのように取り扱うかが問題となった。教養部設置後かなりの年数を経て、大学の構成員も大幅にかわったので、過去の経緯にこだわりすぎるのもどうかと思われるが、建物面積や教官数の不足の根源に触れないわけにはゆかない状況にある。

II-3. 既に実施している改善の試み

① 総合科目4単位の必修化

従来、人文学部人文学科が4単位必修としてきたが、平成2年度から教育学部・工学部・農学部がこれになった。

② 3分野の最低履修単位の引き下げ

人文学部を除いては、平成2年度より実施に移された。

③ 基礎教育科目の開設

平成2年度の開設はない。

工学部では、平成3年度からの開設を検討している。

④ 外国語8+α制への移行

既に実施済みの人文・理学両学部には教育学部・工学部が加わった。

農学部は、第二外国語4単位を専門教育の単位にしているので、当分の間変更しない方針である。

なお、新しい履修単位の基準は平成2年度から実施に移されたが、時間割については1年間の準備期間を置き、平成3年度から改めることになっている。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

開講されている授業科目が多様ではないかと思う。また、数学など一部の科目にクラス指定があるが、学生にとって選択の自由度は高いといえよう。ただし、受講生数に偏りが生じ、調整に苦勞することもある。

ロ. 外国語科目について

授業内容を多様化するとともに、クラスサイズを小さくし、教育効果を高める努力をして

いる。

ハ．保健体育科目について

体育実技については、45時間を前後に二分し、異なった種目を履修するようになっており、選択の幅は広い。また、野外活動などを積極的に取り入れる努力をしている。

ニ．総合科目について

総合科目担当として採用された教官（11名）のほかに多数の教官が参加しているので、開講本数・授業内容ともに充実しているといえる。

総合科目の必修化がほぼ全学的に実施されるので、平成3年度より総合科目を三分野の科目と同一のバンドで開講できる見通しである。

ホ．セミナーについて

学生が自主的に運営するゼミナールの時間が設けられているので、教官が主宰する教養部ゼミはこれまでなかった。平成元年度から、教官有志により正規の時間外（5講時）を利用したゼミ形式授業が行われるようになった。将来はこれを正規の時間帯に移すことを考えている。

ヘ．基礎教育科目について

カリキュラム改善案で基礎教育科目の開設が認められたが、平成2年度の開講はない。原則として学部教官が担当することになっているので、学部側の体制づくりを待つことになる。なお、既に一般教育科目単位の専門教育科目単位への振替、あるいはその逆の措置が広く行われているので、あえて基礎教育科目の開設を要しないということも考えられる。

II-2. 改善の方向

イ．一般教育科目の3分野の履修方法の充実について

一般教育科目の3分野については、これまで一律8単位以上としていたものを、4単位以上とすることで、履修内容に弾力性をもたせることにした。また、外国語・基礎教育科目・専門教育科目による代替を12単位まで認めることになった。

ロ．総合科目を中心とした一般教育の充実について

これまで総合科目の整備充実に努めてきた結果、一部の学部・学科を除き総合科目4単位以上の必修化が実現した。今後は、必修化をさらに推進するとともに、総合科目を中核とした学部化構想の実現に向けて一層の充実をはかることになろう。

ハ．セミナーを中心とした一般教育の充実について

現在は、正規の時間外にボランティアで出しているゼミ形式の授業を、正規の時間帯で開講し、教養部における少人数教育を充実させたい。

ニ．外国語科目を中心とした教養課程教育の充実について

外国語については、8+ α 制の導入により、履修者数が減るので、クラスサイズを小さくして教育効果の高い授業にすることをめざしたい。

ホ．保健体育科目の新しい方向について

保健体育科目の実技については、キャンパス内の体育施設の整備が遅れている（狭隘化・老朽化）ので、まずこの問題を片付けなければ、カリキュラム改善に取り組めない状況にある。

ト．教養課程教育と専門教育とを融合させる方向について

教養課程教育と専門教育との融合については、教養部授業への学部教官の兼担が多いという特色を生かして積極的にすすめられている。専門教育科目を1・2年次に下ろすとともに、一般教育課程の授業を高学年次に押し上げる試みも行われている。

16. 図書館情報大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学 部 留 学 生 数	備 考
図書館情報学部	52	150	7	本学では、一般教育担当教員と専門教育担当教員を区別していない。
計	52	150	7	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

基礎学芸科目 A	人文科学総論，論理学，国語国文学，哲学，歴史，芸術思潮，社会科学総論，法学，政治・行政学，社会学，経済学，経営学，自然科学総論，基礎数学，物理学，化学，生命科学
外国語科目	英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語
保健体育科目	保健体育講義，体育実技
基礎学芸科目 B	言語学，古文献講読，漢文講読，古典語，比較文学，読書科学，比較社会学，経営情報論，経済史，経営工学，社会教育概論，国際関係論，環境計画論，解析学Ⅰ，解析学Ⅱ，応用解析，多変数解析，統計学，情報数学Ⅰ，情報数学Ⅱ，情報数学Ⅲ，数理計画法，応用物理，電子工学，外書講読（英語），外書講読（ドイツ語），外書講読（フランス語）

III. 教養課程教育の個々の改善

特に検討していない。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

本学では、教養課程と専門課程を区別せずにいわゆる“くさび型”方式で一般教育と専門教育を第1年次から融合した形で教育を行っている。

また、一般教育については、一般教育科目ないし教養課程という名称によらず、これらに相当する科目を「基礎学芸科目 A」と称している。図書館情報学の特性から見ると、これらの科目は、それぞれの分野での思考の方法とそれによって構築された知識の表現であって、本学での専門科目の裏付けとなるからである。そこで本学ではいわゆる一般教育の教官と専門科目の教官との区別をせず、一般教育の教官もまた専門科目を担当し、卒業研究の指導にあたっている。

なお、本学の教育の基本的姿勢については、『図書館情報大学十周年記念誌』を参照されたい。

イ. 一般教育科目について

一般教育にあたるものを基礎学芸科目Aとして、履修させている。

ロ. 外国語科目について

外国語は、図書館情報学を専攻する上で特に重要である。したがって、英語を含む2か国語を必修としている。現在、英語以外に、ドイツ語、フランス語、ロシア語及び中国語の4か国語を開設している。

ニ. 総合コースについて

基礎学芸科目Aにも専門科目にも総合科目的な扱いをするものがあるので、現在は開講していない。将来必要を生じたときには改めて考慮することになる。

IV-2. 改善の方向

前記IV-1をより推進するために、教養課程教育と専門教育とを融合させる方向で改善を試みることを当面の目標としている。その中に外国語科目及び保健体育科目を含んでいる。

17. 筑波大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
第一学群	215(28)	460	9	教養課程担当教官と専門課程担当教官の区別はない。
第二学群	252(29)	530	8	
第三学群	249(26)	520	45	附属病院教官定員 109 名(外数)
医学専門学群	156(7)	100	1	
体育専門学群	138(16)	240	2	
芸術専門学群	58(7)	100	5	
外国語センター	10			
体育センター	9			
計	1,087(113)	1,950	70	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

共通科目	総合科目 A	世界民族，ことばとその機能，社会科学における国家，宇宙における人間，生活文化の諸相，東西の文化史，異文化社会，言語・民族・文化，自然・人間・文化，人間とは何か，ハンディキャップをのりこえて，生物の進化を考える，進化論の根拠，生命の誕生と進化，生態学からみた自然，農林業を見る眼，土と水と緑のテクノロジー，計画の科学，異文化社会における衣食住，都市と環境情報，世界情勢の見方，原子炉と核融合の開発とその将来，結晶の世界，エレクトロニクス発展と基礎工学，ハイテク産業を支える基礎科学とその将来，科学技術と人間Ⅰ，科学技術と人間Ⅱ，“かん”のすべて，免疫と病気，人の体と運動，生涯スポーツ，心の眼でみる世界，スポーツと心理，スポーツの国際比較，野外レクリエーションと自然教育，心身の健康と体育，スポーツとコンディショニング，加齢と体力，東西の宗教美術，アートとテクノロジー
	総合科目 B	東西の人間観，言語学入門，社会科学入門，数学入門，物理学：わかったこと・わからないこと，情報と論理，化学の世界，自然科学は自然をどのようにみるか，心の実験室，地球科学における「ながれ」，人類の果した思惟への回想，国際社会における日本語，認知科学入門，現代社会と微生物，地球環境時代に生きる農林業，経営学入門，知識・知能・情報，理系のための統・情報処理
	総合科目 C	フレッシュマン・セミナー

共通科目	保健体育	体育理論, 体育実技
	外国語 (一般語学)	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, ドイツ語(G), ドイツ語(L), ドイツ語(P), ドイツ語初級, ドイツ語中級, フランス語Ⅰ-1, フランス語Ⅰ-2, フランス語Ⅰ-3, フランス語Ⅱ, 中国語Ⅰ-1, 中国語Ⅰ-2, 中国語Ⅰ-3, 中国語Ⅱ, ロシア語Ⅰ-1, ロシア語Ⅰ-2, ロシア語Ⅰ-3, スペイン語, 朝鮮語, スペイン語Ⅱ
	外国語 (専門語学)	英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, ロシア語, スペイン語, 朝鮮語
	国語及び 情報処理	国語, 情報処理概論, 情報処理演習
医学専門学群 基礎教育科目		数学概論, 数学概論演習, 物理学, 物理学実験, 化学, 化学実験, 生物学, 生物学実験, クラスセミナー
関連科目 B		医療と法, 医学のための心理学, 環境と生体の反応, 医学概論, 生物学臨海実習, 医学古典語
体育専門学群 関連科目 B		生物学, 統計学, 教育行政学, 自然人類学
日本語科目		日本語聴解Ⅰ, 日本語聴解Ⅱ, 日本語読解Ⅰ, 日本語読解Ⅱ, 日本語作文Ⅰ, 日本語作文Ⅱ, 日本語演習
日本事情に関する科目		一般日本事情Ⅰ, 一般日本事情Ⅱ, 日本の歴史, 日本の農業, 日本の教育, 日本の政治・経済Ⅰ, 日本の政治・経済Ⅱ, 日本の政治・経済Ⅲ, 日本の自然Ⅰ, 日本の自然Ⅱ, 日本の科学技術Ⅰ, 日本の科学技術Ⅱ, 日本の科学技術Ⅲ, 日本の文化Ⅰ, 日本の文化Ⅱ, 日本の芸術Ⅰ, 日本の芸術Ⅱ

Ⅱ. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

Ⅱ-1. 調査報告書

- ① 『筑波大学における一般教育のあり方に関する検討——その評価と展望——』（昭和63年3月）

Ⅱ-2. 案作成までの経緯と学内手続き等

イ. 案作成の経緯, 学内の手続き

昭和62年度に教育計画室に与えられた大学教育方法等改善経費によるプロジェクト研究として実施した。

ロ. 特に注意を要した事柄

学生に対するアンケート調査案の作成及び分析に際して, 共通科目（本学の一般教育科目）の各科目担当者の協力を得て行った。

Ⅱ-3. 既に実施されている改善の試み

- (1) 報告書の5章4節（p.35～36）に述べられているティーチング・アシスタント制度は, 平成元年度に教育研究学内特別経費の補助を得て, 一般外国語にとどまらず, 総合科目, 国

語、情報処理にまで拡大して試行した。その教育効果、問題点等については現在取りまとめ中である。

- (2) 総合科目に関して、『総合科目見直しに関する答申』に基づき、種々の改善が試みられている。(資料参照)

III. 教養課程教育の個々についての調査報告書

- ② 『「専門語学・第二外国語」に関するアンケート調査報告書』(平成元年3月)

＊昭和63年度に教育計画室が実施したアンケート調査の報告書である。

＊専門語学、一般語学に関する教育について、学群・学類の考え方、学生の受けとめ方を調査した。その結果は全3回にわたる語学教育のための全学的なワークショップの資料に供した。

- ③ 『本学の総合科目見直しに関する答申』(昭和62年8月)

- ④ 『全学外国語教育ワークショップに関する報告』(外国語教育論集12号、平成2年)

- ⑤ 『筑波大学における外国語教育』(昭和62年3月)

- ⑥ 『生涯スポーツ時代の大学体育』(平成2年3月)

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向、及び V. 自由意見について

本学では、過度の専門化による弊害を避け、良識ある市民としての教養を培うという一般教育の目的を専門教育との有機的な関連のもとに4年間を通じて実現することとし、一般教育科目と専門教育科目を形式的に区分するのではなく、4年間の全体のカリキュラムの中で教育の目的に即して総合的に編成するとともに、それぞれの授業科目についても教育の目的に即したものとすようキメの細かい配慮が払われています。

本学の授業科目は、全学的に編成する科目(共通科目)と各学群・学類がそれぞれの目的に即して編成する科目とから成っていますが、各授業科目の区分、意義、設置基準との関係については、「履修要覧」の2頁以降のとおりですのでご参照ください。

また、学群、学類等から寄せられた意見を添付しますので、ご参照ください。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特色

(人文学類)

質問の大半は、『筑波大学における一般教育のあり方に関する検討——その評価と展望——』(昭和63年3月、筑波大学教育計画室)とか昨年度学群長・学類長名で提出した「共通科目に関する調査」による全学的見地からの回答が適切と考えます。ここでは、次の2点について学類の立場から回答いたします。

ホ. セミナーについて

フレッシュマン・セミナーを実施する際に、交通安全教育を盛り込むようにしている。

ヘ. 基礎専門科目について

主専攻分野の下に必要なコースを設けて、きめの細かい指導を行う一方、2年次で完全に履修を終えるよう指導している。

(自然科学類)

ヘ. 基礎専門，基礎教育科目について

自然科学類学生が主専攻分野に分かれるのは3年次であるが、それ以前に各分野の専門性をもった基礎科目があり、1・2年次学生には、進む分野を意識した科目の選択が望まれている。ただし、変更の可能性は残されている。

これは、次の間、IV-2-トに相当するものであるが、教養課程の教育全体をこの方向に進めるというわけではない。

(比較文化学類)

ロ. 外国語科目について

一般語学だけでは、第2外国語の力は十分ではないので、特に本学類は外国語の力を重視する観点から、「外国語講読」4、5単位を必修とし、それを第2外国語として選択した外国語で取らせている。

ホ. セミナーについて

科目によっては、1年生からセミナーへの出席を認めている。

ヘ. 基礎専門，基礎教育科目について

1年生に「比較文化入門」（3単位）を、2年生に「人間論」（3単位）を必修としている。前者は換言すれば「比較文化学類入門」とでも言うべき科目で、当学類でどのような学習ができるかについて各分野（3分野ある）ごとに開設しながら、学生の問題意識を刺激するのが目的である。

「人間論」は、人文系学問の究極は人間の抱える諸問題の解決にあり、その根本は「人間とは何か」を問うにあると考え、人間についてさまざまな角度からアプローチするよう問題を立て、さまざまな学問分野の教官が分担している。

(日本語・日本文化学類)

イ. 一般教育科目について

全教員が教養課程の授業に参加する体勢をとっていること。

ロ. 外国語科目について

より多く外国語、特に英語の教育を行っていること。

専門教育との関係を考慮した教育を行っていること。

ハ. 保健体育科目について

1年生から4年生までとらせて、体力の強化を図ると共に体育に親しませようとしていること。

ヘ. セミナーについて

1年次から開始していること。

ト. その他について

「国語」教科で日本語の理解力・表現力を養っていること。

(人間学類)

ご質問のイ～トの項目のうち、総合コース、セミナー及び外国語科目について回答いたします。その他の科目は、特に本学類としては特筆すべきことはないかと思えます。

総合科目も大学全体にわたるものではありませんが、しかし、人間学類が開設した科目もあり、また、人間学類所属の学生が履修しなければならない科目もありますので、それらに絞って申し述べます。

まず、人間学類が開設する科目は「人間とは何か」、「認知科学入門」、「心の実験室」及び「ハndeキヤップをのりこえて」の4科目で、いずれも人間学類所属教官の専門性を生かし、かつ、学際的、社会的ひろがりをも十分に考慮してプログラムを作成しています。

一方、人間学類所属の学生が履修すべき総合科目も他学類のスタッフによって同様な狙いをもって構成されております。筑波大学では総合科目を中心に教養課程教育の充実を図っています。総合科目は指定科目と選択科目に分かれ、それぞれの学類で、指定・選択は異なりますが、それぞれの科目は自然、人文、社会、学際と広領域、コア的、市民的教養の二面の組合せで構成されており、広い識見・教養を授けるよう工夫されています。

担当教官もなるべく少人数で、体系的に講義するように努力し、学生が強い学習関心を引くように考慮されています。

セミナーは、各研究分野ごとに設けられているので、開設数が非常に多いという特色をもっています。もちろん卒業研究の前段階の学習という意味もありますので力を注いでおりますが、とくに卒業研究等との関連についての規制はなく、学生は自由に多くのセミナーに参加できます。

外国語科目は、一般語学の他に「外国語講読」（必修）といった科目を設けている専攻もあるほど、外国語の習得に力を注いでいます。

(社会工学類)

イ. 一般教育科目について

筑波大学の他の学類と同じく総合科目によって対応している。

ロ. 外国語科目について

1年次は、外国語センターにおいて一般外国語として2カ国語を必修とし、2年より上は専門外国語として対応している。第2外国語を必修とせず、選択必修とすることを検討中。

ハ. 保健体育科目について

他の学類と同じく4年次まで必修となっている。

ニ. 総合コースについて

一般教育向けに学類として4科目を提供している。

ホ. セミナーについて

1年次の1学期にオリエンテーション用にフレッシュマン・セミナーを実施している。

ヘ. 基礎専門, 基礎教育科目について

教養と専門科目を融合させる方向で1年次から基礎専門科目を選択必修としている。筑波大学で共通科目としているコンピューター教育は、当学類では基礎専門科目として独自に実施している。

ト. その他(論述, 作文)

全学的に国語を必修としている。

(農林学類)

本学類の教養課程教育は、本学の方針に則り、基本的には全学一体の方針に基づいて行っている。現在、本学で検討されている「一般教養の在り方」ないしは「基礎教育の在り方」に規定される。

従って、IV-1のイ～ホについては、全学の方針に従っている。

しかし、IV-1のヘの基礎専門, 基礎教育科目については、本学類教育にとって最も基礎となる教科目と教育内容となるよう学類独自の立場から開設している。

(基礎工学類)

ヘ. 基礎専門, 基礎教育科目について

数学, 物理学, 化学等工学の基礎となる科目の教育が中心となる。

(体育専門学群)

ヘ. 基礎専門, 基礎教育科目について

基礎専門は1年次より位置づけ「実技・理論」として12単位修得するようにしている。

TAの導入は検討中。

専門教育との関連を図るよう努力をしている。

(外国語センター)

ロ. 外国語科目について

1. 外国語教育の重視
2. 実用語学を中心とする。
3. 検定制を英語について導入する。
4. プレイスメントを実施し、クラス分けを行う。
5. 英語では英語Ⅰ読解, 英語Ⅱコミュニケーション, 英語ⅢLL映像をバランスをとりながら実施する。

(共通科目「情報処理」)

ト. その他について

〔「情報処理」の特色について〕

「情報処理」は第1年次学生全員の必修科目（共通科目）であり、「情報処理概論」（1単位）および「情報処理演習」（1単位）から成る（原則として）学期集中の科目である。「演習」は2コマ（1コマ：75分）で1単位に相当するので、学生は所属する学類・専門学群により定められた特定の学期に3コマの「情報処理」の授業を受ける。現在は年間約1,850名の学生が「概論」17クラス、「演習」37クラスに分かれて履修している。

現在の情報処理教育は計算機による情報処理について教育することと理解されており、現在ではほとんどの総合大学が教育用の計算機（センター）をもち、情報処理教育を実施している。しかし、そのための授業は選択科目で、通常は全学生が履修対象にはなっていないようであり、本学のような全学生必修は「情報処理」の特色の一つといえる。

授業内容等における特色としては次のことが挙げられる。「概論」は主に講義形式で行われ、計算機に関する基本的概念と社会における計算機の位置づけを理解させることを目的としている。情報の表現法、計算機の構成、動作原理と能力の限界、高級言語、ソフトウェアなどについての説明をとおして、計算機と情報処理の理解が理工系の学生のみに必要なのではなく、どの専攻の学生にとっても、大学で教育を受けるときにも今後の社会生活においても、有用であることを把握できる。

「演習」では学生に直接計算機に触れる機会を充分に与えることを最も重要視し、各学生が授業中端末装置を占有して計算機を利用できるようにクラス編成をしている。さらに、計算機の利用時間を週日は9時～22時としてあり、学生は授業時間以外でも必要なときにはほとんど常に計算機を利用できる。演習課題をとおして、FORTRANやPascal言語を用いるプログラミングの作法を学び、計算機による問題解決の手法を実践的に修得する。あわせて、日本語処理、電子メールによる学生同士、学生・教官間のコミュニケーション、計算機内でのレポート提出や質疑応答などを体験する。一方では、「演習」の1コマは教官2人で担当し、学生が操作方法などについての疑問をなるべくその場で解決できるようにしている。

IV-2. 改善の方向

（比較文化学類）

ト. 従来も教養と専門との融合をはかってきたが、今後この方向を充実させるつもりである。

（日本語・日本文学類）

教養課程教育を学生諸君の要請また現代社会の要請に沿いつつも、学生諸君の専門教育課程への円滑な移行の基礎作りと位置づけて、例えば以下の様な点に重心を置いて行ってみたらいかかと思う。

イ. 少人数のセミナーを中心として授業をし、学問の基礎を徹底的に追究させ、最終的には曲がりなりにも各学生の学問観、人生観等の向上を図る。それは専門教育への円滑な移行を導くものとなるはずである。

ロ. 世界が一体化しつつある現状を顧み、他科目を減らしてでも外国語科目のより一層の充実

に力を注ぐ必要があるものと考えられる。

ハ．従来の3分野はそれなりに学問の伝統にのっとっているもので無視し難いが、それにとらわれることなく、各分野の接点を扱う科目もあるべきである。

（人間学類）

教養課程教育は、筑波大学において非常に苦心し、また、努力を重ねている領域です。開学以来、常に改革を継続的に行ってきたといつてよいと思います。例えば、総合科目は、2年前から根本的な改善を図るため、大学内に総合科目に関する編成室を設けて、内容、方法及び評価に関して大きな改革を図ってきています。今後は外国語科目等についてより一層の改善が図られると思います。

（生物学類）

生物学類では、教養課程教育について独自の改革は試みていない。ただし、将来、専門基礎の充実をはかる必要があることを痛感する。そのためには、固定カリキュラムをなくし（少なくとも）、カリキュラム編成に自由度を与えることを大学として検討することを望む。その一方策としては、教職科目等を夏季集中にすることなどが考えられる。

（社会工学類）

教養課程と専門教育を融合させる現在の方向は、当学類においては成功していると考えている。現在、一番の問題と考えているのは外国語であり、ほとんどの教官が学生の英語の能力は必要な水準に達していないと判断している。大学院生をティーチングアシスタントとして教養科目に参加させることを実施している。

（基礎工学類）

ト．すでに教養課程と専門課程の教育が融合された形のカリキュラムが組まれているが、さらに整理・統合あるいは拡充などによる改善を試みる。

（体育専門学群）

現在進行中の総合科目の改善を押し進め、教養課程教育の充実を図ることが考えられる。

（共通科目「情報処理」）

学生が興味をもち、情報処理の自分自身にとっての重要性を認識してこの科目を履修するには、授業の内容に対象学生（クラス）の専門性のある程度加味することが必要であり、「概論」での話題や「演習」の例題、課題は学生の専攻分野からできるだけ選ぶ努力が各担当教官によりなされているが、それを一層進める必要がある。そのためには、各分野の専門家も「情報処理」授業担当の定員として配分されることが望まれる。

「情報処理」は学生の計算機に対する心理的バリアを取り去ることには成功していると思われるが、各専門分野での計算機による情報処理の有用性を理解し、有効に利用する意欲をもたせるまでには到っていない。そのためには、なるべく多くの学生が情報処理の上級コースを履修できるようにする必要がある。さらに、計算機の利用時間と利用期間（学生の在学期間中）からみれ

ば、学生は必要なときにはほとんど常に計算機を利用できる状況にあり、専門科目にもその分野に適切な計算機利用を含むような内容がどしどし盛り込まれることを期待したい。また、教育用計算機で作動している授業支援システムをこのような多様な授業に対応出来るように改良していく必要がある。

V. 自由意見

(人文学類)

3年次を修了した段階で、大学院への進学之道が開かれたことは、専門教育が1・2年次においても今以上に重視される可能性を生むことになるだろう。こうした時代にこそ、一般教育の重要性を主張することで、バランスのとれた大学教育をめざすべきだと考えます。

(日本語・日本文学類)

教養課程教育の理想を追えば際限がない。専門教育の年限の限られている現状からして、また学問にも現実の生活にも急激な変化ないし進展が見られる現状にあっては、教養課程教育における学生の負担減を図ること、一方、外国語教育の充実を大幅に図ること、この一見相矛盾する問題の解決こそが今日の急務ではないだろうか。

(農林学類)

語学、体育は別にして、本学では総合科目を中心にしているが、この中には、一部自然、人文、社会の教科目をそれぞれ単独で講じる〇〇〇学、△△△学入門といったような開設科目があってもよいように思う。

(体育専門学群)

筑波大学では教養課程が設けられていないがそれに相当する共通科目の充実発展が望まれる。

そのためには、担当教官の責任体制を明確にすること、担当教官の教養課程教育に対する意識の向上を図る必要があると考えられる。

条件整備ということで、TA制度の充実が望まれる。

(共通科目「情報処理」)

○ 一般教育について

総合科目はかなり充実していると考えられるので、一般教育は従来の人文、社会、自然の3分野にわたる履修方法を一層充実発展させるべきであろう。それらの分野における教養課程教育は高校までの履修内容とあまり変りがないという批判が多いようであるが、高校までの教育内容は全ての教養の基礎であり、その内容の背後には如何に深い思想が蓄積されているかを一般教育科目により理解させるようにする。

また、外国語、国語の履修をとおして、文章の読解力と表現力を向上させる必要がある。「情報処理」の授業を進める際にも、マニュアル、資料、参考書を読みこなし、直面している問題を総合的に解決する能力と情報処理の結果を適切な文章で表現し、報告する能力の必要性が痛感される。

18. 宇都宮大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
教 育 学 部	101	310	19	
工 学 部	125	415	9	
農 学 部	98	273	10	
教 養 部	45			
そ の 他	4			
計	373	998	38	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 文学Ⅰ, 文学Ⅱ, 心理学, 心理学実験, 音楽, 美術, 文化論
	社会分野	法学, 政治学, 経済学, 社会学, 歴史学, 地理学
	自然分野	数学, 物理学, 物理学実験, 化学, 化学実験, 生物学, 生物学実験, 電算機教育(1), 電算機教育(2), 電算機演習, 地学, 地学実験
外国語科目		英語, 英語会話Ⅰ, 英語会話Ⅱ, 独語, 独語中級, 独語中級作文, 独語中級会話, 仏語, 仏語中級, 露語, 露語中級, 中国語, 中国語中級
保健体育科目		保健, 体育理論, 体育実技

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

- (1) クラス分け等による小人数教育（数学，電算機教育）
- (2) 3分野別の並列開講時間の設定
- (3) 専門科目との有機的関連教育（工学部学生向け数学，物理，化学）
- (4) 自然科学分野を主に，前・後期ごとの単位付与
- (5) ビデオ等視聴覚教材の活用及び施設見学（裁判の傍聴，栃木女子刑務所，企業，史跡等）の定期化
- (6) 小人数（10～25人）による「特別講義」（哲学，倫理学，文学，文化論，法学，経済学，歴史学，数学等）をセミナー形式で実施

ロ．外国語科目について

- (1) 50人を基本にクラス分け授業
- (2) 外国人教員，外国人教師，外国人講師の任用
- (3) 選択必修科目として，独語，仏語，露語，中国語の開設
- (4) 「英会話」「第二外国語」の各中級科目の開設
- (5) ビデオ等の視覚・聴覚教材の活用

ハ．保健体育科目について

- (1) 「実技」は，学年により目的別（運動量確保，生涯スポーツ）に種目を開講し，各クラスは3種目中より選択
- (2) 「実技」は，40～50人を基本にクラス分け授業
- (3) 「実技」「理論」を時季による分割授業
- (4) ビデオ教材の活用

ト．その他

- (1) 教養課程独自の修了認定は行わず4年間での履修を認めている（原則は2年間）
- (2) 専任の日本語担当教官が中心となって行う外国人留学生向け科目（「日本語」「日本事情」）の開設
- (3) 教育学部教官，保健管理センター教官の兼担による授業内容の多様化，充実

IV－2．改善の方向

検討中。

19. 群馬大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 数	備 考
教育学部	98	310	23	附属病院教官定員 117 名(外数)
医学部	156	100		
工学部	185	696		
教養部	50			
計	469	1,106	23	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	(総)中国の言葉と文化Ⅰ, (総)中国の言葉と文化Ⅱ, (総)ロシアの言葉と文化, (総)レトリック入門Ⅰ, (総)レトリック入門Ⅱ, 哲学, 倫理学, 文学, 心理学, 歴史学, 芸術
	社会分野	(総)現代社会状況論Ⅰ, (総)現代社会状況論Ⅱ, 法学, 政治学, 日本国憲法, 経済学, 社会学, 地理学, 教育学
	自然分野	(総)環境科学A, (総)環境科学B, (総)自然科学輪講, 数学, 数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 代数学概論, 微積分学, 微積分演習, 線形代数演習Ⅰ, 線形代数演習Ⅱ, 物理学, 物理学A, 物理実験, 物理学演習, 化学, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 化学実験, 化学演習, 生物学, 基礎生物学, 生物実験, 地学, 地学Ⅰ, 地学Ⅱ, 古生物学, 科学論, 天文学Ⅰ, 天文学Ⅱ, 農学Ⅰ, 農学Ⅱ
外国語科目		英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英会話Ⅰ, 英会話Ⅱ, 英語(自由講義), 独語Ⅰ, 独語Ⅱ, 独文法Ⅰ, 独文法Ⅱ, 独会話Ⅰ, 独会話Ⅱ, 独語(自由講義), 仏語Ⅰ, 仏語Ⅱ, 仏文法Ⅰ, 仏文法Ⅱ
保健体育科目		保健体育理論, 体育実技
基 礎 科 教 育	医学部	基礎数学, 基礎物理学, 基礎化学, 基礎生物学
	工学部	数学, 数学演習, 物理学, 物理学演習, 物理学実験, 化学, 化学演習, 化学実験

II. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

II-1. 調査報告書

① 『群馬大学教養部の現状と将来構想について』(昭和61年7月)

II-2. 案作成までの経緯と学内手続き等

イ. 案作成までの経緯と学内の手続き

群馬大学教養部教授会の諮問を受けて、昭和59年11月21日に「将来構想検討委員会」が発足した。本委員会は、次の二つの点を検討した。

第一に、大学が大衆化した今日、自主的に勉強する経験が少ない学生に対して、勉学意欲を引き出し自立的な思考力を養うためには、どのような教育方法が必要かといった一般教育の課題と改善の方向を探ること。

第二に、群馬大学教養部の現状分析を試み、それを踏まえて教養部の特徴ある将来構想を積極的に探ることである。

昭和59年12月5日に第1回目の委員会を開き、2年半の間に21回の委員会を開いた。昭和61年6月18日の教授会に最終答申案を提出し、同年7月11日第21回目の委員会で答申をまとめ、7月16日の教授会で了承された。

この間に在校生・卒業生1,037名に、教養課程についてのアンケート調査を行った（『報告書』資料2、p.31～69参照）。

ロ. 案作成に当たって、特に注意を要した事項

「将来構想検討委員会」に全教官が参加することに注意を払った。委員会の下に6分科会を設置し、全教官が参加することにした。分科会は次の通りである。

第1分科会——「アンケートの実施と問題提起」

第2分科会——「一般教育の現状分析と改善」

第3分科会——「少人数教育の意義と拡充」

第4分科会——「研究条件の保障」

第5分科会——「学部構想案の分析と展望」

第6分科会——「臨教審、放送大学への対応」

II-3. 既に実施している改善の試み

「入門的な総合科目の設置」を提言し、昭和62年10月21日の教授会で「総合科目について」の提案がなされ、「総合科目委員会」が設置された。昭和63年度より、専任教官を1人配置して総合科目の講義が開設された。昭和63年度の総合科目については、平成元年12月に報告が提出されている。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特色

イ. 一般教育科目について

単なる概論的な講義よりも、各教官の専門分野との関連において、より具体的なテーマを講義内容に選んでいる場合も多い。さらに、地域性、環境公害問題、個別分野における方法論なども一般教養教育で扱っている。

ロ. 外国語科目について

外国語科目との関連で、その言葉を母国語とする国の文化一般についても触れるようにし

ている。さらに外国人教師を積極的に採用する方向を考えている（現在はドイツ語に1名採用）。

ハ．保健体育科目について

個別、具体的なスポーツを比較的少人数のグループに分けて実施している。

従来の枠にとらわれず、軽スポーツ（ジョギング等）なども積極的に取り入れている。

ニ．総合コースについて

地球規模の環境問題をテーマにした環境科学A(1)を開設し、従来の個別自然科学にとられない広い意味での自然学を目指している。また、自然系の総合科目として、科学史的な要素を取り入れた輪講（自然科学輪講）を開設している。人文・社会系の総合科目としては、中国語、ロシア語の語学の講義を発展させた「中国の言葉と文化」「ロシアの言葉と文化」を開設している。

ホ．セミナーについて

本学では早くから自由講義という名称で少人数のセミナー形式の講義を開設している。これは、各教官が自分の専門分野の中から、テーマを自由に選択し、大学初年度の学生の知的要求にも十分応えられるように内容を吟味した上で、実施しているものである。少人数教育への学生のニーズに十分に答えるよう、開設数も30コマとなっている。

ヘ．基礎教育科目について

基礎教育科目は単に専門教育の基礎というだけではなく、広く自然科学一般基礎となるような内容を課している。

IV-2．改善の方向

イ．体験的学習の充実を図る

学生の多くは、中学・高校時代に受験勉強中心で過ごし、自然界や社会から隔離された生活をしてきた。従って、その中で得られた知識は、自然界や社会に起こっている事象と一致しない場合が多い。これを克服するために、演習・実験等を多く取り入れる。

ロ．セミナーを盛んにする

受け身の学習態度から、自主的・能動的学習へ変換させるために、セミナーを盛んにする。当部では、すでに、「自由講義」という形でセミナーを行っているが、これをさらに充実させていかなければならない。

ハ．総合科目の充実

物事をいろいろな側面から総合的にとらえる能力を持つことが大切である。

ニ．一般教育と専門教育の相互乗り入れを図る

現在、本学では、大学をあげて新学部構想を検討しているが、この新学部は、従来教養部が行ってきた一般教育を継承する。その際、新学部で開講する専門教育科目の一部について、他学部学生の聴講や一般教育科目への単位振替を可能にするなどによって、一般教育の

改善・向上を図り，また，既設の学部所属の専門科目担当教員も一般教育に協力する。この際，既設学部の専門教育科目の一部を他学部学生に一定条件下に開放し，それを一般教育科目の単位として振替えることにつき，検討を進める予定である。

20. 埼玉大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
教 養 学 部	37 ()	140	3	
教 育 学 部	118 ()	540	5	
経 済 学 部	33 ()	220	10	
理 学 部	65 ()	200	1	
工 学 部	108 ()	400	24	
教 養 部	58 ()			
計	419 ()	1,500	43	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	少人数講義	倫理学史文献講読, 異常心理学, 藤原定家百首和歌を読む, アメリカの短編小説, アメリカ小説と映画, サマーセット・モーム研究
	人文分野	哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学, 日本史, 東洋史, 西洋史, 国文学, 国語学, 言語学, 漢文学, 英米文学, ドイツ文学, フランス文学, 中国文学, ロシア文学, 音楽学, 美術学, 美術史, (総)日本及び日本人
	社会分野	法学, 政治学, 経済学, 社会学, 地理学, 社会思想史
	自然分野	数学, 物理学, 化学, 動物学, 植物学, 地学, 天文学, 気象学, 科学史, (総)海の科学, (総)埼玉の自然環境, (総)情報科学, (総)自然と人間の共存
		総合研究
日本語・日本事情		日本語Ⅰ, 日本語Ⅱ, 日本事情A, 日本事情B, 日本事情C, 日本事情D
外国語科目		英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 独語Ⅰ, 独語Ⅱ, 仏語Ⅰ, 仏語Ⅱ, 中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ, 露語Ⅰ, 露語Ⅱ
保健体育科目		実技Ⅰ, 実技Ⅱ, 理論Ⅰ, 理論Ⅱ

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

4年間にわたって聴講する「たて割り制」となっている。

ロ. 外国語科目について

1 科目必修制となっている。

ニ. 総合コースについて

「系列総合」としている。

ホ. セミナーについて

「少人数講義」としてセミナーの試みを早くから開始した。

IV-2. 改善の方向

「たて割り」の実質化、「フレッシュマン・セミナー」の導入、総合科目の拡大を軸として、カリキュラム改革の計画を検討中である。

21. 千葉大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
文 学 部	55 ()	180	16	附属病院教官定員 144 名 (外数)
教 育 学 部	219 ()	580	10	
法 経 学 部	77 ()	440	34	
理 学 部	66 ()	185	2	
医 学 部	186 ()	100	8	
薬 学 部	53 ()	80		
看 護 学 部	56 ()	85		
工 学 部	226 ()	795	38	
園 芸 学 部	88 ()	230	9	
教 養 部	121 ()			
計	1,147 ()	2,675	117	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 倫理学, 心理学, 歴史学, 文学, 美術, 音楽
	社会分野	法学Ⅰ, 法学Ⅱ, 政治学, 経済学, 社会学, 統計学, 地理学
	自然分野	数学, 数学A, 数学B, 物理学, 物理学実験, 化学, 化学実験, 生物学, 生物学実験, 地学Ⅰ, 地学Ⅱ, 地学実験
	総合科目 セミナー	(総合科目B) 地域科学, 自然史, 情報科学 (総合科目A) 第3惑星の科学, 地球環境の変容, エントロピー, 現象の 始まりと成長, 情報と計算機, 世紀転換期のドイツ文化, 東北日本と西南 日本, システムとしての生体を考える, 女性を考える, 形—右と左, 1920 年代のベルリンと東京, ホンモノとニセモノ, ルネッサンスの人々, 現代 都市政策, 人間について, アメリカ研究, 戦争と人間, 映像の社会学, フ ランス研究, 世界文学における女性像, 風土と文化, 東洋的無, 感覚—微 生物から人間まで, 琉球方言と周辺のことば, 性, ベルリン—昨日・今日 ・明日, 東南アジア地域研究, 水と地域, ロボットと人間, ロシアと東欧 を考える, 原子核と放射線 (セミナー) 現代資本主義をみる眼, ほか84科目
		英語, 英語共通, 英語LL, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅰ共通, ドイツ語ⅠL

外国語科目	L, ドイツ語 2, ドイツ語 2 共通, ドイツ語 2 LL, フランス語 1, フランス語会話 1, フランス語 2, フランス語 2 共通, フランス語会話 2, ロシア語 1, ロシア語 2, ロシア語会話
保健体育科目	体育理論, 保健教育, 体育実技
日本語・日本事情	日本語 1, 日本語 2, 日本事情 1, 日本事情 2
基礎教育科目 (医学部)	基礎物理学, 基礎生物学, 放射線物理学, 放射線生物学, 人類学

Ⅱ. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

Ⅱ-1. 調査報告書

- ① 『千葉大学教養部総合科目のこころみ』（昭和56年）
- ② 『千葉大学教養部総合科目のあゆみ』（昭和61年）
- ③ 『教養学部（仮称）設立構想の概要』（昭和61年4月）

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

「千葉地区大学一般教育研究会記録集（第3回，第5回）」参照。その他，「千葉大学教養部教員による大学教育関係文献目録」（平成2年3月現在）添付。

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ-1. 特色

ニ. 総合コースについて

毎年30題目前後の総合科目を開講している（「総合科目一覧」を参照）。

ホ. セミナーについて

「千葉大学におけるセミナーの開講状況と問題点」（「一般教育学会誌」（第5巻第2号（通巻第8号），昭和58年12月）参照。

Ⅳ-2. 改善の方向

- ロ. 総合科目を中心にした，一般教育の充実を図る。
- ハ. セミナーを中心にした，一般教育の充実を図る……必修化の可否を検討中。
- ヘ. 例えばコア科目など，従来の実施方法に囚われない方法の開発を考える……総合科目(ロ)を中心とした総合主題科目群を構想中。
- ト. 教養課程教育と専門教育とを融合させる方向で改善を試みる。

22. 東京大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生数	備 考
後 期 専 門 課 程	法 学 部	147 ()	655	
	医 学 部	218 ()	143	
	工 学 部	649 ()	1,003	
	文 学 部	161 ()	350	
	理 学 部	373 ()	285	
	農 学 部	274 ()	300	
	経 済 学 部	95 ()	385	
	教 育 学 部	42 ()	85	
	薬 学 部	64 ()	70	
前期(教養)課程	※ 385 ()	140	4	※ 教養課程担当教官と専門課程担当教官を明確に区別していない。
		—	21	
計	2,408 ()	3,416	44	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学概説, 哲学史, 論理学, 倫理学, 哲学(一般), 心理学, 教育学, 日本史, 東洋史, 西洋史, 歴史学(一般), 人文地理学, 人類学, 国文学, 国語, 漢文, 外国文学, 文学(一般), 人文科学(一般)
	社会分野	法学, 政治学, 経済学, 統計学, 社会学, 社会思想史, 国際関係論
	自然分野	数学, 物理学, 物理学実験, 化学, 化学実験, 地学, 地学実習, 生物学, 生物学実験, 情報・図学, 情報・図学実習, 情報処理, 科学史, 解析学Ⅰ, 解析学Ⅱ, 物理学Ⅱ, 現代物理学, 化学Ⅱ, 生物科学, 工学, 自然科学(一般)
	その他	総合コース, 一般教育演習, ゼミナール形式の少人数講義
外国語科目		英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, ロシア語, スペイン語, イタリア語, ギリシャ語, ラテン語, 朝鮮語, アラビア語, インドネシア語, ヒンディー語, トルコ語
保健体育科目		体育講義, 体育実技
		憲法第1部, 民法第1部, 刑法第1部, 政治過程論, 法学史, 経済史, 経

2年次で履修できる専門科目	済理論A(I), 経済理論B(I), 中国哲学史, 宗教学概説, 美学芸術学特殊講義, 中国文学史概説, 印度文学史概説, 印度語学概論第1部(I), 西洋近代文学概論, イタリア語学イタリア文学特殊講義, 教育原理I, 教育心理
---------------	---

II. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

現在, 検討中。

III. 教養課程教育の個々の改善についての試み

外国語科で, 以下の「外国語教育の改善」を実施を前提に検討中。

外国語教育の改善

1. 第一外国語(英語)

- a. 異なる方式による2つのコースを設ける。

英語I=統一カリキュラムに基づき, 放送機器を用いる多人数クラス

英語II=多様な授業内容を準備し, 学生のクラス選択を認める小人数クラス

(英語IIの中に文科系2年生の選択できる英語IIIを置き, 専門課程進学に備えての専門基礎教育としての内容を盛り込むことも考えられる。)

- b. 英語IIには隣接教室や他科の教官の教育への参加もありうる。また外国語教官が人文科学・社会科学の科目を担当することもありうる。

2. 第二外国語・第三外国語

- a. 第一外国語・第二外国語・第三外国語の隔壁を薄くする。例えば, 第三外国語の単位の一部を第二外国語の単位として認める。
- b. 第二外国語重点クラスを設ける。
- c. アラビア語と朝鮮語を第二外国語に加える。
- d. 理科の第二外国語にも, 中国語・スペイン語のクラスを設ける。
- e. 専門教育の基礎教育としての意味を明確にした授業も行う。
- f. 第三外国語のメニューを豊富にし, 内容を拡充する。
- g. 言語文化センターの研究センターへの改組により, 教養学部における外国語の研究と教育の拡充・活性化を図る。

英語教育の改善について

1. 英語教育の到達目標

- 1) 英語を専門研究や学術交流の場などで実際に運用していくための基礎能力・応用能力の全体的向上を図る。

入学してくる学生の多くは, 英語の聴解力, 英語による表現力が乏しいばかりでなく,

読解力も必ずしも十分とはいえず、また語彙も相当限られている。語彙の増大など英語に関する基本的知識の拡大を図りつつ、さまざまな場での英語の実践的使用を可能にする基本的能力を身につけさせる。

- 2) 国際的に開かれた教養の深化をめざす外国語教育の一環として、英語を通じて他文化理解能力の涵養を図る。

英語を母語とする国々、地域の文化のみならず、国際語としての様相をますます強めつつある英語を通じて接することのできる世界の諸地域の文化への、開かれた眼を育てていく。

2. 英語の授業形態

- 1) 限られた授業時間数、限られた教官数という条件のもとで、上記の目標を追求していくために、異なる方式による2つのコース（①統一カリキュラムに基づき放送機器を用いる多人数クラス、以下英語Ⅰと呼ぶ、②多様な授業内容を準備し学生のクラス選択を認める小人数クラス、以下英語Ⅱと呼ぶ）を設定し、その2コースがあいまって学生の能力向上に資するようにする。さらに文科系の2年生は英語Ⅲ（第二外国語との選択コース）をも受講しうる。
- 2) 英語Ⅰについては、東京大学入学者の英語力の現状を考慮して、東京大学教養学部独自の統一教材を作成していく。それに基づいて、学生が高等学校までで学んできている基礎的知識の補強を図りつつ、大学生らしい英語力を身につけさせるための、英語の諸側面に関するより高度の知識の伝達を行うと共に、聴解力の強化に特に力点を置いた運用能力の訓練を行う。また、英語の社会的・歴史的・文化的側面に関してもさまざまな形で教授していく。
- 3) 英語Ⅰは、放送機器（テレビジョン）を利用して、いっせいにを行う。英語Ⅱで小人数クラスを数多く設置するため、現在の教官数では、英語Ⅰに当たって各教室に教官を配備することは不可能であり、英語Ⅰの授業本体は全体として放送授業の形をとる。但し、その形態は放送大学方式とは異なり、スタジオからの生放送となる。また、学生に質問の機会などを与えるための特別の時間設定などの配慮も払われる。このような英語Ⅰの授業のスムーズな運営のためには、パートタイムのアシスタントの導入が強く望まれる。
- 4) 英語Ⅱは、30人前後の規模（ライティング・クラスの場合にはさらに小数）の小人数クラスで行われ、多様なメニュー（講読、ドリル＝ラボを活用した授業、ライティング、英語によるセミナーなど）の中から、学生の希望をできる限り生かす形で、学生に選択させる。英語Ⅰが全体的な基礎能力の育成をめざしていく一方で、英語Ⅱは学生が自分の特に伸ばしたいと思う能力や特に自分に欠けていると考える能力を重点的に鍛えていくことを目的とする。
- 5) 英語Ⅱはまた、大学院、教養学科、一般教育の三層から成る構造を持つ教養学部において、幅広い領域の専門研究に従事する教官が、自らの資質を生かしつつ高度の語学授業を行うという場ともなる。学生は多様な授業編成の中から、それぞれの能力と関心に応じてクラス

を選択することにより、小規模クラスでのみ可能な、より高度の訓練を受けることが可能になる。

- 6) 英語Ⅱにおいて、あるいは文科系2年生がとることのできる英語Ⅲにおいては、専門課程進学に備えての専門基礎教育としての内容を盛り込むこともできる。英語Ⅲにおいては特にその面が重視される。

3. 英語教育改革の従来の経過と今後のプロセス

- 1) 教養学部英語教室は、2年生を対象とする小人数クラスの導入や、入学試験におけるヒアリング・テストの実施など、従来も英語教育の充実のために改革の試みを行ってきた。今回の改革は、そのような従来の経験を踏まえた上で、現代社会の中で英語教育に寄せられているさまざまな要望にできる限りこたえていくことをめざして、取り組まれる。
- 2) この改革は一挙に実現できるものではなく、いろいろな作業（例えば、学生の語彙力を判断するための語彙テストなど）を積み重ねていく必要がある。特に英語Ⅰに関しては、放送の仕方、成績評価の方法、統一教材の内容などについて、不断の改良を重ねていかなければならない。英語教室の総力をあげての努力によって、改革を進めていく所存である。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特色

本学部における教養課程教育の最大の特色は、本学部が創設以来、一般教育等に全的責任を有する国立大学唯一の学部として、早くから学科目の講座制への転換を図り、講座に所属する専門の教官によって一般教育等をも担当せしむることにより、教養課程の教育の充実に寄与していることである。

また、本学部では一般教育の充実をはかるため、学科目に所属する教官と講座に所属する専門の教官を、すべて人文科学科、社会科学科、自然科学科、外国語科及び体育科に所属させる5科体制をとり、それぞれ責任を持って教育に当たっていることである。

個々の特色については、以下のとおりである。

イ. 一般教育科目について

(人文科学科)

本学部においては一般教育を担当する教官が、ほとんどみな専門教育あるいは大学院教育の担当者であり、従って概論的な講義よりも個別具体的な問題を深く掘りさげてゆく講義が主流をなしている。このような講義の利点は、これまでの高校教育とは質的に異なる学習を経験させ、専門教育を受ける際の方法的・精神的な準備を行えることにある。

(社会科学科)

- (1) 本学一般教育科目の社会科学では、法学、政治学、経済学、統計学、社会学、社会思想史、国際関係論の7科目を開講している。開講する時間帯は、全体の時間割りの制約の限度内で、

学生ができるだけ多くの選択肢の中から選べるよう配慮している。

- (2) 社会科学の授業は、全ていわゆる大教室授業となっており、教師と学生との関係が疎遠になりがちであるが、各教官は一般教育ゼミナールを開いて、一方通行的講義の欠陥を補う努力を払っている。

- (3) OHP, スライドの利用を一部科目で推進している。

(自然科学科)

本学は横割りのシステムを採用しているため、すべての学生が、可能的にはいずれの専門にも進むことができることになっている。そのため理科生においては、どの専門に進んでも支障を来さないため、設置基準を大幅に上回る必修科目を課している。内容的には実験を重視し、多人数教育に対応するため最新の機器による視聴覚教育を実施している。

また、大学院・専門教育に従事する教官が一般教育を担当しているため、いずれの分野でも最先端の研究成果を盛り込むことができる。最近の改善では、図学教育に加えて情報処理の基礎教育を文・理科生ともに実施している。

ロ. 外国語科目について

(外国語科)

1. 大学設置基準に定められている1単位についての履修時間を、大幅に上回る履修時間のカリキュラムを定め、特に重点を置いて教育している。
2. 二か国語を全学生に必修させるとともに、さらに数多くの第三語学(13か国語)を開講して、学生の多様な要求に応えている。
3. 言語文化センターにおける視聴覚教育用施設を中心に reading, hearing, speaking 等にバランスのとれた語学教育を施している。
4. 第一語学(英語)においては小人数クラスを設け、writing, hearing 等のドリルを行っている。
5. 外国語を実際に運用するための教育に重点をおくと共に、当該外国語を使用する社会・文化についての理解を涵養することに意を用いている。

ハ. 保健体育科目について

(保健体育科)

(1) 体育実技

- (i) 前期課程において、4学期間週一回(2時間)ずつ必修科目として課している。
- (ii) 受講者の健康状態、体力のレベル別にグループ分けして指導を行っている。
 - 病弱者に対しては、医師免許状をもった教官が、受講者の病状(例えば内科的疾患、運動器障害等)によってさらに区分した小グループ(10人以内)を担当し、個別的な指導を行っている。
 - また、健常者で体力低位者に対しては、とくに第1学年において、体力向上を主たる目

的とした授業内容で指導を行っている。

(イ) 後期課程（第3・4学年）の学生に対しても、一部選択科目として履修しうるように授業時間を設けている。

(2) 保健体育講義

一箇学期2時間（2単位）を必修として課しているが、それぞれのクラスについて保健論（スポーツ医学等）、体力論（運動生理学、バイオメカニクス等）、体育論（体育原理、スポーツ史、スポーツ心理学等）の3分野をそれぞれの専門領域担当の教官が分担して講じている。

ニ. 総合コースについて

大きなテーマを取り上げて、諸分野の学内・学外の専門家が総合的に講義等を行う「総合コース」を開設している。

テーマの例：「世界の中の日本」「言語——伝達と思考」「バイオテクノロジーと現代文明」等

なお、「全学一般教育ゼミナール」及び「総合コース」とも今後内容を一層充実し、開講数も増やしていくことを検討している。

ホ. 全学一般教育ゼミナールについて

第一学期から専門的研究の一端に触れるとともに全学的に教官に接する機会をつくるため、各学部・各研究所の教官が行う「全学一般教育ゼミナール」を毎学期約150前後開講している。

IV-2. 改善の方向

（人文科学科）

前項の特色をさらに発展させるために小人数のゼミナールを量的にも質的にもより一層充実させ、学生一人ひとりが課題を持って学習に努める体制を作りたい。

（社会科学科）

(1) 統計学を通年4単位から、基礎統計2単位、応用統計2単位に分け、後者で複数の選択肢を用意する。

(2) 大教室での一方的講義では教育効果が特に問題視されている統計学で、パソコンを利用する情報処理の授業を導入して授業の緊密化を図る。ないし、統計学から情報処理を分化させる。ただしここでいう情報処理とは情報処理言語とハードウェアの理解を意味せず、重点は専門教育における多様なニーズに応えるための広範な領域をさす。

(3) 少人数授業をいくつかの科目で開講する。

(4) AV機器の利用、特にビデオ教材の利用を進める。

（自然科学科）

カリキュラムの全面的な再検討

1. 各科目のカリキュラムを調整し、科目間の連絡を緊密にする。

2. 境界領域を扱う科目をカリキュラムの中に位置づける。
3. 専門教育を担当する諸部局との連絡を密にし、専門教育の基礎となるカリキュラムの整備を図る。
4. 時代の要請・学問の進歩に応え、一般教育の中に新しい視点に立った科目を導入する。

(外国語科)

Ⅲの「外国語の改善」を参照。

(保健体育科)

- (1) 現行のグループ別の指導方法を更に緻密化する。

例えば健常者の中でも体力が高く、比較的恒常的な運動習慣を有する受講者（例えば運動クラブに所属する学生）のグループを設け、これに対して適切な実技及び理論の指導を行う。

- (2) 第3・4学年に対する選択制実技授業の拡充

- (3) 体育施設の充実と相まって、新たに、従来不可能であった実技指導を実施する。

例えば、室内プールを設け、健常者のみならず運動器障害者に対しても、年間を通した水泳の授業を行う。周知のように水泳は年齢、性別等を問わず、健康を目的として行う生涯スポーツとしては最も適切である。

V. 自由意見

(人文科学科)

一般教育の軽視、とりわけ理科生に対する人文科学・社会科学教育を軽視する風潮は警戒すべきであり、科学技術の発展が社会全体に巨大な影響を与えている現状においては、かえって重視しなければならないと考える。

(社会科学科)

社会科学諸科目の講義は、法学部あるいは経済学部での大教室講義の様式でよしとする見方（ないし暗黙の前提）があるように思える。しかし一般教育では、学生の関心の引き出しや学生との討論をつうじての「知識の提供よりも考え方の訓練」こそが重要である。内容の濃い社会科学の授業を実現するためには、外国語や自然科学に準ずる少人数授業体制の確立が必要である。

(自然科学科)

最近の科学の急速な進歩に伴い、新しい実験種目を採用する必要にせまられている。このための予算や人員（助手、技術職員）の早急な手当てが望まれる。

(外国語科)

従来から本学においては外国語教育の重要性が強調されてきたが、国際化の時代に備え、少なくとも基幹的大学においては人員、設備、予算等を含め外国語教育を一層充実していくことが必要である。特に前記掲載の第一外国語改善案を実現するためには、必要な予算措置を講ずることが望まれる。

また、従来の西欧語中心を改め、アジア・アフリカの諸言語を開講することも重要である。
(保健体育科)

〔国立大学の体育施設の改善について〕

現在の国立大学の体育施設は量的にもさることながら、質的に極めて低位である。これは文部省の国立大学体育施設設置に関する基準（特に教養課程について）の古さに起因すると思われる、その速やかな改善が望まれる。

周知のように21世紀は健康・老化等の問題が深刻化すると予測されており、運動習慣の育成はこれらの問題の軽減化の有力な手段と考えられている。21世紀の社会の指導者となるべき国立大学の学生には、この点に関する良識、良習慣を育む運動環境が与えられるべきである。

2・3の例をあげると、

- ① 体育館には中央暖房設備を施さないことになっているが、これは病弱者を含む一般体育用の施設としては不適切であり、また健常者を対象とした場合でも、冬季の授業効率、障害防止等の点から、通常の教室なみの中央暖房設備を施すことが必要である。
- ② 水泳が生涯スポーツとして最も適切であることは前述の通りであるが、青年時にこれを習慣化するためには室内プールが不可欠である。しかるに国立大学教養課程の体育施設基準の中には室内プールは含まれていない。これは甚だ時代おくれである。
- ③ 室内体育施設面積基準の引き上げが必要である。
 - (イ) 室内施設を使用する授業は、屋外施設のそれに比して天候に左右されず、授業計画の遂行が容易である。
 - (ロ) 単位面積当りの受講学生数は室内種目においては屋外種目のそれに比して5～10倍である。
 - (ハ) 日本の地価を考えると屋外運動場の拡充は非常に困難であり、且つ室内施設は多層化が可能である。

以上の諸条件を考えると、今後、国立大学の体育施設（正課体育用）はトレーニング場、体育館、プール等の室内体育施設を重視すべきであるが、現在の面積基準は非常に低い。

また屋外施設については、グラウンド面の全天候用化、夜間照明設備の設置等質の向上をはかり、効用効率の向上と地域における生涯スポーツへの貢献を考慮すべきである。

23. 東京医科歯科大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 数	備 考
医 学 部	179 ()	160	3 (医学科)	附属病院教官定員106名 (外数)
歯 学 部	170 ()	80	0	附属病院教官定員56名 (外数)
教 養 部	27			
計	376 ()	240	3	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 心理学Ⅰ, 心理学Ⅱ, 歴史学, 文学, 芸術, 科学史
	社会分野	法学, 政治学, 経済学, 統計学Ⅰ, 社会学Ⅰ, 社会学Ⅱ, 社会心理学, 社会思想史, 文化人類学, 教育学Ⅰ
	自然分野	数学Ⅰ, 数学実習, 物理学Ⅰ, 物理学実験, 化学Ⅰ, 化学実験, 生物学, 生物学実験, 情報通信科学
	セミナー	S心理学, S歴史学, S文化人類学, S社会思想史
外国語科目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ ラテン語	
保健体育科目	保健体育講義, 保健体育実技	
日本語・日本事情	日本語, 日本事情	
基礎教育科目 (医学部, 歯学部)	医学概説, 歯学概説, 数学Ⅱ, 物理学Ⅱ, 化学Ⅱ, 生物学Ⅱ	
専門教育科目 (医学部保健衛生学科)	看護学原論, 看護方法	

III. 教養課程教育の個々の改善についての試み

検討中。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

ロ. 外国語科目について

外国語クラスの少人数化により実践的語学力養成のための授業形態の改善をはかる。

ホ. セミナーについて

通常の授業科目以外にセミナー形式を多く開講。

へ．基礎専門，基礎教育科目について

基礎教育科目の一部として医学概説，歯学概説を開講する。

ト．その他（論述作文など）について

教養課程修了に必要な単位数を削減（85単位→68単位）し，修得単位の形骸化から実質を伴う単位認定を行う。

IV－2．改善の方向

現在，教養部将来計画委員会において，一般教育の方向づけを検討中であるが具体的な方向はまだ出ていない。

24. 東京外国語大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学 生 留 数	備 考
外国語学部	147 (23)	721	129	
計	147 (23)	721	129	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 教育学, 文学, 言語学, 歴史学, 人文地理学
	社会分野	社会科学概論, 社会学, 法学, 日本国憲法, 政治学, 経済学, 経営学
	自然分野	自然科学概論, 数学, 情報科学, 物理学, 人類学, 心理学
	総合科目	文化人類学
外国語科目	英語, 英語初級, 英語中級, フランス語初級, フランス語上級, ドイツ語初級, ドイツ語上級, ロシア語初級, ロシア語上級, スペイン語初級, スペイン語上級, 中国語初級, 中国語上級	
保健体育科目	保健体育講義, 体育実技	
基礎教育科目	日本語, コミュニケーション論, 比較政治学, 人類言語学, 日本社会文化論, 社会思想史, 国際関係概論, アメリカの政治と外交, 国際法概論, 日本経済論, 世界経済論	
1・2年次で履修 できる 前期専攻語学科目	英米史, 英米事情概説, フランス史, イタリア史, ドイツ事情概説, スペイン事情概説, 中南米事情概説, ブラジル史, 中国事情概説, 朝鮮事情概説, モンゴル事情概説, インド・パキスタン史, マレーシア事情概説, インドシナ事情概説, アラブ事情概説, イラン事情概説, 日本事情概説	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

ロ. 外国語科目について

英語, フランス語, ドイツ語, スペイン語, ロシア語, 中国語の6ヶ国語を開設している。

ニ. 総合コースについて

実施していない。

ホ. セミナーについて

実施していない。

へ。基礎専門，基礎教育科目について

後期（3，4年次）で履修する専門科目の基礎として前期学生のために開設している。

IV－2．今後の改善計画

総合科目を充実させる。

外国語科目の開設数を増やす。

教養課程教育と専門教育とを融合させる方策を検討中。

25. 東京学芸大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学 生 留 数	備 考
教 育 学 部	379 (48)	1,215	10	教養課程担当教官と専門課程担当教官を区別していない。
保健管理センタ－	2 ()			主として一般教育を担当する部局ではないが、一般教育を担当する教官もいる。
海外子女教育センター	5 ()			
計	386 (48)	1,215	10	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	文学Ⅰ，文学Ⅱ，言語，歴史Ⅰ，歴史Ⅱ，音楽学，造形芸術学，演劇学，哲学Ⅰ，哲学Ⅱ
	社会分野	日本国憲法，私法Ⅰ，私法Ⅱ，社会学，経済学，地理学，産業と企業，教育学Ⅰ，教育学Ⅱ，図書館情報学
	自然分野	数学A，数学B，一般物理学，一般化学，一般生物学，一般地学，自然科学Ⅰ，自然科学Ⅱ，自然科学Ⅲ，自然科学Ⅳ
外国語科目		一般英語Ⅰ，一般英語Ⅱ，一般英語Ⅲ，一般英語Ⅳ，一般英語Ⅴ，一般英語Ⅵ，一般英語A，一般英語B，一般英語C，一般英語D，一般ドイツ語Ⅰ，一般ドイツ語Ⅱ，一般ドイツ語Ⅲ，一般ドイツ語Ⅳ，一般ドイツ語Ⅴ，一般ドイツ語Ⅵ，一般フランス語Ⅰ，一般フランス語Ⅱ，一般フランス語Ⅲ，一般フランス語Ⅳ，一般フランス語Ⅴ，一般フランス語Ⅵ，一般中国語Ⅰ，一般中国語Ⅱ，一般中国語Ⅲ，一般中国語Ⅳ，一般中国Ⅴ，一般中国語Ⅵ，一般ロシア語Ⅴ，一般ロシア語Ⅵ，一般朝鮮語Ⅴ，一般朝鮮語Ⅵ
保健体育科目		保健体育理論Ⅰ，保健体育理論Ⅱ，体育実技Ⅰ，体育実技Ⅱ，体育実技Ⅲ
日本語科目 日本事情に 関する科目		日本語Ⅰ，日本語Ⅱ，日本語Ⅲ，日本語Ⅳ，日本語演習A，日本語演習B 日本語演習C，日本語文法，日本古典講読，日本語入門 日本事情・日本文化Ⅰ，日本事情・日本文化Ⅱ 日本事情・日本文化Ⅲ，日本事情・日本文化Ⅳ
(教育系) 専門共通科目		環境教育，野外教育法，性教育の理論と実際，ストレスと健康，科学史・技術史，情報科学基礎論，異文化と人間，障害児の発達と教育，現代社会論Ⅰ，現代社会論Ⅱ，現代社会論Ⅲ，国際教育，情報技術と教育，人間の発達と教育，現代教育の諸問題

(教養系) 課程基礎科目	世界の中の日本，日本文化史，地域研究，生涯教育基礎論，人間形成の心理学，社会基礎論，生涯スポーツ論，健康とスポーツ，科学史，情報科学概論，環境概論，芸術史，美術，芸術総合論，芸術理論
-----------------	---

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

全学選択制を昭和54年から導入した。

全学教官が一般教育を担当する。

ロ. 外国語科目について

第一外国語の言語に選択制を導した。

第二外国語の言語（ロシア語，中国語，朝鮮語）の数を増やした。

ハ. 保健体育科目について

種目のシーズン性と学外施設利用の点から集中履修方式を導入した。

ニ. 総合コースについて

2分野以上にまたがる主題の追究から，昭和55年から毎年1～4科目（下表参照）を開講している。

総合科目の開設について	
昭和55年度：	「人間と音声」「障害児論」「一般環境科学」
昭和56年度：	「音と生きものの生活」「障害児論」
昭和57年度：	「野外教育」「環境教育」「人間と性」「障害児論」
昭和58年度：	「野外教育」「環境教育」「人間と性」
昭和59年度：	「野外教育」「人間と性」「環境教育」
昭和60年度：	「環境教育」
昭和61年度：	「環境教育」「野外教育」
昭和62年度：	「環境教育」「野外教育」
昭和63年度～平成2年度：	「環境教育」「野外教育」「性教育の理論と実際」

IV-2. 改善の方向

教育職員免許法の改正に伴い，平成2年度より教育系のカリキュラムを全面改訂した。目下のところ，教養課程教育と専門教育との一層の融合について改善する方向で検討中である。

26. 東京農工大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 数	備 考
農 学 部	192 (27)	345	14	※教官定員数(2.6.8現在) ※(50)は第3年次特別編入学定員で 外数
工 学 部	224 (38)	575 (50)	63	
計	416 (65)	920 (50)	77	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 倫理学, 心理学, 歴史学, 文学, 美学・美術史, 文化人類学, 技術史
	社会分野	経済学, 統計学, 社会学, 法学, 社会思想史, 教育学, 政治学, 国際関係論
	自然分野	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 物理学, 一般物理学演習, 化学, 化学実験, 生物学, 生物学実験, 地学, 地学実験, 生物学特別研究
	総合科目	形とデザイン
外国語科目		口語英語, 英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 独語Ⅰ, 独語Ⅱ, 独語Ⅲ, 独語Ⅳ, 独語会話Ⅰ, 独語会話Ⅱ, 仏語Ⅰ, 仏語Ⅱ, 仏語Ⅲ, 仏語Ⅳ, 露語
保健体育科目		保健体育理論, 体育実技Ⅰ, 体育実技Ⅱ
日本語・日本事情		日本語Ⅰ, 日本語Ⅱ, 日本事情Ⅰ, 日本事情Ⅱ
一専 年門 次教 育開 講科 目	農学部	農業史, 物理化学, 有機化学, 微生物学, 応用生物科学概論, 環境及び自然保護論, 森林科学論, 生産環境工学論, 情報処理論, 獣医学概論
	工学部	解析学, 物質生命工学論, 機械システム工学論, 電子情報工学論

II. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

II-1. 調査報告書

- ① 『一般教育の改革に向けて』(昭和58年3月)
- ② 『人間自然科学部創設趣意書』(昭和63年3月)

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

- イ. 一般教育科目について

本学は理科技術系大学であることを踏まえて、人文科学において技術史（歴史学）、社会科学において統計学と国際関係論（社会学）なども開講している。又、数学においては、工学部学生について教養数学と基礎専門数学の一貫性を重視し、行っている。

ロ．外国語科目について

これまで一貫して少人数教育と口語（英語・ドイツ語）教育を行っている。又、本年度から、視聴覚（ビデオを用いた作文教育）を取り入れた新たな教育方法の試行も行われる。

ハ．保健体育科目について

保健体育理論の授業は教官単位の開講を行い、学生が選択するという形式を採用し、特色を出している。又、体育実技も、サッカー、テニス、空手、ヨガ、剣道、ハンドボールなど種目の充実をはかっている。

ニ．総合コースについて

前期・後期の各2単位の総合科目を開講している。これまでの総合科目はそれぞれを文科系と理科系の内容のテーマとして分けていたが、本年度は文科・理科系の垣根を取り払い、統一的なテーマとして「形とデザイン」を行うことになった。

ホ．セミナーについて

各分野において、個人的なセミナーは多く行われている。更に、生物学においては、「生物学特別研究」を開講し、セミナーの単位化（2～6単位）を行っている。

ヘ．基礎専門、基礎教育科目について

現在、社会学が2単位、統計学が4単位、数学が72単位分、物理学が8単位分、化学が16単位分、生物学が2単位分の専門基礎教育を行っている。

IV-2. 改善の方向

この数年来の学部改組（農学部・工学部）が進行し、又、一般教育部の人間自然科学部創設の議論もあり、一般教育部における教育改善の議論がなされ始めている。更に、本年度から、専任のフランス語教官が赴任し、ドイツ語との時間割の関係をどうするのかという問題から、時間割変更の議論が始まった。ここでは魅力のある一般教育の新たな模索の議論が行われた。以下に、教育改善のための議論の主要点をまとめる。

(i) 一般教育の特徴である総合性や学際性の教育の試み

(ii) 外国語の多様性の試み

(iii) 各学問分野（各教科科目）の授業時間を帯化することによる授業形態の多様性の試み

従って、来期以降の時間割編成において、以下の3つの考えを基にして作製することになった。

(A) 総合科目を4時限目以内に設定する。

(B) ドイツ語とフランス語を同一授業時間帯として組む。

(C) 授業時間帯をなるべく帯時間帯にする。

このような試行により、総合科目の定着、外国語教育の多様化、更に、画一的でない教養教育（例えば、帯時間化により、クラス別ではなく、教科内容の多様性と学生の選択権が拡大される）などが期待される。

27. 東京芸術大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学 生 留 数	備 考
美術学部	103 (6)	230	0	
音楽学部	89 (9)	247	0	
計	192 (15)	477	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

(美術学部)

一般 教 育 科 目	人文分野	倫理学, 哲学, *宗教学, 美学概論, 音楽, 日本文学, *西洋文学Ⅰ, 文化芸術論, デザイン概論Ⅰ, 建築概論, 工芸論
	人文・社会	考古学, *思想史, 日本・東洋思想史, 文化人類学, 文化史, 美学史概説, 日本美術史概説, 東洋美術史概説, 西洋美術史概説, 日本工芸史概説, 西洋工芸史概説, 日本・東洋建築史概説, 西洋建築史
	社会分野	法学, *経済学, 社会学, *歴史
	自然分野	化学, 自然科学, 心理学(芸術心理), 生物(生態学), 図学
	自然・人文	色彩学Ⅰ, 色彩学Ⅱ, 色彩形態学, 美術解剖学(骨), 美術解剖学(筋)
	総合講義	人間と文化
外国 語 科 目	一 般	英語初級, 独語初級, 仏語初級, 伊語初級
	専 門	英語中級, 独語中級, 仏語中級, 伊語中級, 英語上級, 独語上級, 仏語上級, オランダ語, ギリシャ語
	言語・音声 トレーニング センター	英会話Ⅰ, 英会話Ⅱ, 英会話Ⅲ, 英語作文Ⅱ, 独語会話Ⅰ, 独語作文Ⅱ, 独語基礎演習, 仏語基礎演習, 仏語原典指導, 伊語会話Ⅰ, 伊語作文Ⅰ, 伊語原典指導
保健体育科目		保健理論, 体育講義, 体育実技
基礎教育科目		古美術研究, 絵画技法史・絵画材料論, 日本彫刻史, 西洋彫刻史Ⅰ, 西洋彫刻史Ⅱ, 日本金工史, 金属材料および実験, 建築史, 化学塗装法, 化学塗装法実験, 東洋陶磁史, 陶磁原科学, 染織工芸史, 染色化学, 舞台美術, 映像デザイン概論
学部共通専門科目		現代芸術論

* 音楽学部開設の授業科目

(音楽学部)

一般教育科目	人文分野	美学, 日本文学, 美術, 西洋文学Ⅰ, 西洋文学Ⅱ, *哲学, *倫理学, 思想史, 宗教学, 邦楽鑑賞法, *文化芸術論
	社会分野	*社会学, *文化人類学, 法学, 歴史, *文化史, 経済学
	自然分野	心理学概説, *自然科学, 音響学, 音響生理学, 楽器学
		総合講義
外国語科目	一般・専門	英語初級, 英語中級, 英語上級, 独語初級, 独語中級, 独語上級, 仏語初級, 仏語中級, 仏語上級, 伊語初級, 伊語中級, 伊語上級, 露語初級, 露語中級, 露語上級, ギリシャ語, 語学演習(オランダ語)
	言語・音声 トレ・セン	会話Ⅰ, 会話Ⅱ, 会話Ⅲ, 作文Ⅰ, 作文Ⅱ, 基礎演習, ドイツ・リート歌詞演習
保健体育科目		保健理論, 体育理論, 体育実技
基礎教育科目		作曲家・作品研究A, 作曲家・作品研究B, 作曲家・作品研究C, 作曲家・作品研究D, 声楽史A, 声楽史B, オペラ史, 鍵盤音楽史A, 鍵盤音楽史B, 室内楽史, 管弦楽史, 音楽演奏史, 邦楽概論A, 邦楽概論B, 邦楽概論C, 邦楽概論D, 音楽理論史, 音楽思想史, ジャズ・ポピュラー音楽, 楽曲分析, ピアノ伴奏理論, ピアノ教授法, 専攻外邦楽, 対位法, 管弦楽理論, 管弦楽法, 楽式原論, 電子音楽概論, 電子音楽法, AVメディア, 音楽総合解析, 鍵盤楽器演奏法

* 美術学部開設の授業科目

Ⅱ. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

本学では学長から諮問された「我が国における芸術教育のあり方について——高校入学時から大学院修了まで——」に関して東京芸術大学学制審議会において、現在審議検討中である。

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

上記Ⅱに同じ

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ-1. 特色

イ. 一般教育科目について

本学は、美術と音楽の専門家を養成する大学ですから、その一般教育については二つの要請があります。一つは専門性にとらわれない広い視野を養うことと、一つは専門教育に役立つということです。履修便覧にはっきり見られるように、美術学部では美術解剖学等、音楽学部では自然分野に音響学等、専門科目の基礎となるようなものが多く取り入れられているのが現状である。

ロ. 外国語科目について

外国語科目はメニューが豊富で、広い語学的教養が得られるよう配慮されている。特に音楽

学部では声楽科・楽理科等の専門教育の一部として時間を割り当て、コース制を設けるなどして、こまやかな対応をしています。更に「東京芸術大学言語・音声トレーニングセンター」では外国人教師等を擁し、生の外国語の教育に実を上げています。

ハ．保健体育科目について

音楽学部の専門実技の個人レッスン等、複雑な時間割りを考慮して、柔軟な駒組みをしています。スポーツの面白さを教えるだけでなく、芸術的身体表現の基礎も養えるようになっています。

ニ．総合コースについて

総合講義は人文・社会・自然の3分野にまたがり、年々特定のテーマについて複数の教官が、それぞれ専門の立場から講義するのが原則ですが、専門実技の教官の協力を得て、人間としていかに国際観をもって芸術をとらえるかなどについて語ってもらう場になっています。

ホ．基礎専門、基礎教育科目について

美術学部・音楽学部の履修便覧に明らかなように、基礎教育科目は極めて充実しています。

IV-2. 改善の方向

現在、本学の特殊性に鑑み一般教育委員会と学制審議会と並行して鋭意検討中である。

28. 東京工業大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学 生 留 学 生 数	備 考
理 学 部	159 (26)	184	5	生命理工学部(2.6.19設置)
工 学 部	534 (63)	848	42	
生命理工学部	91 (0)	150		
計	784 (89)	1,182	47	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教 育 科 目	人文分野	哲学概論, 論理学, 科学概論A, 科学概論B, 科学史, 技術史, 哲学史, 国語, 音楽, 美術, 生命倫理, 外国文学, 文学概論, 歴史学概論, 日本事情
	社会分野	心理学, 社会心理学, 行動科学, 経済学, 経済学特別講義, 政治学, 国際関係論, 社会学概論, 社会学理論, 文化人類学, 統計学, 人文社会学講義
	人文・社会	総合講義A, 総合講義B
	(留学生) 人文・社会	日本語I, 日本語II, 日本の文化, 日本の社会, アジアと日本の経済, 日本事情
	自然分野	微分積分学, 線形代数学, 数学演習, 物理学A, 物理学B, 物理学C, 一般物理演習, 一般物理実験, 化学, 化学実験, 生物学, 生物学実験, 地学, 地学実験, 図学, 図学製図
外 国 語 科 目	一 般	英語1, 英語2, 英語3, 英語4, ドイツ語1, ドイツ語2, ドイツ語3, ドイツ語4, フランス語1, フランス語2, フランス語3, フランス語4, ロシア語1, ロシア語2, ロシア語3, ロシア語4
	専 門	英語5, 英語6, 英語7, 英語8, 英語セミナー1, 英語セミナー2, 英語セミナー3, 英語セミナー4, 英語強化セミナー1, 英語強化セミナー2, ドイツ語5, ドイツ語6, ドイツ語セミナー1, ドイツ語セミナー2, ドイツ語ドイツ文化演習1, ドイツ語ドイツ文化演習2, フランス語5, フランス語6, フランス語セミナー1, フランス語セミナー2, フランス語セミナー3, フランス語セミナー4, ロシア語5, ロシア語6, ロシア語セミナー1, ロシア語セミナー2, ロシア語セミナー3, ロシア語セミナー4
保健体育科目		保健体育, 体育実技

1 年次 専門教育科目	理学特別講義，材料科学特別講義，3 類特別講義，工業力学，基礎電気回路，基礎電磁気学，情報基礎学，建設工業概論，計画数理基礎
----------------	--

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

本学は理工系大学ということで，次のとおり区分した。

1) 人文社会科学分野

- (1) 1，2 年次のみならず 3，4 年次の学生も履修することとされており，学生は卒業までの 4 年間を通じて人文社会科学分野を履修する。
- (2) 1 年次向けと 3 年次向けの 2 種の総合講義の設定。前者はほぼ全員が履修するので，1 クラス当たりの人数も多くなりがちだが，後者は小人数クラスで密度の濃いゼミ形式の授業が行われる。
- (3) 特に希望する学生を教官がマン・ツー・マンで指導する特別講義の設定。各研究室で進められている研究の実際を，学生にインパクトを与える意図をもつ。学生は 1 年次に指導教官を決め，3 年次までに小論文を作成し提出する。

2) 自然科学分野（数学）

本学の一般教育数学の特色は次の 2 つである。

1 つは，全学生に対して微分積分学及び線形代数学の講義を行っていることである。これは数学が“論理的厳密性”や“何かを明晰に理解したと実感すること”を経験させるのに最も適した学問であること，科学技術上の情報の正確な伝達には数学の知識が不可欠であるとの認識によるものである。

2 つ目は，微分積分学及び線形代数学は数学の専門的理論の中で最も基礎的な科目であるので，一般教育等及び専門教育教官全員が平等の責任をもって講義を担当していることである。

3) 自然科学分野（物理学）

- (1) カリキュラム，授業担当の責任は物理学科（学科目を含む。）
- (2) 授業科目としては，物理学 A（力学），物理学 B（電磁気学），物理学 C（波動，光，熱学）の 3 科目が用意されているが，学生にはその内の 2 科目を履修させている。ただし，2 科目の組み合わせについては，各専門課程と連携をとり，なるべく全学生が A，B，C，の全分野を一通り学習するように配慮している。
- (3) 本学では，一般物理学は基礎専門として位置付けられている。従って，講義の他に，全学生に一般物理学演習と一般物理学実験を履修させている。特に演習と実験には，本学の大学院学生による教務補佐員制度をフルに活用して，他大学には見られないきめ細かな指

導を行っている。

4) 一般教育科目（化学）

全学生を対象に講義及び実験を開講している。

講義は、理学部及び工学部の化学系教官の参加を得て、1クラス60～70人程度の小人数教育を実施している。理工系大学という立場上、内容は比較的高度であるが、簡単な演習問題を解答させるなどして、理解の向上を図っている。また、化学系学科へ進学（所属）する学生（2類及び3類）に対しては、専門の授業への導入となるようにも配慮している。

実験は、約150人の学生が一斉に実験を行う体制であるが、学生30人に1人程度の大学院学生によるインストラクターを配し、学生とのコミュニケーションを密にするよう努めている。

ロ. 外国語科目について

本学における外国語教育の特色を全般的に言えば下記に述べる数点に要約されよう。

- (1) 外国語の音声の面の教育の重視
- (2) 表現力涵養を重視
- (3) 以上の目的を達成するために比較的多数の外国人に授業を担当してもらっている。
- (4) 一般教育としての外国語にとどまらず、専門教育・大学院教育まで一貫して外国語教育を実施して外国語が道具として使用しうるように考慮している。
- (5) LLを最大限に利用している。
- (6) 卒業の要件として2外国語14単位以上を課しているが、1の外国語について8単位、他の1外国語について6単位以上としており、いわゆる第1、第2外国語の区分がない。

個々の外国語について具体的に述べる。

〔英語〕

- (1) 一般的には英語で8単位を満たす者が多いが、この8単位のうち、2単位をLLを利用した授業、2単位を作文、残り4単位を講義に割り当てている。
- (2) 3・4年次学生のために、英米人教師による小人数の授業を、1学期／6コース（通年／12コース）開講している。
- (3) 大学院学生のために英国人教師による授業〔Academic Writing〕を、1学期／1コース（年／2コース）開講している。

〔ドイツ語・フランス語・ロシア語〕

- (1) 初級の基礎学力をつけるために通常の入門期・初級期の学習に工夫を加えて、教授者作成の視聴覚教材の利用がなされている。
- (2) 3・4年次学生のために外国人・日本人教員による小人数授業を各外国語について1学期／3コース（年／6コース）開講している。
- (3) 大学院学生のために日本人教員による授業を各外国語について、1学期／1コース（年

／2コース)開講している。

ハ. 保健体育科目について

本学での体育実技に関しては、1年次(体育実技第1)、2年次(体育実技第2)に行っている。ともに、最初の2週間で体力テストを行い、各自の能力の現状を把握させた後に種目選択を行う。体育実技第1においては体力作り、各種目の基礎技術を中心に、第2では自主性を主体とした応用編、と内容を区別している。また、疾患者及び外傷等により正規のクラスで受講できない学生に対し、特別コースを設けて指導している。

体育理論に関しては、健康問題、栄養問題、トレーニングの仕方、身体の機能、性格問題特に生理学的、心理学的分野からの講義を半期ずつ受講させている。

IV-2. 改善の方向

改善について検討を進めているが、現時点では特に記載することはない。

29. 東京商船大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備考
商船学部	113 (29)	180	0	
計	113 (29)	180	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 心理学, 歴史学, 文学
	社会分野	法学, 経済学, 社会学, 地理学, 統計学
	自然分野	代数と幾何, 解析, 解析特論, 物理学, 物理学実験, 天文学, 化学, 化学実験
外国語科目	英語 A 1, 英語 A 2, 英語 A 3, 英語 A 4, 英語 B 1, 英語 B 2, 英語 B 3, 英語 B 4, 独語 1, 独語 2, 独語 3, 仏語 1, 仏語 2, 仏語 3, 西語 1, 西語 2, 西語 3	
保健体育科目	体育理論, 体育実技	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特色

イ. 一般教育科目については、小規模大学の割には内容的に充実しているとも言えようが、人文・社会科学系を中心に非常勤講師に依存する割合が高く、決して十分ではない。また、へとも関連するが自然科学系の基礎専門講座と一般教育学科目との間で密接に協力しあっている。

ロ. 外国語科目については、“国際人養成”という一面を持つ商船教育に関連して、早くから LL 教育を取り入れる等、質的に充実している。特に英語については 3～4 年次まで開講されていて、より高度な語学学習を可能にする体制にある。

ハ. 保健体育科目については、理論と実技の関連を重視し、健康に対する理解を深めるよう、以下の点に留意して指導を行っている。

- (1) 小集団学習体制（実技ではスポーツ種目に見合う学生数、内容の充実、運動量の増加、たくましい個性の拡大）
- (2) 生涯体育に通ずる体験学習（日常生活に身体運動を組み込むことにより、長い人生に運動やスポーツが習慣化することを重視）
- (3) 集団合宿授業（大自然の中で集団による体力への挑戦、数多くの役割の体験としての遠

泳実習の必修，教官および学生相互のコミュニケーション)

へ、基礎専門，基礎教育科目については，イ．で触れた通り一般教育科目の担当教官との密接な協力体制がある。

IV-2. 改善の方向

新入生の勉学意欲を持続させ，またカルチャーショックを与えて本来の学問・教養の重要性を知ってもらうために「プレゼミ」開設を軸とした改善を考えており，それを補足するものとして「講演会」や「(教養課程の) 広報誌」等も検討している。

V. 自由意見

一般教育をめぐる今多くの議論が起っているが，本来「一般教養 (パイディア)」とは人間が人間らしく心豊かに生きて行くための糧として重要なものであり，余りに実利的・近視眼的な視点からの批判は危険である。「専門の仕事をつめる非専門の眼」を在学中に養っておくことは是非とも必要なことであろう。

30. 東京水産大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
水産学部	169 (22)	317	6	
計	169 (22)	317	6	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 文学, 心理学, 文化史
	社会分野	社会学, 人文地理学, 法学, 経済学, 歴史学, 政治学
	自然分野	数学(線形代数), 化学, 生物学
外国語科目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 英語演習Ⅰ, 英語演習Ⅱ, 独語Ⅰ, 独語Ⅱ, 独語Ⅲ, 独語Ⅳ, 独語演習Ⅰ, 独語演習Ⅱ, 仏語Ⅰ, 仏語Ⅱ, 仏語Ⅲ, 仏語Ⅳ, 仏語演習Ⅰ, 仏語演習Ⅱ, 露語Ⅰ, 露語Ⅱ, 露語Ⅲ, 露語Ⅳ, 露語演習Ⅰ, 露語演習Ⅱ	
保健体育科目	保健衛生論, 体育学概論, 体育実技	
1年次の 専門教育科目	数学(微積分Ⅰ), 数学演習, 基礎物理学, 地学, 地学実験Ⅰ, 分析化学Ⅰ, 魚類学概論, 無脊椎動物学概論, 藻類学概論, 臨海実習, 資源管理学概論, 食品生産学入門	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

本学は、理科系単科大学であるので、専門にいたずらに偏ることなく、広い視野にたった人材を育成するために、人文科学、社会科学を重視し、人文の分野で6科目、社会の分野で6科目を開設し、それぞれに12単位を必修として課している。

自然の分野では全学科に、数学(線形代数), 化学, 生物学の3科目12単位を必修としている。これは、昭和45年ごろの大学紛争後に、カリキュラムの見直しが行われ、数物系および語学の教育が重視されたこと、そして自然の分野を一般教育としてではなく、基礎専門にあたる科目としてとりあつかったことによるものである。

ロ. 外国語科目について

英語, ドイツ語, フランス語, ロシア語の4か国語を開講し、第1外国語8単位, 第2外国語4単位を必修としている。第1外国語としては上記4か国語の中から1か国語を選択して履

修し、第2外国語としては第1外国語に英語を選択した場合にはその他の3か国の中から1か国語を、第1外国語に英語以外の外国語を選択した場合には英語を履修することになっている。各科目とも1年次向けにⅠ、Ⅱ、2年次向けにⅢ、Ⅳ、演習Ⅰ、3年次向けに演習Ⅱを開講し、学生の希望に応じて上級程度まで履修できるよう配慮している。1年次の英語では、本年より能力別のクラス編成を行い、学生の学力に応じた指導を行っている。さらに、4か国語とも、外国人教師あるいは外国人講師を採用している。また、LL教室を利用した授業も一部に取り入れている。

ハ. 保健体育科目について

1年次に集中して体育実技を実施している。1年次前期では、トレーニング期間として、特定の運動種目にとらわれないで実技を実施している。また、夏休み前には、本学における特徴のある専門科目「臨海実習」（1年次での全学生の必修科目）の実施に協力して、水泳を行っている。

ニ. 総合コースについて

開講していない。

ホ. セミナーについて

開講していない。

ヘ. 基礎専門、基礎教育科目について

本学は、農水産系大学とはいえ工学的分野の研究教育が相当部分をしめており、そのため一般および基礎専門科目にわたる数学教育についても、他の農水産系学部と比較して、内容的にも時間的にも充実させる方針が昭和45年度に教授会で決定され、以後その方針に沿ってその特色を出すべく、努力を重ねてきている。

具体的には、

- (1) 1年次の微分積分学Ⅰ（基礎）を1クラス50人前後の小クラスに分けて、小人数教育を行っている。また、同一の編成で同一の教官による演習を行っている。
- (2) 2年次での微分積分学Ⅱ（応用）、同演習の開講。
- (3) 2年次での統計学（確率統計）の開講。
- (4) 3年次での応用数学の開講。

などであり、一般教育の線形代数と併せて、他大学における工学部の数学教育と肩を並べるまでに至っている。

IV-2. 改善の方向

イ. 来年度から改善したい事項（短期で改善）

一般教育科目、外国語科目、基礎専門科目の一部で、通年開講を半年毎の開講に切り替え、学生の選択の幅を広げるとともに、再履修する学生の便宜を図る。

ロ. 全学的な検討の中で改善したい事項（数年のうちに改善）

- (1) 一般教育における必修単位，人文の分野12単位，社会の分野12単位，自然の分野12単位を再検討する。
- (2) 総合科目，セミナー科目の開設を検討する。
- (3) 一般教育，自然の分野において選択制の導入を検討する。
- (4) 物理学，化学，生物学において，高校における選択に応じて，未習クラス，既習クラスに分けることを検討する。
- (5) 第2外国語が，本学で初めて履修する科目の場合に，4単位だと1年間で終わってしまうので，6～8単位を履修するように改善を検討する。この際には，増加した語学単位数については，一般教育科目，専門教育科目の単位との互換を検討する。
- (6) 体育実技で，シーズン種目の導入を検討する。

31. お茶の水女子大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備考
文教育学部	86 (14)	232	5	
理学部	64 (5)	142	0	
家政学部	40 (1)	146	4	
計	190 (20)	520	9	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 論理学, 心理学, 宗教学, 文学, 国語, 芸術学, 音楽
	社会分野	法学Ⅰ, 法学Ⅱ, 政治学, 経済学, 社会学, 歴史学, 文化人類学, 地理学, 家政学, 国際関係論, 婦人問題, 生活文化論, 情報学Ⅰ, 情報学Ⅱ, 情報処理講義演習A, 情報処理講義演習B
	自然分野	数学(文), 物理学(文), 化学(文), 生物学(文), 数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 生物学Ⅰ, 生物学Ⅱ, 地学(天文気象), 地学(地質鉱物), 統計学Ⅰ, 環境科学, 情報基礎論, 自然人類学, 情報科学講義演習A, 情報科学講義演習B, 一般物理学実験, 一般化学実験
	総合コース	情報
外国語科目	英語初級, 英語上級, 英会話演習Ⅰ, 英会話演習Ⅱ, ドイツ語初級, ドイツ語上級, ドイツ語高級, 独会話初級, 独会話上級, フランス語初級, フランス語上級, フランス語高級, 仏語会話初級, 仏語会話上級, 中国語初級, 中国語上級, 中国語高級, 中国語会話, ロシア語初級, ロシア語上級, ロシア語会話, 朝鮮語初級	
保健体育科目	保健体育講義, 保健体育実技	
留学生特別科目	日本語Ⅰ, 日本語Ⅱ, 日本語Ⅲ, 日本語Ⅳ, 日本事情Ⅰ, 日本事情Ⅱ, 日本事情Ⅲ, 日本事情Ⅳ, 日本事情Ⅴ	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特色

イ. 一般教育科目について

必ずしも1・2年次だけで履修することなく4年間を通して履修させている。一般教育科目について修得すべき単位のうち8単位までを外国語科目及び学部又は学科が教育上の必要に応

じて特定した専門教育科目の単位で充てることができることとしている。

授業科目としては、社会系列に「婦人問題」、「生活文化論」を開講している。

ロ．外国語科目について

ドイツ語、フランス語、中国語については、1年次において、文法・演習・読本を各2時間開講している。

必修外国語科目として、英語、ドイツ語、フランス語、中国語を、選択外国語科目としてロシア語、朝鮮語を開講している。

ハ．保健体育科目について

1年次は通年で2年次は半期で履修させている。

保健体育講義の最初の時間に「衛生、疾病の予防と対策、健康の自己管理」についての講義を行っている。

ニ．総合コースについて

一般教育の独自性を学問諸領域の「総合」に求めて早くから「総合コース」の授業方法、授業内容の検討を積み重ねてきた。

IV－2．改善の方向

ハ．セミナーを中心とした科目を重点的に設置し、その効果を検討したい。

ト．一般教育から専門教育へのつながりを考えた科目の新設を検討したい。

32. 電気通信大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
電気通信学部	325 (56)	980	56	教養と専門の担当者は未区分
計	325 (56)	980	56	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学，倫理学，心理学，歴史学，文学，美術，音楽，人文特講Ⅰ，人文特講Ⅱ，人文特講Ⅲ，人文特講Ⅳ，（総）人文・社会Ⅰ
	社会分野	（総）人文・社会Ⅱ，経済学，社会学，法学，政治学，地理学，社会思想史，文化人類学
	自然分野	微分積分学Ⅰ，微分積分学Ⅱ，線形代数学Ⅰ，物理学Ⅰ，物理学Ⅱ，物理学Ⅲ，物理学実験，化学Ⅰ，化学Ⅱ，現代化学Ⅰ，現代化学Ⅱ，化学実験生物学，地学Ⅰ
外国語科目		英語，独語（文法），独語（講読），仏語（文法），仏語（講読），露語（文法），露語（講読）
保健体育科目		体育理論，保健理論，体育実技Ⅰ，体育実技Ⅱ
1・2年次の 専門教育科目		電磁気学，電磁気学演習，電気回路学，電気回路学演習，基礎電子工学，電子回路学第一，電子回路学演習，電気数学第一，電子計算機演習，回路・システム学第一，回路・システム学演習第一，回路・システム学第二，回路・システム学演習第二，電子情報数学，基礎プログラミング演習，情報処理論第一，情報処理演習第一，計画理論 離散数学，関数論，プログラミング通論第一，プログラミング通論第二，情報工学演習第一，情報工学演習第二，論理設計学第一，計算機通論，数値計算，材料力学第一，熱力学，流体力学，材料工学第一，機械制御設計第一，生産加工学第一，機構学第一，機械力学，機械製図，機械工作演習，機械電子基礎実験第一，機械電子基礎実験第二 電子物性工学概論，電磁気学第一，電磁気学第二，基礎量子論，コンピューター入門，電子物性工学演習第一，電子物性工学演習第二，電気工学実験
日本語・日本事情		日本語Ⅰ，日本語Ⅱ，日本事情Ⅰ，日本事情Ⅱ

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

本学の一般教育科目の特色は、自然科学科目の必修が8科目24単位と多いことです。

IV-2. 改善の方向

ト. 教養課程教育と専門教育とを融合させる方向で改善を試みることを検討中です。

33. 一橋大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
商 学 部	78 (14)	285	24	一般教育担当教官56名は小平分校で 教養課程教育を担当している。
経 済 学 部	74 (16)	285	18	
法 学 部	62 (12)	245	3	
社 会 学 部	75 (14)	245	0	
計	289 (56)	1,060	45	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	日本史, 東洋史, 西洋史, 哲学, 倫理学, 心理学, 日本文学, 英米文学, 独文学, 露文学, 中国文学, 国語A, 国語D, 人文地理, 人類学, 論理学, 芸術I, 芸術II, 宗教, イギリス文化, アメリカ文化, フランス文化, ドイツ文化, 古文書
	社会分野	商業通論I, 商業通論II, 経済通論I, 経済通論II, 経済思想, 法学通論I, 法学通論II, 政治学, 教育学, 社会思想
	自然分野	数学要論I, 数学要論II, 現代数学A, 現代数学B, 現代数学C, 応用数学, 物理学, 化学, 生物学, 生態学, 地学, 環境科学, 統計学, 計算機概論, 情報科学, データ処理論, 自然科学史, 数理解析A, 数理解析B, 幾何学読論
外 国 語 科 目		英語, 英語A, 英語B, 独語1, 独語2, 仏語1, 仏語2, 露語1, 露語2, 中国語1, 中国語2, スペイン語, 朝鮮語, 古典語(ラテン語), 古典語(ギリシャ語)
保 健 体 育 科 目		保健体育講義, 保健体育実技, 保健体育講義・実技
専 門 教 育 科 目		経営学概論, 会計学概論, 商業史概論, 経済学概論I, 経済学概論II, 経済史概論, 憲法概論, 憲法II, 民法I, 裁判法, 刑法II, 社会科学概論I, 社会科学概論II
演習・特殊講義		ゼミナール, 特殊講義
外国人留学生のための科目		日本語A, 日本語B, 日本語C, 日本語D, 一般日本事情, 日本の科学技術, 外国人留学生社会科学ゼミナール

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

本学においては教養課程教育の充実を図るために、従来より数多くの方策が取られている。ここではその中でも、特に際立ったものだけを挙げるに留めたい。

まず特筆すべきことは、量的な面における充実である。本学の学生には、教養課程の2年間に一般教育科目、外国語科目、保健体育科目、前期開講の専門教育科目、その他、合わせて80単位の履修が義務付けられている。これは大学設置基準において、教養課程必要単位数として求められている48単位を倍近くも上回る。

また質的な面から見ても、本学においては教養課程における多数のゼミナールの開講によって、学生が学問研究を進めるうえでの基礎的な知識や方法を習得できるように配慮している。さらに前期開講の専門教育科目や特殊講義の開講は、教養課程の学生が将来学ぶ専門科目に、すでに教養の段階で接することを可能とし、学生の知的好奇心や向上心を高めるのに大いに役立っている。

こうした極めて充実し、完備した教養課程教育の実現は、学部間の区別なく専門課程の教育をも含めた大学を構成する全教官一人残らずが、教養課程教育に参加することで可能となっている。単科大学以来の伝統であるこうした慣行によって、上述の教養課程教育はある程度の成果を収めてきた。またこれと関連して、後期課程においても教養課程の科目の履修が可能であることも、付け加えておこう。

以上のように本大学における教養課程教育は、量的にも質的にも極めて充実していると思われる。しかし、近年における学生数の急増、施設の老朽・狭あい化、大学をめぐる諸条件の変化、学問の進歩と再編などにより上述の教育理想はしだいに実現しがたくなり、改革のプランを練っているところである。

IV-2. 改善の方向

教養課程教育と専門課程教育を4年間で並行的に履修させるいわゆる「4年一貫教育」の充実とセミナーを中心とした一般教育の充実という方向で、改善を進めて行きたい。また科目の増設と多人数教育の解消を図って行きたい。

34. 横浜国立大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
教 育 学 部	187 (36)	530	16	
経 済 学 部	53 (3)	260	14	
経 営 学 部	49 (3)	250	32	
経営学部第二部	15 (5)	100		
工 学 部	259 (17)	685	22	
工学部第二部	0 (0)	60		
計	563 (64)	1,885	84	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	(教育学部)	哲学(論理学), 哲学, 倫理学, 美学, 心理学, 国語学・国文学, 外国文学・文化Ⅰ, 外国文学・文化Ⅱ, 外国文学・文化Ⅲ, 文化人類学, 音楽, 美術
	人文分野	
	人文・社会	日本史学, 外国史学, 教育学
	社会分野	社会学, 経済学, 法学, 日本国憲法, 社会科学概論, 政治学, 地理学, 生活科学A, 生活科学B, 生活科学C, 生活科学D, 生活科学E
	社会・自然	自然地理学, 自然地理学A, 自然地理学B
一 般 教 育 科 目	自然分野	情報数学概論, 一般数学, 一般図学, 一般物理学, 物理学, 一般化学, 化学, 物質の科学, 一般生物学, 一般地学A, 一般地学B, 地学A, 地学B 自然科学概論, 科学史, 人類学
	総合科目	横浜, 科学の展望, 進歩と成長, 性, 我々を取り巻く環境, 相模湾の自然
	(経済学部)	哲学(論理学), 哲学, 倫理学, 美学, 心理学, 国語学・国文学, 外国文学・文化Ⅰ, 外国文学・文化Ⅱ, 外国文学・文化Ⅲ, 文化人類学, 音楽, 美術, ドイツ語特別演習
	人文分野	
	人文・社会	日本史学, 外国史学, 教育学
一 般 教 育 科 目	社会分野	経済, 政治, 社会科学概論, 基礎演習, 社会学, 法学, 地理学, 生活科学A, 生活科学B, 生活科学C, 生活科学D, 生活科学E
	社会・自然	自然地理学, 自然地理学A, 自然地理学B

	自然分野	数学, 情報数学概論, 統計学, 科学史, 一般図学, 一般物理学, 一般化学, 物質の科学, 一般地学A, 一般地学B, 自然科学概論
一般教育科目	(経営学部) 人文分野	哲学(論理学), 哲学, 倫理学, 美学, 心理学, 国語学・国文学, 外国文学・文化Ⅰ, 外国文学・文化Ⅱ, 外国文学・文化Ⅲ, 文化人類学, 音楽, 美術
	人文・社会	日本史学, 外国史学, 教育学
	社会分野	経済学, 法学, 日本国憲法, 社会科学概論, 社会学, 政治, 地理学, 生活科学A, 生活科学B, 生活科学C, 生活科学D, 生活科学E
	社会・自然	自然地理学, 自然地理学A, 自然地理学B
	自然分野	数学, 数学Ⅱ, 数学Ⅲ, 統計学, 情報数学概論, 一般図学, 一般物理学, 一般化学, 物質の科学, 一般生物学, 一般地学A, 一般地学B, 科学史, 自然科学概論
一般教育科目	(工学部) 人文分野	哲学(論理学), 哲学, 倫理学, 美学, 心理学, 国語学・国文学, 外国文学・文化Ⅰ, 外国文学・文化Ⅱ, 外国文学・文化Ⅲ, 文化人類学, 音楽, 美術
	人文・社会	日本史学, 外国史学, 教育学
	社会分野	社会学, 経済学, 法学, 日本国憲法, 社会科学概論, 政治学, 地理学, 生活科学A, 生活科学B, 生活科学C, 生活科学D, 生活科学E
	社会・自然	統計学, 自然地理学, 自然地理学A, 自然地理学B
	自然分野	数学概論Ⅰ, 数学概論Ⅱ, 代数学・幾何学, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ, 物理実験, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 化学Ⅲ, 化学実験, 図学, 一般生物学, 一般地学A, 一般地学B, 科学史, 自然科学概論
外国語科目		英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英作文, 英会話, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, イスパニア語Ⅰ, イスパニア語Ⅱ, 中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ, ロシア語Ⅰ, ロシア語Ⅱ, ラテン語, ギリシャ語 ドイツ語会話初級, ドイツ語会話中級, フランス語会話, LL特別演習A, LL特別演習B, ドイツ語特別演習
保健体育科目		保健体育理論Ⅰ, 保健体育理論Ⅱ, 体育実技Ⅰ, 体育実技Ⅱ
外国人留学生のための授業科目		日本語Ⅰ(文法), 日本語Ⅰ(講読), 日本語Ⅱ(文法), 日本語Ⅱ(講読), 日本事情
一年次の専門基礎教育・科目	教育学部	(教員養成課程) 作品研究, 漢文講読, 社会科教育概論, 初等解析学, 微分積分学, 初等幾何学, 初等代数学, 微積分通論, 物理学基礎実験, 化学基礎実験, 生物学基礎実験, 地学基礎実験, 音楽Ⅰ, 合唱Ⅰ, ピアノⅠA, ピアノⅠB, 音楽通論Ⅰ, 音楽通論Ⅱ, 造形演習, 素描Ⅰ, 図学及び図学演習, 楷書の理論と実習, 陸上競技A, 水泳, スキー, 製図Ⅰ, 生活科学基礎実験, 家政学概論, 木材加工学及び実習, 金属加工論Ⅰ, 電気工学Ⅰ, 機械工学基礎, 英語基礎演習Ⅰ, 英語基礎演習Ⅱ, 英作文, 英会話, 教育

	学概説、基礎心理学演習、特殊教育学、心身障害児心理学、脳生理の病理（文化研究、基礎理学、生涯教育、総合芸術課程）東西文化交流論、微積分通論、理学基礎実験Ⅰ、理学基礎実験Ⅱ、理学基礎実験Ⅲ、理学基礎実験Ⅳ、生涯発達心理学概論、情報教育概論、発達社会学、基礎心理学演習、家政学概論、陸上競技A、水泳、現代芸術論
経営学部	経営学概論、簿記原理、情報処理、経営情報論
工 学 部	解析学、微分方程式Ⅰ、ベクトル解析、生産情報処理演習、材料力学Ⅰ、化学熱力学、計画建設学概論、基礎回路理論、情報工学基礎論、留学生のための情報処理演習

Ⅱ. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

Ⅱ-1. 調査報告書

- ① 『本学における一般教育等の諸問題』（昭和56年2月）
- ② 『横浜国立大学の将来構想——21世紀の横浜国立大学像——』（平成2年1月）

Ⅱ-2. 調査報告書作成までの経緯と学内手続き等

- ① 『本学における一般教育等の諸問題』について

当大学において、全学出動方式による一般教育の部分縦割方式¹⁾がとられてから10年を経過した時点で、一般教育についての問題点を取りまとめた。これは、全学組織である「一般教育運営委員会」で討議して取りまとめたものである。その中には、既に実行されているものもあるが、問題として残されたものもある。

- 1) 部分縦割全学出動方式とは、

- (1) 学生については、一年次から所属学部が指導責任をもつ。
- (2) 一般教育学科目は学部の個性に応じて4学部に分散配置され、その学科目の教育に関しては学科目をもつ学部が全学に対して責任をもつ。
- (3) 一般教育の円滑な運営のために一般教育運営委員会を設ける。

といった内容である。

- ② 『横浜国立大学の将来構想』について

開学40周年を迎えて、本学の将来構想を全学組織である「将来像検討委員会」で取りまとめたものである。具体的内容は5つの専門委員会に別れて検討した結果である。

一般教育に関しては「一般教育等教育改善構想専門委員会」で検討された。その結果は本文中に「一般教育の充実」として記載されている。

Ⅱ-3. 既に実施している改善の試み

『本学における一般教育等の諸問題』で取り上げた教育方法に関する点の内、次の(1)と(2)の2つの事項は既に実施されている。

- (1) 文科系学生に対する実験科目等（実習、演習を含む）の開設

- ① 物質の科学（資料「物質の科学——その開設の経緯と現状」工学部、参照）

工学部担当の授業科目。教育、経済、経営の各学部学生を対象として、昭和58年度から開

講されている。昭和55, 56, 58年度配分された教育方法等改善経費の具体的成果である。

発足以来毎年約50名の熱心な受講者が集まっており、自然分野での実験の重要性とそれを通じて能動的に授業に参加できることへの期待が如何に大きいかを実感させられている。

② 一般図学

①と同様に、工学部担当の授業科目。文科系学生を対象に、昭和57年度より開設されたものである。昭和61, 62年度教育方法等改善経費による研究成果を参考にして、古典的図学から脱皮して情報科学の一環としての図形処理等を含めて現代化した図形科学的な内容を目指したものとなっている。最近、受講者が急増し（平成元年度550名）、開設授業数を発足時の3倍に増さねばならなくなっている。

③ 情報数学概論

工学部担当の授業科目。教育方法等改善経費とは直接関係なく、工学部以外の文科系学生のために「情報数学概論」を昭和56年度より開設している。これも、受講者数が増加しており（平成元年度約90名）、現在2コマ開講するまでになっている。

これら3つの授業科目は、いずれも実験、演習を含んでおり授業負担は決して軽くはない。

(2) 全学的な総合科目の開設

一般教育の各分野ごと、あるいは幾つかの分野にまたがって学際的な総合科目を新設することが目標の一つになっている。現在、教育学部において当学部学生のみを対象とした総合科目が拡充されてきている（9テーマの内、毎年6テーマ開講。資料「一般教育総合科目 Guide '90」教育学部、参照）。

(3) コース制の編成

現行の学生の自主選択による履修方法以外に、特定の総合科目を核として、各分野のいくつかの授業科目を組み合わせ、いくつかの履修コースを創成することを検討することになっている。

現在、既にその萌芽的なものが実施されている。すなわち、「物質と情報」というテーマで文科系学生に対して、既に述べたように工学部が担当して、（物質の科学）、（情報数学概論）、（一般図学）の3科目を中心とするコースが提供されている（しかし、現在のところ表面的には未だコースという名称は用いられてはいない）。

(4) 一般教育と専門教育の楔形履修

一般教育のある部分は高学年で受講する方が理解が深まり、またある種の専門基礎教育は低学年（1年次）で開始することが望まれる。これについて、実際に1年次の開講授業の中に極く少数ではあるが、専門科目が入れられている²¹。

特に、経済学部では基礎演習（プロゼミナール）と情報処理入門が一般教育等の社会分野の一つとして当該学部学生に対して開講されている。これらは、入学したばかりの学生の興味をそそり、勉学意欲の向上に資するとともに、所属学科、学部²¹の教官との直接接

るものである。

2) 1年次時間割を参照のこと。太字のゴシックで示されたものが専門科目である。

3) 本大学では、入学時に既に所属学科が決まっている。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特色

部分縦割全学出動方式を取っていることに最大の特色がある。

具体的な個々の特色については、既に前記Ⅱ、Ⅲの回答中に述べてあるが、それ以外の点について2、3付記する。

① 基礎的で、総合的なものの見方、考え方ができるような教育をねらっている。例えば、物質の科学（化学と物理とを結合した教育）、総合科目——科学の展望（自然科学の諸分野を関連させて学ぶ）

② 具体的な教育。例えば、総合科目——相模湾の自然、付属の臨海実習施設で実習を行うなどの現場教育（フィールド・ワーク）が伴っている。

③ 基礎専門科目。1年次で、入門的（概論的）専門科目の授業がある。

IV-2. 改善の方向

前述のⅡの報告書中に記載されているので、そちらを参照されたい。

V. 自由意見

(1) 教養課程教育中の一般教育と専門基礎教育の分離、明確化

一般教育科目として取り扱われている授業科目の中には、学部を指定しているものがある。これらの殆んどは、その学部の専門課程を学ぶための基礎科目であると考えられる。この基礎教育科目を明確にすることにより、一般教育の性格が一段と明瞭になるであろう。

(2) 教官の待遇にかかわる問題

① 一般教育の教官数の不足

現状では教官数が不足しているのは明らかである。特に、実験を伴う学科目で助手が全く認められていないために、教育・研究上支障が大きい。

② 一般教育教官の研究条件の整備

一般教育担当教官でも、教育と同時に研究活動を行わねばならない。この研究環境の点で、一般教育の学科目と専門教育の講座との間には予算的にも、人的にも著しい格差が存在し、このことが一般教育担当教官の研究活動を著しく阻害している。また、有能な人材を新規に採用することが大変困難になっている。制度的に、この格差を完全に解消することを考えることが急務であると思われる。

35. 新潟大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
人文学部	56 ()	170		
教育学部	118 ()	485		
法学部	45 ()	270	1	
経済学部	38 ()	230	5	
理学部	67 ()	165	1	
医学部	138 ()	100		附属病院教官定員 119 名 (外数)
歯学部	97 ()	60		附属病院教官定員 48 名 (外数)
工学部	118 ()	477	7	
農学部	63 ()	166		
教養部	94 ()			
計	834 ()	2,123	14	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学A, 哲学B, 倫理学A, 倫理学B, 心理学, 歴史学A, 歴史学B, 歴史学C, 文学A, 文学B, 音楽, 美術A
	社会分野	法学A, 法学B, 社会科学概論, 政治学, 経済学, 社会学A, 社会学B, 地理学A, 地理学B
	自然分野	数学A, 数学B, 物理学A, 物理学B, 物理学C, 物理学実験, 化学, 化学実験, 生物学, 生物学実験, 生物学実験A, 地学, 地学実験A, 地学実験B, 統計学
	総合科目	情報処理概論A, 情報処理概論B, 能一歴史と文学一, 現代情報社会論, 第三世界, 国際関係論, 数理科学の世界, 日本列島の地質とその成立
外国語科目		英語甲, 英語乙, ドイツ語甲, ドイツ語乙, フランス語甲, フランス語乙, ロシア語甲, ロシア語乙, 中国語甲, 中国語乙
保健体育科目		講義, 実技
日本語・日本事情		日本語甲, 日本語乙, 日本事情
基礎教育科目 (医学部)		基礎物理学, 基礎化学, 基礎生物学, 基礎解剖学, 基礎生理学, 基礎生化学, 基礎微生物学, 人類遺伝学, 放射線基礎医学

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

「自由聴講制」を建前としたカリキュラムに基づき、各授業科目が開講されている。しかし、学生数の増加に伴って、この制度が建前どおりの機能を発揮しえない状況も生まれている。また、自然科学系等では、専門教育との連携を考慮して、ゆるやかな指定制を導入している授業科目が多い。

例：物理学（理学部物理学科及び同数学科向け）

ロ. 外国語科目について

外国語科目については、教育学部を除く各学部とも第1外国語及び第2外国語ともに8単位の履修を義務づけていたが、理学部、工学部及び農学部については学部の要望もあって昭和62年度から2外国語のうち、1外国語8単位、他の外国語6単位、計14単位に改めた。

ハ. 保健体育科目について

保健体育科目の実技については、雪国という地理的特色を考慮して、「スキー」が開講種目に加えられている。スキー授業は2コース開講されており、毎年12月25日～28日及び1月6日～9日にわたって集中的に実施されている。

ニ. 総合コースについて

総合科目は「情報処理概論」、「古典と現代」及び「生物資源論」の3科目が開講されていたが、平成元年度から次のとおり改めた。

〔総合科目〕

「情報処理概論

総合科目Ⅰ（ヨーロッパ文化論）

総合科目Ⅱ（現代情報社会論，アメリカ合衆国論）

総合科目Ⅲ（数理科学の世界，日本列島の地質とその成り立ち）

総合科目Ⅳ（生物資源論）」

なお、総合科目Ⅰで開講されている科目のひとつを人文科学系1科目4単位の、総合科目Ⅱで開講されている科目のひとつを社会科学系1科目4単位の、総合科目Ⅲで開講されている科目のひとつを自然科学系1科目4単位の振替えることを可能とする等の弾力化も図られた。

また、総合科目Ⅳ（生物資源論）は農学部専任教官により開講されている科目であって、基礎専門科目的な要素をも含んだものである。

ホ. セミナーについて

教養部では、全学生の参加を建前としたセミナーは開講されていない。しかし、一般教育科目にあっては教官が、聴講学生数を20～30名に制限して、セミナー的な授業を行っている例はあるが、全体の割合からすると5%程度である。

へ、基礎専門、基礎教育科目について

1 年次学生に対する基礎専門科目は、次のように実施されている。

- ① 教育学部の小・中学校教員養成課程にあって、音楽、美術及び保健体育の教員を志す学生や、特別教科（音楽及び書道）教員養成課程の学生については、技能の継続性を重んじる立場から、1 年次で技能を主体とした専門科目 4 単位の履修を認めている。
- ② 法学部 1 年次学生には、昭和59年度から、「憲法」（4 単位）、「民法」（4 単位）の合計 8 単位の履修を認めている。
- ③ 工学部 1 年次には、昭和59年度から 4 単位の専門科目の履修を認めている。

基礎教育科目は、医学及び歯学進学課程の学生にのみ開講されており、医学進学課程の学生には23単位、歯学進学課程の学生には12単位の基礎教育科目（必修）が開講されている。

IV－2. 改善の方向

本学教養部では、「将来計画検討委員会」を設置し、多様化した学生の学部における専門教育と高校教育課程とがよく整合するような一貫教育の体制を整備すると共に、画一的均等履修を強制しない、新しい一般教育の総合化を実現するための方途を検討中である。

V. 自由意見

教養課程教育の実施については、改善の検討を進めなければならないと考えています。本学教養部において「将来計画検討委員会」を設置し、これまで検討を重ねてきているところでありますが、今後全学的機関（教養部協議会等）で検討を進めていきたいと考えます。

36. 長岡技術科学大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学 生 留 数	備 考
工 学 部	186 (19)	1 年 100 3 年 270	27	
語学センター	4 ()			
体育・保健センター	2 ()			
そ の 他	3 ()			
計	195 (19)	1 年 100 3 年 270	27	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	文学Ⅰ，文学Ⅱ，哲学，倫理学，歴史学Ⅰ，歴史学Ⅱ
	社会分野	法学Ⅰ，法学Ⅱ，政治学，経済学Ⅰ，経済学Ⅱ，社会学，心理学
	自然分野	数学ⅠA，数学ⅡA，物理学Ⅰ，物理学Ⅱ，化学Ⅰ，化学Ⅱ，生物学Ⅰ，生物学Ⅱ
	総合科目	日本思想形成史，日本語の個性，日本語と伝達，西洋現代思想史，論理と思考，東洋文化史，科学技術政策概論，科学技術関係法，産業政策概論，経済政策概論，計量経済分析，ライフサイエンス，人間と環境，プログラミングシステム，認知科学概論，システム工学概論，国際関係論
外国語科目		英語Ⅰ，英語Ⅱ，英語Ⅲ，英語Ⅳ，フランス語Ⅰ，フランス語Ⅱ，フランス語Ⅲ，フランス語Ⅳ，ドイツ語Ⅰ，ドイツ語Ⅱ，ドイツ語Ⅲ，ドイツ語Ⅳ
保健体育科目		体育講義，体育実技Ⅰ，体育実技Ⅱ
日本語・日本事情		日本語Ⅰ，日本語Ⅱ，日本語Ⅲ，日本語Ⅳ，日本語Ⅴ，日本事情Ⅰ，日本事情Ⅱ
1年次の 専門教育科目		物理実験及び演習Ⅰ，物理実験及び演習Ⅱ，化学実験及び演習Ⅰ，化学実験及び演習Ⅱ，数学ⅠB，数学ⅡB，図学，一般工学演習，電磁気学実験及び演習Ⅰ，電気回路及び演習

III. 教養課程教育の個々の改善についての試み

主な改善事項は次のとおりである。

(1) 一般教育科目の充実

ア. 人文科学

「倫理学」（2単位）の開設（昭62.4）

「歴史学」（４単位）の開設（昭62.4）

イ．自然科学

「生物学」（４単位）の開設（平元.4）

ウ．総合科目

14科目（28単位）から18科目（36単位）に増設（昭62.4）

（注）平成２年度においては20科目（40単位）を開設

(2) 授業実施の工夫・改善

ア．外国語

「英語」について小人数（60人→30人）教育の実施（昭62.4）

語学自習システム（LL装置及び語学学習用コンピュータ装置による個別化学習システム）の導入（昭61.3）

イ．基礎的専門科目

「物理実験」（２単位）及び「化学実験」（２単位）について、それぞれ演習を付加し、
「物理実験及び演習」（４単位）及び「化学実験及び演習」（４単位）に改編（昭62.4）

IV．教養課程教育の特色と改善の方向

IV－1．特 色

イ．一般教育科目について

本学の学生構成は、専門・職業教育に重点を置く工業高校・高等専門学校卒業生が主流を占めていることもあり、高等専門学校出身者の編入年次である３年次以降も「総合科目」を多く開設（平成２年度は20科目40単位）し、１年次から４年次までの４年間にわたり一般教育科目を開設している。

ロ．外国語科目について

英語について、必修科目の開設は３年次までであるが、４年次においても科学・技術に関する内容を表現するため等の選択科目を開設している。

また、第２外国語についても４年次まで開設し、学力の向上を図っている。

ハ．保健体育科目について

保健体育授業は、学内共同教育研究施設である「体育・保健センター」が担当しており、本センターでは、学生の体育活動、サークル活動についての組織的な指導及び健康管理に関する専門的業務等も担当していることから、健康教育、生涯体育への足がかり等の教育を有機的に実施している。

ヘ．基礎専門、基礎教育科目について

いわゆる「くさび型」カリキュラムとし、基礎的専門科目を１年次から開設している。

IV－2．今後の教養課程教育の改善計画等

現在のところ全学的な検討等は行っていない。

37. 上越教育大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
学校教育学部	187 (12)	200	0	
計	187 (12)	200	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

教 養 基 礎 科 目	一般教育科目	人 文	国語, 文学, 書道, 哲学, 倫理学, 芸術
		社 会	歴史学, 地理学, 法律学 (日本国憲法), 社会学, 経済学
		自 然	数学, 自然 I (物理・化学), 自然 II (生物・地学)
		総 合	日本芸術文化論, 情報基礎, 芸術と科学, 教育情報学, 日米の文化・教育比較論, 現代と宗教
基礎科目	外国語科目		英語 I, 英語 II, 教職教養英語, 英米文化, 英会話 I, 英会話 II, 英作文, ドイツ語 I, ドイツ語 II
	保健体育科目		保健体育学, 体育実技 I, 体育実技 II, 体育実技 III
	教科に関する専門教育科目		国語, 社会, 算数, 理科, 生活, 音楽 I A, 音楽 I B, 音楽 II A, 音楽 II B, 図画工作 I A, 図画工作 I B, 図画工作 II A, 図画工作 II B, 体育 I A, 体育 I B, 体育 II A, 体育 II B, 家庭

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

一般教育科目に特色がある。

IV-2. 改善の方向

大学教育方法等改善経費を受けて「一般教育科目」のプロジェクト研究を2年にわたり行った。これらの研究で得た結果を踏まえて、今後、大学として、一般教育科目（教養基礎科目）についての検討の必要性を感じている。

38. 山梨大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
教 育 学 部	138 (32)	230	1	(注2)に該当する
工 学 部	183 ()	550	19	
計	321 (32)	780	20	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

(教育学部)

一 般 教 育 科 目	総合科目	現代社会の不安と人間
	人文分野	哲学, 倫理学, 宗教学, 文学, 音楽, 美術, 心理学, 芸術学
	社会分野	法学, 政治学, 経済学, 社会学, 歴史学, 地理学
	自然分野	数学, 物理学, 化学, 生物学, 地学, 統計学, 家政学
外 国 語 科 目		英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 英語Ⅴ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語Ⅲ, ドイツ語Ⅳ, ドイツ語Ⅴ, ドイツ文化, ドイツ事情, ドイツ語会話Ⅰ, ドイツ語会話Ⅱ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, フランス語Ⅲ, フランス語Ⅳ, フランス語Ⅴ
保 健 体 育 科 目		保健体育理論, 体育実技Ⅰ, 体育実技Ⅱ
日本語・日本事情		日本語・日本事情Ⅰ, 日本語・日本事情Ⅱ

(工学部)

一 般 教 育 科 目	総合科目	現代の教育問題
	人文分野	哲学, 倫理学, 宗教学, 文学, 音楽, 美術, 心理学, 芸術学
	社会分野	法学, 政治学, 経済学, 社会学, 歴史学, 地理学, 教育学
	自然分野	生物学, 地学, 統計学, 家政学
外 国 語 科 目		英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 英語Ⅴ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語Ⅲ, ドイツ語Ⅳ, ドイツ語Ⅴ, ドイツ文化, ドイツ事情, ドイツ語会話Ⅰ, ドイツ語会話Ⅱ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, フランス語Ⅲ, フランス語Ⅳ, フランス語Ⅴ
保 健 体 育 科 目		保健体育理論, 体育実技Ⅰ, 体育実技Ⅱ
日本語・日本事情		日本語・日本事情Ⅰ, 日本語・日本事情Ⅱ

基礎教育科目	代数学及び幾何学，微分積分学Ⅰ，微分積分学Ⅱ，解析学，一般物理学Ⅰ 一般物理学Ⅱ，物理学実験，一般化学Ⅰ，一般化学Ⅱ，化学実験
--------	--

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

昭和45年より毎年，現代的課題をかがげ，それを三つの部門（人文・社会・自然の各部門）から複数の教員によるティーム・ティーチング方式で行ってきている。

ロ. 外国語科目について

志願者全員に英語の入試を課した時代に比べて，英語で受験するもの以外は入学時の基礎学力が平均して不十分である。したがってまず基礎知識を補い復習するところから始めている。1クラス50～60名を守っているが，全員に聴いたり話したりする能力を身につけることは現状不可能である。

正確に文章を読んで理解すること，正確な発音で音読できることの2点を徹底させるためテープ，ビデオその他のAV機器を使って努力しているのが現状である。

ドイツ語では，現在専任の外国人教師によるドイツ文化・ドイツ事情の科目を設けている。

以上のように，単なる語学力のみならず教材及び外国人教師をとおして関連する広い知識に親しませ，国際化に向けての教育の役割を果たす努力をしている。

ハ. 保健体育科目について

本校では教養部・教養課程がないので教育学部保健体育科で担当している。

①理論（講義）は「保健体育理論」として1単位，内容は保健，体力の科学，WHO，環境汚染，エコロジーの問題等である。体育科学ではトレーニングの科学，健康と体力づくり，科学的な練習法，体育原理・管理法などを教官の専門を生かして分担指導している。

②体育実技Ⅰ，Ⅱの各1単位は，Ⅰは1年次，Ⅱは2年次で履修させている。内容はテニス，ソフトボール，バドミントン，サッカー，ハンドボール，バスケットボール，卓球（トレーニング）の中から通年で1種目を選択し，ⅠとⅡは別の種目を選択することになっている。なお，夏期は全員「水泳」を4回（4週間）受講させ，近代四種目各100メートル以上を目標にさせている。教育学部学生には200メートルの泳力テストにパスしなければ単位は認定されない。

また，教育学部の学生には，一般体育と教材研究との関連，体育演習との関連を加味して指導している。雨天の場合は，体育館以外の種目は講義で学習理論，トレーニング実践論，VTRによる技能習熟過程などの研究をさせている。

ホ. セミナーについて

現在，実施していない。

へ. 基礎専門, 基礎教育科目について

基礎教育科目として, 代数及び幾何学, 微分積分学第1, 2, 解析学, 一般物理学第1, 2, 物理学実験, 一般化学第1, 2, 化学実験が設けられている。

これらはすべて教育学部で担当, 解析学を除き1クラス60人を守っている。

基礎専門は各学年ごとに (例えば家政学科では家政学基礎実験), 必要な科目を設けて必修とするなどして重視させ, 学科内で指導の分担をしている。

IV-2. 改善の方向

イ. 一般教育・総合科目では, 1年生を対象にセミナー(プレ・ゼミ)を課題別に配置し, 小人数による学生の自発的学習の機会を充実させる。

ロ. 基礎教育科目では, 工学部が大学科制に移行したが60人クラスを守っていく。

ハ. 外国語科目では, 英語, ドイツ語, フランス語のほかに国際化時代に備えて中国語, ロシア語の開設ができるよう努力する。

ニ. 保健体育科目では, 体育の専攻・専修生と同様に実験を導入したり, 障害者体育のトレーニングコースの充実を図る。

ホ. すでに実践している一般学科科目もみられるが, 大人数教育をできるだけ避けて, 関連する野外活動, 観察学習・研究, 社会参加などによる体験の機会を充実させる。

V. 自由意見

(工学部)

工学部学生の一般教育は教育学部で担当しているが, 改善を望む声は多い。特に外国語科目, 総合科目は緊急に工夫を要すると思われる。

国大協が先頭に立って教養課程改善の流れを育成して欲しい。

39. 山梨医科大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
医 学 部	144 (12)	100	0	教官定員数には、学長1名、副学長2名を含む。 附属病院教官定員90名(外数)
計	144 (12)	100	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学、倫理学、心理学、文学、音楽、美術、法学
	社会分野	法学、経済学、歴史学、社会学
	自然分野	数学、物理学、物理学実験、化学、化学実験、生物学、生物学実験
	共 通	教養総合講義
外国語科目	英語、ドイツ語、ロシア語Ⅰ、ロシア語Ⅱ、英米会話Ⅰ、英米会話Ⅱ、実用英語Ⅰ、実用英語Ⅱ	
保健体育科目	講義、実技	
基礎教育科目	統計学、応用数学、放射線物理学、物理化学、細胞生物学、医学概論、人類遺伝学、情報科学、宇宙物理学、発生生物学、機器分析、生体熱力学、生体工学、基礎教育演習Ⅰ、基礎教育演習Ⅱ、基礎教育特別講義Ⅰ、基礎教育特別講義Ⅱ、基礎教育特別講義Ⅲ	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

従来から一般教育の目標とされてきた広い意味での人間形成、学問的精神の体得、創造的能力の育成などのほか、ことに医師として必要な、綿密な注意力、総合的判断力、均整のとれた情緒性、強固な意志力を総合的に育てるために、次のような点を特に考慮している。(1)人文系・社会系科目においては哲学・倫理学・心理学・文学・法学・経済学・歴史学・社会学のほかに音楽・美術といった情操教育科目を含めて、小人数制によるきめ細かな指導を行い、レポート、発表、討論の機会を設け、学生の自発的、積極的応答を促進している。(2)数学においては前記一般教育の趣旨にのっとり、総合的基礎的な思考力を養い、実生活上の問題解決にも不可欠な論理的分析力と公正な判断力を兼ねそなえた知性的人間を育てることに眼目を置いてい

る。(3)自然科学系科目においては物理・化学・生物の各分野独自の方法論の理解の上に立った独創的思考と、常に進む医学の歩みに対処しうる基礎的能力を養うことを目指している。また、実験を重視する医学のあり方に照らして50名ずつの2クラスに編成し、非常勤講師の協力をも得て実験指導の徹底を図っている。

ロ. 外国語科目について

単なる訳読に終わらぬ、耳・目・口・手を総合的に活用した多角的基礎力応用力の養成を目指し、教材の面でも古典と時事問題とを適当に配して提供している。ことに昨年来は外国人教師1名を専従とし、単なる日常会話にとどまらぬ実用英語の実力がつくよう配慮している。

なお、開学以来の本学の特色の一つとして、英独両語のほかに、中国語、ロシア語をも学べるように配慮している。

ハ. 保健体育科目について

非常勤講師3名(講義1名、実技2名)に依存しているが、いずれも本務校に劣らぬ教育熱心さをもって、個々の学生の体力・技術の向上に努力しているので、その成果は十分に上がっている。

ニ. 総合コースについて

開学以来、教養総合講義の名のもとに各界一流人の専門を通しての広い視野からの講話を聴き、学生に学問・人生についての展望を開かせることを目指している。

ホ. セミナーについて

基礎教育科目中に属しているが、10名程度の規模をもつセミナーを1～4年次に設け、主題に対するより緊密な人格的関係を通じての積極的取組みの生活習慣の養成を企図し、人文・社会・自然科学の各教官が随時開講している。

ヘ. 基礎教育科目について

(1) 基礎教育科目については再三の検討を経て、現時で医学生のために必要と思われるものを洗い出し、必修と選択とに分けて開講している。専門課程(基礎医学・臨床医学)との連絡の上で人的協力を受けている科目も二、三あり、専門の教官とのコミュニケーションの場ともなるように配慮している。

(2) 本年度の試みとして、放送大学教材を利用しつつ、地球環境問題を、自然科学系全教官が協力して行う、基礎教育特別講義を始動させた。

ト. その他について

(1) 本学は以上の教室・実験室で行われる科目のほかに、クラブ、サークルで学習研究上の実地訓練に貢献しているものがあり(例:海外医学研究会)、教官の指導助言のもとに積極的に学外の活動の経験をも積み重ね、顕著な成果をあげているものもある。

(2) なお、学生10名程度に教官一人ずつのスモールクラス制度を設け、密接な人格的関係の中で相談に応ずる態勢をとっていることも、以上のいろいろな工夫とあわせて、特に教養課程

における配慮とみることができるであろう。

IV-2. 改善の方向

イ. 一般教育科目について

学生の動態をつねに正確に把握し、それに応じて最も効果的な履修方式をとること、とらせることが望ましいと考えているので、年次改訂のほかに、過去10年間の経験を生かして、大幅の見直しを検討している。

ロ. 総合科目について

従来方式を実情に照らして検討しつつ広範囲のものにすべく努力していく。

ハ. セミナーについて

現在基礎教育科目の中に含まれている基礎教育演習を「教養セミナー」として、一般教育教官全員が担当し、より小人数で学生の積極的参加を推進する方向で検討している。

ニ. 外国語科目について

外国人教師の協力になる実用英語学習の範囲をより広範化するよう工夫していく。

ホ. 保健体育科目について

専任の教官が得られることが望ましいが、上記のように非常勤ながら、優秀なスタッフを迎えているので、当面は施設、設備のいっそうの充実を期したい。

ヘ. コア科目など

〔IV-1 のへ(2)〕などの先導試行の結果を見て長所を生かし、さらに、人文・社会系の教官をも加えていっそう総合的なものとして発展させたい。幸い教官間のコミュニケーションは良好であるので、創造的協力ができるものと期待される。

ト. 教養課程と専門課程との融合について

本学教育プログラムの根幹をなす6年間一貫教育は楔形のカリキュラムをとっているが、その性質上、融合できるものとできないものとが存在する。その可能性を検討するためにも、専門課程と教養課程の担当教官間の対話、協力関係をいっそう推進させたい。

V. 自由意見

イ. 人文系・社会系科目における人的設備的配慮

本学は医科大学であるので、4年間の専門教育課程をもち、教育の目のつけどころに専門性、求心性があるが、他面単科大学であるため、学生は他学部の学生との交流が少なく、視野が狭くなるおそれがあり、医者の要件たる総合的判断力、確固たる人間観の養成のためにも人文系・社会系科目における人的設備的配慮が望まれる。

ロ. 教養課程における情報処理教育の推進

コンピュータ時代、情報化社会などと呼ばれるようになって久しく、医学、医療の分野においても、情報化は全面的に進んできている。このような情報化の増大かつ広範化にともない、教養課程において情報処理教育をさらに推進することが急務であると考えられる。

ハ．成績不振者への助言

ちなみに本学では卒業判定のほか2，4の各学年段階において進級判定を行っているが，特に一般教育課程では各科目についての担当教官による指導のほかに，成績不振者を学年あるいは学期ごとに呼び出し複数の教官の助言のもとに指導している。

40. 信州大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
人文学部	37 ()	150	5	附属病院教官定員 105 名 (外数)
教育学部	100 ()	320	2	
経済学部	35 ()	220	50	
理学部	63 ()	190	1	
医学部	163 ()	100	5	
工学部	137 ()	460	12	
農学部	75 ()	199	7	
繊維学部	105 ()	275	1	
教養部	88 ()			
計	803 ()	1,914	83	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 宗教学, 日本史, 外国史, 国文学, 外国文学, 国語学, 音楽, 美術, 東洋学
	社会分野	法学, 日本国憲法, 政治学, 国際政治学, 経済学, 国際関係論, 社会学, 心理学, 統計学
	自然分野	数学, 数学演習, 物理学, 物理学実験, 化学, 化学実験, 生物学, 生物学実験, 地学, 図学
	総合科目	科学論, 文化人類学, 農学, 環境科学 I, 学問論, 自然保護, 信州の自然と文化, 人間と文化, コミュニケーション論, 地域研究, 現代の生命観, 社会科学と現代, 情報科学
	ゼミナール	哲学ゼミナールほか40科目
外国語科目		英語, 英語会話, ドイツ語 A, ドイツ語 B, ドイツ語 C, ドイツ語 D, ドイツ語 H, ドイツ語 I, ドイツ語 J, フランス語 A, フランス語 B, フランス語 C, フランス語 D, フランス語 E, フランス語 H, フランス語 I, フランス語 J, 中国語 1, 中国語 2, ロシア語 A, ロシア語 B, ロシア語 C, ロシア語 D, ハンゲル語 1, ハンゲル語 2, スペイン語 A, スペイン語 B
保健体育科目		体育講義, 体育実技

基礎教育科目 (医学部)		数学, 物理学, 化学, 生物学
日本語・日本事情		日本語Ⅰ, 日本語Ⅱ, 日本事情Ⅰ, 日本事情Ⅱ, 日本事情Ⅲ
一・専門・二年教育 次科目	人文学部	人文科学概論
	経済学部	現代社会と政策, 経済数学, 現代の日本経済, 社会科学のための情報処理, 経営・会計, 経済社会と法, 経済・分析の基礎
	理 学 部	物理学概論, 化学実験, 地質学序説, 地質学序説実習
	工 学 部	SUNSによる講義
	繊維学部	SUNSによる講義

II. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

II-1. 調査報告書

- ① 『答申書・新しい状況下における一般教育について』（昭和62年3月, 教養部問題検討委員会）
- ② 『報告書』（昭和62年5月, 教養部将来構想委員会）
- ③ 『答申書・教養学部（仮称）の設立について』（平成元年12月, 教養部将来計画委員会）

II-2. 案作成までの経緯と学内手続き等

イ. 案作成までの経緯と学内手続き

上記文書はいずれも教養部教授会の諮問による。作成に当たった委員会は教養部内のものである。③『答申書・教養学部（仮称）の設立について』は、教養部教授会の承認後、平成3年度概算要求とすべく、現在、信州大学将来計画委員会において全学レベルの検討に付されている。

教養部問題検討委員会と教養部将来構想委員会とが統合され、昭和62年5月に教養部将来計画委員会が発足した。さらに、大学審議会の設置を機に、昭和62年11月には、教養部をめぐって起こりうる事態とその対策についての調査・研究、将来計画に必要な資料作成や提言等を目的とした教養部臨時委員会が設置された。現在この委員会は、教養学部実現に到るまでの教養部乃至は教養課程教育について諮問されている。

教授会の諮問は、主として臨教審答申を契機として起こった教授会の議論に基づくところが大きい。経緯の詳細は各文書を参照されたい。

ロ. 作成に当たって特に注意した事柄

- (1) 学部が隔地に分散している本学の地理的特殊事情及び教養部1年横割制の改変は望めないこと。学部化案の場合も全学の1年次一般教育等を担当する。
- (2) 大幅な人員増は望めないこと。
- (3) いずれの改善の場合も、現教養部の教官全員が参加できること。
- (4) 教養理念の育成強化をはかり、一般教育の質的低下を生じないようにすること。

(5) 臨教審等における教養部をめぐる論議。

(6) 全学の合意を得ること。

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

1. 調査報告書

④ 『ネットワーク・システムについて』（平成元年10月、教養部臨時委員会）

ネットワーク・システム（通称SUNS）による専門科目の試行的授業がクサビ型カリキュラムの一環として行われている。教養部では専門の委員会を設け、隔地学部高年次向け一般教育科目等の授業の実施について検討中である。

⑤ 『答申書・基礎教育科目について〔抄〕』（平成2年4月、教養部臨時委員会）

教授会で承認され、平成3年度開設を目標に実施案検討中。

2. 改革・改善例

1) 一般教育科目について

③の教養学部案では総合科目を大幅に取り入れることが考えられている。また学部実現に到るまでの一般教育全体の改革・改善について臨時委員会で検討中である。

2) 外国語について

(1) 昭和58年度——フランス語のA、B、C、Dのコースによる多様化実施（『教養部案内』184頁参照）。

(2) 昭和61年度——ドイツ語のA、B、C、Dのコースによる多様化実施（『教養部案内』177頁参照）。

(3) 昭和62年度——英語の自由選択クラス開設（『教養部案内』167、173頁参照）。

3) 保健体育について

(1) 実技にシーズン・コースの授業（3泊4日の野外体育）を開設。

(2) 講義に医学部教官・医師による保健の授業を開設。

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ-1. 特色

本学はキャンパスが4ヶ所に分散している。教育学部と工学部が長野市、繊維学部が上田市、農学部が上伊那郡南箕輪村（以上を隔地学部と言う）、そして人文学部、経済学部、理学部が教養部とともに松本市にある。こうした事情から教養部は1年横割り制をとっており、1年次で教養課程の大部分を終える。これが、まず当教養部の特色と言える。

イ. 一般教育科目について

(1) 自然分野の科目には、内容的に基礎教育的色彩を持つものがある。特に数学、物理の場合がそれに当たる。

(2) 上記科目の中には、専門の学部から履修を指定された必修科目がある（学部指定科目と呼んでいる）。

(3) 学部指定科目のある学部は、医学部、工学部、繊維学部である（『教養部案内』71，72頁参照）。

(4) 上記以外は完全自由選択である。

(5) 人文、社会分野の講義に概論的なものは皆無である。

ロ．外国語科目について

(1) 英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、ハングル語の7ヶ国語が開設されている。

(2) 英語、ドイツ語、フランス語の履修方法が多様である。

(3) 経済学部生の必修単位が一つの未修外国語8単位である。

ハ．保健体育科目について

(1) それぞれ異なった教育目標に基づいて、1年次向けに半年間のレギュラー・コース、2年次向けには多様なシーズン・コースを開設している。

(2) 講義として体育講義と保健講義が行われている。

(3) 保健講義は医学部教官・医師の担当によって行われている。

ニ．総合コースについて

(1) 総合科目の専担者の占める割合が比較的高い。全教官85名中、科学論、文化人類学、環境科学、自然保護合わせて6名。

(2) 部内に総合科目運営協議会を設け、総合科目に関する調整等を行っている。

ホ．セミナーについて

(1) 単位を認定するものと、認定しないものの二通りが開設されている。どちらを開設するかは担当教官の自主的判断による。

(2) 学部に移行した高年次生も参加できる。

ヘ．基礎専門、基礎教育科目について

(1) 基礎教育科目の区分を設けることについて平成2年4月に教授会決定した。平成3年度実施を検討中。

IV-2. 改善の方向

多くの学部が、それぞれ教養部から数十キロの遠隔地に分散しているキャンパス配置の事情から、教養課程1年横割りの現状の変更は困難であることを前提として、教養部改組による「教養学部（仮称）」設立の計画を立て概算要求を行なうこととしている。

新学部は4年制の専門課程を持つとともに、引き続き全学の教養課程・医進課程教育を担当する。これに伴う教養課程教育の改革の概要は以下の通りであるが、一部については学部化計画とは独立に具体化を図る。

イ．一般教育については、

(1) 従来の3分野を見直して、

数理・物質、生命・環境、文化・記号、歴史・社会

の4つの「領域（仮称）」を基盤に開設し、それぞれの領域における幾つかの『領域内総合科目』を中心として、科目相互の関連を明確にした有機的なカリキュラム編成を図る。また、複数の領域にまたがる『領域間総合科目』を全学生に対して必修として課す。

- (2) 設置基準の大綱化にあわせて一般教育科目の単位数（授業時間数）を若干削減し、36単位を原則1年で消化している過密カリキュラムの緩和と、少人数授業の充実を図る。

ロ. 外国語科目については、

- (1) 主に外国語の運用能力を養う目的の部分は、身体機能の向上を目指す保健体育科目とともに、全ての学部・学生の学生に共通する「共通基礎科目」として位置づける。また、主として異文化の理解を目的とする部分は、一部を一般教育科目（特に、文化・記号、歴史・社会領域の）として扱う。

ハ. クサビ型カリキュラムの拡大を目指して、

- (1) 学部化が実現すればその専門教育科目の一部を各学部の高年次生に対する一般教育科目として活用する。
- (2) 「信州大学画像情報ネットワーク」の利用により、遠隔キャンパスの専門学部生に対する教養課程教育の改善・多様化を図る。

ニ. 低学年次における基礎教育の位置づけを再検討し、

- (1) 現カリキュラムでは位置づけがあいまいな専門にかかわる基礎教育を一般教育と分離して扱い、一般教育科目の単位数の一部を基礎教育科目に振り替え、専門教育との連携を強める。

V. 自由意見

教養部の将来については、学部への改組の他に、解体・分属がもう一方の極にあるとされる。本学はキャンパスがきわめて広い範囲に散在している。従って、解体・分属が行われれば、全学の学生に共通の一般教育を行うことはもはや不可能である。本学にあっては、教養部解体・分属は教養部解体のみならず、教養課程教育の根底からの解体に通ずるのである。SUNS（信州大学画像情報ネットワーク・システム）に現在の教養部と同程度の機能を求めるならば、膨大な設備が必要である。また SUNS の設置はキャンパス統合とは逆の方向を持つと考えられる。本教養部は解体・分属の道は選べないし、選ばない。

本教養部は発足以来20年以上を経過した。その間、研究・教育に関わる教養部のポテンシャルは大きく増加した。また、設置基準の弾力化を機に、一般教育の科目を精選し、さらに教養課程の必修単位数を減ずるならば、教養部教育の負担の軽減になる。教養部は、既存の学部と異なり、すぐれた総合性を備えている。これら3点、すなわち教官のポテンシャルの増大、教官の負担軽減、総合性は4年制学部設立のための大きなプラス・ファクターとなる。こうして設立された学部の研究成果はそのまま一般教育に反映し、一般教育の新たな変革を呼ぶであろう。このことは本教養部のみならず、全国いずれの教養部にも言えるであろう。従って、教養部組織の改変

については、4年制学部への改組の道が全体的な傾向として大きく開かれることは合理的であると考えられ、本教養部としても強く期待するところである。

本教養部の4年制学部設立案は、教授会承認の後、概算要求とすべく全学の検討に付されている。

また、本教養部は＜大学の評価＞と関連して広報誌『スペクトル——信州大学教養部教育研究要覧——』を発行した。

41. 富山大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
人文学部	42 ()	190	0	
教育学部	85 ()	240	0	
経済学部	83 ()	430	18	
理学部	66 ()	200	0	
工学部	98 ()	402	18	
教養部	64 ()			
計	438 ()	1,462	36	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学Ⅰ，哲学Ⅱ，論理学，心理学，心理学演習，日本史，東洋史，西洋史，文学，音楽，美術
	社会分野	法学，日本国憲法，経済学，統計学，政治学，地理学，社会学
	自然分野	数学，微分積分，線形代数，応用数学，物理学，物理学実験，化学，化学実験，生物学，生物学実験，地学，天文学，地学実験
	総合科目	社会環境論Ⅰ，社会環境論Ⅱ，自然環境論Ⅰ，自然環境論Ⅱ，現代社会論，富山の自然，情報と科学，人権と差別，地球環境論
	ゼミナール	歴史学ゼミナールほか8科目
	コロキウム	哲学コロキウムほか5科目
外国語科目		英語，英会話，ドイツ語，ドイツ語会話，フランス語，中国語，ラテン語，ロシア語，朝鮮語
保健体育科目		体育講義，保健講義，体育実技

III. 教養課程教育の個々の改善についての試み

本教養部にあつては、既に昭和47年度に教養部改革小委員会において『富山大学（教養部）における一般教育について』と題する報告書（ガリ版刷20頁）が作成され、教授会に資料として提出されたことがある外は、まとまった形の文書は作られていない。

上記の報告書は教養部外に配布されたことはないので、今回それを提出することは適當ではないが、同報告書は本教養部における一般教育の現状の“応急的”改善を示唆しており、その中で

カリキュラム編成の基本的理念として「元来一般教育と専門教育との間には本質的な差異はないのであって、その点両者を極度に異質なものと扱うことはつつまねばならない。」と指摘し、国大協『大学問題に関する調査研究報告書』（昭46.6）が提唱したカリキュラム編成の三段階案をほぼ支持していることは、注目に値する。その他、専門教育とのいわゆるクサビ型相互乗り入れ、総合科目の設置、教養部ゼミナールの開設もこの報告書において提案された。

この年（昭和47年）以降、下表に掲げるゼミナール、コロキウムが開設され、また、昭和52年には学科目「環境科学」が「総合」の分野として設置され、以後同分野は次第に増強されて、現在では「教養部履修のしおり」に掲げる8授業科目が開設されている。

授 業 科 目	開設年度	開設単位	必修選択の別
歴史学ゼミナール	58	1	選 択
基礎法学ゼミナール	58	1	選 択
マルクス経済学ゼミナール	54	1	選 択
政治学ゼミナール	61	1	選 択
物理学ゼミナール	60	1	選 択
生物学ゼミナール	61	1	選 択
地学ゼミナール	54	1	選 択
社会環境論ゼミナール	61	1	選 択
植生学ゼミナール	57	1	選 択
哲学コロキウム	57	単位認定なし	選 択
化学コロキウム	57	単位認定なし	選 択
地学コロキウム	47	単位認定なし	選 択
自然保護論コロキウム	53	単位認定なし	選 択
アメリカⅢコロキウム	57	単位認定なし	選 択
イギリス小説コロキウム	62	単位認定なし	選 択

上記の報告書は教養部の組織改革の方向として、学部への改組を望ましいものとして指摘しているが、以後本教養部は全学の一般教育を担当し、かつ、独自の専門教育をも施し得る学部への改組を将来計画の最重要事項としてきた。その反面一般教育の改善の努力がやや弱められた観を呈している。

時勢の推移と共に、今後全学的な取組みの中で、一般教育の改革が実現する方法を目下検討中である。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

ロ. 外国語科目について

朝鮮語を開設していること、

いわゆる第1、第2外国語の区別を設けず、英、独、仏、中、露、朝の6ヶ国語のうち2ヶ国語、各8単位を選択させること、

を特色と考える。

ニ．総合コースについて

地域社会に密接した授業科目を掲げていることを特色と考える。

ホ．セミナーについて

Ⅲの表を参照されたい。

Ⅳ－２．改善の方向

明確な方向を持ってはいないが、特にへ及びトの項目は研究課題であろうと考える。

42. 富山医科薬科大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

区 分	教官定員数	入学定員数	学 部 留 学 生 数	備 考
医 学 部	150 (10)	95	2	附属病院教官定員97名(外数)
薬 学 部	61 (8)	105	0	
計	211 (18)	200	2	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 文学Ⅰ, 文学Ⅱ, 心理学Ⅰ, 心理学Ⅱ, 日本史Ⅰ, 日本史Ⅱ, 音楽, 美術
	社会分野	社会学Ⅰ, 社会学Ⅱ, 法学Ⅰ, 法学Ⅱ, 経済学Ⅰ, 経済学Ⅱ, 政治学Ⅰ, 政治学Ⅱ, 地理学Ⅰ, 地理学Ⅱ, 文化人類学Ⅰ, 文化人類学Ⅱ
	自然分野	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ, 物理学実験, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 化学実験, 生物学Ⅰ, 生物学Ⅱ, 生物学実験
外国語科目		英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 英語Ⅴ, 英語Ⅵ, 英語Ⅶ, 英語Ⅷ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語Ⅲ, ドイツ語Ⅳ, 仏語Ⅰ, 仏語Ⅱ, 英語会話, ラテン語
保健体育科目		保健体育講義, 保健体育実技
基礎教育科目 (医学部)		医薬学概論, 応用数学, 生物物理化学, 生物有機化学, 無機化学, 統計学, 医用電子工学, 情報処理学, 薬用生物学, 細胞生物学

III. 教養課程教育の個々の改善についての試み

医学部、薬学部及び両学部にあたる一般教育の部門で、それぞれ一般教育を含めて教育課程を検討する委員会があり、検討はしているが文書としてまとめているものはない。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育については、医学部、薬学部ともに、いわゆる楔形をとってカリキュラムを編成している。また、医薬学概論（基礎教育科目、一年次履修）では、専門科目の教官等によって現実的な医療、薬学の問題が講義され、病院、製薬会社等の見学、病院の介護の手伝い（希望者のみ）なども体験させている。

ロ. 外国語科目については、医学部、薬学部の学生のためにラテン語の演習がある。

薬学部では、フランス語（4単位）が学科目として設けられている。（非常勤講師によ

る)

ハ. 保健体育の実技科目として、スキー実習を行っている。

IV-2. 改善の方向

ニ. 外国語科目については、フランス語が第二外国語として履修できるよう改善を考えている。

ト. 教養課程と専門課程を融合させる方向で教官どうしの話し合いを推進し、特に英語に関しては、会話や論文等に役立つ英語を可能にする方向を検討している。

V. 自由意見

医学部に関しては、フランス語を第二外国語として履修させたい（学生の希望もあり）が、専任の教員を必要とするので苦慮している。国大協でも、フランス語や中国語等の教員が小規模の大学で採用できるよう学科目増・新設等を推進してほしい。

43. 金沢大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
文 学 部	55 ()	155		附属病院教官定員 131 名 (外数)
教 育 学 部	102 ()	295	1	
法 学 部	38 ()	200	1	
経 済 学 部	35 ()	200	6	
理 学 部	86 ()	160		
医 学 部	140 ()	100		
薬 学 部	41 ()	80		
工 学 部	167 ()	515	7	
教 養 部	81 ()			
計	745 ()	1,705	15	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 歴史学, 文学, 西洋古典学, 音楽, 美術
	社会分野	日本国憲法, 法学, 政治学, 経済学, 社会学, 心理学, 地理学
	自然分野	数学, 数学A, 数学B, 数学C, 物理学, 物理学実験, 化学, 化学実験, 生物学, 生物学実験, 地学A, 地学B, 地学C, 地学実験, 力学, 図学
	総合科目	文化人類学, 統計学Ⅰ, 統計学Ⅱ, 科学技術文化史, 朝鮮文化, 情報処理, 言語文化, 生命の科学と倫理, 表現の人類学
外国語科目		英語 (講読と文法), 英語 (会話と文法), 英語 (会話と講読), ドイツ語 (講読と文法), ドイツ語 (会話), フランス語 (講読と文法), フランス語 (会話と講読), ロシア語 (講読と文法), 中国語 (講読と文法), 中国語 (会話と講読), ラテン語, ギリシャ語
保健体育科目		保健体育講義, 体育実技
日本語・日本事情		日本語, 日本事情
基礎教育科目 (医学部)		放射線物理学, 体液生理学, 一般生理学, 人体発生学, 細胞・組織学, 生体物質の化学

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

人文・社会系16単位，自然系12単位の他に，人文・社会・自然の3分野及び総合科目の中から「自由選択科目8単位」を履修させており，学生の学科目選択の幅を広げている。

ロ. 外国語科目について

七か国語（英，独，仏，露，中，ラテン，ギリシャ）の中から二か国語各8単位を選択履修できるようにしている。

ホ. セミナーについて

教養部教官だけでなく学部教官の協力も得て，小人数クラスで行っている。

IV-2. 改善の方向

ロ. 総合科目の充実

既設の総合科目（「科学技術文化史」「朝鮮文化」など）に加え，いっそう学際性・地域性に富む総合科目を開設したい。

44. 福井大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
教 育 学 部	128 (33)	200	8	
工 学 部	162 ()	560	28	
計	290 (33)	760	36	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 論理学, 倫理学, 心理学, 文学, 言語学, 中国学, 美術
	社会分野	法学, 政治学, 経済学, 社会学, 社会思想史, 教育学, 歴史学, 文化人類学
	自然分野 A	数学, 統計学, 物理学, 化学, 生物学, 地学, 農学, 環境科学
	自然分野 B	数学概論 I, 数学概論 II, 物理学概論, 基礎物理学実験, 化学概論 A, 化学概論 B, 基礎化学実験, 生物学概論
		科学論・科学史, 情報科学
外国語科目	英語 1, 英語 2, 英語 3, 英語 4, 英語 5, 英語 6, 英語 7, 英語 8, ドイツ語 1, ドイツ語 2, ドイツ語 3, ドイツ語 4, ドイツ語 5, ドイツ語 6, ドイツ語 7, ドイツ語 8, 中国語 1, 中国語 2, 中国語 3, 中国語 4, 中国語 5, 中国語 6, 中国語 7, 中国語 8, ロシア語 1, ロシア語 2, ロシア語 3, ロシア語 4, ロシア語 5, ロシア語 6, ロシア語 7, ロシア語 8	
保健体育科目	保健体育理論, 体育実技	
基礎教育科目(工)	自然分野 B から学科別に必修指定	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

へ. 基礎専門, 基礎教育科目について

平成 2 年度入学生から, 従来工学部学生を対象に開講していた基礎教育科目を一般教育科目(自然分野)に変更し, より柔軟な科目選択が可能になった。

IV-2. 改善の方向

一般教育のねらいが教養及び専門の基礎であり, 更には現代的な問題, 実用的な部分, 学術的な要素も含まれるべきであるとの考えに立ち, 一般教育の充実及び改革を目指して, 平成元年 12 月に「一般教育検討委員会」を設置し, 従来担当者から指摘されている一般教育の種々の問題を整理し, 前向きに改善努力を行っている。

45. 福井医科大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 数	備 考
医 学 部	153 (12)	100	0	教官定員には学長 1 名、副学長 2 名を含む。 附属病院教官定員93名(外数)
計	153 (12)	100	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一教 育 科 目	人文分野	哲学, 倫理学, 心理学, 歴史学(医史学), 文学, 芸術学
	社会分野	法学・政治学, 経済学, 地理学, 文化人類学
	自然分野	数学, 物理学, 物理学実験, 化学, 化学実験, 生物学, 生物学実験
外国語科目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ, フランス語, 英会話Ⅰ, 英会話Ⅱ, 英会話Ⅲ, 英会話Ⅳ	
保健体育科目	体育講義, 体育実技	
基礎教育科目	応用統計学, 医用電子工学, 医学情報学, 分子生物学, 生物発生学, 医学概論, 遺伝学	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

特色とは考えていないが、

- ① 外国語教育については、外国人教師による英語・英会話の時間を設け、native speaker の参加を図っている。
- ② 基礎教育科目に医用電子工学及び、情報科学には工学系の非常勤講師による授業を行っている。
- ③ 基礎医学系からは、2年次後期から、解剖学の授業を始めている。

などが行われている。

IV-2. 改善の方向

常々、単科大学としての短所を補うことに意を注いでいる。現在、項目のイ、ニ、トに関するものに重点を置いている。

V. 自由意見

総合大学に比して、単科大学ではどうしても学生の視野が狭くなりがちである。十分な教養課程の教育が出来るように、一般教育にかかわる常勤教員の増員を希望する。

46. 岐阜大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
教 育 学 部	107 ()	340		附属病院教官定員95名(外数)
医 学 部	134 ()	80	6	
工 学 部	148 ()	450	16	
農 学 部	114 ()	250	1	
教 養 部	59 ()			
計	562 ()	1,120	23	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人 文 分 野	哲学, 倫理学, 心理学, 心理学実験, 文学, 音楽, 美術, (総)性
	社 会 分 野	経済学, 経済学特講, 憲法, 法学, 政治学, 社会学, 教育学, 歴史学, 人文地理, 人文地理特講, 自然環境, 文化人類学, 文化人類学特講, (総)社会
	自 然 分 野	数学, 解析学, 代数学, 統計学, 物理学, 物理学実験, 化学, 化学実験, 生物学, 生物学実験, 地学
	教養セミナー (総合科目)	松井セミナー, ほか49科目
外 国 語 科 目		英語A, 英語B, 英語C, 英語D, 英語特講, 英語研講, 独語 I G, 独語 I L, 独語 II G, 独語 II L, 独語 II, 独語 III, 独語 IV, 独語研講, 仏語 I G, 仏語 I L, 仏語 II G, 仏語 II L, 仏語 II, 仏語 III, 仏語研講, 露語初級, 露語中級, 中国語初級, 中国語中級
保 健 体 育 科 目		保健体育講義, 体育実技 I, 体育実技 II
基 礎 科 教 育	医 学 部	数学, 物理学, 物理学実験, 化学, 化学実験, 生物学, 生物学実験
	工 学 部	数学, 物理学, 化学
日 本 語 ・ 日 本 事 情		日本語A, 日本語B, 日本語C, 日本事情 I, 日本事情 II, 日本事情 III, 日本事情 IV

III. 教養課程教育の個々の改善についての試み

1. 教養セミナーの開設

資料 (1) 「60年度教養部大学問題研究会 提案」(61. 3.12)

(2) 「年次別教養セミナー開講状況」

(3) 「教養セミナーに関する教官アンケート」

(4) 「教養セミナー・アンケート調査（各学部1・2年次学生分）について」

2. 総合科目の一部実施

3. 一般教育科目履修の弾力化

4. 学科目の充実

学生のより幅広い選択を可能にするために、教養部発足以来一般教養科目の増設に心掛けてきた。また、非常勤講師で賄われていた若干の学科目についても常勤教官を配置し、教育内容の一層の充実を図ってきた。

学科目の新設：政治学（昭和47年度）

人類学（昭和51年度）

日本語・日本事情（昭和62年度）

常勤教官の配置：法 学（昭和42年度）

統計学（昭和43年度）

倫理学（昭和62年度）

地理学（昭和62年度）

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

ホ. セミナーについて

前記Ⅲの資料参照

IV-2. 改善の方向

（改善の重点課題）

ロ. 総合科目を中心にした、一般教育の充実を図る。

ハ. セミナーを中心にした、一般教育の充実を図る。

ヘ. 例えばコア科目など、従来の実施方法に囚われない方法の開発を考える。

47. 静岡大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学 生 留 数	備 考
人 文 学 部	88 ()	432	21	
教 育 学 部	134 ()	510	0	
理 学 部	73 ()	205	2	
工 学 部	156 ()	501	17	
農 学 部	76 ()	165	4	
教 養 部	82 ()			
計	609 ()	1,813	44	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 宗教学, 日本史, 東洋史, 西洋史, 日本語学, 日本文学, 中国文学, 西洋文学, 音楽, 美術
	社会分野	法学, 政治学, 経済学, 社会学, 社会思想史, 社会統計学, 地理学, 心理学, 教育学
	自然分野	数学, 数学Ⅱ, 統計学, 物理学, 化学, 生物学, 地学
	総合科目	科学史(西欧科学の成立と発展), 科学史(日本における科学の受容過程), 科学史(技術の誕生とその革新過程), 子供論, 生活科学, 技術概論, 人間論, ことば, 情報科学
外国語科目		英語Ⅰ-1, 英語Ⅰ-2, 英語Ⅱ-1, 英語Ⅱ-2, ドイツ語Ⅰ-1, ドイツ語Ⅰ-2, ドイツ語Ⅱ-1, ドイツ語Ⅱ-2, フランス語Ⅰ-1, フランス語Ⅰ-2, フランス語Ⅱ-1, フランス語Ⅱ-2, 中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ, ロシア語Ⅰ, ロシア語Ⅱ
保健体育科目		体育講義, 実技Ⅰ, 実技Ⅱ
日本語・日本事情		日本語Ⅰ-1, 日本語Ⅰ-2, 日本語Ⅱ-1, 日本語Ⅱ-2, 日本事情Ⅰ
基礎 教育 科目・ 共通 専門 教育 科目	理学部	数学概論A, 数学概論B, 物理学概論Ⅰ, 物理学概論Ⅱ, 物理学実験, 化学概論Ⅰ, 化学概論ⅡA, 化学概論ⅡB, 化学実験, 生物学概論, 生物学実習, 地球科学概論, 地球科学実験
	工学部	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ, 物理学実験, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 化学実験, 図学
	農学部	生物学概論Ⅰ, 生物学概論Ⅱ, 生物学実習, 化学概論Ⅰ, 化学実験, 物理学概論Ⅰ, 物理学実験, 統計学概論

II. III. 教養課程教育の改善への動き

① 『教養部改革に関する報告』(平成2年3月)

本学教養部では、総合科目特別委員会が1971年度に設置され、その検討を経て、1979年度に総合科目が開設された。また、構想委員会を中心として、教養部教育を改善すべく教授会構成メンバーに対するアンケート調査や、それを基にした公開討論会等を行い、教養教育の充実等をはかってきた。

最近では、1988年度に、全国国立大学教養部から学生便覧等を取り寄せ、その実態調査を行い、本教養部でも「一般教育における小人数教育」、「授業時間の現行100分4コマ制から90分5コマ制」の2点を取り入れることを教授会に提案した。前者については、後述の「教養部改革検討委員会」の「コア科目案」との関連もあって継続検討中である。後者については教養部教授会の承認を得て、近々全学に正式提案の運びとなる。これが実現すると、従来、カリキュラムの過密化のため困難であった教養部セミナーの開設枠が正規の時間割の上に確保され、その単位化の可能性が高くなる。

なお、1987年度に、教養部組織改革の検討のため特別委員会として「教養部改革検討委員会」の設置が教授会に提案され、1988年4月に同委員会が発足した。同委員会は現状のカリキュラムの見なおしから着手し、1989年7月に「中間報告」を、1990年3月には「最終報告」をまとめた。

「中間報告」で提案された外国語科目のカリキュラム改善に対しては、具体的に英語教官の欠員に、1990年4月から英語を母語とする外国人を採用し、人文コースの学生に半年間の会話授業を必修とした。また、LL教室の設置も概算要求を行うこととなった。一般教育の充実に向けて提案された「コア科目」の創設に対しては、1990年4月以後も、その実現の可能性を探るべく引き続き検討をすることとなった。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

本学では2年制教養部を堅持しており、理・工・農学のコースに基礎教育科目への8単位の振替を認めているものの、36単位を必修としている。基本は、人文・社会・自然の3分野にわたり3科目ずつの選択制であるが、その他に総合科目を設け3分野のいずれかに振り替えることを認めている。

総合科目は、3分野にまたがる内容のものである。それは10年にわたる検討の結果、1979年度から開設され、1989年度には7科目が開設されている。その科目は以下のとおりである。

人間論 2本、科学史 4本、子供論 1本、生活科学 1本、技術概論 1本、
情報科学 2本、ことば 1本

ロ. 外国語科目について

第1・第2外国語共に8単位必修のコースと、第2外国語は4単位でもよいコースとがある。

英語については、会話にも力点が置かれ始め、1990年4月から人文コースに対して半年間の会話が必修となる。また、2年次生は学生の希望を重視し、英語2コマの内1コマは講義概要を学生に提示し、その中からの選択を認めている。

未修外国語については、8単位選択必修を基本としており、4単位選択必修の工学コースにおいても、さらに4単位の選択が可能なカリキュラムの編成をとっている。なお、未修外国語科目については、選択の幅が広がるように、ドイツ語の他に、フランス語・中国語・ロシア語等の充実を図ってきた。

ハ. 保健体育科目について

2年間の体育実技は、ボールゲームを中心としたスポーツ種目を教材とし、原則として、学生の選択によっている。実技の内容は、単に技術の修得でなく、その文化的背景を学ばせるよう努め、各種目を通して健康体力の保持増進を広く学ばせている。また、半年間の講義は、広範な分野を包括する体育学の内、重要な二つの分野を2人の教官の組合せにより行っている。例えば、運動生理学的なものや体育史的なものなどである。

ホ. 教養部セミナーについて

従来、セミナーは教官が自主的に行ってきたが、1981年4月から「教養部セミナー」と名付け、その一覧表を学生に配布し、広く、学生に参加するよう呼びかけている。

セミナーは単位として認められておらず、開設の時間も主に午後5時以後であるが、熱心な教官・学生に支えられ、毎年10数本が開設され現在に至っている。その内容は多種多様で、外国語教官による哲学関係のもの等各教官の専門を越えたものもある。また、参加者は教養部生だけでなく、学部生、卒業生も含まれている。

毎年その単位化の要望が強いが、正規の時間割内にその開設枠の確保が難しく、また、担当教官の非専門分野のセミナーの取扱をどのようにするか検討が続けられている。

ヘ. 基礎教育科目について

当教養部の発足時（1965年）から、理・工・農学各コースの学生を対象に、各学部教官の協力を得て、教養部の責任において基礎教育を展開してきた。部内に、基礎教育検討委員会を設け、受講生のアンケート調査等を通じてテキスト・授業内容の難易度をチェックし、カリキュラムの検討、基礎教育の改善に当たっている。

昨今の細分化されたいわゆる「専門科目」教育に対し、基礎教育は理・工・農学のコースの学生に自然科学の総合的な視野を与える観点から、各コースの学生にとって必要と考えられる自然科学の基礎を系統的に幅広く学習させている。そのカリキュラムの概要は以下のようである。

工学コース（1学年定員501名1989年度、延べ人員501名×2）

物理、数学、化学、図学の講義が必修として、9コマ展開されており、これに、物理学実験（通年）と化学実験（半年）が必修として行われている。

理学コース（1学年定員205名1989年度、延べ人員205名×2）

物理、数学、化学、生物、地球科学の講義が8コマ、必修（一部選択必修）として、展開されている。これに、必修として、物理学実験（半年）と化学実験（半年）が行われ、必修あるいは選択として、生物学実習（半年）と地球科学実験（半年）が行われている。

農学コース（1学年定員165名1989年度、延べ人員165名×2）

生物、物理、数学、化学の講義が必修として、5コマ展開されており、これに生物学実習（半年）、物理学実験（半年）、化学実験（半年）が必修として行われている。

IV-2. 改善の方向

一般教育について、従来の3分野にわたる履修方法は基本とするが、総合科目の一層の充実をはかるべく、総合科目委員会ではアジア学・女性学の2つの新科目の1991年度開講に向けて検討を重ねている。

また、教養部セミナーの単位化の要望は年々強まっており、このことを踏まえ小人数クラスの新しい形の一般教育を開設するように努力している。

さらに、1990年4月以後、「改革検討委員会」提案の「コア科目」の検討も続けられることとなっている。「コア科目」は、総合科目とセミナーを組合せた形態のものが考えられており、近い将来その実現が期待されている。

48. 浜松医科大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
医 学 部	254 (13)	100	6	2年度増定員を含む ※次の定員を含む ①学長・副学長 3 ②保健管理センター講師 1 ③動物実験施設助教授 1 ④実験実習機器センター助教授 1 ⑤附属病院 ⁹⁴
計	254 (13)	100	6	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 文学, 心理学, 歴史
	社会分野	法学, 経済学, 社会学, 社会思想史, 教育学
	自然分野	数学, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ, 物理学実験, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 化学実験, 生物学Ⅰ, 生物学Ⅱ, 生物学実験
外国語科目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 英会話, 独語Ⅰ, 独語Ⅱ, 独語Ⅲ, ロシア語Ⅰ, ロシア語Ⅱ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, 中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ	
体育実技	体育講義, 体育実技Ⅰ, 体育実技Ⅱ	
基礎教育科目	(Ⅰ系) 医学概論Ⅰ, 医学概論Ⅱ, 応用数学, 医療社会学, 法学演習, 倫理学演習, 英語演習, 独語演習, カウンセリング心理学, (Ⅱ系) 情報理論, 医学統計学, 電子工学, 医学物理学, 生物物理学, 数学演習, (Ⅲ系) 生物学演習, 基礎発生学, 生物化学, 機器分析学, 実験心理学	

II. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

II-1. 調査報告書

① 『拡大教務委員会報告書(抜粋)』

II-2. 案作成までの経緯と学内手続き等

1985年(昭和60年)に, 専門教育も含めたカリキュラム全般に亘る改善を行った。

イ. 案作成までの経緯と学内手続き

開学前に立案した教育カリキュラムと比べて, 教員の赴任・施設の新営等の状況によって, 実施してきたカリキュラムにひずみが生じてきたこと, 授業時間数が基準より大幅に増大したこと等により, 1979年(昭和54年)に初代教育等担当副学長がカリキュラムの見直しを提唱され, 教授会がこれを承認し, 拡大教務委員会を組織して, 本学構成員全般から意見を聴取し,

これをまとめるという手続きで調査報告を行った。

ロ. 案作成に当たって、特に注意を要した事柄

- ① 専門課程から教養課程へのくい込みという形のクサビ型を見直すこと。
- ② 総授業時間数を削減は正して、ゆとりあるカリキュラムとすること。

Ⅱ-3. 既に実施している改善の試み

- ① 非常勤講師の雇用により、社会科学の不足を補った。
- ② 「特別講義」として広く外部から講師を招いて、人文・社会・自然科学全般を見渡し結合しうる講義を実施している。
- ③ 外国語科目を高学年（2，3，4年生）でも選択できるようにしてこれを充実した。特に外国人教師（英語）及び外国人講師（ドイツ語，フランス語）を雇用した。
- ④ 基礎教育科目を文化系・数物系・生化系の3系列に分けて大幅に充実し，小人数教育が実施できるようにした。
- ⑤ 6年生用に医学関連科目として，医学に関する総合科目的科目の中に，倫理学，法学等も関連する科目を開設することによって，より実質的なクサビ型教育を実施した。

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

1989年（平成元年）より，カリキュラム検討小委員会を設置して第2次のカリキュラム見直し作業に入っているが，この全学的な見直しの中で，教養課程教育も見直される予定である。

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

上で述べたような本学の特質によって，教養課程のみを個別的に取り上げた設問には回答し難いが，

- ① 基礎教育科目の「医学概論Ⅰ・Ⅱ」の授業科目については，専門課程教員が参加したり，一方専門教育科目内の関連科目の一部授業科目については，教養課程教員がこれに部分参加したりしてカリキュラム面で教養課程教育と専門課程教育との融合を図ったり，
- ② 一部教養課程教員が医学研究科（大学院）の担当を分担したり，新入生のオリエンテーション（ワーク・ショップ）に専門課程教員も参加したりして，人的融合も図っている。

49. 名古屋大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学 部 留 学 生 数	備 考
文 学 部	68 ()	150		
教 育 学 部	32 ()	70		
法 学 部	60 ()	190 (15)		法学部入学定員 () は、三年次入学定員 (外数) である。
経 済 学 部	46 ()	230	3	
理 学 部	194 ()	285		
医 学 部	158 ()	100	6	附属病院教官定員 150 名 (外数)
工 学 部	441 ()	865	6	
農 学 部	128 ()	193		
教 養 部	108 ()		7	
総合言語センタ	62 ()			
総合保健体育科学センター	14 ()			
計	1,311 ()	2,083 (15)	22	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 哲学史, 論理学, 倫理学, 心理学, 心理学演習, 心理学演習及び実習, 教育学, 日本史, 東洋史, 西洋史, 文化人類学, 国語国文学, 東洋文学, 西洋文学, 人文科学セミナー, (総) 人文
	社会分野	憲法, 法学, 政治学, 政治学演習, 経済学, 経済学演習, 社会経済史, 社会学, マスコミ論, 社会思想史, 社会思想史演習, 地理学, 地理学演習, 統計学, 社会科学セミナー, (総) 社会
	自然分野	数学, 数学 (講義及び演習), 数学 (特演), 物理学, 物理学 (演習), 物理学 (講義及び実習), 化学, 化学 (講義及び実習), 地学, 地学 (講義及び実習), 生物学, 生物学 (講義及び実習), 図学, 図学 (講義及び実習), 情報科学, 自然科学セミナー, (総) 自然
外国語科目		英語, ドイツ語初級, ドイツ語中級, ドイツ語中級 (特演), ドイツ語初歩, フランス語初級, フランス語中級, フランス語中級 (特演), フランス語初歩, ロシア語初級, ロシア語中級, ロシア語初歩, 中国語初級, 中国語中級, 中国語初歩, スペイン語初級, スペイン語中級, スペイン語初歩, ラテン語初歩, ギリシャ語初歩

保健体育科目	保健体育講義，体育実技
日本語(特例科目)	日本語 A，日本語 B，日本語 C

Ⅱ．教養課程教育の改善に関する調査報告書

Ⅱ－１．調査報告書

① 『教養部改革調査報告書』（平成２年３月）

Ⅱ－２．案作成までの経緯と学内手続き等

昭和59年３月将来構想委員会を教養部教授会に設置（59年11月第１次案答申）し，昭和60年３月に同委員会を教養部改革委員会に改組して教養部改革案等の検討及び作成に当たっている。

また，教養部改革第３次検討委員会を評議会のもとに設置し，教養部改革案について全学的に検討を加えるとともに，本委員会の承認のもとに教養部改革に係る概算要求案を作成する。

Ⅱ－３．既に実施している改善の試み

『教養部改革調査報告書（平成２年３月）』中，Ⅱ（34～59ページ）を参照。

なお，参考資料として『チューター制（試行）に関する報告書』（1987年３月）及び『大学教育方法等改善経費報告書』（1990年３月）を添付。

Ⅳ．教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ－１．特 色

教養課程における現行カリキュラムについては，昭和59年度に改正したカリキュラム（いわゆる59カリ）により実施しており，その特色と具体的内容については，『教養部改革調査報告書（平成２年３月）』中，Ⅳ〔４〕（119～120ページ）を参照。

Ⅳ－２．改善の方向

イート全般にわたる改善を考えている。具体的な改善構想は『教養部改革調査報告書（平成２年３月）』中，Ⅰ〔２〕（２～11ページ）を参照。

50. 愛知教育大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
教 育 学 部	300 (36)	1,035	3	本学では教養課程担当教官と専門課程担当教官を明確に区別していない。
計	300 (36)	1,035	3	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 宗教学, 文学, 史学, 芸術学, 心理学
	社会分野	法学, 地理学, 政治学, 経済学, 社会学, 教育学
	自然分野	数学, 物理学, 化学, 生物学概論, 地学, 工学, 農学
外国語科目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, フランス語Ⅲ, フランス語Ⅳ 中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ, 中国語Ⅲ, 中国語Ⅳ	
保健体育科目	保健体育理論Ⅰ, 保健体育理論Ⅱ, 保健体育実技Ⅰ, 保健体育実技Ⅱ	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

広範な教養の形成と知識の調和, 並びに総合的及び自主的な判断力を育成している。

ロ. 外国語科目について

一般教育の一環として, 広く国際文化の理解と交流並びに学術の基礎的能力を育成している。

ハ. 保健体育科目について

身体活動の価値を認識し進んでこれを行い, 健康を増進するとともに社会的性格を養い, もって学生生活を豊かならしめている。

IV-2. 改善の方向

(1) 一般教育科目について

分野ごとの授業科目(題目)の見直し及び授業内容の改善

(2) 外国語科目について

- ① 1クラス当たりの受講学生数の適正化
- ② 授業方法の改善
- ③ 学生の履修科目選択方法の改善

51. 名古屋工業大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
工学部(第一部)	364 (56)	1,000	20	
工学部(第二部)	34 (10)	200	0	
計	398 (66)	1,200	20	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 文学, 心理学, 教育学, 歴史学, 人類学
	社会分野	経済学, 社会学, 法学, 憲法, 政治学, 地理学
	自然分野	解析学Ⅰ, 線形代数学Ⅰ, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 地学, 生物学
外国語科目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語A ドイツ語B, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, フランス語A, フランス語B ロシア語A, ロシア語B	
保健体育科目	保健講義, 体育講義, 体育実技	
専門教育科目 (共通基礎科目)	解析学Ⅱ, 解析学Ⅲ, 線形代数学Ⅱ, 関数論, 微分方程式Ⅰ, 微分方程式Ⅱ, 確率・統計学, 物理学Ⅲ, 物理学Ⅳ, 物理学実験, 基礎化学Ⅰ, 基礎化学Ⅱ, 化学実験, 情報処理Ⅰ, 情報処理Ⅱ演習	
日本語・日本事情	日本語Ⅰ, 日本語Ⅱ, 日本語Ⅲ, 日本学Ⅰ, 日本学Ⅱ, 日本学Ⅲ	

II. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

II-1. 調査報告書

① 『大学改革及び大学院工学研究科博士課程構想(抄)』(昭和60年3月)

II-2. 調査報告書作成までの経緯と学内手続き

① 調査書作成までの経緯

本学では、学部の改革及び新構想による大学院博士課程の設置について、学部の改革については大学改革検討委員会を設置し、大学院博士課程の設置については大学院博士課程設置準備委員会を設置し、それぞれ検討を重ねた。

また、大学改革検討委員会と大学院博士課程設置準備委員会の合同幹事会で検討し、一般教育の改善を盛り込んだ『大学改革及び大学院工学研究科博士課程構想』の調査を作成した。

② 学内の手続き

大学改革検討委員会及び大学院博士課程設置準備委員会で審議し、教授会で決定された。

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

本学第二部においては、昭和60年度より外国語（英語）科目について、1年次を帯開講とし、その中の1クラスを初級クラスとして推薦入学者の普通高校以外の出身者を優先的に受講させている。

なお、自分がどのクラスを選択するかは、「授業内容一覧」により自由に選択させている。

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ-1. 特 色

へ. 基礎専門，基礎教育科目について

本学は、専門教育科目の中に「共通基礎科目」を設けて、全学科の専門教育の基礎教育を行っており、担当教官は主に教養課程の教官が行っている。

また、科目としては下記のとおりであるが、科目によっては特定の学科の学生に受講させたり、学科によっては必修・選択と異なっている。

記

授 業 科 目	単位数	授 業 科 目	単位数	授 業 科 目	単位数
解 析 学 II	2	微 分 方 程 式 II	2	基 礎 化 学 (有機)	2
解 析 学 III	2	確 率・統 計 学	2	基 礎 化 学 (無機)	2
線 形 代 数 学 II	2	物理学III(電磁気学)	2	化 学 実 験	1
関 数 論	2	物理学IV(近代物理)	1	情 報 処 理	2
微 分 方 程 式 I	2	物 理 学 実 験	1	情 報 処 理 I 演 習	1

なお、「イ」から「ホ」及び「ト」に関しては、「ロ」の外国語（英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語）が、1～4年次にわたって配置されている点以外には、特記すべき事項はない。

Ⅳ-2. 改善の方向

本学の『大学改革及び大学院工学研究科博士課程構想（昭和60年3月）』（上記Ⅱ-1参照）中のⅡの2の一般教育の改善の項の中に、三項目にわたって、特に一般教育の改善と専門教育への協力参加について提案がされている。

しかしながら一方において、学生急増期に加え、本学が多人数教育実施校であったこと、更には大規模な第二部（4学科、学生総定員1,000名の夜間部）を併せ持つという歴史的事情等があるため、実質的な多人数教育のために教官及び設備に対する負担増、教育の非効率性等が障壁となり、教養課程の改善への取り組みは緒についていない。このような状況の打破方策の検討は、教養課程教育改善のための全学的優先課題の一つと考えられる。

以上のような状況下で、カリキュラム上も、教育内容においても、現在教官個々の工夫、努力に依存せざるを得ない中で、なお一般教育担当の教官毎に改善について模索、検討が続けられているが、組織的改革、改善に結び付く端緒をつかみ兼ねている。

なお、模索中の個別的問題点（希望）をあげれば、次のとおりである。

- (1) セミナー形式による小人数教育の導入については、多くの教官が強い関心を持っている。
……（ハ）
- (2) 人文社会教室では、総合科目あるいはコア科目を中心とし、教養課程教育と専門教育との融合について、現制度下での可能性を討議している。……（ロ、ヘ、ト）
- (3) 化学教室では、実験を主体とした実践教育について討議中である。
- (4) 保健体育教室では、生涯教育につながる教育として、保健体育科目の実技の見直しを検討している。……（ホ）

52. 豊橋技術科学大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
工 学 部	203 (12)	1 年 100 3 年 270	33	本学では教養課程担当教官と専門課程担当教官を明確に区別していません。
計	203 (12)	1 年 100 3 年 270	33	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	国語・国文学, 史学Ⅰ, 史学Ⅱ, 史学Ⅲ, 国文学, 言語学, 心理学, アメリカ史, アメリカの社会運動と社会思想, 東洋思想史, 人文地理
	社会分野	社会思想史, 社会科学概論, 法学, 経済学, ミクロ経済学, 国民経済計算論, マクロ経済学, 経営工学概論, 地域経済分析, 現代産業論
	自然分野	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学Ⅴ, 数学Ⅵ, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ, 物理学Ⅲ, 物理学Ⅳ, 物理実験, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 化学Ⅲ, 化学実験, 生物学, 地学
	総合科目	アイルランドの民話, 異文化間コミュニケーション入門, 英語聴解力強化講座, 日本の物語, 身体運動学入門, 現代の分子生物学, 日本語文章表現, 手話入門, 今日の世界事情
外国語科目		英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, フランス語Ⅲ, フランス語Ⅳ 中国語
保健体育科目		保健体育講義, 保健体育実技Ⅰ, 保健体育実技Ⅱ, 保健体育実技Ⅲ, 保健体育実技Ⅳ
日本語等		日本語, 日本事情

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

本学の1年次, ならびに3年次(高等専門学校から編入)に入学する学生を対象に, 入学時に英語の一斉テストを実施し, 能力に応じたクラスを編成し, 教育効果を上げる努力をして来た(資料「一斉テストに関する報告書」参照)。

また最近では, 本学においても留学生が急増し, 日本語の授業を履修する学生が増えてきている。彼らの日本語の理解力には大きな差があるため, 平成2年度より, 英語と同様に一斉テストを実施し, 日本語の能力に応じた履修コースを選択させ, より効果的な授業方法についての検討を始めている(資料「日本語プレースメント・テスト実施日設定のお願い」参照)。

これら英語、日本語教育の在り方は、単に一般教育内の問題にとどまらず、工学の専門教育にも多大な影響を与えると考えられるため、全学的な問題として、協議の上実施しているものである。このため、テキストについても、専門的な内容に関したのもも適宜取り入れ、一般教育としての語学教育と専門教育の一体化を目指している。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育全般について

本学は、昭和53年に開学した工学部の単科大学であるが、旧来の大学と比較して、制度的に大きな特徴がある。すなわち、1年次に高等学校の卒業生が入学することは他大学と変わらないが、その定員は少なく（現行100名）、主な入学生は、3年次に編入してくる高等専門学校の卒業生である。後者の編入生は、高等専門学校において、大学における一般、ならびに専門教育に相当する科目を履修しており、その修得単位は、本学入学時に修得単位として読み替えられるが、一般教育科目、ならびに外国語科目においては、その卒業要件を満足させるには至らず、そこで必然的に3、4年次においてこれら不足分の一般教育科目、外国語科目を履修しなければならなくなっている。この際、一般教育科目は、従来通り人文、社会、自然の3領域に分類されているが、人文と社会の垣根を取り外し、必要単位数をどちらの領域から選択しても可能であるとし、選択の自由度を拡げている。

また1年次入学生は、3年次において高等専門学校からの編入生とドッキングしなければならない状況を考えると、1、2年次において、かなりの専門教育科目を履修しておく必要が生ずる。そのため1、2年次において、一般科目、ならびに専門科目を並行して履修することになり、このことは3、4年次においても同様である。

以上のように、本学では、旧来の大学の教養課程に相当するものは存在せず、1年次から4年次まで一般教育科目と専門科目が並列し、これらがうまく組み合わせられることにより、教育効果を上げていることに一大特徴があると考えられる。

さらに本学は、学部から大学院までの一貫教育を目指した大学院大学でもある。そしてこの大学院教育においては、専門教育だけに偏らず、幅広い知識、教養を身につけさせることを教育目標として、大学院修了要件単位数の3分の1を、他の専攻科目、計画経営関連科目、あるいは一般教育科目で埋めなければならない規定がある。従って、人文、社会、外国語、保健体育の担当教員の多くが、学部と同様に大学院向けの一般教育科目を担当している。大学院においても、学部教育と同様に一般教育、専門教育が並行して行なわれていることは、本学のもう一つ大きな特徴と言える。

ロ. 外国語科目について

イにおいて述べたように、外国語科目を1年次から4年次までの全学生を対象として開講している。また本学では、原則的には英語を第一外国語とし、英語だけで外国語科目の総単位数

を修得することができるようになっている。第二外国語として、ドイツ語、フランス語、中国語を開講しているが、特例的にドイツ語を第一外国語として履修することも可能となっている。

外国語科目の担当教官は、1～4年次の外国語の授業だけでなく、後で述べる総合科目、あるいは大学院向けの一般教育科目を担当することとなり、教官側の意識の面でも、これまでの教養課程のみの教育に比べて意気込みも高く、一般教育科目、外国語科目の充実に寄与していると考えられる。

ハ．保健体育科目について

1年次に入学する学生を対象とし、2年間で講義2単位、実技2単位を履修させていることは、他大学と同じである。これに加えて本学では、3、4年次を対象とした体育実技を、また大学院生を対象とした体育科学を開講し、3年次以降でも保健体育科目を選択することが可能である。

ニ．総合科目について

一般教育科目の一つとして、総合科目を週1回開講し、人文、社会、外国語、保健体育担当教官が、これらの講義を担当している。平成2年度の開講科目は9科目である。この単位は、一般科目の人文、社会のどちらの単位としても認定可能であること、また、内容的にもこれまでの学問領域にこだわらず、例えば、手話入門、今日の世界事情等、学生にとって興味深い内容も多く、好評である。

ホ．セミナーについて

セミナーの名称で開講している科目はない。

ヘ．基礎専門科目等について

本学は、工学の単科大学であるため、一般科目の中の自然の分野、特に数学、物理学、化学は、専門の基礎科目として重要である。そのためこれらの科目を専門課程の教官が担当し、基礎科目と専門科目を関連づけながら講義している。

IV-2. 改善の方向

すでに述べたように、本学では、一般教育科目を学部後期のみならず、大学院修士課程においても開講し、準専門科目並の取り扱いをしてきた。これは、本学の教育目標である、幅広い知識、教養を持った技術者の養成を目指したためであった。これにより一般教育と専門教育が分離せず、いい意味での全人教育が行なわれ、教育効果を高めてきたと考えられる。

しかしながら、現在、一般教育科目、外国語、保健体育の担当教官が中心となって、これまでの一般教育の成果をさらに進めるべく方策について検討を始めたところである。すなわち、近年の工学の進歩はめざましく、特に情報通信産業の飛躍的な進歩は、これまでの人間の社会制度そのものを根幹から揺がしかねない危険性さえ孕むようになってきた。このような場合には、工学そのものと、人間の文化、社会の諸問題を取り扱ってきた人文、社会科学との密接な関係が欠か

せないものになってきたことを示すものといえる。このため、一般教育の目的を工学教育における全人教育的意義付けに留まらないで、さらに両者の有機的な関連にまで踏み込んだ講義内容を新たに加えることにより、従来の一般教育、専門教育に分類された教育内容を抱合的に取り扱って行きたい、とするのがこれまでの改善に関する審議経過である。

53. 三重大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
人文学部	100 (5)	280	6	本学では、一般教育を主として人文学部と教育学部の教官が担当している。 人文学部教官は、日本語・日本事情担当及び臨時増募分を除いて、一般教育担当教官と専門課程担当教官の区別はない。 教育学部教官は一般教育担当教官と専門教育担当教官が定員上区別されている。 附属病院教官定員 103 名 (外数)
教育学部	132 (25)	330	0	
医学部	140 (0)	100	0	
工学部	98 (0)	390	12	
生物資源学部	145 ()	306	0	
計	615 (30)	1,406	18	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 宗教学, 歴史学, 文学, 芸術学, 音楽学, 比較文化
	社会分野	法学, 政治学, 経済学, 社会学, 文化人類学, 地理学, 教育学, 心理学
	自然分野	数学A, 数学B, 数学C, 数学D, 統計学, 情報科学, 物理学, 物理学実験, 一般化学, 化学の基礎, 基礎有機化学, 化学実験, 生物学, 生物学実験, 地学, 地学実験, 自然科学概論, 図学, 環境化学
	総合科目	人権を考える, 平和問題, 環境問題, 大学とは何か, 伊勢湾の自然と文化, 生と死, 食と農をめぐって, 女性論, ことばと文化, 国際交流, 健康科学
外国語科目		英語, ドイツ語初級, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語会話初級, ドイツ語会話中級, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, 中国語初級, 中国語中級, ロシア語Ⅰ, ロシア語Ⅱ, ラテン語, ギリシャ語
保健体育科目		体育理論, 体育実技Ⅰ, 体育実技Ⅱ, 体育実技Ⅲ
基礎教育科目(医)		物理, 化学
医学部学生対象		医学概論, 医用外国語, 細胞生物学
日本語・日本事情		日本語会話初級, 日本語会話中級, 日本語講読Ⅰ, 日本事情Ⅴ, 日本事情Ⅵ

II. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

II-1. 調査報告書

① 『一般教育改革のための提言』(平成2年5月)

Ⅱ－２．調査報告書作成までの経緯と学内手続き等

イ．経 緯：1987年12月～1990年 5 月まで26回の委員会開催

学内の手続：提言を一般教育委員会，一般教育運営協議会，人文・教育両学部教授会に報告，課題をそれぞれ審議してもらう。

ロ．注意した事柄

- ① これまでの改革検討の歴史に学ぶこと
- ② 一般教育定数の確認
- ③ コマ数基準の策定
- ④ 予算配分の新しい方式
- ⑤ 履修申告の改定，再試験廃止
- ⑥ 総合科目の充実
- ⑦ 外国語科目の充実
- ⑧ 授業科目とカリキュラムの見直し

Ⅱ－３．既に実施している改善の試み

- ① 一般教育定数の確認
- ② 予算配分の新しい方式
- ③ 履修申告の改定，再試験廃止
- ④ 総合科目の充実
- ⑤ 外国語科目の充実

Ⅳ．教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ－１．特 色

特になし。

Ⅳ－２．改善の方向

イ．従来の人文・社会・自然の3分野にわたる履修方法を一層充実発展させる。

ロ．総合科目を中心にした，一般教育の充実を図る。

ト．教養課程教育と専門教育とを融合させる方向で改善を試みる。

上記を中心にとりくんでいる。

54. 滋賀大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
教 育 学 部	116 (19)	260	17	教育学部では、教養課程担当教官と専門課程担当教官を明確に区別していない。
経 済 学 部	91 (20)	410	9	
計	207 (39)	670	26	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

(教育学部)

一般 教育 科目	人文分野	文学，歴史学，哲学，倫理学，宗教学，論理学
	社会分野	地理学，法学，政治学，経済学，社会学
	自然分野	数学，物理学，びわ湖，生命と物質，健康学概論，栽培と園芸
	総合科目	情報科学，人間と障害，環境科学A，環境科学B，平和教育
外国語科目		英語Ⅰ，英語Ⅱ，ドイツ語Ⅰ，ドイツ語Ⅱ，フランス語Ⅰ，フランス語Ⅱ
保健体育科目		保健体育理論，保健体育実技
基礎教育科目		国語基礎教育Ⅰ，史学基礎教育Ⅰ，地理学基礎教育Ⅰ，地理学基礎教育Ⅱ 法経社基礎教育Ⅰ，法経社基礎教育Ⅱ，倫哲基礎教育Ⅰ，社会科基礎教育Ⅰ，数学基礎教育Ⅰ，数学基礎教育Ⅱ，理科共通基礎教育，化学基礎教育 音楽基礎教育Ⅰ，美術基礎教育Ⅰ，保健体育基礎教育Ⅰ，保健体育基礎教育Ⅱ，家政学基礎教育Ⅰ，技術基礎教育Ⅰ，英語基礎教育Ⅰ，英語基礎教育Ⅱ，教育学基礎教育Ⅰ，心理学基礎教育Ⅰ，心理学基礎教育Ⅱ，障害児教育基礎教育Ⅰ，障害児教育基礎教育Ⅱ，幼児教育基礎教育Ⅰ，幼児教育基礎教育Ⅱ，情報教育基礎教育Ⅰ，情報教育基礎教育Ⅱ

(経済学部)

一般 教育 科目	人文分野	宗教学，倫理学，論理学，歴史学，芸術学，哲学，心理学，文学
	社会分野	法学，政治学，経済学Ⅰ，経済学Ⅱ，経営学，社会学，人文地理学，社会思想史
	自然分野	数学，化学，地学，生物学，自然科学概論
	総合科目	総合A，教養演習
外国語科目		英語Ⅰ，英語Ⅱ，英会話，独語Ⅰ，独語Ⅱ，仏語Ⅰ，仏語Ⅱ，中国語Ⅰ，中国語Ⅱ，露語Ⅰ，露語Ⅱ
保健体育科目		体育Ⅰ，体育Ⅱ

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

(教育学部)

平成元年4月の教育職員免許法改正に伴う教員養成課程のカリキュラムの全体的再編成作業のなかで、教養課程教育のカリキュラムについて以下のような改善を行い、平成2年度より実施することにした。

1. 「一般教育科目等」に関する従来の卒業要件単位数は52単位であったが、これを48単位に軽減した。
2. 「一般教育科目等」の単位の内訳は「一般教育科目」32単位、「基礎教育科目」4単位であったものを「一般教育科目」24単位、「基礎教育科目」8単位に変更し「基礎教育科目」の比重を増やした。「第一外国語科目」8単位、「第二外国語科目」4単位、「保健体育科目」4単位については変更しなかった。

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

特になし。

ロ. 外国語科目について

経済学部における教養課程教育では、外国語科目を重視している。すなわち、1回生は英語4単位、第二外国語4単位必修、2回生においても、英語4単位、第二外国語4単位必修とし、1・2年次合計16単位のうち2ないし4単位の未修得者を仮進級、それ以下の者を留年としている。本学部がこうに外国語の修得に力点を置いているのは、単に経済学部学生として専門知識の摂取に外国語が不可欠だということに留まらず、外国語学習を通して広く専門外にも目を向けられるようになることを求めている。最近の言語についての全く新しい考え方は、言語が単なるコミュニケーションの手段に留まらず、広く世界・社会そのものの認識にかかわる重要な要素であることを指摘した。

このような認識行為の原点としての言語の重要性に鑑み、外国語学習を一般教育の中核に据えることは、これまで以上に重要な意味を持つものと考えられる。したがって、語学担当教師のテキストの選び方についても、多様性を心がけ、文学作品、言語学関係、LLを使った会話教育、「タイム」、「ニューズウィーク」などのジャーナル等、学生が言語の多様な面に接することができるよう配慮されている。

ハ. 保健体育科目について

特になし。

ニ. 総合コースについて

特になし。

ホ．セミナーについて

経済学部における教養課程教育では、1回生に対する教養演習を実施している。この制度の狙いは、とかく疎遠になりがちな教師と学生との距離をちぢめ、小人数のクラス編成（平均16～17名）によって、1回生の時点から、教える側と教わる側との融合を図ることである。この演習の場において、大学社会に不慣れなフレッシュマンたちに適切なアドバイスを与えることができるし、また、講義におけるような、一方通行の関係ではなく、等しく討論の場に加わる機会を提供しようというものである。経済学部では、現在27コマの教養演習が開講され、そのテーマも、経済・経営・会計・情報処理に直に関わるものから、フランス語、哲学に至るまで幅広い分野をカバーしている。

ヘ．基礎専門、基礎教育科目について

教育学部における教養課程教育では、初等・中等教育にかかわる教員養成のための教育を専修専攻制のもとで行っている。小学校教員の養成であっても、専修する教科に関する専門性にもとづく洞察力の涵養に力点をおくものである。このため、教職専門に関する教育と合わせて、専修専攻にかかわる専門教育の基礎教育を1回生から行っている。

ト．その他（論述作文など）について

経済学部における教養課程教育では、1・2回生段階においても、ある程度、専門科目の履修を可能にしていること。と同時に専門課程にある3・4回生も、一般教育を履修することが可能である。

これは、1・2回生を教養段階、3・4回生を専門段階ととり仕切る弊害の改善を目指す見地から作られたものである。1・2回生を教養課程とみなす見方の最大のマイナス点は、教養課程を専門のための準備運動のようにみなしてしまうことである。教養と専門をそのような段階的ヒエラルキーに位置付けることは間違いで、全てを包括的に、大きなネットワークの中で位置付けて世界をみようとする“教養”的、総合的（integrating）見地は、全てを細分化（disintegrating）し、限定された領域内での詳細な分析を目指す“専門”と同時的ではなくてはならないと考えている。いたずらに、入学したての学生を“教養”の枠内に閉じ込めることは、高校の二番煎じとの誤解を受けやすく、早い時期に“専門”に触れさせることによって、かえって、“教養”の総合的・包括的アプローチの認識を新たにさせ得るものと考えられる。と同時に、専門課程にある3・4回生にも、一般教育を履修することが可能で、細分化された領域の枠を脱して、より広い見地からそれぞれの“専門”を見直させることにもなろう。

IV-2. 改善の方向

本学では、まだ検討していない。

55. 滋賀医科大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 留 学 生 数	備 考
学 長・副 学 長	3			
分子神経生物学 研究 セ ン ター	3			
医 学 部	148(12)	100	0	附属病院92名, 附属施設 2 名 (外数)
計	154(12)	100	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 心理学, 歴史学, 文学
	社会分野	社会学, 人文地理学, 法学, 社会科学総合
	自然分野	物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ, 物理学Ⅲ, 物理学実習Ⅰ, 物理学実習Ⅱ, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 化学Ⅲ, 化学実習Ⅰ, 化学実習Ⅱ, 生物学Ⅰ, 生物学Ⅱ, 生物学Ⅲ, 生物学実習Ⅰ, 生物学実習Ⅱ, 数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学Ⅳ
外 国 語 科 目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語実習Ⅰ, 英語実習Ⅱ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ	
保 健 体 育 科 目	体育講義, 体育実技Ⅰ, 体育理論, 体育実技Ⅱ	
基 礎 教 育 科 目	医学史・医学概論, 基礎生命科学, 臨床心理学, 応用電子工学, 情報処理学, 生物学特論, 統計学, ラテン語	
セ ミ ナ ー	英語ゼミナール	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

① 人文科学および社会科学

学年指定 (1 年次, 2 年次前期)

授業科目を 3 つのカテゴリーに分類

A——専任教員が担当する科目

哲学, 人文地理学

1 年半履修させる (各 6 単位)

50 名単位の小数教育

B——かつては専任教員が担当した科目

心理学，社会学

1年次に履修させる（各4単位）

〔A，Bの科目は，選択科目であるが，実質的には必修科目といってよい。〕

C——非常勤講師が担当する科目

文学，歴史学（東洋史，西洋史）

法学，社会科学総合

2年次前期に履修させる（各2単位）

これらの科目を開講することによって，選択の幅を広げている。

② 自然科学

物理学，化学，生物学の3科目は，講義6単位，実習2単位が必修。

講義は100名単位，実習は50名単位の授業。

③ 各科目ごとに特色ある教育の展開

哲学Ⅱ（2年次前期）：東洋哲学と西洋哲学の2クラスに分ける。

人文地理学：年3回，野外巡検を実施，地域の自然，歴史，文化等に対する理解を深めさせる。

ロ．外国語科目について

① 英語ゼミナール，独語ゼミナールを開講

② 外国人教師による英語実習の開講

③ LLの活用

④ 独語の補習授業（1年次の独語不合格者に対する特別授業。なお，哲学も同様の授業をしている。）

ハ．保健体育科目について

専任の教官はいないが，2名の非常勤講師で実技指導をし，体育所属の事務官が準備・連絡等を行なっている。）

講義は生理学の教授とスポーツ医学専攻の医師（非常勤）が分担。

ニ．総合コースについて

社会科学総合：テーマは「ヨーロッパ世界」

コーディネーターは人文地理学の教授，ヨーロッパの自然，歴史，文化，政治，経済等について多角的に講義している。

ホ．セミナーについて

英語，独語のみ開講。

ヘ．基礎専門，基礎教育科目について

① 専門課程との連繋を重視

② 1年次に必修科目として医学史・医学概論を履修させ（4単位）専任の教授が担当。また，

情報処理学（2単位）を選択科目として開講している。

③ 2年次には、基礎生命科学、臨床心理学、応用電子工学（各2単位）等を履修させる。

④ 上記③のうち、基礎生命科学は必修科目。専門課程における学習に欠くことの出来ない分野を物理学、化学、生物学の3教室の教官が分担、講義している。

IV-2. 改善の方向

イ. 人文科学、社会科学は、現在それぞれ3科目、10単位以上を選択必修としているが、専任教員が1名増員されれば3科目12単位以上を選択必修させることにしたい。

ロ. 将来的には、人文科学、社会科学および自然科学の3分野にまたがる総合科目の開講も考えられるが、実現には相当の困難が伴うと思われる。

ハ. 現在の段階では特に考えていない。哲学Ⅱ、人文地理学Ⅱ、社会科学総合（以上2年次）および医学史・医学概論（1年次）は少数人数教育で、セミナー式の授業方法が取入れられている。

ト. 自然科学、基礎教育科目は、専門教育との連繋に十分な配慮をしている。今後も、両者の融合を積極的にすすめたい。

56. 京 都 大 学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学 部 留 学 生 数	備 考
文 学 部	100	220	0	附属病院教官定員 157 名（外数）
教 育 学 部	34	60	1	
法 学 部	107	400	6	
経 済 学 部	42	250	29	
理 学 部	300	306	2	
医 学 部	205	100	0	
薬 学 部	52	80	3	
工 学 部	641	1,040	27	
農 学 部	242	325	3	
教 養 部	186			
計	1,909	2,781	71	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学，哲学ゼミ，論理学，倫理学，倫理学ゼミ，宗教学，宗教学ゼミ，芸術学，芸術学ゼミ，文学，日本文学，言学，国語国文学，漢文学，漢文学ゼミ
	人文・社会分野	史学概論，国史学，国史学ゼミ，東洋史学，東洋史学ゼミ，西洋史学，西洋史学ゼミ，東洋社会思想史，東洋社会思想史ゼミ，西洋社会思想史，文化人類学，文化人類学実習，文化人類学ゼミ，社会学，社会学ゼミ，心理学，心理学ゼミ，教育学，教育学ゼミ，人文地理学，人文地理学ゼミ，日本語
	社会分野	法学，法学ゼミ，日本国憲法，日本国憲法ゼミ，政治学，政治学ゼミ，経済学，経済学ゼミ，社会統計学，社会統計学実習，社会統計学ゼミ
	自然分野	数学1，数学2，数学3，数学4，数学5，数学6，数学7，数学8，数理統計学，数理統計学ゼミ，数学演習，物理学1，物理学2，物理学3，物理学4，物理学5，近代物理学1，近代物理学2，一般物理学・同実験1，一般物理学・同実験2，化学1，化学2，化学3，化学4，化学5，一般化学・同実験1，一般化学・同実験2，生物学1，生物学2，生物学3，生物学4，生物学実習1，生物学実習2，自然人類学，地学1，地学2，地学3，地学4，地学実験法・同実験1，地学実験法・同実験2，

		図学，一般図学，図学演習，図学実習，工業概論，生活科学，生活科学ゼミ，環境科学，生化学，自然科学史，情報科学，情報科学実習，数学ゼミ，生物学ゼミ
外国語科目		英語，英語会話，英語実習，ドイツ語Ⅰ，ドイツ語Ⅱ，ドイツ語会話，ドイツ語実習，フランス語Ⅰ，フランス語Ⅱ，フランス語会話，フランス語実習，中国語，中国語会話，ロシア語
保健体育科目		保健理論，体育理論，保健体育理論，体育実技
基礎教育科目	理学部	数学1b，数学2，数学5，数学6，数学7，数学8，数理統計学，数学演習，物理学2，物理学3，物理学4，近代物理学2，一般物理学・同実験1，一般物理学・同実験2，化学2，化学3，化学4，一般化学・同実験1，一般化学・同実験2，生物学1，生物学2，生物学3，生物学4，生物学実習1，生物学実習2，地学1，地学2，地学実験法1，地学実験法2，図学演習，図学実習
	医学部	物理学，化学，生物学及び数学のうち一般教育科目として履習しなかった授業科目及び一般生理学のうちから選択

Ⅱ．教養課程教育の改善に関する調査報告書

Ⅱ－１．調査報告書

- ① 『教養部にかかわる構想検討委員会からの報告』（平成元年1月）
- ② 『京都大学における一般教育改革の流れと現在』（平成2年2月）
- ③ 「教養課程教育の改善に係る調査資料集」
 - 1) 教養部等にかかわる大学院のあり方調査研究報告書等
 - (1) 『学術総合研究科の構想——人類のよりよき生存の条件と可能性の探求——』（昭和61年3月）
 - (2) 『教養部の改革と学術総合の理念をめぐる諸問題』（昭和62年3月）
 - (3) 『教育行政および教育社会学的見地からみた高度一般教育の研究——ニーズと未来像——』（昭和61年3月）
 - 2) 専門分野の研究の一般教育への適用関係
 - (1) 『理科教育における一般教育と専門教育の関係について』（昭和62年3月）
 - (2) 『情報学教育の総合的方法と本学におけるその適用の研究』（平成元年3月）
 - (3) 『環境問題への総合的アプローチの方法と本学におけるその教育への適用の研究』（昭和63年3月）
 - 3) その他
 - (1) 『健康に関する教育・研究体制のあり方』（昭和62年3月）
 - (2) 『健康に関する生涯教育の検討』（昭和63年3月）
 - (3) 『健康に関する教育研究の諸外国における実態調査』（平成元年3月）

- (4) 『国際地域研究 1 (地域科学・計画に関する国際的教育・研究体制)』(昭和63年 3 月)
- (5) 『国際地域研究 2 (国際地域研究教育機構に関する調査研究)』(平成元年11月)
- (6) 『外国人の日本語・日本事情のニーズに関する研究』(昭和63年 3 月)

II-2. 案作成までの経緯と学内手続き等

イ. 案作成までの経緯と学内の手続き

学内に「教養部にかかわる構想検討委員会」を設け、全学的立場から検討を行った。委員会の構成は、各学部、教養部の他、研究所等からの委員も含まれる。委員会は約 2 年間にわたり、毎月一回のペースで慎重な審議を行ったが、審議の過程において、何度も委員を通して当該学部内の見解・意見を求めた。

なお、上記構想は部局長会議への報告を経て、評議会の承認を得ている。

ロ. 案作成に当たって、特に注意したこと

既存の 9 学部全ての合意と協力が得られるようにしたこと。

II-3. 既に実施している改善の試み

- (1) 専門教育科目を 2 回生以下で行うことについては、既に一部実施済である。
- (2) 医学部を除く全ての学部では留年制を採っていないため、現実には 3 回生以上で教養課程の科目を履習する者がいる。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

一般教育科目の開講されている科目の種類が豊富であることに特色がある。例えば数学は 9 種類、物理学は 7 種類の科目が内容、程度に応じて開講されている。

ロ. 外国語科目について

外国語科目も中級外国語は学生の選択が、自由に認められており、多様なテキストが用意されている。又、フランス語のみは週 6 時間の履習が義務づけられ内容の充実がはかられている。

ハ. 保健体育科目について

保健体育科目についても極めて豊富な実技科目が用意されている。

ニ. 総合コースについて

総合コースとしては例えば環境科学とか工業概論、情報科学などの科目が多数の学部からの出講者を入れて開講されている。

ホ. セミナーについて

各授業科目のいずれについてもそれぞれセミナーが開かれており、1 年次から小人数教育の充実がはかられている。

IV-2. 改善の方向

詳細については、資料『教養部にかかわる構想検討委員会からの報告』、『京都大学における一般教育改革の流れと現在』を御参照願いたい、その骨子は以下のとおりである。

- (1) 教養部を母体とする新学部（総合人間学部）の創設する、新学部は一般教育の責任部局となる。
- (2) 総合人間学部を中心に学術総合研究科を設置する。
- (3) 一般教育の制度的改革等
 - ① 教養課程と専門課程の区分の廃止、4年一貫教育を実施。
 - ② 総合人間学部の専門科目群を用いた副専攻や一般教育科目への読み替え制度を設ける。
 - ③ 人文、社会、自然3系列各3科目の規程改正（大学設置基準は既に改正済）。
これについては現在各学部において検討が進められ、概ね受け入れられる方向にある。
 - ④ その他外国語科目、保健体育科目、基礎教育科目について改革をすすめる。

57. 京都教育大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
教 育 学 部	139(3)	420	29	教養課程と専門課程の区分を設けていない。
計	139(3)	420	29	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 言語学, 日本文学, 中国文学, 西洋文学, 演劇, 音楽, 美術, 芸術学
	社会分野	日本国憲法及び法学, 日本国憲法及び政治学, 心理学, 社会学, 経済学, 人権問題, 日本史学, 西洋史学, 地理学
	自然分野	自然科学概論, 近代産業技術, 情報科学, 数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 物理学, 化学, 生物学, 地学, 生活科学
外国語科目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, ドイツ語初級, ドイツ語中級, ドイツ語上級, フランス語初級, フランス語中級, フランス語上級, 中国語初級, 中国語中級, 中国語上級, イタリア語, 日本語Ⅰ, 日本語Ⅱ, 日本語Ⅲ, 日本語Ⅳ	
保健体育科目	保健体育理論, 体育実技	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

本学では現4回生実施の教育実習が平成3年度より3回生実施となる。そのため履修基準が設けられて、一般教育、外国語、保健体育については1, 2回生で履修するように指導する。

58. 京都工芸繊維大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 数	備 考
工 芸 学 部	201(21)	565	16	
繊 維 学 部	89(14)	215	7	
計	290(35)	780	23	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

(工芸学部)

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 心理学, 社会心理学, 芸術学, 生活文化史Ⅰ, 生活文化史Ⅱ, 文学, 国語学
	社会分野	社会学, 文化人類学, 法学, 政治学, 経済学, 教育学, 史学, 同和教育特別講義
	自然分野	数学概論, 物理学概論, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ, 化学概論Ⅰ, 化学概論Ⅱ, 生物学概論, 人体科学, 地学概論
外国語科目		英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 英語Ⅴ, 英語Ⅵ, 英語Ⅶ, 英語Ⅷ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語Ⅲ, ドイツ語Ⅳ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, フランス語Ⅲ, フランス語Ⅳ
保健体育科目		体育実技, 体育講義
共通専門教育科目 (1・2年次履修)		数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 応用数学, 数理統計学, 数学演習, 電気磁気物理学, 工業力学, 量子力学, 熱物理学, 原子核物理学, 応用物理学実験法及び実験, 有機化学Ⅰ, 有機化学Ⅱ, 無機化学Ⅰ, 無機化学Ⅱ, 物理化学Ⅰ, 物理化学Ⅱ, 合成化学実験, 分析化学実験, 物理化学実験, 計算機工学, 計算機工学演習, 生理学, 測量, 図学, 基礎科学Ⅰ, 基礎科学Ⅱ

(繊維学部)

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 心理学, 社会心理学, 芸術学, 生活文化史Ⅰ, 生活文化史Ⅱ, 文学, 国語学
	社会分野	社会学, 文化人類学, 法学, 政治学, 経済学, 教育学, 史学, 同和教育特別講義
	自然分野	数学, 物理学概論, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 生物学概論, 人体科学, 地学概論
外国語科目		英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 英語Ⅴ, 英語Ⅵ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語Ⅲ, ドイツ語Ⅳ, ドイツ語Ⅴ, ドイツ語Ⅵ

保健体育科目	実技，講義
共通専門教育科目 (1・2年次履修)	解析学Ⅰ，解析学Ⅱ，解析学Ⅲ，応用数学Ⅰ，応用数学Ⅱ，応用数学Ⅲ，物理学実験，物理学Ⅰ，物理学Ⅱ，力学Ⅰ，力学Ⅱ，化学実験，物理化学Ⅰ，物理化学Ⅱ，物理化学演習，物理化学実験，分析化学Ⅰ，分析化学Ⅱ，分析化学実験，溶液化学，無機化学，有機化学，電子計算機概論，産業組織論，情報論，統計学概論，科学技術特別講義，自然科学特別講義，基礎科学Ⅰ，基礎科学Ⅱ
日本語等	日本語Ⅰ，日本語Ⅱ，日本語Ⅲ，日本語Ⅳ

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特色

(繊維学部)

イ. 一般教育科目について

教養部を設けずに，一般教育科目を1年次より3年次にわたって履修できるように配分している。

ロ. 外国語科目について

小人数のクラス編成で授業を行い，時事英語や会話にも重点を置いている。

ハ. 保健体育科目について

運動場，体育館等教育施設や素晴らしい自然環境をフルに活用している。

(工芸学部)

イ. 一般教育科目について

人文・社会・自然の3分野にわたる必修単位をそれぞれ8単位，合計24単位とし，残り12単位は分野にかかわらず外国語科目も含めて自由に取得できるようにしている。

ロ. 外国語科目について

英語，ドイツ語，フランス語の中から2か国にわたり14単位を修得することを定めているが，更にこの単位を超えて取得した単位は一般教育科目に代替することができるようにしている。

ハ. 保健体育科目について

生涯スポーツの基盤となる教育を行っている。

[工芸学部における一般教育の特色]

人文・社会科目，外国語科目はそれぞれ3年次，4年次まで開設されている。一方，専門科目のごく一部も1年次から開設されていることと相まって所謂クサビ型方式がとられているのが本学の特色である。一方，自然系にあっては専門学科教官の一部も一般教育の授業を担当し，また，一般教育担当の教官も専門科目の中での共通科目を担当するという教育上の協力体制をとっている。このことから本学の教養課程教育の特色がその正しい位置づけを行いつつ，大学全体と

して調和ある発展をとることを意図している点にある。

また、人文・社会・自然担当の教授は、大学院工芸科学研究科前・後期担当教官ともなって、専門学科の教官と一体となって高度な学問の発展に寄与せんとしている。

他の特色として教官候補者として広く人材を海外からも求めていることがあげられる。現在、一般教育担当教官として1名、外国語担当教官として2名、合計3名の教官が配置されている。

IV-2. 改善の方向

(繊維学部)

一般教育の目的は、既成の概念・権威にとらわれず自由に思考し判断する人間を育成し、専門知識に片寄った教育を排して広い視野と高い教養を持つ人間の形成にある。したがって3分野にわたり一層充実した授業内容、カリキュラム編成を考えている。

(工芸学部)

イ. 改組に伴い、工芸学部は専門4学科と一般教育等の5グループより構成される組織を作った。教養課程教育の改善の方向として、所謂 Liberal Arts and Science の精神を基盤とする一般教育の理念を堅持し、従来の一般教育科目、外国語科目、保健体育科目について一層の充実と発展を図りながら学部そして大学全体の新しい発展に寄与したいと考えている。

ロ. 現代科学技術の急速な発展は、諸学問の学際化とともに総合科学の大学における導入を緊急に必要としている。本学においては、一般教育課程がこの役割を担うべきであると考え、自然系において従来より「現代科学技術概論」という総合科目の新設を要求してきたが、平成3年度からの概算要求事項として、これに代って、更に時代の流れに対応・先行できるものとして新たに「情報・環境科学概論」という総合科目を提出することになっている。

ト. 改組に伴う共通講座の専門学科への移行とともに従来、数学、物理、化学の分野で行われてきた教養課程教育と基礎専門教育としての共通科目の協力関係より、今後は、自然系教育と基礎専門教育の協力が図られるべきであると考えられる。

59. 大阪大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
文 学 部	82	173	1	附属病院, 附属施設教官定員(外数)
人 間 科 学 部	68	137	0	附属施設 2 名
法 学 部	60	210	2	
経 済 学 部	44	235	5	
理 学 部	168	215	0	附属施設 6 名
医 学 部	160	90	0	附属病院 243 名, 附属施設46名
歯 学 部	104	60	0	附属病院35名, 附属施設 2 名
薬 学 部	46	80	0	附属施設 1 名
工 学 部	492	900	9	附属施設12名
基礎工学部	236	440	6	附属施設 1 名
教 養 部	111		33	
言 語 文 化 部	43			
健 康 体 育 部	14			
計	1,628	2,540	56	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 哲学S, 論理学, 倫理学, 国史学, 国史学S, 東洋史学, 東洋史学S, 西洋史学, 西洋史学S, 国文学, 国文学S, 東洋文学, 東洋文学S, 西洋文学, 西洋文学S, 国語学, 国語学S, 国文学講読S, 東洋文学講読S, 国語学S, 心理学, 心理学実験, 人文地理学, 人文地理学S, 芸術学, 芸術学S
	社会分野	法学, 法学概論, 日本国憲法, 法学S, 政治学, 政治学S, 経済学, 経済学S, 統計学, 社会学, 社会学S, 社会思想
	自然分野	数学, 数学概論I, 数学概論II, 数学I-1, 数学I-2, 数学I-3, 数学I-4, 数学II-1, 数学II-2, 数学II-3, 数学演習I, 数学演習II, 物理学概論, 力学序説, 初等力学I, 初等力学II, 物理学要論I, 物理学要論II, 物理学要論III, 電磁気学序説, 電磁気学I, 電磁気学II, 熱学・統計力学序説, 現代物理学序説, 物理学実験, 力学要論, 一般力学I, 一般力学II, 電磁気学要論, 基礎電磁気学I, 基礎電磁気学II, 熱物理学,

		力学序論，力学Ⅰ，力学Ⅱ，電磁気学序論，電磁気学A，電磁気学B，熱学・統計力学序論，化学，化学序説，化学序論，無機化学，無機化学Ⅰ，無機化学Ⅱ，化学概論，化学概論Ⅰ，化学概論Ⅱ，物理化学，有機化学，無機化学概論，有機化学概論，化学実験，地球科学概論，地球科学Ⅰ，地球科学Ⅱ，地球科学Ⅲ，地球科学Ⅳ，地学実験，生物学科学，医学序説Ⅰ，医学序説Ⅱ，生物学A，生物学B，生物学C，生物学D，生物学実験，基礎図学，実用図学，図学，図学実習Ⅰ，図学実習Ⅱ
	総合科目	部落問題論，ヨーロッパの文化，科学の源流を語る，性と文化，形を考える，アメリカの文化，科学・技術，情報科学，情報科学特論
	外国語科目	英語A，英語B，独語A，独語B，仏語A，仏語B，ロシア語A，ロシア語B，ラテン語A，ラテン語B，ギリシャ語A，ギリシャ語B，中国語A，中国語B，英語BTC，英語ITC-1，英語ITC-2，イスパニア語A，イスパニア語B
	保健体育科目	保健体育理論，体育実技A，体育実技B
	特例科目	日本の自然と文化，日本の社会と日本語A，日本の社会と日本語B
	特別科目	情報処理演習
	低学年セミナー	音響評価，音楽心理学，国際語エスペラント，極微の世界の物理Ⅰ，極微の世界の物理Ⅱ，金属・半導体・超電導体の不思議，分子結晶の動的な構造，有機反応機構論，化学進化学序説
基礎教育科目及び一・二年次専門教育科目	人間科学部	心理学実験・測定，社会思想史，教育科学，人間科学の諸問題，人間学概論，行動科学，教育学概論，社会学概論
	法学部	法思想史，国際行動論，刑法Ⅰ，民法Ⅰ，政治学原論，文献講読，国際法，憲法Ⅰ
	経済学部	経済史，経済原論，ミクロ経済学，経営学，簿記，基礎演習，マクロ経済学，経済統計，経営統計，コンピュータ実習
	薬学部	薬学概論，有機化学Ⅰ，有機化学Ⅱ，有機化学Ⅲ，物理化学Ⅰ，物理化学Ⅱ，分析化学Ⅰ，教科教育法（理科）
	理学部	物理学概論，物理学演習，分析化学，高分子学序論Ⅰ，遺伝学入門，生化学入門，発生生物学入門，分析化学Ⅰほか38科目
	基礎工学部	情報機械学，電気計算工学及び演習，制御工学概論，コンピュータ工学A，制御工学演習A，制御工学演習B，情報工学基礎A，情報工学基礎B，計算機基礎A，計算機基礎B，プログラミングA，プログラミングB，化学通論，化学工学基礎，物性物理学基礎，物質構造論A，物質構造論B，計数物理学，生物工学概論A，生物工学概論Bほか89科目
	工学部	機械工学序論，工業化学概論，発酵工学序論，材料工学序説Ⅰ，材料工学序説Ⅱ，材料組織学，海洋工学概論，浮体静力学，精密工学概論及び演習，応用物理学概論，土木工学序論，建築概説，建築構造力学Ⅰ，原子力工学演習Ⅰ，環境原論ほか47科目

医 学 部	統計学，数学Ⅰ，力学序説，電磁気学序説，物理学実験，化学序論，物理化学，有機化学，化学実験，医学序説Ⅰ，医学序説Ⅱ，生物学実験
歯 学 部	数学概論，力学序説，化学序説，生物学A，生物学B

Ⅱ．教養課程教育の改善に関する調査報告書

教養課程教育の改善については専門委員会を設けて鋭意検討中であるが，調査報告書の類いは現在のところ作成していない。

Ⅲ．教養課程教育の個々の改善についての試み

資料「大学における英語教育の教材について」(『言文だより』No. 6, 7) 参照。

Ⅳ．教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ－1．特 色

ニ．総合コースについて（教養部）

従来の人文・社会・自然科学の3分野にわたる一般教育科目に加えて学際的観点をそなえた総合科目の履修をすすめ，一般教養課程における教育の充実を図っている。今後，総合科目の開講数を増やし，その内容の多様化と充実を検討中である。

(平成2年度)

授業科目 の 区 別	科 目 名	毎週授 業時数	期 間	単位数
一 般 教 育 科 目	部 落 間 題 論	2	半 年	2
	ヨ ー ロ ッ パ の 文 化	2	半 年	2
	科学の源流を探る一東の科学・西の科学一	2	半 年	2
	性 と 文 化	2	半 年	2
	形 を 考 え る	2	半 年	2
	ア メ リ カ の 文 化	2	半 年	2
	科 学・技 術 一過 去・現 在・未 来一	2	半 年	2
	情 報 科 学	2	半 年	2
	情 報 科 学 特 論	2	半 年	2

ハ．保健体育科目について（健康体育部）

○ 一般体育実技

- 入学当初の行事として，新入生全員に対し筋力・敏捷性・柔軟性の評価を中心とした8種目の体力測定及び5月中旬にパワー・持久力の評価を中心とした4種目の体力測定を実施して，自己の体力の現状を認識させ，1年次の第1セメスタにおける受験勉強による体力低下回復のための基礎体力トレーニング授業の充実を図っている。

2. 実技授業を、①水泳実習（4週）を含めた通年種目コース、②半期毎に年間2種目選抜コース、③特別体育コースの3コースに分けて行い、1年次に①コースを選抜した者は2年次に②コースを選択し、反対に1年次に②コースを選択した者は2年次に①コースを選択させ、水泳実習を必修としている。

すなわち、水難における生命の安全と人命救助を狙いとした授業を実施している。

また、③コースにおいては疾病・障害を有している者に対し、半期または通年を通してそれらに応じた運動指導を実施して、それらの早期回復をはかり、①、②コースへの速やかな復帰を目指している。

3. 剣道・柔道の日本の伝統的精神修養にふれる機会をもたせるために、剣道・柔道の授業を各時間にできるだけ配置できるようにしている。

○ 保健体育概論

医学・体育学を専門とする教官に加え、工学・心理学を専門とするスタッフによって幅広い内容の講義が聴講できる。

ト. その他について（教養部）

情報化社会に対応して専門教官による情報科学の講義を総合科目の一環として開講し、教養課程における情報科学の教育の充実を図っている。さらに、情報処理教育の講義と実習及び自習方式による端末機を利用した大型コンピュータの操作の習熟を情報処理教育センターとの協力において行っている。

また、留学生に対しては日本の文化、社会、自然の理解を図るために特例科目を開講している。

授業科目の区別	科 目 名	毎週授業時数	期 間	単位数	開講セメスター区分
特 例 科 目	日本の文化と自然 (1) 〃 (3)	2	半 年	2	I・III
	日本の文化と自然 (2) 〃 (4)	2	半 年	2	II・IV
	日本の社会と日本語A-1	2	半 年	2	I
	日本の社会と日本語A-2	2	半 年	2	II
	日本の社会と日本語B-1	2	半 年	2	III
	日本の社会と日本語B-2	2	半 年	2	IV

IV-2. 改善の方向

（教養部）

大阪大学教養部においては、教養課程教育の見直し、改善は種々の場において常に検討されて来ている重要な課題であり、特に、教養部研究・教育問題検討小委員会で継続的に検討が重ねら

れて来ている。その結果一部実施されているのは教養課程教育と専門教育とを融合させるいわゆるくさび型教育であるが、専門教育の一部が教養課程において行なわれているのが現状であり、完全な融合とは言えない。今後、教養課程教育と専門教育とを合理的に融合させることを考えている。

もう一つの試みは、社会や科学技術の激しい変化に柔軟に対応しうる基礎能力と潜在能力を持ち、バランスの取れた国際的文化センスをもった教養人を育成することを考え総合科目を中心にした一般教育の充実を図ることを考えている。

(健康体育部)

1. この数年間に体育実技のソフトな運動において骨折や挫傷などの障害を受ける者が急増しているため、特別体育コースの充実をはかる(毎時間配置)とともに、従来のスポーツ種目別選択による授業から、①競技指向、②競技トレーニング指向(以上は高校時に運動部経験者と大学で運動部入部者を対象)、③体力トレーニング指向、④レクリエーション・生涯体育指向(以上は運動部未経験者で一定レベル以上の体力や運動能力を有する者を対象)、⑤基礎体力トレーニング指向(一定レベル以下の体力や運動能力を有する者)などの目的別・種目別を併用した授業への改善を目指し検討中である。
2. 視聴覚教材を用いた授業を充実させ、より高度な競技技能及び生涯の安全な生活において必要とされる体力や運動能力、更に生涯楽しく行える運動を修得できる授業への改善を目指して検討中である。

60. 大阪外国語大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
外国語学部	104(37)	645	0	
外国語学部 (第二部)	28	225	0	
計	132(37)	870	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 論理学, 宗教学, 美学, 言語学, 文学, 国語国文学, 日本史学, 東洋史学, 西洋史学, 人文地理学, 心理学
	社会分野	法学, 政治学, 経済学, 貿易論, 経営学, 社会学
	自然分野	数学, 統計学, 物理学, 化学, 生物学
	特設科目	文化人類学, 国際関係論, 自然科学史, 地学, 人類学, 天文学
外国語科目		中国語初級, 中国語中級, 英語初級, 英語中級, 英語オーラルイングリッシュ, ドイツ語初級, ドイツ語中級, フランス語初級, フランス語中級, イタリア語初級, イタリア語中級, イスパニア語初級, イスパニア語中級, ポルトガル語初級, ポルトガル語中級, ロシア語初級, ロシア語中級
保健体育科目		体育概論, 保健衛生, 体育実技

II. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

II-1. 調査報告書

① 『教養課程編成に関する改善調査検討資料(その1)』(昭和62年3月)

② 『教養課程編成に関する改善調査検討資料(その2)』(昭和63年3月)

II-2. 案作成までの経緯と学内手続き等

イ. 案作成までの経緯と学内手続き

本学の教育課程編成は、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目等の教養課程だけでなく、各語学科とも、1年次より専門教育科目の専攻科目を課し、第1課程(1年次)、第2課程(2年次)、第3課程(3・4年次)と段階性をとり、1年次・2年次それぞれ10単位の履修を義務づけている。したがって、本学では、総合大学におけるいわゆる教養課程のかかえる多くの問題は、そのままの形では存在していない。学生は、1年次、2年次で専門課程に実質的にとりこまれている。

本学のこうした教育課程編成の特色から、教養課程教育の改善だけでなく、一般教育科目等・

専門教育科目全般にわたり、全般的な視点から改善を図る必要がある。

昭和61年度の教務委員会で、教育課程の現状と課題について、調査検討を始め、又、一般教育等教員会議においても、これに協力することになった。学内特別教育研究の一環として、全学的な承認を得て、教務委員会8名に一般教育等代表教員3名と教務課・第二部事務部職員若干名を加えた教育課程調査研究会が発足した。

研究会は、本学及び他大学の教育課程・カリキュラム等の資料を収集し、外国語大学として、本学のカリキュラムがかかえている諸問題の全体像を明らかにし、今後の改革の方向を提示した。

ロ. 案作成に当たって、特に注意を要した事柄

全国の大学より、外国語学・外国文学・文化関係の学部、学科の履修要項・講義概要を収集し、その教育課程・教育研究内容を比較調査したこと。

Ⅱ-3. 既に実施している改善の試み

4月当初に、一般教育等教員が新入生を対象に一般教育科目や関連科目の語学教育とのかかわりについてオリエンテーションを行なうことになった。

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

本学では、従来から各語学科・講座の枠での授業科目の開設が中心であったが、今年度のカリキュラムで、これらを横に連携する形で、「地球環境論（地域と環境）」を開設した。

この授業科目は、学内の各語学科、一般教育所属の教員10名程度、学外からの非常勤講師10名程度によりリレー方式で行なうものである。今年度は、専門教育科目の中の関連科目としての開設であるが、今後は、こうした各語学科・講座の枠を超えた科目を、前期2年間の一般教育科目のなかに、多く開設することが検討されている。

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ-1. 特色

ロ. 外国語科目について

各自の専攻とする外国語以外の外国語について、同一外国語8単位の履修が必要である。

本学では、初級、中級それぞれ中国語・英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・イスパニア語・ポルトガル語・ロシア語の8言語を開設している。（第一部）

ヘ. 基礎専門、基礎教育科目について

本学では、1年次より専門教育科目の専攻科目を履修させ、実習については、第1課程（1年次）、第2課程（2年次）、第3課程（3・4年次）と段階性を取り、1年次、2年次、それぞれ10単位を修得しなければ、次の課程に進級することができない。（第一部）

61. 大阪教育大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学 部 留 学 生 数	備 考
教 育 学 部	330	1,030	0	一般教育等については、教養学科（教養学科担当教官119名）にて担当している。 なお、教養学科は（注2）に該当する。
計	330	1,030	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般教育科目	人文分野	文学, 哲学, 倫理学, 歴史学, 考古学, 音楽
	社会分野	経済学, 社会学, 法学, 地理学, 民俗学
	自然分野	数学, 物理学, 化学, 生物学, 地学
	人文・社会	部落問題概論
保健体育科目	体育概論, 保健概論, 体育実技	
外国語科目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 独語初級, 独語中級, 仏語初級, 仏語中級, 中国語初級, 中国語中級	
基礎教育科目	書道通論, 美術	

Ⅲ. 教養課程教育の改善の実情について

- 1) 一般教育科目については、従来から履修方法とともに内容面の改善についても検討課題とされていたが、教育職員免許法の一部を改正する法律（昭和63年法律第106号）の施行に伴って教員養成課程においては、教科及び教職専門科目の内容及び単位数の大幅な改訂を行うこととなり、この機会に平成2年度入学者から一般教育科目36単位のうち、12単位を専門教育科目で代え履修基準を36単位から24単位に改めることとした。（資料「教員養成課程の一般教育科目履修基準の見直しについての検討資料」参照）
- 2) 教養学科にあっては、「学科共通科目」を開設し、各専攻から2単位、計14単位以上を必修としている。そして、一般教育科目の12単位までは、この学科共通科目の単位で代えることができる。このように、学科共通科目は、専門教育科目であると同時に、一般教育的性格をもち、教養課程教育と専門教育とを融合・連結させるための一つの試みである。

この試みは、始まって3年目であり、内実のあるものにしていくため、毎年、学科共通科目担当者会議を開き、授業実践の意図・方法・反省・課題などを持ち寄り、発表し集団討議し、

研究を継続している。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

一般教育科目として、「部落問題概論」を開設し、人権意識のレベル・アップを図っている。部落差別の現実を直視するところからスタートし、差別と社会生活、女性差別、民族差別などについても取り上げ、人間としての自らのありようを探求している。

「部落問題概論」4単位を履修して単位を修得した場合には、人文分野又は社会分野のいずれか一方の卒業要件とすることができる。

62. 神戸大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
文 学 部	43	120		
教 育 学 部	91	420	2	
法 学 部	69	230	4	
法 学 部 (第二課程)		80		
経 済 学 部	52	270	5	
経 済 学 部 (第二課程)		80		
経 営 学 部	53	270	13	
経 営 学 部 (第二課程)		70		
理 学 部	72	155	1	
医 学 部	157	100		附属病院教官定員93名(外数)
工 学 部	162	610	15	
農 学 部	84	185	1	
教 養 部	167			
計	950	2,590	41	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 論理学, 倫理学, 心理学, 教育学, 国文学概説, 国文学講読, 国語学, 中国文学概説, 中国文学講読, 西洋文学Ⅰ, 西洋文学Ⅱ, 音楽概説, 芸術学Ⅰ, 芸術学Ⅱ, 人文科学特講Ⅰ, 人文科学特講Ⅱ, (総)物語文学の世界, (総)現代日本語文法入門
	人文・社会	日本史Ⅰ, 日本史Ⅱ, 東洋史, 西洋史, 社会思想史Ⅰ, 社会思想史Ⅱ, 文化人類学Ⅰ, 文化人類学Ⅱ
	社会分野	法学, 日本国憲法, 政治学, 経済学, 経済史Ⅰ, 経済史Ⅱ, 社会学, 統計学, 地理学Ⅰ, 地理学Ⅱ, 社会科学特講Ⅰ, 社会科学特講Ⅱ
	自然分野	数学概説, 微分積分学, 線形代数学, 解析学, 数学特論Ⅰ, 数学特論Ⅱ, 数学特論Ⅲ, 確率統計, 物理学A, 物理学B, 物理学C, 物理学演習, 物理学実験法・同実験, 化学A, 化学B, 化学C, 化学実験法・同実験, 生物学A, 生物学B, 生物学C, 生物学実験法・同実験, 地学A, 総合地学, 地学B, 地学実験法・同実験, 図学A, 図学B, 図学C, 図学実習,

	自然科学概論，科学思想史，情報科学Ⅰ，情報科学Ⅱ，自然科学特講Ⅰ，自然科学特講Ⅱ，（総）自然科学
人文・自然	自然科学史
総合科目	人権Ⅰ，女と男，原子力と人間
外国語科目	英語，英語上級，独語Ⅰ，独語Ⅱ，独語Ⅲ，独語Ⅳ，独語会話初級，独語会話中級，独語上級，仏語Ⅰ，仏語Ⅱ，仏語Ⅲ，仏語Ⅳ，仏語会話初級，仏語会話中級，仏語上級，中国語Ⅰ，中国語Ⅱ，中国語Ⅲ，中国語Ⅳ，中国語会話初級，中国語会話中級，中国語上級，ロシア語Ⅰ，ロシア語Ⅱ，ロシア語Ⅲ，ロシア語Ⅳ，ロシア語会話初級，ロシア語会話中級，ロシア語上級，ギリシヤ語，ラテン語
保健体育科目	体育理論，体育実技
日本語科目	日本語初級，日本語中級，日本語上級

Ⅱ．教養課程教育の改善に関する調査報告書

Ⅱ－１．調査報告書

① 『調査報告書「教養科学部設立と一般教育の改革」』（平成２年３月）

Ⅱ－２．案作成までの経緯と学内手続き等

イ．案作成までの経緯と学内手続き

昭和51年４月に教養部内に教学問題検討委員会を設置以来，数回の委員会での検討を経て，昭和56年11月に新学部案を作成，昭和57年１月に改革の基本線「コア・カリキュラム方式による一般教育の実施と，一般教育と直結した大講座制による学部の創設」を教授会決定した。

この基本線は昭和58年には評議会で承認され，昭和59年度概算要求として提出した。その後，教養部内及び学内の諸種の委員会の検討によって案に修正を加えながら今日に至っている。

昭和63年度には文部省から「大学改革等調査経費」が交付され，調査報告書『教養科学部設立と一般教育の改革』（平成元年３月）を作成した。平成元年度にも引き続き調査経費が認められたので，『教養科学部設立と一般教育の改革』（平成２年３月）をまとめ報告した。

ロ．案作成に当たって，特に注意を要した事柄

教養部内及び学内での合意の形成に困難があった。

Ⅱ－３．既に実施している改善の試み

総合科目，少人数教育のための演習，一般教育科目と専門教育科目の相互乗り入れについては，学部化案作成以前に実施に移し，現在に至っている。

コア・カリキュラム，外国語のインテンシブ・コース，専門教育科目の１年次への乗り下げ，ティーチング・アシスタント制については，一部について試行を行っている。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

少人数による密度の高い授業を行うための各種演習を、また教育内容充実のため多様な総合科目を開講し、あるいは社会変化に対応すべく文化人類学や情報科学の授業科目を設けるなど、豊富なメニューの授業科目を開講している。

ロ. 外国語科目について

日本人教員と外国人教師がペアを組み、互いの授業を有機的に関連させるインテンシブ・コースを、試行的に開講している。

ハ. 保健体育科目について

1年前期は、「体育実技A」として、健康並びに体力の維持・増進を主なねらいとし、トレーニングコースを実施している。

ニ. 総合コースについて

全国の大学に先がけ、昭和38年度に試行的に始め、カリキュラム改革の一環として昭和47年度から本格的に実施し、平成元年度は17コマの多くの総合科目を開講した。

ホ. セミナーについて

毎年20コマ近い授業を開講し、学生に興味の深い授業内容を提供している。特に「人権」に関する内容を昭和55年度から続けて開講している。

ト. その他について

平成元年度に、いわゆる「ティーチング・アシスタント」制を試行し、いずれも好評であり、平成2年度も引き続き実施を予定している。

また、平成2年度からは、専門教育課程の授業科目を1年前期から履修できるように試行を始め、4年一貫教育の方法を探っている。

IV-2. 改善の方向

- ① 従来的一般教育科目を基礎とするが、その内容を再検討し、有機的関連性のある科目を中核（コア）とする教養科学原論及び教養原論（既設学部学生対象）を開講する。
- ② 学部における専門科目の基礎となる授業科目を専門基礎科目として設置する。
- ③ その他精選された個別科目、総合科目、特別科目等を配し、大学卒業者が共通的に持つことが期待される教養と、専門に密着した教養に大別して、学生の進路に合わせて選択履修させる。

63. 神戸商船大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備考
商船学部	80(23)	220	1	
計	80(23)	220	1	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 文学, 心理学, 歴史学, 歴史学特論, 文章表現論, 技術史, 科学概論
	社会分野	経済学, 経済学特論, 法学概論, 法学特論, 国際法概論, 社会学, 地理学, 政治学
	自然分野	数学Ⅰ, 数学Ⅰ演習, 数学Ⅱ, 数学Ⅱ演習, 数学Ⅲ, 数学Ⅲ演習, 物理学, 物理学実験, 物理学Ⅱ, 物理学Ⅲ, 物理学Ⅳ, 化学Ⅰ, 化学実験, 化学Ⅱ, 天文学
	基礎演習	
	総合科目	
外国語科目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 英語ⅠⅡ演習, 英語会話・作文Ⅰ, 英語会話・作文Ⅱ, 英語会話・作文Ⅲ, 英語会話・作文Ⅳ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語Ⅲ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, フランス語Ⅲ	
保健体育科目	体育理論, 体育実技Ⅰ, 体育実技Ⅱ	
専門基礎科目	情報処理演習, 離散数学, 輸送情報処理演習Ⅰ, 海洋科学Ⅰ, 応用数学, 情報数学, 材料力学, 流体力学, 航海力学, 電気工学, 制御理論Ⅰ, 制御理論Ⅱ, 応用化学, 電子計算機, 船舶工学, 一般力学, 材料力学Ⅰ, 材料力学Ⅱ, 機械要素, 工業熱力学Ⅰ, 工業熱力学Ⅱ, 流体力学Ⅰ, 流体力学Ⅱ, 電気回路Ⅰ, 電気回路Ⅱ, 基礎電子工学, ソフトウェア工学, 情報処理理論Ⅰ, 統計学, 産業心理学, 伝熱学, 原子物理学, 原子核物理学, 海洋気象学	

II. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

現在, 教養課程の改善について教官組織も含めて全面的に検討中である。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

本学は単科大学のために, いわゆる“くさび型”のカリキュラムであり, 特徴としては, プロゼミナール等により, 学生の自主的修学意欲の向上に努めている。

64. 兵庫教育大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
学校教育学部	180(12)	200	5	
計	180(12)	200	5	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

教養基礎科目	一般教育科目	人文	言語, 文学, 哲学, 倫理学, 芸術Ⅰ, 芸術Ⅱ, 心理学Ⅰ, 心理学Ⅱ
		社会	日本史Ⅰ, 日本史Ⅱ, 外国史, 地理学, 地誌学, 憲法学, 経済学, 政治学, 社会学, 社会人類学
		自然	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 物理, 物理実験, 化学, 化学実験, 生物, 生物実習, 地学概論, 地学実習, 生物野外実習, 地学野外実習
		総合	自然界とその数理システム, 健康と環境, 現代と芸術, 東西の文芸, 学校環境の構成, 人間について, 風土と生活
外国語科目			英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, 英会話
保健体育科目			体育実技Ⅰ, 体育実技Ⅱ, 体育理論, 保健理論
教科に関する専門教育科目			初等国語, 初等社会, 初等算数, 初等理科, 初等生活, 初等音楽Ⅰ, 初等音楽Ⅱ, 初等図画工作Ⅰ, 初等図画工作Ⅱ, 初等体育Ⅰ, 初等体育Ⅱ, 初等家庭

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特色

へ. 基礎専門, 基礎教育科目について

本学を含む新教育大学における学校教育学部では, 一般教育科目, 外国語科目, 保健体育科目, その他従来の専門科目のうち全学的に履修させるような科目を「教養基礎科目」としてセットしている。さらに, 大学設置基準の教職に関する専門科目を「教職共通科目」とし, 教科に関する専門科目や教職に関する専門科目で専門性を高める科目などを「専修専門科目」として編成している。このように, 「教養基礎科目」, 「教職共通科目」, 「専修専門科目」を concurrent 方式によって統一させるように工夫されているわけである。

すなわち, 「教養基礎科目」を1年次から4年次にかけてピラミッド型に上昇させ総合的に密度を高め, 一方「専修専門科目」や「教職共通科目」が4年次から1年次にかけてクサ

ビ型に下降させて編成され、教養課程教育と専門教育とを融合させようと試みているところに本学の特色がある。

65. 奈良教育大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
教 育 学 部	122(5)	295	14	保健管理センター1, 附属教育学 センター1を含む。 教養課程制でないため分野によっ ては, 一般教育等担当教官と専門教育 担当教官が相互に関連課程の授業を 担当している。
計	122(5)	295	14	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 歴史学, 文学, 芸術
	社会分野	法学, 政治学, 経済学, 社会学, 地理学
	自然分野	数学, 物理学, 化学, 生物学, 地学, 自然科学史
	総合科目	人権問題, 環境
外 国 語 科 目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 独語Ⅰ, 独語Ⅱ, 仏語Ⅰ, 仏語Ⅱ, 日本語Ⅰ, 日本語Ⅱ	
保 健 体 育 科 目	体育実技, 体育理論, 保健理論	
(小学校課程) 教科に関する専門 教育科目(共通必 修)	国語, 社会, 算数, 理科, 生活, 音楽, 図工, 家庭, 体育	
(中学校課程)	日本史概説Ⅰ, 日本史概説Ⅱ, 西洋史概説, 東洋史概説, 地理学概論Ⅰ, 地理学概論Ⅱ, 地誌学概論Ⅰ, 地誌学概論Ⅱ, 法学, 政治学, 社会学, 経 済学, 哲学, 倫理学	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

教養課程制でないことを前提に下記について回答します。

イ. 一般教育科目について

28単位必修(総合コースを含む)。授業はすべて午前に開設。

ロ. 外国語科目について

第1外国語8単位, 第2外国語2単位, 計10単位必修。英語はすべて午前に開設。

ハ. 保健体育科目について

すべて午後開設。

ニ. 総合コースについて

平成2年開設科目「人権問題」「環境」

IV-2. 改善の方向

総合科目を社会的ニーズと学生の学習ニーズに応えるように、さらに充実を図る。

66. 奈良女子大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
文 学 部	71(15)	165	1	本学では、3 学部に教養課程教官定員を配置のうえ、学部の専門教科に関連する授業科目を分担することとしている。各学部にあつては、専門課程担当として配置の教官であっても教養課程の授業科目を担当しており、形式上は教養課程担当教官と専門課程教官は区別しているが、実質的には明確な区別をしていない状況である。
理 学 部	67(5)	135	2	
家 政 学 部	49(2)	145	3	
計	187(22)	445	6	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 論理学, 科学哲学, 宗教学, 心理学, 歴史学, 国文学, 西洋文学, 美学美学史, 音楽概説
	社会分野	社会学, 社会思想史, 社会科学概論, 社会心理学, 教育学, 法学, 日本国憲法, 政治学, 経済学, 人文地理学, 統計学, 人類学
	自然分野	科学史, 自然科学概説, 数学, 物理学, 化学, 生物学, 生理学, 地学, 生活科学, 色彩学, 人類学, 医学概論, 情報科学Ⅰ, 情報科学Ⅱ
	総合科目	部落問題, 生活と社会, 数理と情報
外 国 語 科 目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ 中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ	
保 健 体 育 科 目	保健体育理論, 保健体育実習Ⅰ, 保健体育実習Ⅱ	
日 本 語 科 目	日本語Ⅰ, 日本語Ⅱ	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

本学は、いわゆる一般教育担当部門と専門学部とを分離せず、文学部、理学部、家政学部のそれぞれが一般教育を兼担する組織をとっており、一般教育と専門教育の履修のさせ方もクサビ型となっている。

したがって、外国語科目、保健体育科目及び通常一般教育科目の一部科目を除いては学生

の履修年次は自由であるが、後述の総合科目はできるだけ履修させる方向で実施してきており、一般教育改善の中心に総合科目の実施がおかれてきた。

さらに、一昨年より、一般教育として、実技を伴う「情報科学」を開設し、コンピュータの動作原理、プログラミング言語 (FORTRAN) の文法、及び T S S 端末操作、コンピュータグラフィックス、コンピュータのハードウェア、ソフトウェアについての講義などを取り扱うことになった。これは、最近の一般教育改善充実の一つの試みである。

なお、特色ある科目としては家政学で開講されている「生活科学概説」及び「色彩学」等がある。

ロ. 外国語科目について

外国語科目におけるロシア語、中国語の導入を積極的に図ったことは、外国語科目の改善に関する試みであるが、現在は中国語が定着している。また、外国人教師によるコミュニケーション、専門教育を重視し、各語学の会話、実用作文を開講している。

ハ. 保健体育科目について

保健体育科目は、生涯教育へ結びつくよう試みられている点に特色がある。実技では、特に生涯スポーツへの定着を目指し、種目の設定、指導法が工夫され、講義においても、スポーツ活動の理論化と同時に、保健管理センター専任教授の協力を得て、健康教育の深化が試みられている。

ニ. 総合コースについて

本学においては、昭和44 (1969) 年から、総合科目としての一般教育を実施し、当初、「奈良の文化と社会」のテーマでスタートした。その後、種々、テーマや視点の検討を積み重ねて、この間、開設した総合科目のテーマは、「部落問題」、「比較文化論」、「言語」、「科学と人間」、「情報と科学」、「情報」、「物質」、「生命」、「日本の自然」、「生活と社会」などにわたっており、毎年、3科目程度を実施してきた。

本年度は、「部落問題」(担当者4人)、「生活と社会」(担当者8人)、「数理と情報」(担当者13人)の3科目を実施している。

ヘ. 基礎専門、基礎教育科目について

実施していない。

IV-2. 改善の方向

一般教育、総合科目、セミナー、外国語、保健体育のいずれもが検討課題として自覚されており、今後の重要な検討課題である。なお、家政学部の学生は、総合科目4単位を、卒業に必要な単位としている。

ヘ. 文学部ではこの2年間、アセンブリアワーとして、授業科目とは別に、広く様々な学問にふれさせる、高等学校までの学習とは異なる学問の世界にふれさせる、などの目的をもって各学科毎に交代で学問的話題を提供する試みをしてきたが、これを活性化させるために、新

しい総合科目の実施またはなんらかの一般教育改善の試みの上に生かしていく方策を検討中である。

ト. このことについては、一層充実させたい。

前述のように、本学は、いわゆる一般教育担当部門と専門学部とを分離せず、学部が一般教育を兼担する組織をとっており、このような組織的な特徴を生かすために、専攻外の学問の世界にふれさせる重要な機会として位置づけ、専門教育科目のうち学部共通科目の開講科目を一般教育課程にある学生にも履修できる時間割を既に組んでおり改善を試みている。

V. 自由意見

本学としては、独立した教養部を持たない小規模大学の特色を生かし、教養課程教育と専門教育との融合をはかるため、「くさび型」方式を取り入れてきているが、今後、ますます「くさび型」方式の充実をはかるよう一層の努力をすべきであると考えている。

さらに、大学審議会において検討がすすめられている、大学設置基準の弾力化、自由化の方向が、一般教育の軽視あるいは一般教育の改善充実を妨げる方向に作用することのないように、国大協としての必要な意見を集約されるよう希望する。

少なくとも、一般教育と専門教育の関連も含めて、全体として、各大学が個性的に質的な充実を図ることを推進する方向で条件整備が行われるよう行政当局に要望することを期待したい。

67. 和歌山大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
教育学部	109(7)	270	2	
経済学部	70(10)	340	2	
計	179(17)	610	4	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

(教育学部)

一般 教育 科目	人文分野	国語国文学, 文学, 哲学, 宗教学, 倫理学, 音楽学, 美術, 心理学
	社会分野	歴史学, 人文地理学, 政治学, 社会学, 教育学, 障害児教育, 日本国憲法, 統計学, 法学, 経済学
	自然分野	数学A, 数学B, 物理学, 生物学, 化学, 地学, 生活科学, 技術学概論, 環境衛生学
外国語科目		英語初級, 英語中級, 英語特別, 独語初級, 独語中級, 仏語初級, 仏語中級, 中国語初級, 中国語中級
保健体育科目		保健体育講義, 体育実技

(経済学部)

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 美学, 文学, 哲学史, 西洋精神史, *倫理学, *心理学, *国語国文学, *文学, *宗教学, *音楽学, *美術
	社会分野	法学, 経済学, 社会科学概論, 統計学, *政治学, *社会学, *歴史学, *人文地理学, *教育学, *日本国憲法
	自然分野	簿記, 数学, 物理学, 技術史, *数学B, *化学, *生物学, *地学, *環境衛生学, *生活科学, *技術学概論
外国語科目		英語初級, 英語中級, 独語初級, 独語中級, 独語上級, 仏語初級, 仏語中級, 中国語初級, 中国語中級
保健体育科目		保健体育講義, 体育実技

* 教育学部開設の授業科目

III. 教養課程教育の個々の改善についての試み

評議会において検討中であるが、具体的な案には至ってません。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

ニ. 総合コースについて

実施していません。

ホ. セミナーについて

経済学部においてコンサルテーションを実施しています。

ヘ. 基礎専門，基礎教育科目について

実施していません。

IV-2. 改善の方向

検討中です。

68. 鳥取大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
教 育 学 部	85	180	2	附属病院教官定員 100 名（外数）
医 学 部	172	120		
工 学 部	125	470		
農 学 部	103	280		
教 養 部	51			
計	536	1,050	2	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学，論理学，倫理学，心理学，文学Ⅰ，文学Ⅱ，文学Ⅲ，文学Ⅳ，芸術Ⅰ，芸術Ⅱ
	社会分野	法学，政治学，社会学，経済学，地理学，日本史学，外国史学Ⅰ，外国史学Ⅱ
	自然分野	数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学Ⅳ，物理学Ⅰ，物理学Ⅱ，物理学Ⅲ，化学Ⅰ，化学Ⅱ，化学Ⅲ，化学Ⅳ，生物学Ⅰ，生物学Ⅱ，生物学Ⅲ，地学
	総合科目	（総）東と西，（総）自然環境論，民俗学，宗教学，日本国憲法Ⅱ，情報科学，教養ゼミナール
外 国 語 科 目		英語Ⅰ，英語Ⅱ，ドイツ語Ⅰ，ドイツ語Ⅱ，フランス語Ⅰ，フランス語Ⅱ ロシア語，中国語
保 健 体 育 科 目		保健学，体育学，体育実技Ⅰ，体育実技Ⅱ
基 礎 教 育 科 目	医 学 部 （医学科）	基礎数学，確率と統計，基礎物理学，物理学実験，基礎有機化学，化学実験，基礎生物学Ⅰ，基礎生物学Ⅱ，生物学実験，地学実験
	医 学 部 （生命科学科）	物理学実験，化学実験，生物学実験，地学実験
	教育学部	物理学実験，化学実験，生物学実験，地学実験
	工 学 部	物理学実験，化学実験，生物学実験，地学実験，物理地学実験

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

人文分野 8 単位，社会分野 8 単位，自然分野 8 単位，各分野，その他から自由に選択12単位計36単位を課しており，振り替え，読み替えは認めていない。

集中講義形式による授業は行わないことにしている。

定員が配置されていなくとも開設している授業科目がある。（宗教学，民俗学，文化人類学，日本国憲法，情報科学など）

ロ．外国語科目について

講読，会話，LLクラスの3本建てを基本としている。

平成2年度から，フランス語を修了条件を満たしうる科目として認めるなど拡充の方向を目指している。

ハ．保健体育科目について

新たにスキー，ゴルフを種目として取り入れるなど多様化を目指している。

ニ．総合コースについて

全学的な協力を得て多彩な内容のものとなっている。受講者数も増加の傾向にある。委員会を設けて実施上の重要事項を審議している。

ホ．セミナーについて

1 クラス20人程度に制限して様々な講義（24テーマ）を開設している。

ヘ．基礎専門，基礎教育科目について

学部の一環として開設している。（実験等）

ト．その他（論述作文など）について

平成2年度から外国人留学生のために日本語・日本事情の学科目を開設した。

IV－2．改善の方向

現在までは，特定の方向を目指すことなく全体的方向の充実を目指している。

なお，教養部における教育の改善については「教養教育改善委員会」が当たっている。また，組織上の問題については「将来構想委員会」がこれに当たっており，将来の方向について現在検討中である。

69. 島根大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生数	備 考
法 文 学 部	98(30)	280	1	担当教官を授業上では明確に区別していない。
理 学 部	82(11)	245	1	
教 育 学 部	102(4)	300	1	
農 学 部	83	205		
計	365(45)	1,030	3	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 倫理学, 心理学, 歴史学, 文学, 音楽, 美術
	社会分野	法学, 政治学, 経済学, 社会学, 地理学, 文化人類学, (総)現代人権論
	自然分野	数学, 物理学, 物理学Ⅰ a, 物理学Ⅰ b, 化学, 生物学, 地学
	総合科目	人間生活と学問
外 国 語 科 目		英語, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, 中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ
保 健 体 育 科 目		講義, 実技
日 本 語 ・ 日 本 事 情		日本語Ⅰ, 日本事情Ⅰ, 日本事情Ⅱ
基 礎 教 育 科 目	理 学 部	数学A, 数学B, 数学C, 解析幾何学, 物理学Ⅱ a, 物理学Ⅱ b, 基礎物理学実験A, 化学概説, 無機化学概説, 有機化学概説, 動物学, 植物学, 一般地質学, 岩石・鉱物学概説, 環境地質学概説, 地質学概説, 情報科学概説, プログラミング概説
	教育学部	教育と人間, 生涯教育論, 文化・教育環境, 生活文化論Ⅰ・Ⅱ, 障害と教育, 発達基礎論, 同和教育, 日本文化論, 情報処理基礎

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

教養課程教育全般にわたり見直しを行い, 一層の充実発展を図ることとしている。

70. 島根医科大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
医 学 部	155(12)	95	0	学長，副学長，附属施設の教官を含む。 附属病院教官定員94名（外数）
計	155(12)	95	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一教 般育 科 目	人文分野	哲学，倫理学，心理学Ⅰ，歴史学，文学
	社会分野	法学，経済学，社会学，地理学
	自然分野	数学Ⅰ，物理学Ⅰ，化学Ⅰ，生物学Ⅰ
外 国 語 科 目	英語，ドイツ語	
保 健 体 育 科 目	保健体育講義，体育実技	
基 礎 教 育 科 目	数学Ⅱ，数理統計学，物理学Ⅱ，物理学実験，化学Ⅱ，化学実験，生物学Ⅱ，生物学実験，医学概論，遺伝学，人類学，心理学Ⅱ，情報工学，情報処理演習，医用電子工学，英書講読，独書講読	

71. 岡山大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
文 学 部	59	175	2	
教 育 学 部	203	420	1	
法 学 部	46	270	4	法・第二部60名を含む。
経 済 学 部	43	270	10	経・第二部60名を含む。
理 学 部	84	150	0	
医 学 部	154	100	0	附属病院教官定員 161 名（外数）
歯 学 部	102	60	0	附属病院教官定員48名（外数）
薬 学 部	38	80	0	
工 学 部	147	560	12	
農 学 部	81	180	1	
教 養 部	100		(14)	教養課程在籍者数で内数
計	1,054	2,265	30(14)	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学，論理学，倫理学，日本文学，中国文学，西洋文学，一般心理学，心理学実習，音楽，美術，日本史，東洋史，西洋史，（総）人間と自然，（総）日本の思想と文化
	社会分野	法学，日本国憲法，政治学，経済学，地理学，社会学，（総）現代を考える
	自然分野	数学概論，微積分学Ⅰ，微積分学Ⅱ，微積分学Ⅱ演習，線形代数学Ⅰ，線形代数学Ⅱ，物理学序論，古典物理学，物理学Ⅰ，物理学，現代物理学，物理学Ⅱ，物理学実験，化学，物理化学Ⅰ，材料科学，物理化学Ⅱ，有機化学，分析化学，化学実験，生物学，生物学特論，時間生物学，環境生物学，生物学実験，地学，気象学，天文学，地学実験，統計学，電子計算機入門，自然科学史
	総合科目	食を考える，女性論と男性論，国際交流と平和，パソコンと数理，線形代数と多変量解析，情報処理と統計学Ⅰ，情報処理と統計学Ⅱ，科学の発達と工業，近代物理と半導体産業，最前線の科学技術，数理科学の基礎，生物の進化を考察する，自然環境科学

外国語科目		英語Ⅰ，英語Ⅱ，独語Ⅰ，独語Ⅱ，仏語Ⅰ，仏語Ⅱ，中国語Ⅰ，中国語Ⅱ
保健体育科目		保健講義，体育講義，体育実技Ⅰ，体育実技Ⅱ
日本語・日本事情		日本語Ⅰ，日本語Ⅱ，日本事情
基礎教育科目	医学部	基礎物理学，基礎物理学実験，基礎化学，基礎化学実験，遺伝学，基礎生物学実験
	歯学部	線形代数学Ⅲ，基礎物理学，基礎物理学実験，物理化学Ⅲ，基礎化学実験，遺伝学，歯生物学，基礎生物学実験，歯学通論，歯学基礎

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特色

イ. 一般教育科目について

各分野に分野内総合科目（人文総合・社会総合・自然総合）を開設し，従来の学科目を越えて，分野内の複数以上の教官が一定のテーマに基づいて講義を構成し，一般教育の充実をはかっている。

ロ. 外国語科目について

外国人教員のスタッフを充実し，会話を含め外国人による授業をより多くの学生が履修できるようにしている。

ハ. 保健体育科目について

講義では，健康科学教育に力を入れ，実技では，1年でなるべく多くのスポーツを修得し，2年では各種のスポーツの中から一つを選択し深めている。

ニ. 総合コースについて

コース制ではないが，一般教育科目として，どの分野にも属さない総合科目を開設し，その充実をはかっている。

社会が当面している問題，あるいは学際的な研究を要する問題を，総合的に考察・判断する能力を学生が身につけるようにし，一般教育の目的達成をめざしている。

ホ. セミナーについて

一般教育科目で小人数によるゼミ形式の授業を数科目開設している。教育効果は大きい。

ヘ. 基礎専門，基礎教育科目について

医学部・歯学部の進学課程に，自然系を中心に医学・歯学の実践にあわせた科目を開設している。

ト. その他

教養科目全体的に視聴覚機器等を利用した授業を拡大し教育効果の向上をめざしている。

IV-2. 改善の方向

IV-1で記した特色及び改善の方向を，さらに充実させたいと考えている。

72. 広島大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
総合科学部	244(244)	170	1	
文学部	67	165		
教育学部	135	371	1	
学校教育学部	100	350		
法学部	44	285		法・第二部 105 名を含む。
経済学部	45	286	13	経・第二部 106 名を含む。
理学部	188	260		
医学部	166	160		附属病院教官定員 104 名(外数)
歯学部	98	60		附属病院教官定員 57 名(外数)
工学部	285	596	11	
生物生産学部	74	130		
計	1,446(244)	2,833	26	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 芸術学A, 芸術学B, 宗教学, 心理学, 適応理論, 社会心理学, 日本史, アジア史, ヨーロッパ史, イギリス史, アメリカ史, 現代史, 地理学, 環境地理学, 地域地理学, 日本語学, 日本語文章構成法, 日本文学, 言語学, 中国文学, ヨーロッパ文学, 英米文学, 比較文学, 英米文学特別演習Ⅰ, 英米文学特別演習Ⅱ, ドイツ文学特別演習Ⅰ, ドイツ文学特別演習Ⅱ, フランス文学特別演習Ⅰ, フランス文学特別演習Ⅱ, 中国文学特別演習Ⅰ, 中国文学特別演習Ⅱ, 教育学
	社会分野	法学, 日本国憲法, 政治学A, 政治学B, 経済学A, 経済学B, 統計学A, 統計学B, 社会経済史, 日本社会経済史, 技術史, 文化人類学, 社会学
	自然分野	数学概論, 一般微積分学, 基礎微積分学, 線形代数学, 線形代数学演習, 数学演習, 情報学, 情報処理学, コンピュータ・プログラミングA, コンピュータ・プログラミングB, 物理学概論, 基礎物理学, 現代物理学, 力学Ⅰ, 力学Ⅱ, 熱学, 電磁気学Ⅰ, 電磁気学Ⅱ, 物理学実験, 物理学実験法・同実験, 物理学実験BⅡ, 化学概論, 一般化学Ⅰ, 一般化学Ⅱ, 無機・分析化学, 有機化学, 生物化学, 物理化学, 化学実験, 化学実験法・同

		実験、遺伝学、進化学、生理学、細胞生物学、行動生物学、分子生物学、種生物学、微生物学概論、生態学、生物学実験、生物学実験・同実験法、地学概論、一般地学、自然災害論、地学実験、地学実験法・同実験、天文学概論、一般天文学、科学史、行動科学
	総合科目	ヨーロッパとは何か、戦争と平和に関する総合的考察、情報化時代における産業・技術・社会、現代の物質観、瀬戸内の文化と自然、ミクロの科学、人間と環境、生命科学、人間生活と学問
	外国語科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ、ドイツ語Ⅰ、ドイツ語Ⅱ、ドイツ語Ⅲ、ドイツ語Ⅳ、フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、フランス語Ⅲ、フランス語Ⅳ、中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、ロシア語Ⅰ、ロシア語Ⅱ、ロシア語Ⅲ、スペイン語Ⅰ、スペイン語Ⅱ、ギリシャ語、ラテン語
	保健体育科目	保健体育理論、体育実技
	特別科目	音楽、書道、朝鮮語、ペルシャ語
基礎教育科目	医学部	基礎微積分学、線形代数学、細胞生物学、種生物学、行動生物学、微生物学概論、生態学、生物学実験法・同実験
	歯学部	基礎微積分学、基礎物理学、一般化学、細胞生物学

Ⅱ. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

Ⅱ－Ⅰ. 調査報告書

- ① 『一般教育問題に関する答申』（昭和58年6月）
- ② 「一般教育協議会」の学長宛の答申（昭和61年1月）

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ－Ⅰ. 特 色

イ. 一般教育科目について

本学の一般教育課程は総合科学部がその責任担当部局である。

総合科学部はそれと同時に一学年170名の独自の学部学生の専門教育に携わっており、また、一般教育科目を担当している教官の大多数は大学院博士課程担当教官である。現在総合科学部ではこれら教官全員が区別なく一般教育を担当しており、その結果次の特色がある。

- (1) 広範な分野を網羅した授業科目が開講されている。さらに、理系の基礎的教育科目を除いた一般教育科目ではクラス指定がほとんどされていず、また多数の科目において異なった教官による同一科目が開講されている。これらの結果、受講科目について学生の選択できる幅が極めて広い。
- (2) 総合科学部の専門教育課程のコースの一つに数理情報科学コースがあるが、それに所属する教官の一部は一般教育では情報科学関連の科目を担当しており、全学の一般教育課程の学生に対して情報科学の系統的な教育を行っている。
- (3) 総合科学部の教官全員が専門教育を担当していることにより、一般教育と専門教育の関連

性などについて各教官および本学部自身の問題として具体的に把握することができる。それに基づいた検討結果は全学の一般教育の改善に反映されている。

- (4) 全学の一般教育課程の学生が専門以外の領域でより高度な内容を学習したい場合、総合科学部で開講されている専門教育科目を受講することができ、その一部は単位として認定される。総合科学部の専門教育科目は広い学問領域に亘っているので、積極的に学習する学生にとってはこの制度は十分生かされている。

ロ. 外国語科目について

- (1) 一部の学部において、第一外国語 8 単位のうちの 2 単位を、専門科目「外書講読」等を振り替えることによって履修させ、専門教育と外国語教育との一体化をはかっている。
- (2) 総合科学部外国語コースに開設する専門科目の一部を、外国語科目「外国語Ⅲ、Ⅳ」に振り替えることによって、全学の 3 年次以上の学生が規定の外国語の単位を履修した後も、高度な外国語を学習する機会を与えている。
- (3) 外国人教師を専任教官（現在 4 名）あるいは非常勤講師として積極的に雇用し、いわゆる「実用的」な外国語教育をおしすすめている。
- (4) 専任日本人教官にも、英米語学・文学の専門家ばかりでなく、哲学、文化人類学、コミュニケーション学等の研究者を採用し、研究・教育の多様化をはかっている。また、英米の博士号を取得した研究者を多数採用している。
- (5) 上記(3)、(4)項の結果、全外国語の授業のうち、「会話」「LL」等外国語運用能力を高めるための授業の占める割合が30%にもおよび、外国語教育に対する学生の欲求をかなり満足させている。

ハ. 保健体育科目について

本学の保健体育科目は、学生の健康を保持、増進し、さらに将来の健康生活実践の素地を培うことを目標に実施してきた。次の点に特色がある。

- (1) 保健体育理論と体育実技の有機的連関を保つために、助教授以上の教官は理論と実技の両方を担当する。
- (2) 保健体育理論の内容は、かつての体育理論や保健理論から脱皮し、各教官の専門性を生かして医学、運動生理学、バイオメカニクス、運動心理学、社会体育学などを内容とした講義を開講し、その中から学生に一つを選択させる。
- (3) 体育実技は、狭隘な施設のため、クラス毎に受講する曜日、時限を指定し、3～6 種目のスポーツ種目の中から一つを選択させる。この際3期間にわたって異なる種目を選択させ、多くのスポーツを経験させている。身体的障害、疾病などの理由により長期にわたり通常の体育実技に参加できない者は、特別コースを開設し、医師が担当している。
- (4) 入学時の体育実技の時間に、体力診断テスト、運動能力テストを実施し、現状の体力や運動能力を把握し理解させる。また、平成2年度から、保健管理センターの協力を得て新入生

全員を対象に定期健康診断の外に、内科診断、心電図検査、血液検査を行い、疾病の早期発見と体育実技のための基礎資料を得る。

- (5) 当学部健康相談室では、保健体育教官が相談員となり、学生の健康管理、運動処方および運動衛生について、さらには運動クラブ入部についての相談に応じている。

ニ．総合コースについて

特に実施していない。

ホ．セミナーについて

一般教育では実施していない。

ヘ．基礎専門、基礎教育科目について

医学部進学課程と歯学部進学課程の学生以外には基礎教育科目は設けていない。しかし、自然系学部については基礎的教育科目に関してクラス指定を行い、自然科学の基本的事項を習得できるよう十分配慮している。

IV-2. 改善の方向

本学では総合科学部が設置された時点で、一般教育の改善を行い、その充実に努めてきた。それゆえ現時点では一般教育の体制に大きな問題が生じているとは思えず、近い将来大きな変更は考えていない。ただし、外国語科目および保健体育科目については以下に示す若干の改善計画がある。また、本学は現在統合移転中であり、その完了した時点では一般教育と専門教育をより融合させる方向での改善が検討されている。

（外国語科目）

広く言語の研究・教育を推進するために、全学共同利用施設あるいは学部付置施設として、「言語センター」等を設置する計画はある。ただし、外国語教官団を総合科学部から分離し、たとえば「言語文化部」「外国語センター」等独立した研究・教育組織に改組する計画は一切ない。

（保健体育科目）

本学部は、平成5年度に東広島市に移転が予定されているが、新キャンパスの整備された施設での保健体育科目の充実が期待できる。移転を契機に保健体育科目の改善について次の観点から討議している。

- (1) 保健体育理論と体育実技の小人数制の実施
- (2) 体育実技の男女混合クラスの編成とスポーツ種目の選定
- (3) 低位体力者のトレーニングクラスの編成と個別指導
- (4) 夏期休業、冬期休業などを利用しての野外活動（キャンプ、登山、スキー、臨海実習など）から生涯体育実践のための素地を培う。
- (5) 医学との接点を多くし、疾病の早期発見と予防医学の重要性を理解させる。

73. 山 口 大 学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学 部 留 学 生 数	備 考
人 文 学 部	43	190		
教 育 学 部	105	310		
経 済 学 部	64	375	11	
理 学 部	62	196	1	
医 学 部	143	100		附属病院教官定員96名(外数)
工 学 部	121	420	12	
農 学 部	61	125		
教 養 部	78			
計	677	1,716	24	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 哲学S, 論理学, 東洋文化論, 東洋文化論S, 倫理学, 日本史, 東洋史, 西洋史, 西洋史S, 歴史学S, 国文学, 国文学S, 中国文学, 英米文学, ドイツ文学, フランス文学, 国語学, 漢文, 音楽, 美術, (総)日本文化論, 人文分野特別講義
	社会分野	法学, 憲法学, 憲法学S, 政治学, 経済学, 社会学, 社会学S, 文化人類学, 文化人類学S, 統計学, 心理学, 心理学S, 地理学, 教育学, (総)社会と人間, 社会分野特別講義
	自然分野	数学, 数学S, 物理学, 物理学実験, 化学, 化学実験, 地学, 地学実験, 生物学, 生物学実験, 農学, 自然分野特別講義
	総合科目	人間環境論, 科学史, 日本民俗学, 日本生活文化史, 山口の自然と文化, 食べる, 日本語と日本文化S, 情報と社会, 電算機概論, 情報文化論, 科学技術社会論, 情報理論入門, 特別講義(日本芸能論), 中・四国国立大学間合宿共同授業
外国語科目		英語, 英語LL, 英会話, 英語S, ドイツ語A, ドイツ語中級, ドイツ語LL, フランス語, フランス語LL, フランス語会話, フランス語中級, 中国語, 中国語会話, 中国語中級
保健体育科目		健康運動科学, 保健体育実技
基礎教育科目(医)		基礎数学, 基礎物理学, 基礎化学, 基礎生物学
留学生特別科目		日本語, 日本の事情

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

山口大学全体としては、教育・カリキュラム委員会を設置し、教養課程教育について、現在検討している。同委員会は、教養課程教育全般を見直し、どのような改善が可能であるか具体的に検討し、近い将来に改革案を提案する予定である。

同教養部としては、昭和59年度から、教育研究検討委員会を設置し、教養部の将来の方向を検討すると共に、教養課程教育の改善・改革・高度化にも積極的に取り組んできた。昭和63年度には、学部化構想委員会を設置した。同委員会は、学部化構想を策定すると共に、教養課程教育のカリキュラム改革にも取り組み、①人文・社会分野総合科目の開設、②2単位授業科目の新設、③総合科目の拡充（情報環境論と履修枠の拡大）、④小人数教育（ゼミ）の拡充を提言した。

この提言に基づき、同教養部は各学部との協議のうえで、学則等の規則の整備を整え、このカリキュラム改革案を平成元年度から順次実施に移してきた。

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

4単位授業科目と2単位授業科目との組み合わせや、学外の講師による特別講義、主題別授業（特に人文総合、社会総合）を積極的に取り入れて、授業の多様化が図られている。

ロ. 外国語科目について

読解に片寄ることなく、会話、LL授業等によって運用能力の育成にも力を入れている。

なお、英語、ドイツ語学科では、外国人教員が採用されている。

ハ. 保健体育科目について

体育実技に運動処方コースを設置することにより、身体運動の実践ばかりでなく、健康の維持増進を図るように授業が計画されている。

ニ. 総合コースについて

複数教官による総合科目（いわゆる総合コース）を3コース開設すると共に、総合科目の専任教員による総合科目も開設するなど、総合科目には、特に力を入れている。なお、平成2年度から、情報環境論を新たに開設し、それに伴い一般教育履修単位数（36単位）に算入できる総合科目の単位数0～4単位を0～8単位に拡大した。

ホ. セミナーについて

セミナー授業は、大切だという認識のもとに、拡充を図っている。

Ⅳ-2. 改善の方向

全学の教育・カリキュラム委員会では、教養課程教育の見直しの一貫として一般教育と専門教育のいわゆる相互乗入れが検討されているが、その答申に基づき教養課程教育と専門教育との密接な関連が図られる方向が期待できる。また教養部独自としては、一般教育科目が多様化され一層の充実が図られると共に、総合科目のさらなる充実への努力が続けられるものと期待される。

74. 徳島大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
総合科学部	90	250	0	
医学部	167	145	0	附属病院教官定員94名（外数）
歯学部	102	60	0	附属病院教官定員48名（外数）
薬学部	39	80	0	
工学部	143	475(40)	9	(40)は3年次編入定員であり、外数である。
教養部	50			
計	591	1,040(40)	9	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学，倫理学，日本史，外国史，文学，（総）人間存在の諸問題
	社会分野	法律学，政治学，社会学，経済学，地理学，心理学
	自然分野	数学，物理学，化学，生物学，地学（総）人類と自然（総）水
	総合科目	名著講読『カラマーゾフの兄弟』ほか51科目
外国語科目		英語Ⅰ，英語Ⅱ，ドイツ語Ⅰ，ドイツ語Ⅱ，フランス語
保健体育科目		保健体育理論，体育実技
基礎 教育 科目	医・医進 歯学部	基礎数学，基礎物理学，基礎物理学実験，基礎化学，基礎化学実験，基礎生物学，基礎生物実験
	医・栄養	基礎物理学，基礎化学，基礎化学実験，基礎生物学，基礎生物学実験
	薬学部	基礎物理学，基礎化学，基礎化学実験
	工学部	基礎数学，基礎物理学，基礎化学，基礎生物学
日本語・日本事情		日本語Ⅰ，日本語Ⅱ，日本事情

II. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

II-1. 調査報告書

① 『徳島大学における一般教育改善のためのプロジェクト報告書』（昭和56年3月）

II-2. 案作成までの経緯と学内手続き等

昭和55年度の教育方法等改善に関する文部省助成経費によって、「徳島大学学生の質的変貌に

対応した一般教育改善のためのプロジェクト」が計画された。近年高校生の質的变化、大学入試制度の改正等による大学入学者の変貌については、一般教育関係者のみならず専門学部においても大きな問題となりつつある。また昭和60年度以降からは、高校の新教育カリキュラムによる入学者を受け入れることになり、その質的变化はさらに著しくなることが予想される。

しかし、このような変化についての把握は感覚的なものが多く、学生の実態についての具体的な資料は少ない。このプロジェクトは、徳島大学の全学生を対象として、大学進学・目的・動機、生活の実態、読書の傾向等を調査するとともに、教養部の授業に対する学生の評価・希望、学生の学力の実態および知識の背景等について調査を行い、学生の実態に則した一般教育改善の方策を探ろうとしたものである。

そのために、徳島大学教養部教官および各専門学部より、一般教育に特に関心を有する教官が集まり、本学の一般教育における何らかの改善方策を見出すべく、次の様な項目について実施することにした。

1. 全学の学生アンケート
2. 教養部学生を対象としたテスト
3. 学内全教官を対象とした一般教育改善のためのアンケート
4. 教養部1年次を対象とした保健体育・外国語に関するアンケート

なお、これらの計画を立案するために4回、調査結果を分析し、改善への方策を討議するために10回、計14回の討論をまとめたものが本報告である。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

講義のクラス編成は、学部・学科等にかかわらず、全学生を対象に完全選択性によって行っている。ただし、受講生数が多い場合には、調整を行い、少人数教育を堅持している。

ロ. 外国語科目について

英語については、学生の自主的な選択による履修、LLを利用した授業、外国人教師・講師による授業、多彩な内容の授業などが特色としてあげられる。

ドイツ語、フランス語については、初修外国語としてその学習効果を上げるために、文法と読本の組合せを工夫している。いずれの外国語についても、可能な限り少人数のクラス編成を目指している。

ハ. 保健体育科目について

身体に障害または疾病のある学生を対象としたコースを設け、健康管理に関する教育やスポーツ指導を行っている。

ニ. 総合コースについて

1982年度から、第1年次の全学生を対象に、総合科目として「名著講読」を開講してい

る。これは、教養部及び各学部等の教官の指導のもとに、教官が指定した図書について、少人数のクラスで、ともに学び、ともに思考を深めながら、良書を味わう喜びをわかちあうことを趣旨としている。これにより2または4単位を取得できるが、これは教養課程修了要件の単位にはならない。1990年度は、52クラス開講を予定している。

ホ. セミナーについて

実施していない。

IV-2. 改善の方向

保健体育科目については、運動処方コース（仮称）の設置を検討中である。

一般教育の一層の充実をはかるために、各分野・系列ごとに検討を行っているが、まだ、公表できる段階に至っていない。

V. 自由意見

本学においては今まで、教養課程教育に係る問題については、教養部においてのみ検討されてきたが、今後は全学の問題として検討することとし、大学将来構想委員会において、「授業科目及び卒業要件」、「一般教育実施組織」、「一般教育の全学的協力体勢」等を取り上げ、改善を図ることとしている。

ただし、この全学的な検討は、現段階では緒についたところである。

75. 鳴門教育大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学 生 留 数	備 考
学校教育学部	185(14)	170	0	
計	185(14)	170	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

教 養 基 礎 科 目	人文分野	国語学, 日本文学, 漢文学, 外国文学, 哲学, 心理学, 音楽, 美術
	社会分野	歴史学Ⅰ, 歴史学Ⅱ, 地理学Ⅰ, 地理学Ⅱ, 日本国憲法, 社会学, 経済学
	自然分野	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 統計概論, 物理学, 化学, 生物学, 地学
	総合科目	生活科学, 現代と不適合, 人間と情報, 人権と教育, 技術と社会, 国際社会と教育, 教育生理学
	外国語	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, 英会話
	保健体育	体育理論, 保健理論, 体育実技
	教科 専門科目	初等国語, 初等社会, 算数, 初等理科, 生活, 初等音楽Ⅰ, 初等音楽Ⅱ, 図画工作甲, 図画工作乙, 初等体育Ⅰ, 初等体育Ⅱ, 初等家庭
教職共通科目 (第1欄)		学校教育学, 教育哲学, 日本教育史, 外国教育史, 障害児教育, 教育心理学, 児童心理学, 青年心理学, 障害児心理学, 幼児発達心理学, 障害児病理・保健学, 学校精神衛生, 教育社会学, 教育制度論, 教育経営学, 教育法規, 社会教育学, 教育学, 教育情報学

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

人文, 社会, 自然に総合分野を加えてより幅の広い教養を修得させている。

ロ. 外国語科目について

外国人教師, LLを通して実用面を強調する授業と読解中心の授業のバランスを取ったカリキュラムを組んでいる。

ハ. 保健体育科目について

体育実技のコースを多くし, 選択の幅を拡げた。具体的には, 女子学生や体力に自信のない学生向きに軽スポーツコースを設けた。

へ. 基礎専門、基礎教育科目について

中学校教員養成課程、自然系理科専攻において開講している基礎専門科目「理科」は標準履修年次を2年次に設定している。

「理科」の特徴としては、主として3年次以降に開講される専門科目および卒業研究に伴う各研究室配属時のセミナー等における原著論文の読解力を向上させ、また、物理学・化学・生物学・地学の最先端では、どのような研究が展開されているかについての理解をできるだけ早い時期に認識させることを目的として、比較的やさしい原著論文や原書単行本の読解を含めた内容解説に重点をおいた授業を展開している。そこでは、「内容は高度に、説明は平易に……」を目標にした授業を行っている。

さらに、将来の教員志望に対応できるように、一般的な知識で忘れがちな内容についても再確認する意味で、教員の一般常識として必要な専門的知識を教授している。また、理科分野の教育方法論についても言及し、いわゆる「嫌いな科目」を「魅力的な科目」にするための方策などをあわせて講義している。

ト. その他（論述作文など）について

LL、パソコン、視聴覚機器、実験装置等を活用している。

IV-2. 改善の方向

総合科目も加えて一般教育科目の充実を図っている。

教育大学という特色をいかして一般教育科目と専門教育科目とを融合させる方向で改善を試みている。

76. 香川大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
教 育 学 部	156(36)	290	1	一般教育等科目については、教育学部が担当している。
法 学 部	38	200		
経 済 学 部	66	380		
農 学 部	92	190		
計	352(36)	1,060	1	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	通 常 科 目	人文	哲学, 論理学, 宗教学, 歴史学, 考古学, 言語学, 文学, 芸術学, 国際文化論
		社会	法学, 政治学, 経済学, 社会学, 社会科学概論, 行動科学, 地理学, 心理学
		自然	数学, 物理学, 科学, 生物学, 地学, 天文学, 環境科学, 科学論
		総合科目	平和について考える, 言語, 子供の文化, 瀬戸内の風土と文化, 現代スポーツの解剖学, 人と環境, 自然のしくみ, 情報科学
		専門教育科目からの振り替え	(人文) 言語と文化, 日中比較文学 (社会) 文化と社会 (自然) 自然科学方法論, 情報科学通論
		演習科目	哲学的問いについて, ほか28科目
		実験科目	物理学実験, 化学実験, 生物学実験, 地学実験
		高年次一般教育科目	科学哲学, 科学思想史, ラテン・アメリカの文化と古代美術, アメリカ大陸の明暗, 現代社会論Ⅰ, 現代社会論Ⅱ, 自然科学概論
外 国 語 科 目			英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 英会話Ⅲ, 英会話Ⅳ, 英会話Ⅴ, 英作文Ⅲ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語Ⅲ, ドイツ語Ⅳ, ドイツ語Ⅴ, ドイツ語Ⅵ, ドイツ語会話Ⅲ, ドイツ語会話Ⅳ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, フランス語Ⅲ, フランス語Ⅳ, フランス語Ⅴ, フランス語Ⅵ, 中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ, 中国語Ⅲ, 中国語Ⅳ, 中国語Ⅴ, 中国語Ⅵ, ロシア語Ⅰ, ロシア語Ⅱ, ロシア語Ⅲ, ロシア語Ⅳ, ロシア語Ⅴ, ロシア語Ⅵ, スペイン語初級, スペイン語中級
保 健 体 育 科 目			保健体育概論, 体育実技Ⅰ, 体育実技Ⅱ, 体育実技Ⅲ, 体育実技Ⅳ

日 本 語 科 目	日本語Ⅰ，日本語Ⅱ，日本語Ⅲ，日本語Ⅳ，日本語Ⅴ，日本語Ⅵ，日本事情Ⅰ，日本事情Ⅱ
-----------	---

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

資料『香川大学一般教育部の研究活動に関する改革構想(試案)』を参照。

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

- 1) 人文科学，社会科学，自然科学の3系列のそれぞれについて，3科目以上12単位以上，合計36単位以上を卒業の要件としている。この条件は，昭和45年の大学設置基準改訂以後も同じで，基礎教育科目等の単位でこれらの単位に代えることは認めていない。
- 2) 通常科目のほか，総合科目，演習科目，実験科目，高学年一般教育科目を開設し，授業形態や履修時期（学年）の多様化を図っている。

ロ. 外国語科目について

- 1) 英語，ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語の5ヶ国語を開設している。これは，中規模大学としては比較的種類の多い方である。
- 2) 各学部の卒業の要件は次のようになっている。

教育学部	小学校教員養成課程 中学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程	英語，ドイツ語，フランス語，中国語 及びロシア語のうち1種類8単位以上
------	---	--

総合科学課程 英語8単位以上

ドイツ語，フランス語，中国語及びロシア語のうち1種類8単位以上（言語文化コース及び人間文化コース）又は4単位以上（情報科学コース及び基礎科学コース）

法学部 英語8単位以上

経済学部 ドイツ語，フランス語，中国語及びロシア語のうち1種類8単位以上

農学部 英語8単位以上

ドイツ語，フランス語，中国語及びロシア語のうち1種類4単位以上

- 3) このほか，卒業要件となる授業科目とは別に，各外国語の上級，並びに外国人教師担当の英会話，ドイツ語会話も開設している。
- 4) 英語のテーマ別クラス

第2年次の法学部・経済学部学生及び英語を選択した教育学部学生向けに，各々約60名の規模のクラスを単位として種々のテーマの授業を開設し，学部の枠を越えて，学生が自由に選択できるようにしている。農学部学生については2年次の前期終了時にキャンパスが変わるので，テーマ別クラスの授業は受講させていない。

ハ. 保健体育科目について

卒業要件については他大学と同じであるが、実技2単位のうち、2年次後期の0.5単位分に相当する部分を「集中授業」とし、多種目の授業を、いろいろな期間や時間帯で実施している。例えば、通常の授業期間内の始業時間前（例：5月16日～20日の朝6時～8時半）、あるいは夏期休業期間内（例：7月17日～20日の午前9時～12時10分）など。学生は所属学部に関係なく、種目や時間を自由に選択することができる。

ニ. 総合コースについて

- 1) 既成科学の領域や体系にとらわれないで、さまざまな学科による知見を総合し、多面的に考究することを目指して開設している。本学では、これを「総合科目」と呼んでいる。
- 2) 人文、社会、自然の3系列以外に、「総合」という区分を設けていないので、それぞれの授業科目は3系列のいずれか1つに属していて、2系列以上にまたがることはない。
- 3) 平成2年度は9科目（総単位数28）開設され、内訳は人文4科目（計12単位）、社会2科目（計4単位）、自然3科目（計12単位）となっている。
- 4) 総合科目の企画・運営等のため、一般教育部内に総合科目運営委員会を常設している。また、開設授業の内容を詳しく紹介するため、毎年「総合科目ガイドブック」を発行している。

ホ. セミナーについて

- 1) 主題を設け、担当教官の指導のもとに、小人数の学生が自ら参加して、共同で研究学習をするために開設されている。本学では「演習科目」と呼んでいる。
- 2) 各クラスの受講者は原則として20～25名に制限している。
- 3) 授業形態は、講義、討議、調査、フィールド・ワーク、実験・実習、古典・名著講読など様々である。

ヘ. 基礎専門、基礎教育科目について

本学ではこの授業科目区分を設けていない。

ト. その他（論述作文など）について

いくつかの授業で、レポートの作成等の指導の一貫として行ったケースはあるが、論述作文指導を中心課題とした授業は開設していない。

IV-2. 改善の方向

まだ項目別に回答できるほど、検討は進んでいないし、方向も定まっていない。ただ、次の2点については、多少とも検討に着手したと言えるかもしれない。

1) 一般教育等と専門教育科目の間の授業科目区分の弾力化

学則を改正して、昭和63年度より実施できるように条件を整備した。

まだ、手探りの状況であるが、当面の措置として、教育学部総合科学課程の専門科目の一部を一般教育科目の所定の系列の授業科目として履修することを認め、一方、一般教育科目

及び外国語科目の一部を教育学部総合科学課程の専門科目として履修することを認めている。

これが、今後の一般教育課程の改革の一つの方向を示すことになるか否かは現時点では判断できない。

2) 一般教育における集中コース制カリキュラム

従来の均等分散型履修方式では、学生が相互に関連のない授業科目を無秩序に履修し、本来の自由選択の精神を十分に生かしていないケースが多く見られる。そこで、複数の科目の集合を核とした「一般教育集中コース」の設定を構想して、部内のカリキュラム検討専門委員会で検討しているが、まだ結論を出すに至っていない。

77. 香川医科大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
医 学 部	154(12)	95	0	学長, 副学長, 附属施設教官 4 名も含む。 附属病院教官定員96名(外数)
計	154(12)	95	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学・倫理学, 芸術学, 心理学Ⅰ, 心理学Ⅱ, 文学
	社会分野	法学, 政治学, 経済学, 歴史学, 社会学
	自然分野	数学, 物理学, 化学, 生物学
外国語科目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ	
保健体育科目	講義, 実技Ⅰ, 実技Ⅱ	
基礎教育科目	医学概論Ⅰ, 医学概論Ⅱ, 応用数学, 基礎物理学Ⅰ, 基礎物理学Ⅱ, 物理学実験, 基礎化学Ⅰ, 基礎化学Ⅱ, 化学実験, 基礎生物学Ⅰ, 基礎生物学Ⅱ, 生物学実験, 情報科学	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

6年間一貫教育を目指しており, 一般と専門の一部が縦割りになっている。一般教育科目の特色としては, 自然系列16単位必修(数学, 物理, 化学, 生物各4単位)とし, 基礎教育科目と相俟って医学の基礎をつくりあげる目的のものと, 人文・社会系列は選択で各8単位の人格形成のためのものからなっている。なお, 人文系列では心理学(4単位)を必修とし, 特に後半2単位は医心理学をその内容としている点も特色である。

ロ. 外国語科目について

外国語科目は, 英語, ドイツ語各8単位必修のうえに, フランス語4単位を自由選択にしており, 語学力のアップをはかっている。なお, 英語では, 外人教師による英会話1単位(必修)を含んでおり, 実用英語にも力をいれている。また, クラス編成は25人程度とし, きめこまかい指導を行い, 少ない授業時間数で効率を上げていることを考えている。

ハ. 保健体育科目について

保健体育科目は、特に重要視し、専任の教授1名と教務職員1名を配し、更に非常勤講師2名を依頼して計4名で1クラスを4つに分け、細かい指導を行っている。

ニ．総合コースについて

開設していない。

ホ．セミナーについて

開設していない。

ヘ．基礎専門、基礎教育科目について

数学、物理、化学、生物の各4単位の他、医学概論、情報科学等を入れて、現行の基準以上に行っている。また、物理、化学、生物の各実験を各1単位実施し、知識のみでなく態度、習慣の養成にも心がけている。

IV-2．改善の方向

昭和63年に全学的にカリキュラムの改訂を行い、その時に教養課程でも見直しを行ったので、今すぐにこれを変更する考えはない。

この時の考え方は、一般教育科目については、人文、社会、自然の3分野にわたる履修方法で、充実発展をはかる方向であった。特に、医学部では、人格形成のための人文・社会系列の科目も現在以下に減らすことは決して望ましいことではなく、むしろ充実させるべきだという意見が多かった。自然系列についても、高校では選択制のため、物理、化学、生物のうち2科目しか履修していないので、他の1科目は全く白紙の状態で入学してくるので、これを十分教育して専門教育にそなえる必要があり、時間数を減らすことには、反対の意見が多かった。

このように医学部では、現行の方式を大きく変えることは考えられず、むしろ、より充実発展をはかる必要がある。また、6年間一貫教育を推進する上からも専門教育との連絡を密にして、より効率のよい授業を行う必要が強調された。

78. 愛媛大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
法 文 学 部	103	490	2	附属病院教官定員94名(外数)
教 育 学 部	102	355	0	
理 学 部	61	181	0	
医 学 部	142	95	1	
工 学 部	141	470	12	
農 学 部	110	192	1	
教 養 部	83			
計	742	1,783	16	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 哲学S, 倫理学, 倫理学S, 宗教学, 宗教学S, 日本史, 日本史S, 東洋史, 東洋史S, 西洋史, 西洋史S, 文学, 国文学, 国文学S, 中国文学, 中国文学S, 芸術, 芸術S
	社会分野	心理学, 心理学S, 文化人類学, 文化人類学S, 社会学, 社会学S, 法学, 法学S, 日本国憲法, 政治学, 政治学S, 経済学, 経済学S, 社会思想史, 地理学, 地理学S
	自然分野	数学, 数学演習, 統計学, 解析学・統計学, 物理学, 物理学実験, 化学, 化学S, 無機化学, 有機化学I, 有機化学II, 化学実験, 生物学, 生物学実験, 生物学S, 地学, 地学特別講義, 地学実験, 情報科学
	総合科目	総合科目A, 総合科目B, 総合科目C, 総合特別講義
外国語科目		英語講読, 英語演習, 基礎ドイツ語I, 基礎ドイツ語II, ドイツ語講読, ドイツ語演習, 基礎フランス語I, 基礎フランス語II, フランス語演習, 基礎中国語I, 基礎中国語II, 中国語演習, 基礎ロシア語I, 基礎ロシア語II
日本語・日本事情		日本語I, 日本語II, 日本語演習, 日本事情A, 日本事情B

III. 教養課程教育の個々の改善についての試み

将来計画委員会教養課程の在り方検討専門部会等において検討中であるが、その結果を報告する段階に至っていない。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

小人数教育（人文・社会系においてゼミ形式の授業）を実施している。

情報処理教育（計算機演習を含む）を開講している。

洞穴学（地学）を開講している。

ロ. 外国語科目について

再履修者のみを対象に再履修クラスを編成している。

ハ. 保健体育科目について

リハビリテーション（四肢運動障害者に対する正課体育）クラスを編成している。

IV-2. 改善の方向

教養部において総合科目をより充実させることについては合意をされているが、その他については現在、将来計画委員会教養課程の在り方検討専門部会等において検討中である。

なお、法文学部夜間主コースの教養課程について、限られたコマ数のもとでの選択科目数の増加等改善策を検討している。

V. 自由意見

平成4年度からの週5日制移行への対応方法について、教養部教務委員会において検討している。

79. 高知大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
人 文 学 部	94(34)	270	7	
教 育 学 部	87	250	1	
理 学 部	81(13)	245	1	
農 学 部	81	195	2	
計	343(47)	960	11	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学, 歴史学, 人文地理学, 文学, 音楽, 美術
	社会分野	社会科学概論, 法学, 政治学, 経済学, 経営学, 社会学, 社会思想史, 国際関係論
	自然分野	解析概論, 線形代数概論, 数学概論, 図学, 統計学, 物理学, 一般物理学実験, 無機化学, 有機化学, 一般化学実験, 生物学, 一般生物学実験, 地学, 一般地学実験
	総合科目	人間生活と学問, 平和と軍縮, 自然環境と人間生活, 海洋の科学, 地球・人類その過去と未来, 科学史, 生活の科学, 情報と科学Ⅰ, 情報と科学Ⅱ 情報と科学Ⅲ
外 国 語 科 目		英語, 実用英語Ⅰ, 実用英語Ⅱ, 実用英語Ⅲ, 実用英語Ⅳ, 独語初級, 独語中級, 仏語初級, 仏語中級, 中国語初級, 中国語中級
保 健 体 育 科 目		保健講義, 体育講義, 体育実技Ⅰ, 体育実技Ⅱ
外国人留学生特別科目 日本語・日本事情		日本語初級Ⅰ・Ⅱ, 日本語中級Ⅰ・Ⅱ, 日本事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

III. 教養課程教育の個々の改善についての試み

総合科目の開設（平成元年度）、中国語の開設（平成2年度）等教養課程教育の改善を試みている。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

ロ. 外国語科目について

(1) 中国語の新設

平成2年度より、既設の英語・独語・仏語に加え、中国語を開設し、学生の要望に応えることとした。

(2) 外国人教師による授業

英語・独語においては、外国人教師による外国語での授業を行い、学生の要望に応じている。

ハ. 保健体育科目について

体育実技は通常種目（前期又は後期30時間）及び集中種目（5月～翌年1月 15時間）に分けて開設し、通常1種目、集中1種目を履修し、1単位修得となる。

なお、通常種目、集中種目共に多種目開設し、学生の要望に応じている。

ニ. 総合コースについて

総合科目は、授業内容が、人文・社会・自然の複数分野にわたり、卒業所要の単位としていずれの分野の科目にも代えることが出来る。

平成元年度より4科目開設、平成2年度は3科目増設し、7科目開設。

ヘ. 基礎専門、基礎教育科目について

教養課程教育としては考えていないが、専門教育の中に基礎専門科目を設けている学科がある。

ト. その他について

平成2年度より教育用端末室を新設（教育用端末50台を設置）し、情報処理教育の充実を図る。

IV-2. 改善の方向

イ. 総合科目を中心に、学際的な内容をもった一般教育の充実を図る。

ロ. 総合科目の中に情報科学を取り入れ、将来の情報社会に向けて、一般教育としての情報科学の在り方を模索する。

ハ. 保健体育科目の実技種目は、多種目を用意し、ユニークな内容としてきたが、カリキュラム編成上再検討の必要が生じてきた。

80. 高知医科大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
医 学 部	158(13)	95	0	学長，副学長を含む。 附属病院教官定員93名（外数）
計	158(13)	95	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一教育 般科目	人文分野	哲学，倫理学，心理学，文学
	社会分野	法学，政治学，経済学，歴史学
	自然分野	数学，物理学，化学，生物学
外国語科目	英語Ⅰ，英語Ⅱ，英語Ⅲ，英語Ⅳ，ドイツ語Ⅰ，ドイツ語Ⅱ，ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ	
保健体育科目	講義，実技Ⅰ，実技Ⅱ	
基礎教育科目	基礎数学Ⅰ，基礎数学Ⅱ，推測統計学，基礎物理学Ⅰ，基礎物理学Ⅱ，物 理学実験，基礎化学Ⅰ，基礎化学Ⅱ，化学実験，基礎生物学Ⅰ，基礎生物 学Ⅱ，情報科学Ⅰ，情報科学Ⅱ，情報科学Ⅲ，総合講義	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

へ. 基礎専門，基礎教育科目について

- (1) 「総合講義」の開設，2年次を対象に学生の自主的学習及び体験を通じての問題解決型の学習方式を採用していること。
- (2) 「情報科学」の開設，情報処理教育特に医学情報について，1年次，2年次及び4年次と系統的な教育を行っていること。

ト. その他（論述作文など）について

- (1) 一般教育から臨床医学まで6年間を通じて一貫した医学教育を行う一環として，2年次から解剖学を履修させていること。
- (2) 専門教育科目「特別講義」を使って，1年次に勉学へのモチベーションを高めることを目的とし，Early Clinical Exposure（早期医学教育）を行っていること。

IV-2. 改善の方向

- (1) 総合科目を中心にした，一般教育の充実を図る。
- (2) セミナーを中心にした，一般教育の充実を図る。

81. 福岡教育大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 数	備 考
教育学部	218(13)	710	7	
計	218(13)	710	7	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	文学Ⅰ，文学ⅡA，文学ⅡB，史学Ⅰ，史学ⅡA，史学ⅡB，芸術学Ⅰ， 芸術学ⅡA，芸術学ⅡB，哲学Ⅰ，哲学ⅡA，哲学ⅡB，倫理学Ⅰ，倫理 学ⅡA，倫理学ⅡB，心理学Ⅰ，心理学ⅡA，心理学ⅡB，心理学
	社会分野	憲法，法学ⅡA，法学ⅡB，政治学Ⅰ，政治学ⅡA，政治学ⅡB，社会学 Ⅰ，社会学ⅡA，社会学ⅡB，経済学Ⅰ，経済学ⅡA，経済学ⅡB，地理 学Ⅰ，地理学ⅡA，地理学ⅡB，教育学Ⅰ，教育学ⅡA，教育学ⅡB，部 落問題概論Ⅰ，部落問題概論ⅡA，部落問題概論ⅡB
	自然分野	数学Ⅰ，数学ⅡA，数学ⅡB，統計学Ⅰ，統計学ⅡA，統計学ⅡB，物理 学Ⅰ，物理学ⅡA，物理学ⅡB，化学Ⅰ，化学ⅡA，化学ⅡB，生物学Ⅰ 生物学ⅡA，生物学ⅡB，家政学Ⅰ，家政学ⅡA，家政学ⅡB，技術論Ⅰ， 技術論ⅡA
外国語科目	英語，ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語	
保健体育科目	体育理論，体育実技	
基礎教育科目	数学概論，微積分学，総合幾何学，線形代数学，基礎物理学，基礎化学， 基礎生物学，基礎地学，理科数学，基礎科学A，基礎科学B，基礎科学C 基礎科学D，英語学入門，英文学入門，英語教育学入門，音楽概論，和声 学，造形論，生活科学，食物学概論，家庭経営学概論，被服学概論，工業 数学，工業力学，電気理論，心理学実験実習，障害児教育論，障害児医学 概論，幼児心理学，幼児保健学，幼児社会学，数学	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

1 科目 2 単位 + 2 単位，計 4 単位の組み合わせで後半の 2 単位は 1，2 年生時だけではなく，専門課程の 3 年時でもとれる組み合わせが可能な点。この後者の組み合わせでは専門課程で学習している内容に関連させてかなり高度な内容の授業が展開できる。

ハ. 保健体育科目について

殆どの大学が保健体育科目については教養課程の中だけで実施されているが、本学では7期に亘って実施している。その内、6期が保健体育実技で、残りの1期が保健体育理論である。このように、大学在学期間の長期に亘って、学生の健康・体力及び余暇の充実の面から保健体育科目の履修を制度化している点が大きな特色である。

ト. その他について

一つの考え方として、授業科目によっては一般教育科目担当、専門教育担当といった枠を超えて同一教官により両者を一貫した考え方のもとに連続的に行う。

IV-2. 改善の方向

教養課程教育と専門教育とを融合させ、もって専門教育の充実を図るべきとの意見が多いが、具体的改善法については、未定である。

V. 自由意見

演習形式をとるには、学生数を制限する必要がある。

82. 九州大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 数	備 考
文 学 部	68	160	4(1)	学部留学生欄の()内の数は教養部 在籍者数で内数。
教 育 学 部	34	50	0	
法 学 部	77	280	1(1)	
経 済 学 部	54	280	6(2)	
理 学 部	206	291	1(1)	附属病院教官定員210名(外数) 附属病院教官定員51名(外数)
医 学 部	184	100	13(2)	
歯 学 部	97	60	4(2)	
薬 学 部	51	80	0	
工 学 部	489	840	10(7)	
農 学 部	213	270	1(1)	
教 養 部	116			
言 語 文 化 部	50			
健 康 科 学 センター	11			
計	1,650	2,411	40(17)	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学A, 哲学B, 論理学, 倫理学A, 倫理学B, 宗教学A, 宗教学B, 教育学, 心理学A, 心理学B, 心理学講義及び実験, 国史学A, 国史学B, 東洋史学A, 東洋史学B, 西洋史学A, 西洋史学B, 人文地理学A, 人文地理学B, 美術史, 考古学, 国文学A, 国文学B, 中国古典A, 中国古典B, 中国文学, 西洋文学(概説), 西洋文学(英), 西洋文学(米), 西洋文学(独), 西洋文学(仏), 西洋文学(露), ラテン語, ギリシャ語
	社会分野	法律学A, 法律学B, 政治学A, 政治学B, 経済学A, 経済学B, 経済史, 社会学A, 社会学B, 統計学, 社会思想史, 文化人類学, 国際関係論
	人文・社会	教養課程特講「活字で読まない古典文学」ほか37科目
	自然分野	一般数学A, 一般数学B, 一般数学C, 情報科学A, 情報科学B, 一般物理学A, 一般物理学B, 一般物理学C, 一般化学A, 一般化学B, 一般化学C, 一般地学A, 一般地学B, 一般地学C, 一般生物学A, 一般生物学

	B, 一般地学A, 一般地学B, 一般図学A, 一般図学B, 科学史A, 科学史B, 科学技術論A, 科学技術論B, 自然科学特論
総合科目	人間関係の科学, 朝鮮の歴史と文化, 環境と人間, 情報とコミュニケーション, アメリカ研究入門, 女性史講座, 科学と進歩, 物質と文化, 自然と文化, 核を考える, アメリカの文化と社会, 演劇, フロンティア神話とアメリカ文化, ドイツの文化と社会, ノマド(さすらい)論, ことばの科学, 現代社会のスポーツ
ゼミナール	セルフコントロールの心理学, ほかに25科目
外国語科目	英語, 英語LL演習, 英会話・作文演習, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語Ⅲ, ドイツ語会話初級, ドイツ語会話中級, フランス語, 中国語, 中国語会話, ロシア語, 朝鮮語Ⅰ, 朝鮮語Ⅱ, 外国語特講(独), 外国語特講(仏)
保健体育科目	健康科学, 体育実技
特別講義	
留学生特別科目	日本語, 日本の歴史・文化, 日本の政治・経済, 一般日本事情
基礎教育科目 (理, 工, 医・歯, 農, 薬)	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学Ⅲ, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ, 物理学Ⅲ, 力学・同演習 物理学実験Ⅰ, 物理学実験Ⅱ, 化学序説, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 化学実験Ⅰ, 化学実験Ⅱ, 地学A, 地学B, 地学C, 地学実験, 生物学A, 生物学B, 植物学, 動物学, 生物学実験Ⅰ, 生物学実験Ⅱ, 生物学実験Ⅲ, 図学及び 製図
第2種 一般教育科目	障害児の心理と教育, 近代民法典の成立過程, オペレーションズ・リサーチ, 現代経済の諸問題, 複素数とその応用, 薬学概論, 医学概論, 現代生 物学の成立, 情報科学概論, 日本考古学の諸問題, 現代世界農業の展望, 日本列島と自然災害, 日本の経営の再検討, 経営数学概論, 応用原子核物 理概論, 法制経済, 生態系の構造と機能, 技術と農業, 生物と化学

Ⅱ. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

Ⅱ-1. 調査報告書

① 『九州大学における教養課程教育の改革と教養学部設立について』(昭和63年11月)

Ⅱ-2. 案作成までの経緯と学内手続き

イ. 案作成までの経緯と, 学内の手続き

九州大学においては, 教養課程教育の改革を含む教養部の組織改革案を二度にわたって作成し, 教養部内の討議を経て全学的審議に付し, 合意に達した。すなわち, まず, 教養部から提案した『九州大学教養部将来構想について―教養学部設立案―』(昭和62年12月)が, 高橋良平学長を委員長とする九州大学教養課程検討特別委員会において, 昭和63年9月大綱において了承された。それをうけて, 教養部から提案された改革の第二次案である『九州大学における教養課程教育の改革と教養学部設立について』(昭和63年11月, 以下『改革案』という)が,

全学委員会である一般教育等将来構想検討委員会において、昭和63年12月より平成元年9月にかけて審議に付され、教養課程の改革をふくめた教養部の組織改革について全学的合意に達した。

ロ. 案作成に当たって、特に注意を要した事柄

次の2点を骨子として『改革案』を作成した。

- ① II-3において述べる一般教育に関する種々の改革を踏まえた上で、コア・カリキュラム（下記IV-2参照）による一般教育の活性化を目指す。
- ② 上の目的に沿って既存の「タテ割り」教官組織を学問の諸分野を横断的に見通せる教官組織（教養学部）へ再編する。

すなわち、一般教育の活性化と教養学部の設立は相即不離の関係にある点に特に注意した。

II-3. 既に実施されている改善の試み

既に実施されている一般教育改善の試み（カッコ内は平成2年度「履修の手引き」のページ数）

- ① 昭和47年 専門教育と一般教育の「相互乗入れ」の実施—第二種一般教育科目の開設—
教養部において一部の専門教育科目を導入すると共に、学部進学後に高年次一般教育として第二種一般教育科目を開設した。これにより教養部を含めた全学の教官による四年一貫の一般教育の理念に沿った改革を行った。
- ② 昭和47年 総合科目の開設
専門細分化した現在の学問分野を総合し、かつ、今日の諸問題をテーマとした総合科目を開設した。（p. 42～p. 46）
- ③ 昭和47年 理系一般教育科目から基礎教育科目の分離
この改革により、基礎教育と専門教育の系統性の強化と教育内容の精選が行われ、四年一貫教育の観点からの改革が進んだ。
- ④ 昭和57年 教養部ゼミナールの創設
少人数教育導入の端初として創設され、これには学部教官も参加している。（p. 47～p. 52）
- ⑤ 昭和63年 教養課程特講（文系1年生全員）の開設
少人数教育の徹底化を図るため、文系1年生全員を対象として開設した。少人数クラス（20名程度）において、文献・資料の探索及び読解、レポート・小論文の作成、報告の仕方など、いわゆるコモン・ベシックスとしての能力の啓発を目的としている。（p. 16～p. 22）
- ⑥ 平成元年 新しい総合科目の開設
『改革案』の5コース制の試行として新しい5つの総合科目を開設した。（p. 42～p. 46の総合科目のうち、“環境と人間”，“情報とコミュニケーション”，“科学と社会”，“物質と文化”，“自然と文化”）

⑦ 平成元年 自然科学特論（理系2年生の一部）の開設

一定の自然科学的知識の修得を前提として、理系2年生を対象として開設した。少人数クラスによる主体的勉学意欲の喚起、実験・実習能力の開発などを目指している。（p.35～p.41）

⑧ この間、『改革案』に沿って、国際関係論、文化人類学、科学史、科学技術論など新しい一般教育科目を開設してきた。

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

資料「第二種一般教育科目開講予定一覧」（昭和63年度，平成元年度，平成2年度）

『言文フォーラム』（No.2，平成2年3月）参照。

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

- ① 四年一貫の一般教育という理念に則り、学部進学後の学生を対象として第二種一般教育科目をすでに昭和47年から開設している。
- ② マス・プロ教育の弊害除去のため、一般教育に少人数教育を導入し（教養部ゼミナール、教養課程特講及び自然科学特論）、教官と学生の緊密な絆を介して一般教育の質的向上を目指している。
- ③ 『改革案』に沿った新しい教科の開拓に務め、国際関係論、文化人類学、科学史、科学技術論などの新しい一般教育科目を開設してきた。

ロ. 外国語科目について

- ① 昭和63年4月、教養部改革の一環として既存の教養部の組織から、外国語及び日本語・日本事情に関する学科目を分離し、新たに言語及び言語文化に関する教育研究を行うため言語文化部を設置し、より豊かな文化的素養に支えられた高度な言語能力の養成により、国際化に対応できる人材の育成に務めている。
- ② 言語文化部では、外国語運用能力の開発育成を重点目標として、外国人教官の積極的任用とLL施設の拡充に務め、現在実施しているカリキュラムのなかでは、次のものを特色として挙げることができる。

○英語科における外国人教官担当クラスとLLクラスの必修化

1年次の前期又は後期に上記クラスのいずれかを履修しなければならない。各1単位。

○ドイツ語科におけるペアクラスの実施

週2回の講義を、日本人教官と外国人教官が同一教科書を用いて交互に担当。前期・後期各2単位、4単位必修。文科系1年次生を対象（「履修の手引き」p.55～p.56）。

○全学向けコースの開設

教養課程の延長として、平成元年度より学部学生、大学院生を対象とする特別履修課程を実施。外国人教官担当のクラスを主体とする（『言文フォーラム』No.2, p.22～p.31）。

※ 平成2年度の外国人教官の任用数は次のとおり。[i]専任教官：英語3(2)、ドイツ語2(1)、中国語1(1)。[ii]非常勤講師：英語10、ドイツ語4、フランス語4、中国語1。専任教官数の()内は助教授定員の運用によるもので内数。

ハ. 保健体育科目について

- ① 昭和53年4月、教養部改革の一環として、既存の教養部の保健体育学科と保健管理センターを核とした、健康科学に関する総合的教育研究機関である健康科学センターを設置した。
- ② 健康科学センターでは、保健体育を「保健」と「体育」に分割することなく、「健康科学」という講義科目で、現代生活における健康問題を幅広く取り上げ、正しい健康観を育成すると共に、具体的な健康処方についての教育を行っている。
- ③ 体育実技では、心身に障害のある学生のためのコースを開講し、これらの学生の身体活動を助成して障害に打ち勝つための教育を行っている。

ニ. 総合コースについて

従来型の総合科目と並んで、『改革案』に沿った新しい総合科目を開講している(Ⅱ-3-⑥参照)。

ホ. セミナーについて

教養部を含む全学部 of 教官の参加によるゼミナールを開講している。

ヘ. 基礎専門、基礎教育科目について

- ① 理系一般教育科目から基礎教育科目を分離し、専門教育科目との系統性を強化した。
- ② 一般教育と専門教育の「相互乗り入れ」を推進するため、教育学部、法学部、経済学部、理学部、薬学部、工学部、農学部の専門教育科目の一部を教養部で開講している。

ト. その他(論述作文など)について

平成元年度入学の医学部・歯学部の学生から、2年次後期にアーリー・エクスポージャー科目を導入した。この制度は、学生を毎週1日学部における講義と臨床実習によって、早期に専門医・歯学学習を体験させ、医師としての人間形成と社会的使命の修得を目的としている。

IV-2. 改善の方向

ホ. 保健体育科目についての新しい方向

四年一貫の健康科学教育が必要であるという認識のもとに、以下の改革案を検討している。

① 健康科学の講義

1年次前期：健康・体力の現状把握と、それに伴う諸問題を体育実技と関連づけて教育する。

2～4年次：教官の専門性を生かし、複数教官による第二種一般教育を行う。

② 体育実技

健康・体力の向上を目標とした「体力づくり実習」、健康科学の講義と関連づけた「健康

科学実習」，各人の目的にあった「目的別コース」の開設（１～２年次）及び種目別コース，スポーツ・トレーニングコース，健康づくりコースなどの開設（３～４年次）を目指す。

へ．コア・カリキュラムによる一般教育の改善

『改革案』は，コア・カリキュラムによる一般教育の改善を目指し，その実施にふさわしい教官組織として教養学部（教養学部）の設立を提言している。したがって，今後の教養部改組の動向によって修正の余地はあるが，現段階では『改革案』に沿ってコア・カリキュラムによる一般教育の改善の方向を目指したい。

コア・カリキュラムは，Ⅱ－３に述べた種々の改革をふまえた上で，専門分化の原理の上にたつ人文，社会，自然の三分野にわかれた「タテ割り」の均衡・分散型履修方式の一般教育ではなく，三者を横断する学際的・広領域的性格を基調とするものである。コア・カリキュラムの構成は次のとおりである。

- ６つのコア科目
- 周辺科目（既存の一般教育科目の再編成と新設される教養学部（教養学部）の専門教育科目の一部開放）
- 少人数教育科目（教養課程特講，自然科学特論，ゼミナール）
- 総合科目

このコア・カリキュラムによる一般教育の活性化のため，教官組織を，専門分化の原理にたつ既存の「タテ割り」型から，幅広い分野の専門家から成る教養部の特色を生かした学問の諸分野を横断的にみとおす教官組織（教養学部）への再編成を提起している。

83. 九州芸術工科大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学 生 留 数	備 考
芸術工学部	83(15)	160	7	
計	83(15)	160	7	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 芸術学, 東洋文化史, 西洋文化史, 心理学, 倫理学, 論理学
	社会分野	経済学, 社会学, 法学, 政治学, 文化人類学, 産業構造論, 社会地理学
	自然分野	生物学Ⅰ, 生物学実験, 生物学Ⅱ, 化学Ⅰ, 化学実験, 物理学Ⅰ, 数学Ⅰ 数学Ⅱ, 数学Ⅲ
	総合科目	比較文化論, 芸術と科学, 九州地区国立大学間合宿共同授業
外国語科目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, ドイツ語Ⅲ フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, ロシア語, 中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ	
保健体育科目	保健体育講義, 保健体育実技Ⅰ, 保健体育実技Ⅱ	
日本語・日本事情	日本語, 日本事情Ⅰ, 日本事情Ⅱ	
基礎教育科目	基礎造形Ⅰ, 基礎造形Ⅱ, 基礎造形Ⅲ, 基礎造形Ⅳ, 図学・製図, 工業数学Ⅰ, 工業数学Ⅱ, 物理学Ⅱ, 物理実験, 化学Ⅱ, 生物学Ⅲ, 生物学Ⅳ	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

一般教育科目及び専門科目何れも1～4年次にわたって開講しているが、学年進行と共に一般教育科目の占める割合が減少し、逆に専門科目の割合が増加するという、いわゆる楔型教育を取り入れることにより、教養科目、基礎科目、及び専門科目の結びつきを深め、幅広い視野を有する学生の育成に努めている。

ロ. 外国語科目について

小規模な大学であるにもかかわらず外国人語学教師を有し、小人数の学生に対し緻密な語学教育を行っている。

ニ. 総合コースについて

開設していない。

ホ．セミナーについて

行っていない。

ヘ．基礎専門，基礎教育科目について

芸術工学の基礎，とりわけ芸術的感性を養うための基礎造形教育に力を入れている。また，この授業で作成した作品は，学内のみならず駅周辺等にも展示され市民の好評を得ている。

IV－2．改善の方向

現在検討中であるが，まだ具体的な案はまとまっていない。

84. 九州工業大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
工 学 部	225(50)	704	17	夜間主コース90名を含む。
情 報 工 学 部	128(20)	1年 400 3年 50	3	
計	353(70)	1年 1,104 3年 50	20	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

(工学部)

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 歴史学, 心理学, 文学, 教育学, 総合科目
	社会分野	法学, 日本国憲法, 社会学, 経済学, 政治学, 社会思想史, 地域研究, 総合科目
	自然分野	解析学A I, 解析学B I, 物理学, 化学
外国語科目	英語A, 英語B, 英語C, 英語D, 英語E, 英会話・英作文, ドイツ語A ドイツ語B, ドイツ語C, ドイツ語D, ロシア語	
保健体育科目	保健体育講義, 保健体育実技	
専門教育科目 (共通科目)	解析学A II, 解析学B II, 線形代数学, 幾何学, 幾何学概論 I, 幾何学概論 II, 物理学 II, 物理学実験, 化学実験A, 化学実験B, 常微分方程式, 関数論 I, 関数論 II, 関数変換論, 代数学, 応用代数学, 統計学, 偏微分方程式, 応用確率論, 力学A, 力学B, 応用物理学, 応用物理学実験, 結晶学, 統計力学, 量子力学, 原子力概論, 図学A, 図学B	

(情報工学部)

一教 般 育 科 目	人文分野	文化人類学, 国語学, 心理学, 文化史
	社会分野	経営経済学, 社会学, 法律学, 社会思想史
	自然分野	解析学 I, 物理学 I, 化学
外国語科目	英語A, 英語B, 英語C, 英語D, 英語E, 英会話・英作文, ドイツ語A ドイツ語B, ドイツ語C, ドイツ語D	
保健体育科目	保健体育講義 I, 保健体育講義 II, 保健体育実技 I, 保健体育実技 II	
専門教育科目 (基礎共通)	解析学 II, 線形代数学, 応用代数学 I, 応用代数学 II, 応用代数学 III, 数理統計, 物理学 II, 応用物理学, プログラミング・同演習, データ構造, 計算機構成, データベース, 計算機図学, 情報工学基礎実験・演習	

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

工学部にあつては、カリキュラム変更を含めて検討中であるが、資料を作成するまでには至っていない。

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ-1. 特 色

(情報工学部)

イ. 一般教育科目について

情報技術者、システムエンジニアとして必要な一般教育を修得できる教科内容としている。特に「法律学」の中では知的所有権にかかる部分を重点的に取り入れている。

ロ. 外国語科目について

情報技術者、システムエンジニアとして必要な外国語教育を行っている。

ハ. 保健体育科目について

上記に同じ。特に健康科学を中心に取り上げている。

ヘ. 基礎専門、基礎教育科目について

基礎共通科目の中で「情報教養」科目として、全学科共通の授業科目として「プログラミング同演習」、「データ構造」、「計算機構成」、「データベース」、「計算機図学」を置いている。

ト. その他

1年次の後期から2年次の前期にかけて、基礎共通科目の中で「情報工学基礎実験・演習」を課している。これは、従来の低学年次での工学系学生実験である、電気、化学、物理実験等の各実験テーマを包括して課しているもので、いわゆる教養課程時の教育と専門教育とを融合させる方向で改善を試みているものである。

(工学部)

ヘ. 基礎専門、基礎教育科目について

昭和63年度に学科改組を行い、学科基礎科目を設けるとともに自然科学系科目（数学・物理学・化学）を専門基礎として位置付けたところに特色がある。

Ⅳ-2. 改善の方向

(工学部)

ト. 「教養課程教育と専門教育とを融合させる方向で改善を試みる」に関しては、自然科学系科目と専門科目との一貫性を考慮に入れながら、教養課程教育と専門教育との統一性を見出すべく改善を試みている。

Ⅴ. 自由意見

(情報工学部)

本学部では、1～2年次から専門教育科目を大幅に取り入れている、いわゆる「クサビ型」教

育を行っている（1～2年次で開設している専門教育科目は、全体の専門教育科目の約34%となっている）。

また、一般教育自然科学系教官が、それぞれの専門学科に入り込んで、専門教育科目を担当し、一般教育、専門学科との一体運営を行っている。

85. 佐賀大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
教 育 学 部	89	240	2	
経 済 学 部	50	280	13	
理 工 学 部	136	480	20	
農 学 部	59	165	0	
教 養 部	55			
計	389	1,155	35	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 論理学, 倫理学, 心理学, 教育学, 国語学, 日本文学, 中国文学, 英語学, 英文学, 米文学, 独文学, 仏文学, 言語学, 美学, 美術史, 日本史, 東洋史, 西洋史, 世界史, 考古学
	社会分野	法学, 日本国憲法, 政治学, 国際関係論, 社会学, アジア社会論, 文化人類学, 経済学, 社会思想史, 統計学, 地理学
	自然分野	一般数学, 数学概説, 微積分, 代数・幾何, 情報科学, 一般物理学, 物理学概説, 物理学実験, 一般地球科学, 地球物理学, 天体物理学, 地球科学実験, 一般化学, 化学概説, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 化学実験, 一般生物学, 生物学実験, 図学, 製図, 科学史
	総合科目	部落問題, 生命科学, 合宿共同授業, アジアの中の日本, ヨーロッパを考える
	教養 基礎科目	社会と人間, 環境と化学, 西洋の人間観, 佐賀文人研究, 中国研究, 存在と自由, 生命と自然, 地球科学, 比較演劇, アジア太平洋の文化と日本の民俗, 西洋古典, 日本地誌, 精神障害と環境, 芸術論, 現代日本の政治, 自由について, 米ソ関係と日本, 科学の思想
外 国 語 科 目		英語, 中国語初級, 中国語中級, 独語初級, 独語中級, 独語上級, 仏語初級, 仏語中級, 仏語上級, 日本語Ⅰ, 日本語Ⅱ
保 健 体 育 科 目		体育理論, 衛生学, 体育実技
留学生特別科目		日本事情Ⅰ, 日本事情Ⅱ, 日本事情Ⅲ

Ⅱ. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

Ⅱ-1. 調査報告書

① 『佐賀大学における一般教育の充実と活性化についての答申』（佐賀大学教養課程協議会専門委員会，平成元年6月）

② 『教養課程協議会第2次専門委員会中間報告』（平成2年1月）

Ⅱ-2. 案作成までの経緯と学内手続き等

イ. 案作成までの経緯と学内手続き

昭和62年9月教養課程協議会に専門委員会が設置され，一般教育等の改善について協議することになった。同専門委員会は，学内，学外の調査を重ね，昭和63年4月，「一般教育の充実と活性化について」の中間答申を協議会に提出した。この中間答申は，各教授会での審議を踏まえ，平成元年6月，最終答申としてまとめられた。さらに上記答申を具体化するため，平成元年9月，教養課程協議会第2次専門委員会が設置されて協議を重ね，平成2年1月，中間報告を協議会に提出し，各教授会の審議を経て，平成3年度の具体化を目指している。

なお，その間，平成元年2月，各学部，教養部の評議員を中心に全学的な教養部改組構想検討委員会が発足し，同委員会は，一方で教養部の学部化を検討すると共に，将来にわたる一般教育の改革をも審議している。

ロ. 案作成に当たって，特に注意を要した事柄

- (1) くさび型教育の具体化
- (2) 指定科目（理工学部）の一般教育科目から基礎教育科目への転換と，一般教育科目の単位数の検討
- (3) 総合科目の充実とプレゼミ（教養基礎科目）の必修化

Ⅱ-3. 既に実施している改善の試み

総合科目の充実とプレゼミ（教養基礎科目）の試行的実施（Ⅲを参照）。

Ⅲ. 教養課程教育改善のこれまでの試み

(1) プレゼミ（教養基礎科目）

人文・社会分野の授業においては，10～20名程度の学生を1クラスとした少人数ゼミ形式のものを，昭和54年度から例年開講している。関係教官が各1コマずつもち，平成元年度は16科目を開いた。大学教育へのイニシエーション的役割を果たし，読み，書き，話す技術の修得を目指すものとして，学生に大きな刺激を与え，教育効果をあげてきた。平成2年度よりは，教養部履修細則を改訂して，教養基礎科目を設定し，プレゼミの充実を図った。さらに，平成3年度には，学部教官の協力もえて，可能な限り全学生の必修化を目指している。

平成2年度開講の教養基礎科目，少人数クラスの状況は次表のごとくである（平成2年度は移行措置のため，教養基礎科目と少人数クラスを平行して開講している）。

教 養 基 礎 科 目	人 文 ・ 社 会 ・ 自 然	人 員
	仏 文 学	20
	哲 学	10
	日 本 史	15
	一 般 物 理 学	15
	法 学	20
現 代 日 本 の 政 治	政 治 学	20
西 洋 の 人 間 観	倫 理 学	20
精 神 障 害 と 環 境	心 理 学	20
芸 術 論	美 学	20
社 会 と 人 間	社 会 学	15
米 ソ 関 係 と 日 本	国 際 関 係 論	20
地 球 科 学	一 般 地 球 科 学	10
日 本 地 誌	地 理 学	15
中 国 研 究	東 洋 史	20
ア ジ ア 太 平 洋 の 文 化 と ……	文 化 人 類 学	12
環 境 と 化 学	一 般 化 学	20
自 由 に つ い て	社 会 思 想 史	20
生 命 と 自 然	一 般 生 物 学	12
佐 賀 文 人 研 究		20
比 較 演 劇		20
存 在 と 自 由		15
科 学 の 思 想		15
西 洋 古 典		25

(2) 総合科目

当教養部では、昭和41年発足当時より総合科目を重視し、「環境問題」（昭和54年度）、「天動説と地動説」（昭和55年度）、「アジアの中の日本」（平成元年度）など、多彩なテーマによる開講に努めてきた。ことに、昭和56年度からは「同和（部落）問題」、「生命科学」にも力をいれ、また、毎年7月に開かれる「九州地区合宿共同授業」も、この一環として活用している。平成2年度には、「部落問題」、「アジアの中の日本」、「ヨーロッパを考える」、「生命科学」、「九州地区合宿共同授業」の5テーマが開講されている。平成3年度には学部教官の協力も予定され、さらに4テーマ程度拡充されることになる。

(3) 公開講座

当教養部では、一般市民を対象にした公開講座を催し、研究教育の成果を学外にも提供してきた。

例えば、人文・社会・自然・語学分野の教官による、

「人間・生命・自然」(昭和52年度)

「地域への提言——わたしたちにとっての地域」(昭和56年度)

「文学と社会」(昭和56年度)

「言語と文化」(昭和57年度)

「家族ってなんね」(昭和61年度)

「女と男の関係学」(昭和63年度)

「女性学講座——女の生と性を考える」(平成元年度)

体育の教官による、

「テニス(硬式)教室」(昭和56・57年度)

「女子中高年者の減量と運動療法教室」(昭和60～平成元年度)

などがそれである。これらの講座は、総合科目との関連を強く持ち、また、当教養部が目指す生涯教育との関連も大きい。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

社会や学生の現代的ニーズに即応した特色ある授業科目(美術史, 言語学, 考古学, 文化人類学, アジア社会論, 国際関係論, 女性学, 情報科学, 環境科学, 地球科学, 科学史等)の充実に努力し、これらの授業科目担当教官の補充を進めてきた。

ロ. 外国語科目について

読み、書き、話し、聞くの4技能の修得に努力し、LL教室の利用や、外国人教師(特に非常勤講師)の活用を重視してきた。

ハ. 保健体育科目について

健康教育、生涯教育等も配慮して、体育理論、衛生学の講義の多様化と改善に努めてきた。

ニ. 総合科目について

前述Ⅲのように、学生や社会の現代的ニーズに即した多様な授業科目の開講を目指す。今後、学部教官の協力により、その拡充を図る。さらに、概算要求中の総合科目教官定員(地域文化論, 環境科学, 情報科学, 生命科学)が補充されれば、より充実した授業科目の開講が可能となる。

ホ. セミナーについて

前述Ⅲのように、少人数クラスの教養基礎科目として1年次学生全員の必修化を目指し、その試行段階に入っている。学部教官の協力をえて、最終的には、学生数25人程度での必修化を考えている。

ヘ. 基礎教育科目について

現在、一般教育科目として開講している指定科目（理工学部学生のみで、最近、農学部では廃止された）を、基礎教育科目に転換し、取得単位数を整理して、一般教育の質的向上を考えている。

ト．論述、作文等について

ホの教養基礎科目の中で、読み、書き、話す技能の養成を図る。

IV－2．改善の方向

全体として、「くさび型」の具体化を検討し、一般教育と専門教育の連携を進め、4年一貫教育を推進する。

一般教育については、人文、社会、自然の3分野にわたり、授業科目の量的・質的な向上を目指し、学生や社会の現代的ニーズに応えたい。他方、少人数のプレゼミ（教養基礎科目）を近年中に必修化し、大学教育へのイニシエーション的機能をもたせ、読み、書き、話す技能の修得に努めるが、また、総合科目を現代的視野に即して充実し、それを3、4年次の学生にも配置して、専門教育との関連性をもたせるようにしたい。

外国語科目については、国際化の現状に対応して、2外国語の必修を堅持すると共に、特に読み、書き、話し、聞くの4技能の修得を目指す。また、朝鮮語、スペイン語、ロシア語等、新設学科目の創設をも意図しており、外国語教育の多様化にも努力する。さらに将来においては、3、4年次学生、大学院生等への単位外の外国語コースの新設も考えている。

保健体育については、生涯健康教育の視点から、健康コース、基礎体力コース、スポーツコース等のコース制を意図しており、3、4年次学生への履修の延長、単位外履修のコースをも考えている。

86. 佐賀医科大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学 部 留 学 生 数	備 考
医 学 部	150(12)	95	0	附属病院教官定員 101 名(外数)
計	150(12)	95	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 倫理学, 心理学, 歴史学, 文学, 言語学, 美学
	社会分野	法学, 政治学, 経済学, 社会学
	自然分野	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ, 物理学実験, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 化学実験, 生物学Ⅰ, 生物学Ⅱ, 生物学実験
外国語科目	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英書講読, 英会話, ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ, 独書講読 ドイツ語会話, ラテン語	
保健体育科目	保健体育講義, 保健体育実技	
基礎教育科目	医学概論Ⅰ, 医学概論Ⅱ, 遺伝学, 情報科学, 生態学, 人類学, 数理科学	

II. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

『佐賀医科大学開講十周年記念誌』の“教育体制”の項を参照のこと。

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

ロ. 外国語科目について

1 年次から 4 年次まで。

ト. その他(論述作文など)について

専門教育科目の選択コースについては一般教育担当教官も指導している。

87. 長崎大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学 生 留 数	備 考
教 育 学 部	90	370	1	
経 済 学 部	47	305	24	
医 学 部	164	100	8	
歯 学 部	102	60	0	
薬 学 部	40	80	1	
工 学 部	114	420	8	
水 産 学 部	58	120	1	
熱帯医学研究所	33			
教 養 部	71			
保 健 管 理 セ ン ター 等 (一般教育非担当)	168			学長, 保健管理センター, 総合情報 処理センター, 環境保全センター, 計測・分析センター, 外国人留学生 指導センター, R I センター, 医学 部附属病院(109名), 歯学部附属病 院(48名), 海洋生産科学研究科
計	887	1,455	43	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 哲学 a, 論理学, 倫理学, 倫理学 a, 心理学, 文学, 文学 a, 語学 芸術学, 芸術学 a, 人文科学セミナー, 人文科学特別講義
	社会分野	法学, 法学 a, 憲法, 憲法 a, 政治学, 政治学 a, 社会学, 社会学 a, 経 済学, 経済学 a, 歴史学, 歴史学 a, 地理学, 地理学 a, 統計学, 統計学 a, 社会科学セミナー, 社会科学特別講義
	自然分野	数学, 数学 a, 物理学, 物理学 a, 化学, 生物学, 生物学 a, 生物学実 験, 地学, 地学 a, 地学実験, 科学史, 科学史 a, 自然科学セミナー, 自 然科学特別講義
	総合科目	解放講座, 平和講座, 情報処理Ⅱ, 現代の生命像, 海洋の科学, 現代の科 学技術, 長崎の自然と文化, 近代の解体, 時間の科学, 共同授業
外 国 語 科 目		英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 独語Ⅰ, 独語Ⅱ, 仏語Ⅰ, 仏語Ⅱ, 中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ スペイン語
保 健 体 育 科 目		保健体育理論, 保健体育実技

基礎 教育 科目	医 学 部	基礎数学，統計学，物理学，物理学実験，物理化学，生物化学，化学実験，生物学概論Ⅰ，生物学概論Ⅱ，生物学実験，動物学Ⅰ，動物学Ⅱ，自然人類学
	歯 学 部	数学，統計学Ⅱ，物理学，物理学実験，生物化学，化学実験，動物学Ⅰ，動物学Ⅱ，生物学実験
	薬 学 部	基礎有機化学，基礎物理化学，基礎無機化学，物理学実験，生物学実験
	工 学 部	微積分学Ⅰ，微積分学Ⅱ，線形代数学，基礎物理学 a，物理学実験，基礎化学，化学実験
日本語・日本事情		日本語Ⅰ，日本語Ⅱ，日本語Ⅲ，日本事情Ⅰ，日本事情Ⅱ

Ⅱ．教養課程教育の改善に関する報告書

Ⅱ－１．調査報告書

① 『教養部改善構想検討委員会答申』（平成元年４月）

Ⅱ－２．案作成までの経緯と学内手続き等

イ．案作成までの経緯と学内手続き

昭和60年７月～61年６月 教官懇談会において教養部の将来像について検討（４回）

昭和61年11月～62年７月 教養部見直し委員会を設置し，一般教育の活性化について検討（10回）

昭和62年７月～平成元年４月 教養部改善構想検討委員会を設置し，一般教育の目的，及び一般教育の問題点解決のための具体的構想の検討11回（ワーキンググループの会合は延べ41回）

その結果，教養課程はコース制を採用し，その延長上に新学部を創設することを教授会に答申し，平成元年４月の教授会において，その大綱が認められ，大学としても概算要求を本省へ提出した。

平成元年度は，主として教養課程のコース制を具体化する作業が行われ（会合は延べ10回），平成２年度からコース制を試行することとなった。

なお，全学的には，平成元年11月，教養部協議会内に，一般教育検討専門委員会を設け，教養課程教育の問題の検討を続け，平成２年２月に中間報告を提出した。

ロ．案作成に当たって，特に注意を要した事柄

現在の教養課程教育の抱えるさまざまな問題点をおさえたうえで，その解決に主眼をおいた。解決の方策は，以下の三つの柱から構成される。

- (1) コース制を柱にした教養課程教育の改善・活性化
- (2) 新学部を設立することによる教養課程教育の改善
- (3) 生涯教育の導入

Ⅱ－３．既に実施している改善の試み

平成２年度から教養課程教育に，現在の履修規程を変更せずに実施できるコース制を試行する予定である。

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

『コースガイド』参照。

『教養部改善構想委員会答申』参照。

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ-1. 特 色

特にないが、最近では総合科目を充実させている。現在、開講されている総合科目は9科目である。

Ⅳ-2. 改善の方向

(1) コース制の採用

教養課程教育に平成2年度から、コース制を試行する。従来の一般教育科目は、人文・社会・自然の各分野の最低修得単位数を満たすことのみを決め手として、科目を選択するために、学生は教養課程を専門課程までの単なる通過課程としてしかとらえず、学習意欲を失いがちであった。これを是正するための一つの方策として、コース制を採用することになったが、純粋なコア・カリキュラム方式に近いものを、一気に導入することによる混乱を回避するために、平成2年度に実施するコース制は、次のような緩やかなかたちの試行である。今後、学生や教官に対する追跡調査などを行って、年度毎に少しずつ改良を重ねて行くつもりである。

平成2年度のコース制は、現行履修規程を変えることなく、また各教官の開講授業科目やその内容も、それほど変えることなく、相互に関連のある授業科目をパッケージして、5コースを作り（『コースガイド』参照）、科目選びのガイドラインとし、しかも、学生の選択の自由は残すという方式である。

このことによって、学生には、何を学んでいるかの意識を持ってもらい、また、特定の専門分野であっても、それには広い裾野や、異なる分野との広いつながりがあることを理解させ、学際的、総合的視野を持つことにより、将来、専門課程での学習の基礎づくりを目的としているものである。

(2) 全学的検討について

教養課程教育と専門課程教育との整合性や融合の方向については、目下、全学的な一般教育検討専門委員会を設置して検討中である。

V. 自由意見

学問の細分化に伴い、総合的、学際的な視野を持つことの必要性は、ますます増大している。そのような意味での、教養教育は、今後ますます重要性を持つと考えられる。各大学の教養部は、ここ数年、鋭意その改善・改革の方策を検討し続けている。しかるに、現在までのところ、これらに対しては何の明確な方向づけも、また、対応もなされていないと言っても過言ではない。全国的なこのような流れの機を逸して、今後なお現状が続くならば、各大学の教養教育改

善，活性化への熱意や意欲を喪失させ，再び教養教育の問題は手をつけられぬまま沈滞してしまうであろう。国立大学協会におかれても十分このことをご留意いただきたい。

88. 熊 本 大 学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学 部 留 学 生 数	備 考
文 学 部	52	170	2	附属病院教官定員 112 名 (外数)
教 育 学 部	194	390	2	
法 学 部	50	260	0	
理 学 部	56	155	1	
医 学 部	210	100	0	
薬 学 部	39	90	0	
工 学 部	168	575	9	
教 養 部	77			
計	846	1,740	14	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 論理学, 倫理学, 教育学, 心理学Ⅰ, 心理学Ⅱ, 美術, 音楽史, 国文学Ⅰ, 国文学Ⅱ, 外国文学
	社会分野	法学, 日本国憲法, 政治学, 経済学, 社会学Ⅰ, 社会学Ⅱ, 日本史, 東洋史, 西洋史, 地理学Ⅰ, 地理学Ⅱ, 地理学Ⅲ
	自然分野	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学Ⅲ, 統計学(文), 統計学(理), 物理学(文), 物理学(理), 物理学実験(理), 生物学(文), 生物学(理), 生物学実験(理), 地学(文), 地学(理), 地学実験(理), 図学Ⅰ, 図学Ⅱ, 図学Ⅲ, 図学Ⅳ
	総合科目	情報科学Ⅰ, 環境科学Ⅰ, 情報, 社会とシステム, 情報化と社会, 人間と環境, 水と人間, 資源と現代社会, 核の科学, 科学技術とその世界, 文化と宗教, 言語と人間, 比較文学, 絵画文化史, 世紀末の文化, 地域政策, 東南アジア論, 熊本城, 地域と産業, 薬の科学, 行動, 資料整理学入門, 音と人間, 生活と保健, 生と死と性
外 国 語 科 目		英語A, 英語B, 英語C, ドイツ語A, ドイツ語B, ドイツ語C, フランス語A, フランス語B, フランス語C, 中国語A, 中国語B, 中国語C, ロシア語, ラテン語, ペルシア語, スペイン語
保 健 体 育 科 目		保健体育講義, 体育実技
外 国 人 留 学 生 特 別 科 目		日本語Ⅰ, 日本語Ⅱ, 日本語Ⅲ, 日本語Ⅳ, 日本事情Ⅰ, 日本事情Ⅱ, 日本事情Ⅲ

基礎教育科目	生命科学概論Ⅰ，生命科学概論Ⅱ，一般生理学Ⅰ，一般生物学Ⅱ，生体分子論，生体構造論
--------	---

Ⅲ. 教養課程教育の個々の改善についての試み

資料『一般教育特別委員会答申』（昭和59年6月28日），『教養部長期計画について（答申）』（平成元年9月25日）を参照。

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ-1. 特色

イ. ロ. 一般教育科目，外国語科目について

本学教養部においては「くさび型」教育を行っており，1年次より3年次に至るまで一般教育科目，外国語科目を履修することになっている。

一般教育科目については，3年次において少なくとも1科目（教育学部にあつては2科目）を履修し，外国語科目については，第一外国語のAⅣは必ず3年次で履修することになっている（ただし，教育学部のAⅣは2年次で履修する）。3年次履修の一般教育科目は，以下に述べる総合科目を履修することでこれに代えることができる。

ニ. 総合コースについて

昭和45年から総合科目を開講しており，年を経るにつれて充実し，今年度は，24テーマを開講するに至った。平成元年度においては，受講学生数は903名の多きにのぼっている。

ホ. セミナーについて

1年次生に対して，少人数クラスの講義を開講している。今年度は16クラスを開講しているが，これは原則として1クラスの受講生数を少人数に絞り，セミナーの形式で授業が進められるようにするものである。

Ⅳ-2. 改善の方向

イ. 一般教育科目について

人文，社会，自然の3分野にわたり，1年次生から3年次生に至るまでの課程を「導入」，「展開」，「統合」と位置付け，ゆるやかな積み上げ方式による充実発展を目指している。

ロ. 総合科目について

総合科目についても，担当教官相互の連絡を密にし，共同研究に支えられ，研究が教育へ反映し，教育が研究の方向付けに何らかの影響をもちうるような内容のものにして充実発展を図る。

ヘ. コア科目について

やがて，委員会で検討されるようになる。

89. 大分大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
教 育 学 部	111(6)	290	0	
経 済 学 部	72(14)	330	4	
工 学 部	117(18)	350	12	
計	300(38)	970	16	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

(教育学部)

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学，倫理学，歴史学，国文学，英文学，米文学，独文学，音楽，美術，中国文学，大分県の歴史
	社会分野	日本国憲法，法学，社会学，経済学，地理学，社会心理学
	自然分野	数学A，数学B，物理学，化学，生物学，地学，技術概論，環境科学，生命の科学
外国語科目		英語講読，英語文法，英語LL，独語，仏語，中国語
保健体育科目		体育理論，体育実技
日本語・日本事情		日本語Ⅰ，日本語Ⅱ，日本語Ⅲ，日本事情

(経済学部)

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学，論理学，倫理学，心理学，歴史学，大分県の歴史，国文学，英米文学，中国文学，音楽，美術
	社会分野	法学，憲法，社会学，政治学，経済学Ⅰ，経済学Ⅱ，経済史，地理学
	自然分野	数学，工学概論，物理学，化学，生物学，生命の科学，地学，総合科学Ⅰ 総合科学Ⅱ，総合科学Ⅲ，環境科学Ⅰ，環境科学Ⅱ，技術概論 九州地区国立大学間合宿共同授業
	基礎演習	経済学入門，ほか25科目
外国語科目		英語講読，英語特講，英会話，ドイツ語，フランス語，中国語
保健体育科目		体育理論，保健理論，体育実技，必修外実技

(工学部)

一般教育科目	人文分野	歴史学, 音楽, 美術, 国文学, 欧米文学, 中国文学, 論理学, 哲学, 心理学
	社会分野	法学, 社会学, 政治学, 経済学, 大分県の歴史
	自然分野	数学ⅠA, 数学ⅠB, 数学演習, 物理学Ⅰ, 化学Ⅰ
	総合科目	総合科学Ⅰ, 総合科学Ⅱ, 総合科学Ⅲ, 合宿共同授業
外国語科目		英語, 英語演習, 独語Ⅰ, 独語Ⅱ, 仏語Ⅰ, 仏語Ⅱ
保健体育科目		保健体育理論, 保健体育実技
基礎教育科目		数学ⅡA, 数学ⅡB, 数学ⅡC, 力学, 物理学Ⅱ, 物理学Ⅲ, 物理学実験, 化学Ⅱ, 化学Ⅲ, 化学実験, 高分子科学概論, 図学, 化学セミナー

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特色

イ. 一般教育科目について

(人文分野)

現在, 本学の人文分野の授業として開講されている科目は13あり, 学部別にみると, 教育学部・経済学部は10科目, 工学部では8科目となっている。

開講科目の特色として地域史研究を土台とする総合科目として大分県の歴史が開講されていることや, 教養課程開講科目としてはあまり例のない音楽・美術が開講されていることが挙げられるが, 三学部で共通して開講されている科目が4科目(大分県の歴史・国文学・音楽・美術)と少ないこと, また, 人文分野担当の専任教員が3名と少ないことなど改善すべき問題もある。

(社会分野)

本学のカリキュラムは学部の縦割を基礎としているため, 社会分野でも学部によって開講科目数に偏りがみられる。学部の性格を反映して経済学部が8科目と最も多く, 次いで教育学部の6科目, 工学部の5科目の順となっている。工学部の科目は経済学部の教員が担当している。三学部共通のオープン科目は存在しない。経済学部の社会分野科目は基礎科目としての性格が強い。工学部の大分県の歴史, 教育学部の社会心理学を除けば, オーソドックスな科目で占められている。教育学部の憲法および法学は必修である。

(自然分野)

教育学部においては科目を専任, 兼担に関わらず全教員で分担することにより専門科目との関係を十分に考慮し, かつ幅広い講義内容となっている。また, 学部間を越えたオープン科目を開講することにより, より広い知見を得, かつ内容的にも対象規模を大きくとっている。

経済学部では他学部と同様に開講されている科目の他に総合科学Ⅰ・Ⅱ、環境科学、工学概論などの総合科目を履修させることにより、より一般的な、広い視野における自然科学の知見を得る機会を与えている。

工学部では各学科目とも専門科目を意識した基礎的な能力、知識を修得することを目的とした内容であるところに特色がある。個々には、化学では入学までの履修状況に合わせた科目選択や自習用プログラムなどの用意、物理では系列ごとにグループ分けした講義、演習を含む個別指導を心掛けた実験の開講、数学では少人数演習クラスの開講などのような特徴がある。

ロ. 外国語科目について

(1) 第一外国語（英語）

（教育学部）

第1の特徴は、LLの授業を全学生に1単位必修として課している点にある。また、いわゆる訳読偏重に陥らぬように、講読5単位・文法2単位・LL1単位と履修内容を分け、2年間で読み書き聴く能力を総合的に習得させることを目指している。

（経済学部）

2年次に1単位、希望により英語特講と英会話のいずれかの履修を課している。双方とも少人数教育を心掛け、特に英会話は1クラス20名以下で外国人教師が担当する。また、1年次でもLL教室の使用可能なかぎり、LLの授業を取り入れている。

（工学部）

8単位のうち1単位は外国人教師による授業を受講できるよう時間割を編成し、さらに、3・4年次生の希望者を対象とした外国人教師担当の英語演習のクラスを設け、会話能力向上の場としている。また、LLの授業も積極的に取り入れている。

(2) 第二外国語（ドイツ語・フランス語・中国語）

ドイツ語・フランス語・中国語が開講されている。またビデオやLLを使った授業なども行われている。

教育学部においては30人以下の少人数で外国語授業が行われている。また情報社会文化課程においては、一般教育で履修した第二外国語を基礎とした専門の授業が8単位開講される予定であり、一般教育と専門教育との有機的連関が考慮されている。

外国人の専任教官として経済学部には中国人の教官が、工学部にはフランス人の教官が配置されており、それぞれ充実した授業が行われている。

ハ. 保健体育科目について

保健体育科目は講義（体育理論・保健理論）と体育実技の二つの必修科目がある。

(1) 体育実技においては、経・工・教とも定員約40名の少人数制で授業を行っている。

(2) 体育実技において、経済学部と工学部で共同で集中実技（キャンプ実習）を行い、授

業のオープン化を実現している。

- (3) 教育学部の体育実技では、教員養成課程の基礎科目の位置付けも考慮している。
- (4) 経済学部では、体力の劣るもの・身体虚弱・運動機能障害による肢体不自由者・要治療のものを対象にした、保健運動コースを特別に設けている。
- (5) 経済学部の体育実技では、(2)の他に冬季の集中実技としてスキー実習（スケート実習を含む）を行い、野外スポーツ種目も積極的に取り入れている。
- (6) 経済学部では、3～4年次生を対象にした必修外の体育実技を設け、生涯スポーツへとつながるゴルフ・テニス・バドミントン等の種目を取り上げ、学生の自主的かつ主体的な授業を行っている。

ニ. 総合コースについて

本学では以下の六科目が開講されている。

総合科学：工学部、経済学部では総合科学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲが開講されている。

大分県の歴史：複数の教師が学際的立場に立って行っている授業で、全学部学生を対象としている。

環境科学、技術概論、生命の科学：自然分野の開講科目ではあるが、伝統的学問体系にとらわれない科目で、教育学部、経済学部学生を対象として開講されている。

合宿共同授業：九州地区国立大学の相互協力によって、毎年新たなテーマを設定して学際的観点から実施される合宿授業で、三学部とも当該授業後提出されるレポートに基づいて単位の認定を行っている。学生には好評であるが、参加者数が制限されるという問題がある。

ホ. セミナーについて

経済学部では一般教育課程でセミナー（基礎演習1年次前期2単位、必修）を取り入れている。工学部では1年次後期に少人数による数学演習（選択2単位）、2年次後期に化学セミナー（選択1単位）が開講され、また3～4年次生を対象として外国人教師による英語演習（選択2単位）が行われている。

ヘ. 基礎専門、基礎教育科目について

カリキュラムの上で、基礎教育科目と明示された授業科目をもつのは工学部だけである。

当該学部では、数学ⅡA、同ⅡB、同ⅡC、力学、物理学実験、化学実験など13の基礎教育科目が開講されている。

ト. その他（論述作文など）について

外国人留学生を対象とした日本語・論述作文等を専任教員で指導している。

IV-2. 改善の方向

本学では、もともと一般教育等に関して教養部のような、学部から独立した責任組織は存在せず、カリキュラムについても三学部が独自の責任において作成、実施してきた。担当教員に関し

でも、原則として各学部が責任を負うという体制がとられていた。これは、性格の異なる三学部が、それぞれの個性を生かして専門教育と一般教育等を有機的に結合させ、一貫した教育を行うという意味では有効な方法であった。

しかし、他面で、この学部縦割方式は、一般教育等専任教官の不足や開講科目の分野別アンバランスなど少なからぬ弊害も生み出した。そこで本学では、一般教育等の改善を目的として1979年（昭和54年）に、三学部の教授会とは別に学内措置として一般教育等教官会議が設置され、一般教育等に関する問題は主としてここで取り扱われることになった。一般教育等教官会議は、これまでにその設置目的を十分に果たしているとはいえないが、専任教官の充実やカリキュラムの改善などについてさまざまな調査・研究や提言を行ってきており、部分的にはすでに実現している。さらに、今後の一般教育の改善を積極的に行うため、1989年（平成元年）12月、「一般教育のあり方検討委員会」を設置した。

一般教育等のカリキュラム改善に関して、一般教育等教官会議および各学部教授会などで検討されてきたことは次のようである。

(1) 総合科目の充実

既成の学問体系にとらわれない総合科目として総合科学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲおよび大分県の歴史などが開講されており、講師として民間企業を含め、学外からも幅広く人材を登用している。

1983年（昭和58年）～1987年（昭和62年）の調査・検討結果でも、現在のスタッフで総合科目の大幅な増設が可能である。そのための条件整備の問題などを検討している。

(2) オープン化の推進

一般教育等科目の飛躍的な充実のためには、現在の学部間の壁を取り払って三学部の学生がどの学部の講義でも受講できるようにすることが不可欠である。本学では十年來の課題であるが、部分的にしか実現されていない。一般教育課程では58科目開講されているが、三学部共通で行われているもの6教科、二学部共通で行われているもの9教科である。今後いっそうのオープン化を図るため、時間割についての学部間調整など、その実現の方途を模索している。

(3) 少人数教育の推進

経済学部では、1982年（昭和57年）から大人数講義の欠点を補うべく、1ゼミ10～15人程度の基礎演習の履修を1年次生全員に義務づけてきた。また、2年次対象の少人数教育として社会科学セミナーを平成3年度から実施する予定である。

これらの少人数教育において学生は受動的な聴講者の態度に甘んじることなく、積極的に疑問や意見を発表し、主体的に授業に参加することが求められている。

90. 大分医科大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留数	備 考
医 学 部	152(12)	95	0	附属病院教官定員93名(外数)
計	152(12)	95	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	倫理学, 哲学, 歴史学, 文学
	社会分野	心理学, 法学, 経済学, 社会学
	自然分野	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ(実験を含む), 化学Ⅰ, 化学Ⅱ(実験を含む), 生物学Ⅰ, 生物学Ⅱ(実験を含む)
外国語科目	英語, ドイツ語	
保健体育科目	講義, 実技	
基礎教育科目	医学概論, 応用数学, 応用心理学, 医療情報システム学, 物理学Ⅲ, 物理学Ⅳ, 化学Ⅲ, 化学Ⅳ, 生物学Ⅲ, 生物学Ⅳ	

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

一般教育課程を従来の2年から1年半とし, 2年次前半に医療情報システム学を, 2年次後半から3年次前半にかけて医学教養科目として, 医用英語, 医用工学, 分子医学, 総合人間学を開講することにした。

IV-2. 改善の方向

医療情報システム学(2年次前半), あるいは医用工学(3年次前半)の時間にコンピュータを用いた情報処理教育を行う予定である。

91. 宮崎大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
農 学 部	129	285	0	教養課程担当教官と専門課程担当教官を明確に区別していない。
教 育 学 部	124(24)	280	0	
工 学 部	81	330	5	
計	334(24)	895	5	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一般 教育 科目	人文分野	哲学, 倫理学, 宗教学, 文学, 美学, 歴史学, 心理学, 音楽
	社会分野	日本国憲法, 法律学, 政治学, 経済学, 社会学, 地理学, 教育学
	自然分野	数学, 物理学, 化学, 生物学, 地学, 科学技術論, 図学, 生活科学
	総合科目	人間環境学, 大学間合宿共同授業
外国語科目		英語, ドイツ語, フランス語
保健体育科目		体育実技, 体育講義
一・二・三・四年次 共通の基礎 教育	農 学 部	農業特論, 農業技術論, 農業基礎実習, 森林文化論, 海洋文化論, 農耕文化論, 情報科学論, 食物文化史, 農林社会経済論, 生命科学論, 農林生産学概論, 基礎植物学, 統計学基礎, 農林気象学, 基礎土壌学, 農業エネルギー論, 農業システム学, 植物保護学, 資源植物学, 土地改良学, 農林計画情報学概論, 植物生産科学概論, 生産環境工学概論, 森林科学概論
	工 学 部	数学第1, 数学第2, 数学第3, 数学第4, 力学第1, 力学第2, 基礎電磁気学第1, 基礎電磁気学第2, 物理学実験, 基礎無機工業化学, 基礎有機工業化学, 基礎化学実験, 図学, レオロジー概論

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

イ. 一般教育科目について

宮崎大学の一般教育は、当初の大学設置基準をほぼ変更なしに運用してきている。授業科目に「科学技術論」等、追加があったが、科目の追加以外の変更はなく、専門教育とのつながりからくる基礎科目あるいは専門科目の一般教育への読み替え等もしていない。当初の大学設置基準に示された一般教育の概要をよしとして来ているためである。

IV-2. 改善の方向

保健体育は現在、理論と実技各2単位が必修である。理論は、人間としての健康保持のための健康学の知識と、スポーツの果たす社会的機能、人間形成への機能、社会・心理学的側面からもスポーツを考える能力知識を付与する。実技は大学生活全般を通じての身体活動のために、さらに増単位して4年間4単位が望ましいと考える。将来3・4年次生のために、卒業必要単位以外として週1回程度、施設や用具を提供して、学生に活動の機会を与えることを目指す。さしあたって週1回の全学スポーツデー（仮称）を設けることを検討中である。

92. 宮崎医科大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学 生 留 数	備 考
医 学 部	151(12)	100	1	附属病院教官定員95名(外数)
計	151(12)	100	1	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 科 育 目	人文分野	哲学, 心理学, 文学, 史学
	社会分野	法律学, 経済学, 社会学
	自然分野	物理学, 化学, 生物学, 数学
外国語科目		英語, ドイツ語
保健体育科目		保体理論, 体育実技
基礎教育科目		生物物理学, 生体有機化学, 細胞生物学, 数学演習, 医学統計学, 機器分析学, 遺伝学, 医学概論, 異常心理学, 電子工学, ラテン語, 医療社会学

IV. 教養課程教育の特色と改善の方向

IV-1. 特 色

ロ. 外国語科目について

英語に関しては, 外国人教師(1名)が参画し, 生きた英語の実践指導を行っている。

ハ. 保健体育科目について

単なる健康や体力づくりにとどまらず, 運動生理学, 運動処方に力を注いでいる。

ニ. 総合コースについて

医学概論では, 学内, 学外から多彩な講師陣を配し, それぞれに専門的立場から, 講義, 討議方式で教育を行っている。

ヘ. 基礎専門, 基礎教育科目について

クサビ型カリキュラムを編成し, 実施している。

IV-2. 改善の方向

- (1) 人文, 社会, 自然と分けることによって, ややもすると部分的には高等学校の教科の繰り返しや延長となっているとの一般的批判を避け難い面もあるかもしれないが, 教養課程教育は, 専門科目の履修を行うに必要な「自ら学ぶこと」そして「考えること」が出来る学生の

基礎づくりの時期と理解すると、医学部であれば、医学を学ぶマナー、取り組み方等の学習技能を知るための総合科目（例えば基礎医科学）、トピック関連セミナー方式を採用して、学ぶ側に立った、コア科目に囚われない思い切った教育改善が必要であろう。

- (2) 生物学は医学を学ぶ者にとっての必須の基礎知識であるにもかかわらず、高等学校において、生物学を履修していない学生が非常に多い。これら学生の教養課程における生物学の教育及び履修方法について検討を行う必要がある。
- (3) 外国語については、現在開講されている、英語、ドイツ語の他にあと1～2カ国語（例えば、フランス語、中国語等）を開講し、学生の選択の幅を拡大する。さらに、外国語教育を専門教育に入っても継続できるような改革も必要と思われる。
- (4) 医学に関する用語を正しく読み、書けるようにするための日本語科目の開講が必要である。
- (5) 保健体育科目については、専門課程の教官を参加させて、疾病治癒期や予防のための運動処方等を学ばせる。運動生理学、病理病態等を学ばせながら運動の生理化学、栄養学を分子レベルで、実践とともに学ばせることもできるのではなかろうか。
- (6) 教養課程の1年目から、基礎医学などの専門教育科目を組み込み、医学志向の過程にあることを自覚させることが必要と思われる。

V. 自由意見

1. 教養課程と専門教育を融合させた型での改善は、現状でも内容や方法を考慮すれば可能である。むしろ教養課程と専門教育は、明確に分けて行い、Step-by-Stepに年次進行するほうが、Premedical Courseの場合は利点が多いように思われる。学生の進路変更の時期も早期にできる。知識、技量に関しては一方的に教官が教えるのを受動的に聞く教育とせず、自ら進んで学び、考える習慣付けをする方向に向かわせる中で、もっと人間形成、コミュニティーの中でのコミュニケーションがとれる学生を生み出すような「場」と「機会」を準備することが、これからの修学にとって最優先されるべきであろう。

カリキュラムの時間的相互乗入れではなく、教官の相互乗入れ活用が重要になってこよう。

2. 医師に必要な幅広い人間形成には、教養課程の充実が必要である。それには、必要な教官の増員確保が不可欠の条件である。しかし現状では、期待薄である。従って、現実的には、距離的にも近い宮崎大学との単位互換制度も検討の必要があろう。

93. 鹿児島大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
法 文 学 部	75	390	1(1)	学部留学生欄の()内の数字は、 教養部在学者数で内数。
教 育 学 部	96	360	0	
理 学 部	63	182	1(1)	附属病院教官定員108名(外数)
医 学 部	141	100	1(1)	
歯 学 部	102	60	1	附属病院教官定員48名(外数)
工 学 部	122	430	9(3)	
農 学 部	120	243	2(2)	
水 産 学 部	63	150	0	
教 養 部	93			
計	875	1,915	15	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 倫理学, 心理学, 心理学実験, 芸術学Ⅰ, 芸術学Ⅱ, 日本史学, 東洋史学, 西洋史学, 世界史学, 日本文学Ⅰ, 日本文学Ⅱ, 日本文学Ⅲ, 中国文学, 文化人類学
	社会分野	社会学, 法学, 日本国憲法, 政治学, 経済学, 教育学, 地理学
	自然分野	統計学Ⅰ, 統計学Ⅱ, 数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 微分積分学Ⅰ, 微分積分学Ⅱ, 線形代数学Ⅰ, 線形代数学Ⅱ, 物理学A, 物理学B, 物理学C, 物理学実験 化学A, 化学B, 化学C, 化学実験, 生物学A, 生物学B, 生物学C, 生物学実験, 地球, 鉱物資源, 気象, 地学実験, 図学Ⅰ, 図学Ⅱ
外 国 語 科 目		英語, 英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 独語Ⅰ, 独語Ⅱ, 独語Ⅰ, 独語Ⅱ, 仏語Ⅰ, 仏語Ⅱ, 仏語Ⅰ, 仏語Ⅱ, 中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ, 中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ, スペイン語Ⅰ, スペイン語Ⅱ, ロシア語Ⅰ, ロシア語Ⅱ
保 健 体 育 科 目		保健体育講義, 体育実技
基 育 礎 科 目	医 学 部	微分積分学Ⅱ, 線形代数学Ⅰ, 物理学C, 生物学C
	歯 学 部	微分積分学Ⅱ, 物理学B, 化学B, 生物学B
日 本 語 ・ 日 本 事 情 科 目		日本語Ⅰ, 日本語Ⅱ, 日本語Ⅲ, 日本語Ⅳ, 日本事情A, 日本事情B, 日本事情C, 日本事情D

Ⅱ．教養課程教育の改善に関する調査報告書

Ⅱ－１．調査報告書

① 『教養部将来構想第一次改革案』（昭和63年12月）

Ⅱ－２．案作成までの経緯と学内手続き等

イ．案作成までの経緯と、学内の手続き

昭和40年教養部設置以降、カリキュラムの大幅な改革を昭和48年度と昭和62年度に行なった。

昭和62年度改革に際して、一般教育等の高学年実施等、制度改正を伴う事項等が全学的合意を得られず実施見送りとなったこと、教官定員や学科目構成の改編が必要なこと、教養部教員の専門教育への参加要求が強いこと等の理由で、全学の一般教育を担当するとともに専門課程を持つ学部改組することを検討する機運が高まった。

改革案の検討は教養部独自の判断で部内に将来構想委員会（委員14名）を設置、委員会案を平成元年1月教授会で承認した。しかし、この案はなお整備すべき点が多いので第一次改革案とし、学長に報告されるに留められた。

現在、第二次改革案を教養部で検討中であるが、成案が得られれば学長に報告のうえ、主として一般教育等の関連事項を全学的に検討する特別の審議機関の設置を要請する予定である。

ロ．案作成に当って、特に注意を要した事柄

- (1) 新制系の中規模大学としての条件（8学部、理系への傾斜、教官当り学生数、施設）のもとの教育能力の効果的運用
- (2) 外国語や保健体育をセンター化して分散せずに、一般教育（人文、社会、自然）と一体的に教育研究を担当する教員組織の編成
- (3) 授業科目の多様化と教育内容の個性化
- (4) 一般教育等と専門教育（新学部）の密接な関連
- (5) 一般教育等の高学年次実施（差し当り3年次までを目標）

Ⅲ．教養課程教育の個々の改善についての試み

資料『教養部将来構想第二次改革委員会案（部分）』を参照。

Ⅳ．教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ－１．特色

イ．一般教育科目について

一般教育科目に新形式の「共通」の区分（4単位）を開設している。これは小人数ゼミナールを大幅導入、総合講義、特殊講義の増設等特色ある授業を積極的に開設して、現状の学問と学生の関心の多様性にこたえることを目的としている。

ロ．外国語科目について

必修外国語の授業の小人数化を目指すとともに、選択外国語を開設して語学教育の改善を図っている。（選択外国語は、英、独、仏、中、スペイン語、露語開設）

ハ．保健体育科目について

保健体育講義 2 単位，体育実技 2 単位が必修となっている。体育実技は設備，教官の許容範囲を考慮し授業を複数のコマに分散し，同一時間帯の受講者数を減らしている。体育講義は 1 期間で 2 単位，実技は 2 期間で 2 単位の授業を行なっているが，保健体育教育を 3 期を通して行ない，学生の心身の健全な発達に資することを目指している。

ヘ．基礎専門，基礎教育科目について

医学進学課程，歯学部では，一般教育科目 39 単位に数えない必修指定授業科目の中から基礎教育科目 8 単位を開設している。

医学進学課程（微分積分学Ⅱ，線形代数学Ⅰ，物理学 C，生物学 C）

歯学部（微分積分学Ⅱ，物理学 B，化学 B，生物学 B）

IV－2．改善の方向

改善の方向性はⅢに添付した資料に示されているが，「従来の実施方法に囚われない方法の開発」に努力して教養課程教育の改善を実現したい。

94. 鹿屋体育大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
体 育 学 部	63(6)	160	0	
外 国 語 教 育 セ ン タ ー	1			
計	64(6)	160	0	

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	国語・国文学，哲学，倫理学，歴史学
	社会分野	憲法・法学，社会学，経済学，国際関係論
	自然分野	生物学，化学，物理学
	総合科目	名著講読Ⅰ，名著講読Ⅱ，名著講読Ⅲ，スポーツ文化論，人間と自然，芸術の世界，日本の伝統文化，総合人類学
外 国 語 科 目		英語Ⅰ，英語Ⅱ，英語会話Ⅰ，英語会話Ⅱ，ドイツ語，フランス語
専 門 教 育 科 目 (共 通 科 目)		体育学概論，体育心理学，バイオメカニクス，健康教育学，公衆衛生，社会体育概論，社会体育調査論，体育情報処理，体育学実験Ⅰ，体育学実験Ⅱ，体育学実験Ⅲ，陸上競技Ⅰ，球技Ⅰ，体操Ⅰ，ダンスⅠ，水泳Ⅰ，柔道Ⅰ，剣道Ⅰ，海洋スポーツⅠ，野外活動

III. 教養課程教育の個々の改善についての試み

本学は，昭和56年10月開学，昭和59年4月から学生受入れを開始し，この3月には第3期生を送り出した。

この間にわたる教育研究体制などを踏まえて，より一層の教育課程の整備・充実を図るため，学内において教育課程について検討に着手したところである。

95. 琉球大学

I. 大学の構成と教養課程教育

(1) 学部別教官定員及び学生定員

	教官定員数	入学定員数	学部 学生 留 数	備 考
法 文 学 部	88	365	8	※教官定員数について
教 育 学 部	107	220	3	附属教育実践研究指導センター定員 2名を含む。
理 学 部	67	185	0	
医 学 部	186	170	2	附属地域医療研究センター定員3名 を含む。 附属病院定員99名を除く。
工 学 部	80	295	8	
農 学 部	83	155	0	附属農場定員4, 附属演習林定員 3, 附属熱帯農学研究施設定員5名 を含む。
教 養 部	63			その他 ○保健管理センター定員2名 ○熱帯海洋科学センター定員4名 ○短期大学部定員35名
計	674	1,390	21	本学の教官定員 814

(2) 教養課程教育の開設授業科目

一 般 教 育 科 目	人文分野	哲学, 論理学, 倫理学, 心理学, 行動科学統計法, 心理学実験, 日本文学 近代, 日本文学古典, 琉球文学, 外国文学, 文学概論, ことばの科学, 沖 縄語概説, 日本語概説, 中国文学, アメリカの文学と社会, 考古学, 歴史 学, 沖縄戦後史論, 音楽, 美術, 沖縄研究序説, 大学間共同授業, 人文特 別講義
	社会分野	教育学, 地理学, 法学, 憲法概論, 政治学, 国際関係論, 社会学, マスコ ミュニケーション, 文化人類学, 社会科学としての心理学, 経済学, 社会 科学概論, 経済数学, 経営学, 消費と流通, 管理の科学と情報, 大学間共 同授業, 社会特別講義, 地域科学概論, 地域の科学, 地域文化論
	自然分野	大気科学, 地球科学, 地学実験, 台風, 海洋科学, 天文学概論, 微 分積分学, 微分積分学演習, 線形代数学, 線形代数学演習, 基礎数学, 数 学概説Ⅰ, 数学概説Ⅱ, 統計学, 物理概説, 物理学, 物理学実験, 化学概 説, 化学, 基礎有機化学, 化学実験, 生物の生活, 生命科学, 生物の 実験, 生物学, 生物学実験, 図学, 図学演習, 一般図学, コンピュータ・ グラフィックス, コンピュータ・グラフィックス実験, 自然科学としての 心理学, 大学間共同授業, 自然特別講義Ⅰ, 自然特別講義Ⅱ
	総合科目	大学間共同授業, 総合特別講義Ⅰ, 総合特別講義Ⅱ, 総合特別講義Ⅲ, 科 学と社会, 公害問題, 核科学, 琉球の風土, 住まいの科学, 情報科学演

		習、適応の心理、精神の正常と異常、小児の体と心、脳の発達と人間、医学的人間学、沖縄の自然、地域環境計画論、国際比較都市論、沖縄のサンゴ礁、琉球の自然保護
外国語科目		英語、ドイツ語、フランス語、フランス語の発音・会話、スペイン語、中国語、ラテン語、ギリシャ語
保健体育科目		保健体育講義、体育実技
日本語・日本事情		日本語、日本事情
基礎教育科目	教育学部	(小学校教員養成課程) 理科専修——基礎物理学Ⅰ、基礎物理学Ⅱでおきかえ可 家政専修——家政学基礎実験・実習 1単位 教育学専修——教育研究法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 4単位 音楽専修——基礎ピアノ、ソルフェージュⅠ、音楽基礎理論 6単位 (中学校教員養成課程) 理科——基礎物理学Ⅰ、基礎物理学Ⅱでおきかえ可 音楽科——音楽基礎理論 2単位 技術教育科——応用数学、計測学 4単位 (基礎物理学Ⅰ、基礎物理学Ⅱでおきかえ可) 家政学科——家政学基礎実験・実習 1単位 英語科——英語音声学、英文法 4単位 (総合科学課程) 日本語教育コース } 人間と言語、人間と自然、社会と技術、日本語概論、 情報教育コース } 情報科学、論文作成法 (10単位までは、上記の課程基礎科目でおきかえ可)
	医学部	医学概論、基礎教育科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ

Ⅱ. 教養課程教育の改善に関する調査報告書

Ⅱ-1. 調査報告書

① 『教養科目履修状況調査報告』(昭和60年9月)

Ⅱ-2. 案作成までの経緯と学内手続き等

本学では、原則として、指導教官のアドバイスの下で学生個々人が受講時間割を計画し、受講予定科目の担当教官の認印をもらうという「自由登録」制度を採用しているが、学生の増加や専門学部学科が1、2年次学生にも専門科目の一部の履修を計画したり、又一般教育科目の一部を(例えば物理学、化学実験等)必修に指定したりして履修時間割編成に制約がくわったため、自由に履修登録できる状態がなくなり、受講科目の「ゆるやかな指定制」を導入実施している。

この調査報告書は、この「ゆるやかな指定制」についての学生の反応あるいは賛成の状況、クラス指定制を強めるかあるいは弱めるかどうかを見極めるための調査報告である。

Ⅳ. 教養課程教育の特色と改善の方向

Ⅳ-1. 特色

イ. 一般教育科目について

地域に関連した内容の科目又は既設の授業科目にない内容の講義が提供されている。

琉球文学, 沖縄語概説, 沖縄戦後史論, 沖縄研究序説, 人文特別講義(開設時に内容をきめる)

地域科学概論, 地域の科学, 社会特別講義(開設時に内容をきめる)

自然特別講義(開設時に内容をきめる)

ロ. 外国語科目について

ラボを使用して1クラス40人程度の少人数教育を実施している。

ハ. 保健体育科目について

実技については1クラス約60人とし, ソフトボール, バレーボール, バドミントン, サッカー, テニス, バスケットボールの中から2種目(屋内, 屋外)を選択する。その他ゴルフのクラスも開設されている。担当教官によって琉球舞踊, ダンス, 空手も取り入れている。

ニ. 総合コースについて

総合科目として情報科学演習, 適応の心理, 精神の正常と異常, 小児の体と心, 脳の発達と人間, 医学的人間学, 沖縄の自然, 地域環境計画論, 国際比較都市論, 沖縄のサンゴ礁, 地球の自然保護等の授業科目が開設されている。

ホ. セミナーについて

教養課程教育ではセミナーは実施していない。

ヘ. 基礎専門, 基礎教育科目について

学部で提供している。

ト. その他(論述作文など)について

レポート等において, 論述作文指導も含めて行っている。

IV-2. 改善の方向

本学教養部改革構想「学部化構想」の中間報告において次のよう充実を図るとしている。

(1) 総合科目の充実

従来の学科目制での授業科目を維持しつつ, 専門科目との一貫教育研究を通じた成果の還元として, 総合科目の充実を図る。

(2) 少人数セミナーの導入

少人数の学生を対象とした「少人数セミナー」を, 他学部の協力を得ながら全般に提供し, 履修指導から専門教育の補完, 論文作成指導まで教官の個性に応じたゼミを導入する。

(3) 放送教育メディアの活用

放送大学及び放送教育開発センターで提供されている放送教育教材を, 新学部独自のプログラムの中で活用し, 視聴覚, 情報メディア教育による新しい一般教育授業を開発提供する。これは又社会人教育, 地域教育としても普及させる。

あ と が き

昭和63年11月、本教養課程に関する特別委員会は各大学の取り組んでこられた教養課程の改善の努力を踏まえながら、『教養課程の改革』と題する提言を試みた。その反響は我々の予測をはるかに越えるものであり、さらに各大学の教養課程の教育に関する現状を把握する必要があるとの声が高まり、一昨年11月より本資料集の編纂に取り組み、平成2年11月の国大協総会までに上梓をと努力したことは久佐前委員長の序文にある通りである。

時は恰も、『大学審議会の概要（その2）』が公表され、審議会が各界へ意見を徴する時と重なり、全国の国立大学が一般教育に関し真剣に検討する時期でもあった。

大学審議会の審議の進捗状況からは、きわめて高い確率で一般教育の存在、様式、内容等が早急に変らざるを得ないものと予測される。

本資料集は昭和24年新制大学の教養課程が設置されて以来、各大学が教養課程の枠内で一般教育にどのような努力をしてきたかの軌跡であり、また変革前の国立大学の教養課程の姿を留めるものでもある。

終わりに、本資料集が各大学の将来の教養教育を検討する際の参考資料として有効に活用され、よりよい人材育成のために役立つならば、御協力をいただいた各国立大学の教職員の方々、取りまとめに努めていただいた専門委員の先生方の御苦労も報われるものと思う。

（竹内 正幸）

教養課程教育の改善に関する実情調査

- I. 貴学の最も新しい教養課程教育に関する履修案内および講義要項(時間割を含む)若しくはこれに類するもの2部をお届け下さい。
- II. 既に教養課程教育全般の改善について、調査報告書あるいはそれに類するものを作成された大学においては、
1. お手数でも、その文書を10部お届け下さい。
 2. 次の事項について、とくにお聞かせ下さい。
 - イ. 案作成までの経緯と、学内の手続き。
 - ロ. 案作成に当たって、特に注意を要した事柄。
 3. この中で既に実施されている改善の試みがあれば、お聞かせ下さい。
- III. 上記のような文書の形で総括的にお纏めをしないまでも、教養課程教育の個々の改善についての試みを、既に実施あるいは実施を前提に検討中の大学にあっては、
1. 個別的なものでも印刷物があれば、10部おわけ下さい。
 2. 参考までに、「教養課程の改革」で触れた東北大学、名古屋大学の部分のコピーを付けたので、これらに関連するものがあれば、お知らせ願います。なおコピーにもあるような実施による効果、あるいは評価に関しての資料があれば、合わせてお知らせ下さい。
- IV. 上のII及びIIIにかかわらず、次の項目についてお聞かせ下さい。
1. 貴学における教養課程教育は、どのような点に特色があるとお考えでしょうか。イ〜トについて具体的にお書き下さい。
 - イ. 一般教育科目について。
 - ロ. 外国語科目について。
 - ハ. 保健体育科目について。
 - ニ. 総合コースについて。
 - ホ. セミナーについて。
 - ヘ. 基礎専門、基礎教育科目について。
 - ト. その他(論述作文など)について。
 2. 今後、教養課程教育をどのような方向で改善しようと、お考えですか。差し支えない範囲で、以下の項目を参考にお書き下さい。
 - イ. 一般教育科目について、従来の人文、社会、自然の3分野にわたる履修方法を一層充実発展させる。

- ロ. 総合科目を中心にした，一般教育の充実を図る。
 - ハ. セミナーを中心にした，一般教育の充実を図る。
 - ニ. 外国語科目を中心にした，教養課程教育の改善を試みる。
 - ホ. 保健体育科目について新しい方向を試みる。
 - ヘ. 例えばコア科目など，従来の実施方法に囚われない方法の開発を考える。
 - ト. 教養課程教育と専門教育とを融合させる方向で改善を試みる。
- V. その他，ご自由にご意見をお寄せ下さい。

(別紙2)

教養課程教育の改善に関する実情調査（追加調査）

1. 平成2年5月1日現在の貴大学・学部・学部の教官定員、入学定員、及び学部留学生数を次の表にご記入ください。

	教官定員数	入学定員数	学 部 留 学 生 数	備 考
()学部	()			
()学部	()			
()学部	()			
()学部	()			
()学部	()			
()学部	()			
()学部	()			
()学部	()			
()学部	()			
()学部	()			
()学部	()			
()学部	()			
()学部	()			
教 養 部				
()部等				
()部等				
計	()			

(注1) 教養部等の教養課程担当部局を置かない大学にあっては、一般教育等担当の専任教員数を所属学部毎に教官定員数欄の括弧内に内数でご記入ください。

(注2) 教養課程担当教官と専門課程担当教官を明確に区別していない大学にあってはその旨を明記してください。

(注3) 入学定員数には、臨時増募の数を含めてください。

(注4) 表中の最下行の「部等」とは、言語文化部、健康科学センター等、主として一般教育等を担当している部局を指します。

2. 教養課程の授業科目名、及びそれを担当する専任教員数を次の表にご記入ください。なお、設問1の注2に該当する大学・学部を除いて、専任教員は一般教育等の専任教員を意味します。

人 文 分 野		社 会 分 野		自 然 分 野	
授業科目名	人 数	授業科目名	人 数	授業科目名	人 数

[illegible]

- (注1) 各学部毎に教養課程教育を実施している大学にあっては、各学部毎にご記入ください。
- (注2) 「総合科目その他」の欄については、総合科目その他の専任教官の所属する講座・学科目名をご記入ください。
- (注3) 外国語科目の専任教官として外国人を採用している場合には、その旨を備考欄に明記してください。
- (注4) 外国語科目担当の外国人教師については、担当授業科目の項の括弧内に、その数を外数でご記入ください。

【付 記】

平成2年8月1日付追加調査の設問Ⅱは、教養課程の授業科目名と、それを担当する専任教員数を問うものであった。しかし、

- (1) 授業科目名については、各大学の回答に相当程度の粗密の差が見られたこと。
- (2) 「総合科目その他」については、(注2)でそれを担当する専任教員の所属する「学科目」名を問うていたが、回答用の表には「授業科目名」となっているなど、設問そのものに不備があったこと。
- (3) 各授業科目担当の専任教員数は、その授業科目全体の開設数を併せて示さなければ、それほど意味がないこと。

などの理由で、今回は基礎資料として、開設授業科目名のみを可能な限り実態に近い形で提示することにした。

なお、この資料は、平成2年1月17日付調査で収集した各大学学生便覧及び教養課程の履修案内(平成2年度版)などを基に、当委員会でも独自にとりまとめたものである。当委員会としては錯誤や遺漏のないよう細心の注意を払ったつもりであるが、各大学における開設授業科目は多様かつ複雑であり、なお資料として完全であるとはいいきれない。この点について、あらかじめ関係者各位の御寛恕をお願いしたい。

教養課程に関する特別委員会委員名簿

(平成3年4月1日現在)

委員長	竹内正幸	(埼玉大学長)
委員	平林真	(北見工業大学長)
"	塩野谷祐一	(一橋大学長)
"	上原信博	(静岡大学長)
"	將積茂	(愛知教育大学長)
"	三分一政男	(山口大学長)
"	高橋良平	(九州大学長)
"	池田一	(宮崎大学長)
専門委員	坂井昭宏	(北海道大学助教授)
"	堀勇夫	(山形大学教授)
"	浅野博	(筑波大学教授)
"	伊理正夫	(東京大学教授)
"	夏目隆	(神戸大学教授)
"	植村典昭	(香川大学教授)
"	立田清朗	(九州大学教授)

(平成2年1月以降)

前委員長	久佐守	・前山形大学長(平成2年10月31日まで)
前委員	林正道	・前北見工業大学長(平成2年3月31日まで)
"	粟屋和彦	・前山口大学長(平成2年5月15日まで)
"	畑中信一	・東京大学教授(平成2年7月28日まで)
"	新野幸次郎	・前神戸大学長(平成3年2月15日まで)
"	木村等	・前香川大学長(平成3年2月28日まで)